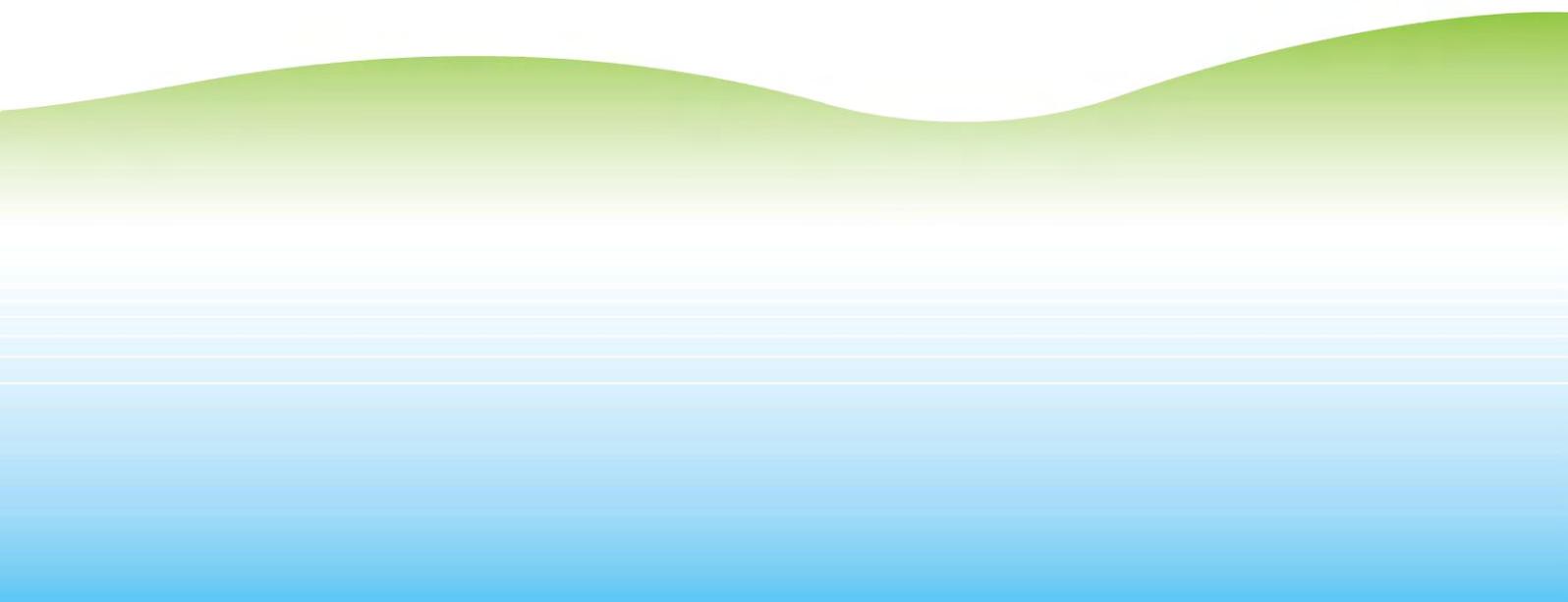


年報 京都大学フィールド 科学教育研究センター

Annual Report
Field Science Education and Research Center,
Kyoto University

No.9 2011



年 報

京都大学フィールド科学教育研究センター

第9号

2011

目次

組織.....	1
教育研究部.....	2
1. フィールド研活動の記録	
(1) 主な取り組みの紹介	
1) 東日本大震災に関連したフィールド研の取り組みについて	4
2) 東北地域連携講座.....	5
3) 気仙沼舞根湾での潜水調査と気仙沼シンポジウム	6
4) 京都大学東北復興支援学生ボランティア活動	7
5) 3年目を迎えた木文化プロジェクトの活動.....	8
6) 第21回公開講座.....	9
7) 周南市連携講座.....	10
(2) 京都大学における全学共通科目	
1) リレー講義	11
①森里海連環学 ②沿岸環境保全学 ③森林学 ④水圏生物学入門 ⑤アンケート結果	
2) 森里海連環学実習.....	17
①実習A「芦生研究林ー由良川ー丹後海コース」 ②実習B「紀伊半島の森と里と海」	
③実習C「別寒辺牛川流域における森里海連環学実習」 ④アンケート結果	
3) 少人数セミナー.....	27
①原生的な森林の働き ②海岸生物の生活史 ③魚類心理学入門	
④森里海のつながりを清流古座川に見る ⑤C. W. ニコル “アフエンの森” に学ぶ	
⑥フィールド実習 “森は海の恋人” ⑦木造校舎を造る：木の文化再生へ	
⑧海産無脊椎動物ー分類群と形の多様性 ⑨森林の再生と動態 ⑩森のつくりだすもの	
⑪環境の評価 ⑫日本海に遊ぶ～日本海学入門 ⑬瀬戸内に見る森里海連環	
⑭京をめぐる森と人の暮らし ⑮森を育て活かすー林業体験をとおして考える	
⑯アンケート結果	
4) 暖地性積雪地域における冬の自然環境(実習)	49
(3) 教育関係共同利用拠点事業	
1) 2施設が教育関係共同利用拠点に認定	50
2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業	51
3) 瀬戸臨海実験所における教育関係共同利用拠点事業	52
(4) 外部資金の獲得状況.....	53
(5) 2011年度 フィールド科学教育研究センターにおける主な取り組み(日記)	57
2. 各施設等における活動の記録	
(1) 各施設等の活動概要	
1) 芦生研究林.....	63
2) 北海道研究林.....	64
3) 和歌山研究林.....	65
4) 上賀茂試験地.....	66
5) 徳山試験地.....	67

6) 北白川試験地.....	68
7) 紀伊大島実験所.....	69
8) 舞鶴水産実験所.....	70
9) 瀬戸臨海実験所.....	71
10) 海域陸域統合管理学研究部門.....	72
11) 森里海連環学プロジェクト支援室.....	73
12) 企画情報室.....	74
(2) 各施設を利用した学生実習等.....	75
(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等.....	78
3. フィールド研教職員の活動の記録	
(1) 新任教員紹介.....	80
(2) フィールド研関連事業における活動.....	83
(3) 研究活動.....	91
(4) 教育活動.....	118
(5) 学会等における活動.....	124
(6) 社会貢献活動.....	126
(7) 国際活動.....	131
(8) 研修参加・資格取得等.....	133
4. 資料	
(1) 職員配置表.....	135
(2) 常設委員会名称及び委員一覧.....	136
(3) 全学委員会等.....	136
(4) 運営委員会.....	137
(5) 協議員会.....	137
(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会.....	138
(7) 新聞記事.....	139
(8) 各施設利用者数.....	142
(9) 人事異動.....	143
(10) 規程の改正等.....	144

● ● ● 組織 ● ● ●

■ センターの組織

教育研究部と管理技術部からなる。センター本部は本学吉田キャンパス北部構内に置かれ、森林、里域、海域の各ステーションを構成する9の施設が、太平洋側から日本海側に至る近畿圏を中心に広域に位置する。

■ 教育研究部

企画研究推進部門、森林生物圏部門、里域生態系部門、基礎海洋生物学部門、海域陸域統合管理学研究部門（2008年10月新設）の5部門、13分野、及び9施設から構成されている。森－里－海の連環を軸とした教育・研究を進める。

■ 管理技術部

企画情報室、森里海連環学プロジェクト支援室と、森林、里域、水域の3フィールド管理部門、9施設からなる。フィールドの管理・運営および基礎情報の収集、情報管理、技術開発、教育研究支援を行う。



●●● 教育研究部 ●●●

企画研究推進部門

森里海連環学分野と国際共同研究分野から構成される。センターが共通の理念の下に機能的に統合化され、森一里一海連環学の創出を目指す。さらに、国際的にもオープンな組織へ自己革新するための役割を担う。とくに、来るべき環日本海時代を展望した日・中・韓の国際共同研究や、異質気候帯における比較研究のための東南アジア熱帯域における共同研究の展開を図る。

森里海連環学分野

森林域、里域および沿岸海洋域を対象として、隣接する生物圏相互の関連に焦点を当てた研究部門間の共同研究を促進する。多様な共同研究を基礎に、森一里一海の連環に関する研究プロジェクトを企画し、全国の関連研究機関との連携の下、新たなフィールド科学の創出と展開を図る。

国際共同研究分野

東アジアならびに東南アジアを主なフィールドとして、陸域と海域の連環を柱とした地球環境問題に関する国際共同研究を展開し、海外における連携拠点の構築を図る。

森林生物圏部門

本部門では、森林科学ならびに森林資源科学に関する大学院レベルの多岐にわたるフィールド研究ならびに教育が行われている。具体的には、森林資源情報学の統合的理解とシステム解析、自然環境や生態的構造、社会経済的状况に基づく森林景観の機能的評価と空間ゾーニング技術、持続的森林資源管理技術の体系化、林学的観点からの森林資源上の持続性と生態系としての生産性の向上、が含まれる。

森林生態保全学分野

森林生態系が示す種・個体（遺伝子）、個体群、群集、集水域、景観といった階層性に注目し、各階層における多様性とシステムの形成維持メカニズムや多様な森林生物種の生活史の解明を目的とした教育研究を行う。得られた知見に基づき、森林生態系の保全・再生と森林資源の持続的な利用のための手法を提案する。

森林資源管理学分野

森林が有する資源を生態系サービスや多面的機能の観点から評価し、これに基づく森林資源の持続的な管理理論の構築と管理技術についての実践的な教育研究を行う。森里海連環学に基づいて展開している研究プロジェクトを中心として、人工林・二次林の持続的管理とその環境影響について教育研究を行う。

森林環境情報学分野

森林環境に関わる自然科学・社会科学的な情報を活用し、森林の持つ環境保全機能の定量的評価や森林施業の環境影響評価などを行い、森林の持つ機能の効果と限界を正確に学生・一般社会に伝える教育研究を行う。

里域生態系部門

山間部から沿岸部に至る広く、変化に富む地域は、人間の関与が様々な強度で継続しており、自然と人間の相互作用、もしくは人間と自然との共生によって生み出される特有の生態系を形成する。この生態系には、農業、林業、水産業という人間の生活を維持するために必要な基本的な生業による二次的自然が含まれるほか、居住域としての農山漁村や都市も含まれる。これらの人間が与えるインパクトを把握することは、現在の地球環境問題の本質の把握にも通じるものであり、本部門ではそのために不可欠な人間－自然相互作用環の解明を多くの視点から実践し、その共生システム構築のための教育研究を行う。

里山資源保全学分野

生活圏に接する森林において、人間との相互作用により成立した生態系の特性や機構を明らかにするとともに、多面的なアプローチから、生物多様性および森林の保全、森林と人間との新たな共存に向けた幅広い教育研究を行う。

里地生態保全学分野

人里と一部に里山と里海を含む、いわゆる里地に分布する攪乱依存性植生ならびに攪乱依存性植物の起源と歴史および生態的特性を明らかにし、それらの管理保全体系ならびに持続的利用に関する考察を行う。

河口域生態学分野

陸域と海域の接点にあたる河口域は、多くの海洋生物の再生産に極めて重要な場であり、生物多様性の宝庫でもある。しかし、一方では人間の生活と生産活動の様々なインパクトが集積する場所でもある。有明海などのモデル的な河口域を対象に、資源生物学的ならびに保全生態学的教育研究を行う。

里海生態保全学分野

陸域からの影響も含めた沿岸域の環境特性を把握し、生息する資源生物の生産生態との関係を解明する。とくに、藻場、砂浜域、干潟域などでの仔稚魚の分布、行動、摂餌、成長、生残等を明らかにし、魚介類の成育場としての里海の役割を定性、定量的に評価する。

沿岸資源管理学分野

若狭湾西部海域をフィールドとして主要な資源生物の個体群動態を研究し、海洋環境構造や海況変動の影響を明らかにする。さらに、資源生物の分類と生活史・生態特性を調べ、それらの資源変動機構の解明に取り組む。

基礎海洋生物学部門

本部門では、主に温帯性海産無脊椎動物を材料として用い、分類学・進化生物学・発生生物学・生理生態学・生物地理学といった様々な基礎生物学的な研究教育活動を、分子レベルから生態系レベルにわたって広範囲に展開している。更にその研究フィールドを熱帯域・北方域へと地球規模に広げながら、環境生物学や保全生物学といった応用的な領域へと、その研究教育活動の内容を拡大している。

海洋生物系統分類学分野

系統分類学は、生物の多様性を認識する基本であり、1922年の瀬戸臨海実験所の創設以来、連綿と続けて来た研究分野である。海洋生物の多様性は非常に高く、多くの未知の事柄が残されている。このような多様性の包括的な解明を目指して教育研究を行う。

海洋生物進化形態学分野

形態観察は、生物の多様性を認識するために必須の作業である。本分野では、最新の装置を用いた精密な比較・機能形態学的研究や、分子生物学的手法による形態形成のメカニズムを解明する研究と教育を行う。

海洋生物多様性保全学分野

海洋生物の多様性を保全するために、多様な生物が環境の変動に対してどのように反応するのかを明らかにするとともに、瀬戸臨海実験所島島実験地における30年以上にわたる長期観察や、地球規模の環境変動を把握するための国際共同研究の中核的役割を果たす。

海域陸域統合管理学研究部門

センターが推進してきた森里海連環学を研究と教育に生かし、学問分野として確立すること、そして、この考え方を実践し、行政や市民の運動に浸透させることを目的とし、日本財団からの提案と助成によって2008年10月に発足した。

●●● 1. フィールド研活動の記録 ●●●

(1) 主な取り組みの紹介

1) 東日本大震災に関連したフィールド研の取り組みについて

センター長 柴田 昌三

2011年3月11日の東日本大震災は、全世界を震撼させたが、フィールド研が全国に持つ施設に対しての直接的な被害は与えなかった。比較的急な対応を迫られた施設は瀬戸臨海実験所附属水族館であり、急遽閉館し一般来訪客に避難を促した後、浜辺に1m程度の津波が到達した。また、北海道研究林白糠区でも海岸部には2m程度の津波が到達したが職員及び施設に被害はなかった。しかし、フィールド研の社会連携教授である畠山重篤氏の宮城県気仙沼舞根の水山養殖場は、津波によって壊滅的な被害を受けただけでなく、ご母堂も犠牲となられた。

フィールド研では、震災に対する支援対策として、舞鶴水産実験所において被災学生2名を受け入れた。彼らは、東京海洋大学博士課程留学生(116日間)と北里大学海洋生命科学部4年生(309日間)であり、宿泊施設の利用負担金の不撤収などを実施した。さらに、8月3日には、京都府教育委員会が受け入れた福島県の被災中学生の体験学習を舞鶴水産実験所で受け入れた。また、畠山社会連携教授の地元においては、田中克名誉教授が4月から益田玲爾准教授などの共同研究者とともに現地に入り、津波の影響を受けた舞根湾内の沿岸域生態系の回復の様子の追跡調査が開始された。

一方、畠山氏には従来からポケゼミ「森は海の恋人」を毎年夏に受け入れていただいていたが、2011年度は中止もやむなしという考えが支配的であった中で、畠山氏からはこういう時であればこそ、一人でも多くの学生さん達に現地を見てほしいという強い要望をいただき、8月22～27日に実施することとなった。畠山氏には全学共通科目である「森里海連環学」のリレー講義の一員としても例年通り講義をお願いしたが、これを機会として7月16日には「東北地域連携講座」を京都会馆において開催することとし、畠山氏に加えて尾池京大前総長らにもご講演をいただいた。

本学では、3月の卒業式などを通して震災地への義援金が集められていた。この提供先として、京大で唯一東北地方と関係を持っていたフィールド研の気仙沼市との関係が注目され、気仙沼市への義援金の贈呈が決定され、8月23日にこれが実現した。これに先立って、7月15日には畠山氏と本学大西理事との会談が実現した。一連の活動を通して、京都大学は本学の学生を、教育的観点を重視したボランティア活動を行うために気仙沼市に送り込むことを企画した。フィールド研ではこれを積極的に支援することとし、その窓口あるいはコーディネータとして機能することとした。この学生ボランティア活動は、少なくとも10年間は継続し、本学学生に貴重な教育の場を提供することとし、2011年度には2回の派遣を行った。1回目は2011年8月26～30日に、2回目は2012年3月19～23日に行った。具体的な活動内容は、1回目は瓦礫撤去、植林、筏材の伐採・搬出・組み立て、ホタテ稚貝の取り付け、などであった。2回目には筏材の伐採・搬出、牡蠣稚貝の取り付けに加えて、1回目参加学生の発案による地元気仙沼高校との交流会が行われた。いずれにおいても労働ボランティアと研究ボランティアが募集され、研究ボランティアは先に述べた活動以外に、舞根地区における水質調査や土壌調査などを行った。このボランティア活動には引率として、教員の他、森林系技術職員や事務職員も同行し、活動を支援した。特に、技術職員は筏材の伐採・搬出に大きく貢献し、ボランティア活動の円滑な遂行に協力したことは特筆すべきことである。

フィールド研では、田中名誉教授が活発に行っている活動を中心として、数々の関連イベントにも協力・参加してきた。その一例としては、2011年4月30日開催(岩手県一関市)の「森は海の恋人」運動を支援する研究会シンポジウム、6月18日開催(大阪市)の「地球環境シンポジウム」、12月21日開催(仙台市)の「森は海の恋人シンポジウム」などが挙げられる。

フィールド研は今後も京都大学が主催する学生ボランティア活動に積極的に協力する他、部局として気仙沼市舞根地区における研究活動を長期的に継続していく予定である。

2) 東北地域連携講座

海域陸域統合管理学研究部門 特任教授 向井 宏

2011年3月11日の東日本大震災によって東北地方の沿岸域は、壊滅的な被害を受けた。その後、復興に向けた取り組みが進められており、その方向性も少しずつ輪郭を現し始めている。これからの復興は、単なる復旧ではなく、私たちの生き方も含めて、新しい考え方に基づく未来の循環型環境重視型の社会づくりが求められている。フィールド研が2003年に立ち上げた森里海連環学は、東日本大震災からの復興が、日本社会のこれまでの延長線上での単なる復興ではなく、自然への畏敬の念を取り戻し、自然と自然、人と自然ならびに人と人のつながりを再構築することにより、真に循環的で持続的な社会を新生する上で極めて重要な役割を担うものと、大きな期待が寄せられている。私たち京大フィールド研は、このような思いから第1回東北地域連携講座を「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」というテーマで開催することとした。

場所は、京都会館会議場。開催日は、2011年7月16日。当日は祇園祭の宵山にもかかわらず、13時から18時までの5時間にわたって200人近い人々が参集し、講演に耳を傾け、熱心に討論に参加した。

京大フィールド研社会連携教授であり、「森は海の恋人」運動を通して森里海連環学の実践に取り組んでいる畠山重篤氏が津波被害に遭われたことから、「森は海の恋人」運動の再興を応援するとともに、新しい社会づくりに向けて、森里海連環学の立場からどう取り組んでいくべきかを、本シンポジウムの基本的な目的とした。畠山氏を始め、現地からの報告を聞いた上で、これからの社会を担う多くの若者たちと討論し、さらに彼らが森里海連環学を通じた東北復興に関わることを大いに期待して、講演会を開催した。多くの聴衆の関心を引いたが、残念ながら若者の参加は多くなかった。この講演と討論の集いは、日本財団からの助成金によってすべて賄われた。

当日のプログラムと講師、演題は以下の通りである。

プログラム（進行：佐藤 真行（京大フィールド研 特定准教授）

開会挨拶：柴田 昌三（京大フィールド研 センター長）

講演： 尾池 和夫（国際高等研究所長・前京都大学総長） 「2011年東北地方太平洋沖大地震」

高柳 和史（水産総合研究センター本部 研究推進部長） 「漁業復興へ向けての取り組み」

浅利 美鈴（京大環境科学センター助教） 「復興に向けた災害がれきとの闘い（現地からの報告）」

畠山 重篤（京大フィールド研 社会連携教授・NPO法人「森は海の恋人」代表）

「森里海連環と『森は海の恋人』運動の復興（現地からの報告）」

討論：司会：向井 宏（京大フィールド研 特任教授）

田中 克（国際高等研究所教授）・吉岡 崇仁（京大フィールド研 教授）・尾池 和夫・高柳 和史・畠山 重篤・浅利 美鈴

まとめおよび閉会挨拶：山下 洋（京大フィールド研 副センター長）



各講師（左上から時計回りに尾池・高柳・畠山・浅利）



会場風景

3) 気仙沼舞根湾での潜水調査と気仙沼シンポジウム

沿岸資源管理学分野 准教授 益田 玲爾

東日本大震災の2ヶ月後にあたる2011年5月21日から2ヶ月に1度の頻度で、気仙沼市舞根湾周辺において潜水による魚類相の調査を行っている。調査定点として、やや外洋に面した湾外、舞根湾の入り口付近(湾口)、舞根湾内のガラモ場、および舞根湾奥部の4カ所を設定した。各調査定点で一定の範囲を観察し、出現する魚種とその体長および個体数を記録している。

5月の調査時点では、海底は泥に覆われ、海藻にも泥がかぶっていた。ニジカジカ、アイナメ、アサヒアナハゼ、ウミタナゴ、タケギンポ(写真1)、スジハゼ、ニクハゼが見られた。ニジカジカ以外はいずれも稚魚であった。このことから、津波の発生時には卵または仔魚として外洋にいたために生き残った魚が稚魚期に沿岸に加入して魚類相を形成していると考えられた。また、本来は比較的深い海に生息するニジカジカが津波により浅所へ運ばれてきた可能性が示唆された。7月には、海底の泥は減り、魚の数も増えていた。前回とほぼ同様の魚種に加えて、リュウグウハゼが多く見られた。また、先に見られたアイナメやアサヒアナハゼなどの稚魚は順調に成長していた。

9月には、これまでに記録された魚に加えて、暖温帯域で普通に見られるボラ、マアジ、イシダイ、クロダイ、コブダイ、ヒメジなどの魚種も出現した。震災以前に優占していたと考えられるメバルやクロソイなどの磯魚類が津波によって一掃され、空いた生態的地位を暖温帯由来の魚が一時的に占めているものと考えられた。

11月には水温も低下し、暖温帯の魚種がいなくなったため、魚種数はやや減少した。従来も見られたスジハゼやリュウグウハゼに加え、アイナメの大型個体が見られた。また、キヌバリやウミタナゴの個体数は極めて多くなった(写真2)。競合種であり捕食者ともなりうるメバルやクロソイのいないことによって、キヌバリの生残率が高まり、巨大な群れを形成するに至ったと考えられる。

翌1月には7℃、3月には4℃の海底水温で潜水調査を行った。ガラモ場には相当な数のキヌバリが生息しているものの不活発であり、ホンダワラ類の中に隠れる個体が多かった。1月には湾奥の浅所でマガレイが、また3月には複数種類の仔魚が見られた。魚類相は震災以降、着実な回復が認められるとはいえ、まだ遷移の途中と考えられ、今後も継続した調査が必要である。

一連の調査の成果については、東日本大震災の約1年後となる2012年3月13日、宮城県の気仙沼市民会館において開催された「森は海の恋人シンポジウム 海と共に生きる 一震災復興と森は海の恋人運動」で講演した。同シンポジウムには、一般市民や行政関係者に加えて、同地域で活動しているボランティアら計150名程度の来聴者があった。

気仙沼を含む東北地方沿岸では、津波への対策として大規模な防潮堤建設の計画が進められているという。しかし、気仙沼市民の多くは、防潮堤の建設よりも高台への住居移転を望んでおり、地盤沈下の進んだ汀は干潟へと戻そうとの合意も進みつつある。被災地の逆境は、人と自然とのあるべき姿を考え、より善い方向へと舵取りする機会ともなりうる。東北地方の復興と飛躍に、自然科学の視点から寄与できればと思う。



写真1 泥をかぶったホンダワラ類から顔を見せるタケギンポ



写真2 キヌバリの群れ

4) 京都大学東北復興支援学生ボランティア活動

海域陸域統合管理学研究部門 特定准教授 佐藤 真行
森林生態保全学分野 准教授 徳地 直子

(1) 第1回京都大学 学生ボランティアの派遣

2011年8月26日から30日までの間、フィールド科学教育研究センターは京都大学の窓口となり、学生21名と教員1名、技術職員2名、事務職員1名を畠山重篤氏（社会連携教授）を主たる受け入れ先として宮城県気仙沼市の西舞根地区に派遣し、東北復興支援ボランティアに従事した。活動内容は、「海の回復は森の回復から」という森里海連環学のコンセプトをなぞるものとし、労働ボランティアだけでなく、地域の復旧に資するような調査を進める研究ボランティアとして、河川の水質調査と鳥類の生態調査が行われた。

活動第一日目は、「ひこばえの森」にて広葉樹約70本を植樹した。午後は舞根湾に移動し、津波により消失した養殖筏を製作するための杉丸太の山出しに従事した。

活動二日目は、前日に山出した杉丸太を使って筏づくりに従事。大きさ18m×12mの筏を製作した。午後からは、水山養殖場の対岸にある「かき研究所」の被災家屋の瓦礫を撤去し清掃した。夕方には、満潮を利用して、製作した筏を海に送り出した。この日の夕食後、畠山信氏から震災時の体験と、西舞根における復興活動についての講演が行われた。

活動三日目は、午前引き続き被災家屋の瓦礫の撤去、午後は牡蠣の種をロープに付ける作業に従事した。実際の作業はこの日で終了であったが、森から海にかけての作業に関わることができ、「森里海連環」に沿った一連の活動が完遂された（なお、2名の技術職員は、3日間とも杉の伐採作業に従事した）。

(2) 第2回京都大学 学生ボランティアの派遣

2012年3月19日から23日まで、学生23名・教員2名・技術職員2名・事務職員1名が参加した。今回も京大時計台からバスでの移動となり、19日は移動のみとなったが、車内で議論するなど有効に使われた。今回の宿泊場所は、冬季ということもあり唐桑半島の国民宿舎を利用したため、毎夜ボランティア活動のミーティングが可能であった。20日は前回に続き宮城県気仙沼市西舞根地区での森林間伐作業ならびに伐採された木材の運搬に従事した。21日は木材運搬に加えて、牡蠣養殖補助を行った。技術職員はより難関な場所に変えて、杉の伐採に従事した。そして22日は気仙沼高校で高校生向け大学案内を行った。また、学生のうち2名は研究ボランティア活動として津波と地盤沈下の被害を受けた西舞根川沿いの土壌ならびに渓流水調査を行った。

今回は、海や森での労働作業に加えて、学生が自主的に企画した高校生との交流を行った点に特色がある。第1回ボランティアに参加した学生を中心に、被災地である気仙沼高校教員の方々に連絡をとったり、第2回参加の学生たちに声をかけたりして、計画が立てられた。気仙沼高校で行った進学のための学習方法や大学での生活や研究についてのガイダンスはボランティアの最終日だったが、好評のうちに終わり、引き続きこのような交流を続けることの希望が寄せられた。フィールド研が窓口となり、今年度は2回の学生ボランティア派遣を行ったが、今後も継続していくことの重要性和難しさも確認された。

2011年度の2度にわたる活動期間中、社会連携教授の畠山重篤氏、NPO法人森は海の恋人の畠山信氏、ならびに受け入れに携わっていただいた皆様に感謝申し上げます。



筏の製作



高校生とのラウンドテーブル・ディスカッション

5) 3年目を迎えた木文化プロジェクトの活動

里山資源保全学分野 教授 柴田 昌三

文部科学省概算要求事業（プロジェクト分）としてフィールド研が展開している「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」（通称「木文化プロジェクト」）は2011年度に中間年である、3年目を迎えた。事業対象地である二つの流域、京都府由良川流域と高知県仁淀川流域においてはそれぞれの事情を踏まえた上で、独自の展開を行うことができた。2011年度の進捗状況は以下のとおりである。

由良川流域では、3年目にしてようやく本事業が目的とする事業内容を実践する方向性が確定し、その実現のための活動が促進された。前年度に正式な事業推進のための対象地として確定した芦生研究林下谷においては、森林管理施業実施に備えた、施業実施以前の森林の植生や渓流水質等の把握が行われた。また、年度後半には実際の森林施業実施の具体的な方向性を検討し、翌年度の実施を前提とした施業計画が決定された。また、舞鶴水産実験所と芦生研究林が事業開始前から継続してきた由良川全流域における水質を中心とする調査は今年度も継続して行われ、特に舞鶴水産実験所において行われてきた河口域における研究は大きな成果を挙げることができた。

仁淀川流域では、対象の吉ヶ成水系で、作業道の作設と作業道に沿った間伐が継続的に進行した。前年度に予測された、地域の聖域であるガラクにはついに作業道が到達し、地元住民のこの聖域における祭事の再生あるいは活発化に期待ができる状況となった。流域の広域における調査に関しては、共同研究協定に基づいて活動いただいている高知県環境研究センター及び県森林技術センターから、本年度も多大なるご協力をいただいた。また、地元NPO団体の「仁淀川の“緑と清流”を再生する会」からも例年どおりに採水においてご協力いただいた。ここに改めて感謝申し上げたい。さらに、事業を通じて強力なご支援をいただいている池川林産企業組合には本年度も献身的なご協力をいただいた。仁淀川流域では、このような学外からの貴重なご協力によって成果が挙げられていることは非常に重要である。

社会的調査に関しては、本年度は次のステップに向けての検討が活発に行われた。その中では、「幸福度」も大きなキーワードとなっており、地域の方々の生活を考えるために何が最も必要なかが真剣に討議された。また、仁淀川流域においては森林総合研究所四国支所の活動や、県から派遣された職員による地元おこしの活動も活発化しており、これらのグループとの連携も視野に入れた活動の重要性が認識できた年度でもあった。

地元との連携事業としては、由良川流域では9月24日に福知山市で地域連携講座を開催した。また、仁淀川流域でも10月8日に仁淀川町池川において前述のNPO団体との共催で地域連携講座を開催し、林野庁長官などを迎えて活発な討議が行われた。本年度は京都市内での連携事業は木文化プロジェクトに関しては行わなかった。

本年度は、フィールド研内で、効率的な事業の推進のために、「木文化サロン」の定期的な開催を始めた。このサロンでは、社会的調査の進め方に関する議論が行われたほか、芦生研究林における効果的な調査研究の在り方についても議論が積み重ねられた。

2012年3月7日には、3回目となる報告会がフィールド研会議室において開催された。これまでに蓄積されたさまざまな研究成果が発表されたほか、今後の研究の展開に向けた討議が熱心に行われた。

以上のように、2011年度は本事業をより効率的、かつ積極的に展開していくためのさまざまな議論と試みが行われた年であったと位置づけることができる。残り2年間にどれほど多くの蓄積を積み重ねられるかは、今後のフィールド研の在り方を考える上で重要である。



由良川広域水質調査の様子



バイオマスセミナーの様子（2011年6月22日）

6) 第 21 回公開講座

里山資源保全学分野 准教授 長谷川 尚史

芦生公開講座は 1991 年に開始され、2 泊 3 日の日程で一般市民を対象に、初日と 3 日目に講義、2 日目に芦生天然林の観察・解説と簡単な調査方法の実習、という形態で続けてきた。公開講座開始当初は定員の数倍の申し込みがあったが、近年は定員割れすることもあるなど、マンネリ化の声があがっていた。21 回目となった 2011 年度の公開講座の企画を立案するにあたっては、芦生公開講座の開催意義を今一度見直し、第 3 回（平成 5 年）より継続してきたメインテーマ「森のしくみと働き（役割）」を刷新することも視野に入れ、新たな企画を検討した。検討の最中、東日本大震災が発生し、震災直後に被災者の皆さんが緊急時の暖房用に森林から薪を取るなど、森林資源と我々の暮らしとの繋がりを再認識した。そこで新たなテーマを「今、森から考える」とし、現代社会と森林との関係についての解説を通して、各参加者にこれからの社会での森林と人との関係を考えていただくことを、今後当面の大きな目的と設定した。

また一方で、若人の参加を促進することも重要であると考えた。公開講座開催期間は学休期間にあたり、中高校生が参加しやすい時期であるにもかかわらず、これまで若年層の参加者は少なかった。これからの社会を考える上では、感受性の高い若い年代にも参加していただき、公開講座を通して森林について考えてもらう機会を提供するのが、フィールド研の使命のひとつであると考え、本年は中高校生枠を創設し、芦生研究林の学生実習施設を利用して比較的安い参加費で公開講座に参加していただけるような枠組みを構築した。さらに、長年同じデザインであったチラシ、ポスターのデザインも一新し、配布先の再検討を行ったほか、市内の登山用品店等にも掲示していただいた。配付テキストも受講料に見合う形で充実させ、受講者の満足度が高く、かつ教育効果の高い公開講座の開催を目指した。

本年はその一回目として、副題を「森のめぐみ」と設定し、現代社会が森林資源からいかに多様な「めぐみ」を享受しているか、また来るべき未来社会の中で、その「めぐみ」をどのように活かしていく社会を実現するべきか、考えてみることにした。私たちが森から与えられている「めぐみ」は多種多様である。その中から今回は「川」、「癒し」、「バイオマスエネルギー」、「茅葺き」をピックアップした。講師は、「川」はフィールド研研究員の福島慶太郎氏と地球環境学舎博士課程の境優氏、「癒し」は今西二郎京都府立医大名誉教授（現明治国際医療大学教授）、「バイオマスエネルギー」は坂志郎京大エネルギー科学研究科教授、「茅葺き」は深町加津枝京大地球環境学堂准教授に、それぞれお願いした。

一般者の定員 30 名のところ、44 名の応募があり、うち 36 名を当選者とした。また新聞等の取材の申し込みが 3 件あり、後援団体である NPO 法人エコロジー・カフェからも 4 名の参加者があった。中高校生枠にも多数の問い合わせがあったが、夏休み最初の週末で夏期講習などの学校行事が予定されていることが多く、最終的には 1 団体 3 名の参加となった。その後、キャンセル等もあったが、最終的には 41 名という近年にない多くの方にご参加いただいた。

いずれの講義も非常に示唆に富んだものであり、受講生の方々も多くインパクトを受けていただけた様子であった。2 日目の研究林内見学では、今年は新たに健脚者向けに櫃倉谷コースを用意したが、これが大人気であった。また、3 日目には美山町北地区で伝建地区である茅葺きの里を見学し、中野文平氏（前南丹市文化財保護審議員）の講話をいただいた。この企画も受講者からは大変好評であった。以上のように、今回の公開講座は、いつもにも増して盛りだくさんの内容であったこともあり、実りの多いものとなったと自負している。これを支えたスタッフの皆さんに改めて感謝申し上げたい。



中野氏による講話



由良川最初の一滴

7) 周南市連携講座

森林環境情報学分野 講師・徳山試験地長 中島 皇

周南市連携講座は2011年度から正式に開始されたが、表1に示すように徳山試験地では2010年度から周南市との連携事業を開始している。ここでは連携講座開始に至る経緯を振り返ってみる。

徳山試験地は旧徳山町から京都大学に町有林が寄贈されたことからスタートしている。2代目試験地は周南西緑地の「万葉の森」を中心とするあたりにあった。京都大学演習林が植えた樹木が今も立派に生育して、市民の憩いの場となっている。3代目(現)試験地のヒノキ林が2008年度に文化庁の「ふるさと文化財の森(檜皮)」に選定(ニュースレターNo14 参照)されたことがきっかけになって、周南市教育委員会と情報交換が行われるようになり、市民を対象とした見学会などを開催するようになった。周南市公園花とみどり課を紹介され、特別講座が実施されることになった。

徳山試験地において、年3回、日曜日の午前中に講義とフィールド見学を行う計画を立て、周南市との共催でフィールド研の先生方に講義の講師としての協力をお願いして実行した。講座は周南西緑地で2008年度から継続されていた「みどりの案内人養成プロジェクト(実行委員会の事務局・世話役:周南市公園花とみどり課)」の特別講座という位置付けであった。宣伝用のふれこみは「京都大学の全学共通教育科目「森里海連環学」や「森林学」の講義を1コマ(90分)無料で聴講できる。」である。つまり京大の学生が受けている講義を体験できるわけで、知識欲が旺盛なシニア世代の方々にとっては、またとないチャンスになったようで狭い講義室がいっぱいになった。

みどりの案内人養成プロジェクトが2010年度で終了するにあたって、特別講座が受講生の皆さんに好評なことや参加者から継続の要望があって、連携講座に発展した。周南市が事務局として宣伝や受講生の募集・案内を、徳山試験地がプログラムの検討や講師の手配を担当する協働体制でのぞんでいる。2011年度は表2に示すような講義とフィールド見学や実習が行われ、毎回20名以上の参加者があった。

連携講座は来年度も予定されており既に3回の日程と講師の調整に入っている。また、これを機会に連携をより発展させるべく、周南市とフィールド科学教育研究センターとの連携協定締結に向けての話し合いも行われている。

表1 みどりの案内人養成プロジェクト特別講座(2010年度)

月日	講師	講義テーマ
6.13	中島 皇	森里海連環学
10.3	吉岡 崇仁	森・里・海と人々のつながり
12.1	坂野上 なお	木材を使うこと～今・昔

表2 京都大学・周南市連携講座(2011年度)

月日	講師	講義テーマ
6.12	柴田 昌三	森里海連環学からみた里山
9.11	向井 宏	海を守る森
11.13	寄元 道德	スギ、来た道と生態



講義の様子 (第2回)



フィールド実習の様子 (第3回)

(2) 京都大学における全学共通科目

1) リレー講義

①森里海連環学—森・川・海と人のつながり—

里海生態保全学分野 教授 山下 洋

この講義は平成 22 年度まで後期に開講していたが、夏季の森里海連環学実習と連続させる目的で本年度から前期開講に変更された。平成 23 年度もリレー講義形式により、4 月 8 日から 7 月 15 日まで、吉田南総合館共北 28 号室（金曜日 4 限目 14：45～16：15）にて開講した。対象は、文系、理系を問わず 1 回生から 4 回生までとした。また、成績は出席および各回の講義の最後に実施する小テストの成績を総合して評価した。さらに、最終の講義では、東日本大震災で被災された畠山重篤フィールド科学教育研究センター社会連携教授（NPO 法人森は海の恋人代表）から、東日本大震災の生々しい体験も含めた講義があった。また、翌 7 月 16 日には、フィールド研主催のシンポジウム「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」が京都市内で開催され、本科目受講生が多数参加した。

平成 23 年度は履修制限を行わなかったため、学内の受講者数は 153 名と多く、内訳は理系学部 54 名、文系学部 99 名であった。また、本科目はコンソーシアム京都に科目提供しており、同志社大学、立命館大学など 5 大学から 6 名の受講生があった。文系の学生に比べて理系の学生の割合が約 35%と低かったが、この様な傾向は平成 20 年度以降毎年見られている。本科目の趣旨からは文系・理系半々程度が望ましい。本科目では、環境経済学や法学的視点の重要性を強調しているが、そのせいか、例年経済学部と法学部の受講生が多い。また、工学部、理学部の受講生が少ないことから、シラバスにおいて環境修復など理工学的視点を取り入れ、地球環境を考えるうえでの基礎的教養科学をわかりやすく伝える努力を行った。23 年度は両学部から 6 名の受講があった。今後もシラバスにおいて理・工学部生に対してさらに魅力的な記述を心がける必要がある。学年の分布を見ると、1 回生が 67%を占めた。知識旺盛な学生が、この講義をきっかけとして環境や生態系を広い視野で見ることの重要性を認識することを期待している。

- | | | |
|----------------------------|-------|----------------|
| (1) 森里海連環学（ガイダンス） | 山下 洋 | （京大フィールド研） |
| (2) 陸が支える海の生産 | 上野正博 | （京大フィールド研） |
| (3) 森里海間の物質循環—ミネラル成分 | 中野孝教 | （総合地球環境学研究所） |
| (4) 森里海間の物質循環—栄養塩 | 徳地直子 | （京大フィールド研） |
| (5) 森里海間の物質循環—水と土砂 | 中島 皇 | （京大フィールド研） |
| (6) 沿岸海洋域の生態 | 白山義久 | （海洋研究開発機構） |
| (7) 森林の利用と保全 | 長谷川尚史 | （京大フィールド研） |
| (8) 琵琶湖の農業濁水と流域管理 | 谷内茂雄 | （京大生態研） |
| (9) 森里海の連環と経済 | 佐藤真行 | （京大フィールド研） |
| (10) 魚類から見た河口域の構造と機能 | 中山耕至 | （京大フィールド研） |
| (11) 河川生態系の構造と機能 | 竹門康弘 | （京大防災研） |
| (12) 流域環境における人間・自然相互作用系の研究 | 吉岡崇仁 | （京大フィールド研） |
| (13) 森と里山の生態 | 柴田昌三 | （京大フィールド研） |
| (14) 森の恵みと海の恵み | 畠山重篤 | （NPO 法人森は海の恋人） |

京大フィールド研：京都大学フィールド科学教育研究センター、京大防災研：京都大学防災研究所、
京大生態研：京大大学生態学研究センター



教室風景



徳地先生

②沿岸環境保全学

里山資源保全学分野 教授 柴田 昌三

2011年度の「沿岸環境保全学」は、例年通り、リレー講義によって2011年4月8日から7月15日まで14回にわたって開講された。本講義は昨年度までは後期に開講されていたが、本年度からは前期に開講することとした。本講義の主旨は、沿岸海洋域がこれに接して生活する人間の活動に起因する環境影響が集約する場であるために深刻な荒廃の危機に晒されていることを受けて、このような環境の保全を目的として有効な方策を立案するために検討されるべき問題を、自然科学系、人文科学系双方の視点から多角的に論究することである。

本年度の講師と各講師の講義内容は以下の通りであった。

第1-3回(4月8, 15, 22日) イントロダクション 沿岸海洋学の基礎 — 向井 宏 (フィールド研 特任教授)

沿岸の海洋を理解するのに必要な基礎的事項の解説を行う。特に森林が沿岸環境に与える影響について詳説する。

第4-6回(5月6, 13, 20日) 森里海の持続的な経済マネジメントシステム

— 佐藤 真行 (フィールド研 特定准教授)

森里海の経済的な相互連関において、環境への影響を考慮すると、どのような経済システムが持続性確立の上で最適なのかを解説する。

第7-8回(5月27日, 6月3日) 森里と沿岸海洋との連環 — 柴田 昌三 (フィールド研 教授)

沿岸環境に重大な影響を与える森林および里と沿岸海洋との関連について解説する。

第9-10回(6月10, 17日) 河川管理と沿岸海洋との連環 — 萱場 祐一 ((独法) 土木研究所 自然共生研究センター長)

河川管理の理念・現状・課題などについて解説し、沿岸海洋との連環についても論ずる。

第11-12回 沿岸管理と法律 (6月24日, 7月1日) — 磯崎 博司 (上智大学 教授)

環境管理に不可欠な、行政の役割と関係の国内法令・国際法などについて解説する。

第13-14回 統合的沿岸環境管理論 (7月8, 15日) — 松田 治 (広島大学 名誉教授)

沿岸環境を統合的に管理するために必要な論点を解説する。

本年度の受講登録者数は23名、実際の受講者数は毎回20名程度と大変少ない結果となった。登録者の内訳は、総合人間学部2名、文学部1名、法学部1名、経済学部5名、理学部2名、医学部2名、工学部1名、農学部9名であった。前年度に比較すると、文系学生の登録数が激減しており、沿岸域に興味を持つ学生の減少が顕著であった。登録学生のうち、単位を得た者は17名、合格率は74%と前年度よりも高くなった。

フィールド研では、本講義の受講学生が少なく回復の傾向が見いだせないこと、高等教育研究推進機構の方針の転向によって外部講師の招聘に関する規制が厳しくなったこと、などの理由から、2012年度には本講義は開講しないことを決定した。今後、再び沿岸生態に対する学生たちの興味が高まることに期待したいと考えている。



講義の様子



佐藤先生

③森林学

森林生態保全学分野 准教授 徳地 直子

近年の生活様式の変化や、地球規模での環境変動は、身近な近郊林だけでなく遠隔地にある森林生態系にも大きな変化をおよぼしている。この講義では、森林について、森林をとりまく社会情勢、林業の現状、森林の生態学的把握、森林の生み出す機能、森林をよりよく利用するための方策など、多方面から森林を解析し、総合的に森林に対する理解を深めることを目的としている。講義の形式は、森林を考える場合、自然科学の面のみならず、林業などを含んだ人間とのかかわりを考えることが欠かせないため、各分野の専門の教員によるリレー講義としている。

講義では、まず、安藤信准教授により日本の森林の現状やわが国の森林面積の4割を占める人工林とその施業について、講義がなされた。次いで、柴田昌三教授により日本の里山の現状について紹介された。これらの森林が成立する過程や維持機構について、寄元道德助教が森林のダイナミズムと樹木の生態について紹介した。中西助教からは樹木の一次生産について、特にヒノキ林分における調査結果をもとに説明がなされ、中島皇講師により森林と水・土（2回）の関係について述べられた。さらに徳地により森林が生み出す森林生態系の機能（2回）について検討された。次いで、今年度より琉球大学に異動された芝正巳准教授の後任として着任された館野隆之輔准教授による森林生態系の物質循環についての講義が加わった。今後の森林とのかかわりの上で、重要な森林政策について農学研究科国際農林経済学の川村誠准教授が講義された。また、森林資源の利用について長谷川尚史准教授による講義があり（2回）、坂野上なお助教により木材の消費・流通システムが考察された。最後に吉岡崇仁教授による森林を流域の中で位置付け、流域と環境に対する意識についての講義がなされ、森林の持続可能な利用についての総合的な講義が行われた。



中西先生



講義の様子

④水圏生物学入門

海洋生物進化形態学分野 講師 宮崎 勝己

例年通り、全学共通科目として「水圏生物学入門」を、前期（木曜・4限）に全13回のリレー講義として提供した。

前年度まで「深海の生物学」の講義を行っていた白山義久 前瀬戸臨海実験所長（教授）が、独立行政法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）理事として転出したため、リレー講義の担当を外れ、新たに瀬戸臨海実験所に着任した中野智之助教が担当講師に加わり、「カサガイ類の生物学」のテーマで講義を行った。また年度始めに担当講師のうち2名が相次いで病気のため手術を行ったため、従来に準じて計画していた担当の順番を、途中で大きく変えざるを得ない事態となった。成績の判定については、例年通り、各講義の最後に課す小レポートにより出席を確認し、出席数とレポートの評価を総合する事で行った。また明らかな遅刻者に対しては、それ専用のレポート用紙を渡すことで、減点の対象とした。それぞれの講師の先生は、それぞれの専門性を活かしながら、水の世界に生息する様々な生き物たちの生き様や、環境との関係性について解説・論究を行い、出席率やレポートの内容からは、受講生の満足度はますます高かったことが伺えた。

例年通り定員376名の最大教室を確保したが、今回もそれを遙かに上回る数の学生が登録を申請したため、今回もやむなく無作為抽選により、教室定員から認められる最大数の413名に受講者数を制限した。この科目は、次年度から後期木曜4限に移行するので、受講申請者数や学部の内訳がどのように変化するのか、非常に興味深い。

今年度の講義の順番・題名は以下の通り。（各講師の所属・役職はいずれも当時のもの）

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| (1) 水圏生物学入門オリエンテーション | － 宮崎 勝己（フィールド研・瀬戸臨海実験所・講師） |
| (2) 潜水調査の可能性と限界 | － 益田 玲爾（フィールド研・舞鶴水産実験所・准教授） |
| (3) 渚の自然史 | － 加藤 真（人間・環境学研究科・教授） |
| (4) 水辺のつながりが育む生物多様性 | － 奥田 昇（生態学研究センター・准教授） |
| (5) へんないきもの：ウミグモとクマムシの生物学 | － 宮崎 勝己（フィールド研・瀬戸臨海実験所・講師） |
| (6) 魚の初期生活史：小さな卵から大きな体へ | － 田川 正朋（フィールド研・河口域生態学分野・准教授） |
| (7) 日本海と太平洋：生物の分布と環境 | － 上野 正博（フィールド研・舞鶴水産実験所・助教） |
| (8) 水圏の植物学：磯焼けと藻場造成について | － 鱒坂 哲朗（農学研究科・助教） |
| (9) フジツボ類における性表現の進化 | － 大和 茂之（フィールド研・瀬戸臨海実験所・助教） |
| (10) クラゲの生物学 | － 久保田 信（フィールド研・瀬戸臨海実験所・准教授） |
| (11) カサガイ類の生物学 | － 中野 智之（フィールド研・瀬戸臨海実験所・助教） |
| (12) 海産生物の生き残り機構 | － 山下 洋（フィールド研・舞鶴水産実験所・教授） |
| (13) 全体総括・アンケート | － 宮崎 勝己（フィールド研・瀬戸臨海実験所・講師） |



事前レポートへの回答（「ゴンズイ」と「ガンガゼ」の違いについて説明）を食い入るように聴く受講学生たち（益田先生）

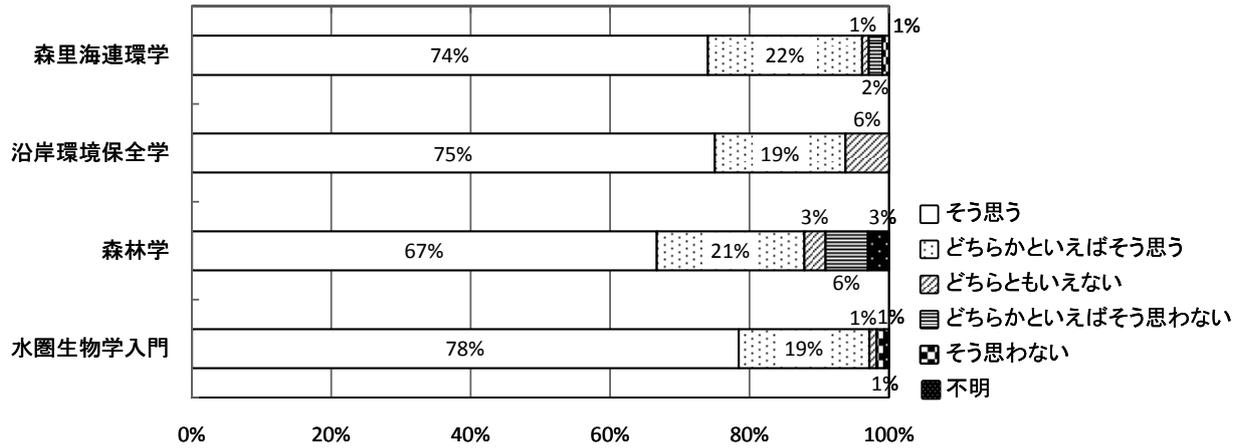


雌雄同体であるアメフラシの交尾行動について熱く解説（益田先生）

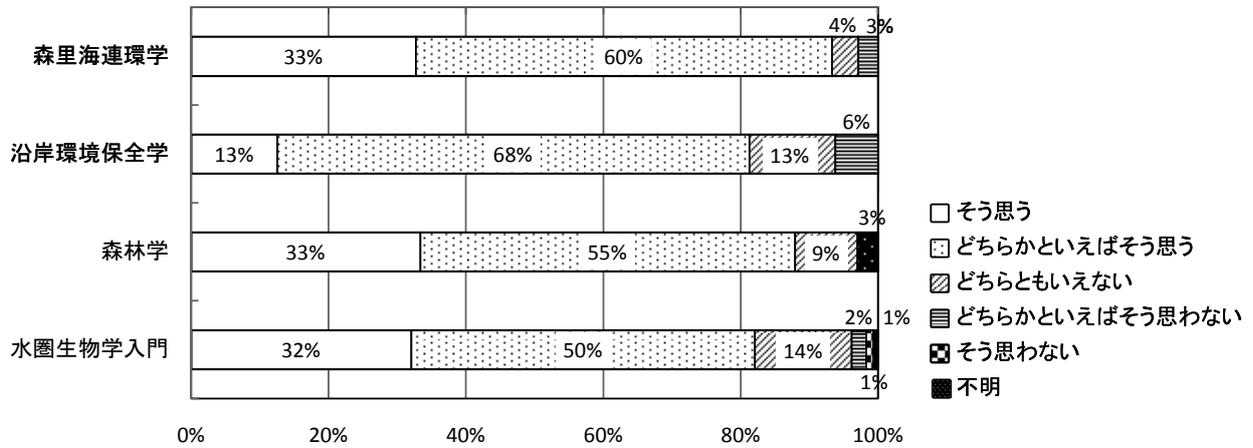
⑤リレー講義に対するアンケート結果

このアンケートは、フィールド科学教育研究センターのリレー講義を今後より充実したものにしていくため、学生の率直な意見を求めたものである。有効回答者数は、森里海連環学:104名、沿岸環境保全学:16名、森林学:33名、水圏生物学入門:284名であった。以下、設問ごとに、集計結果をグラフで表示した。

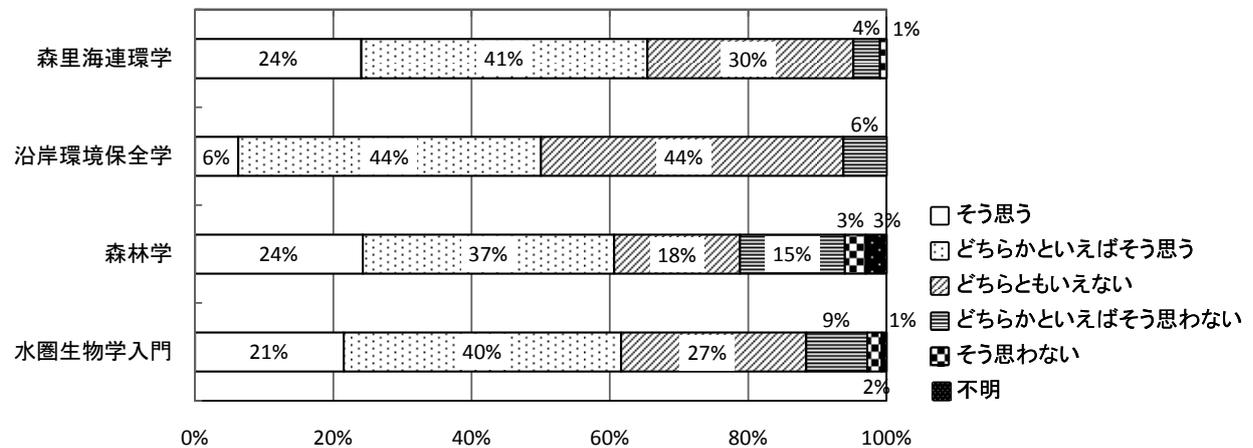
○この授業にはほとんど出席した



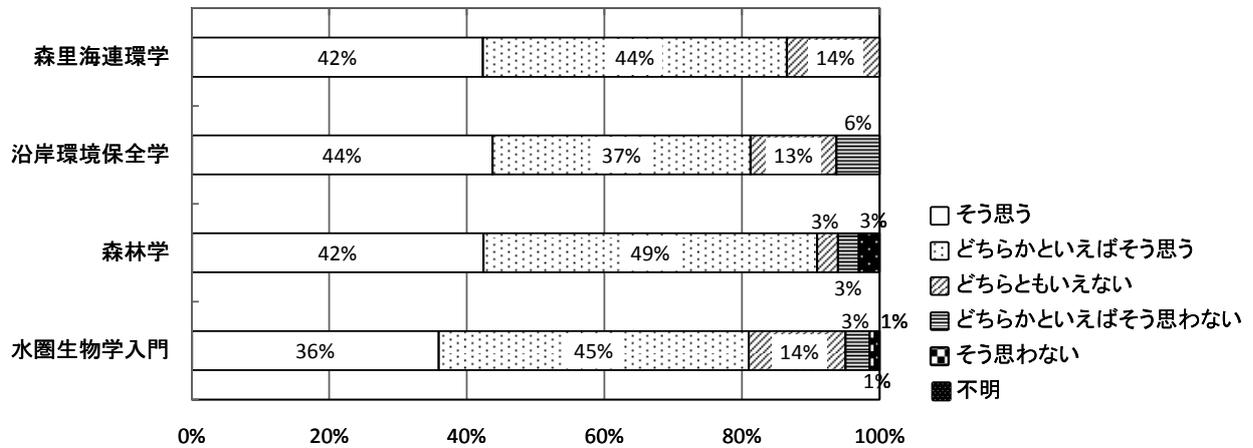
○この授業の内容はよく理解できた



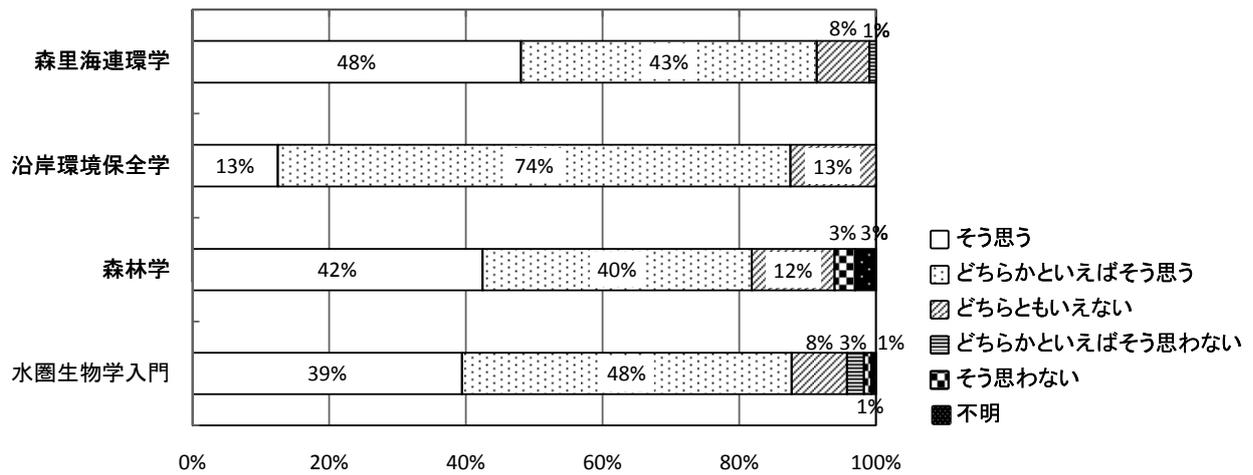
○この授業は体系的であった



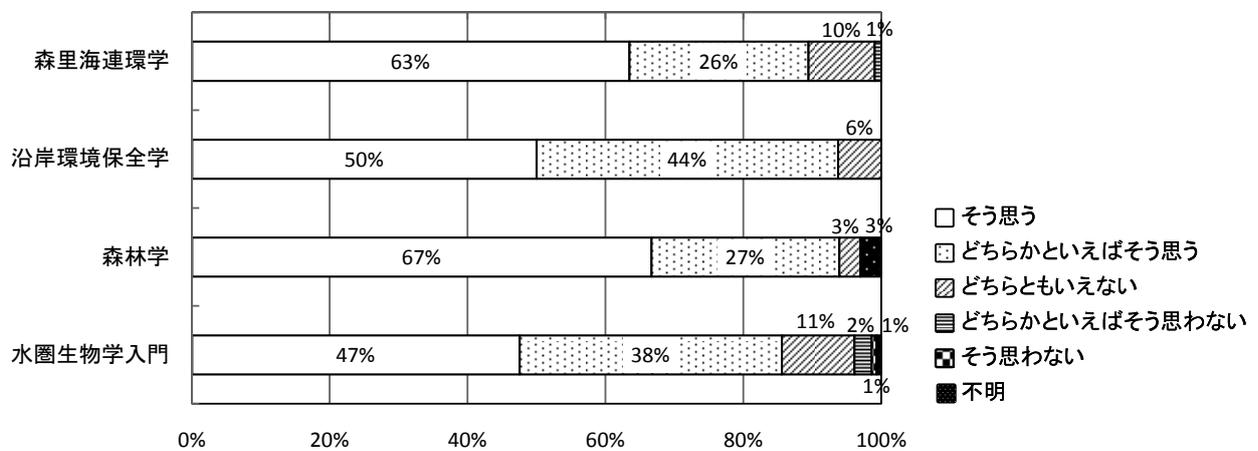
○この授業で知的に刺激された



○この授業で森から海までのつながりの機構と問題点がよく理解できた(森里海連環学)
 この授業で国土の環境管理に関する問題点がよく理解できた(沿岸環境保全学)
 この授業で森林の機構と問題点がよく理解できた(森林学)
 この授業で水圏にすむ生物の特性や生きざまなどがよく理解できた(水圏生物学入門)



○この授業は自分の学習にとって有益であった



2) 森里海連環学実習

①森里海連環学実習A「芦生研究林ー由良川ー丹後海コース」

沿岸資源管理学分野 助教 上野 正博

里山資源保全学分野 助教 中西 麻美

京都府の北部を流れる由良川は、京都大学芦生研究林を源流とし若狭湾西部の丹後海に注ぐ。本実習では、森林域、里域、農地、都市などの陸域の環境が、由良川の水質、生物多様性、沿岸域の生物環境にどのような影響を与えているかを分析し、川を通じた森から海までを生態系の複合ユニットとして、科学的に捉える視点を育成することを目的としている。今年度は、芦生研究林における森林構造と生態系、鹿による食害の影響やナラ枯れ被害木の観察、由良川に沿って源流域から美山、和知、綾部、福知山を經由して河口域までの水質（水温、塩分、電気伝導度、溶存酸素、COD、硝酸態窒素、アンモニア態窒素、珪酸、懸濁物質）調査、魚類、水生昆虫などの水生生物の採集調査および土地利用様式の調査を行った。また、調査地点を若干変更し、森林域を流れる源流、農業地帯を流れる犀川、市街地を流れ下水処理場排水が流入する和久川の3ヶ所に配置し、流域の土地利用状況によって、水質がどのように変化し水生動物の群集構造にどのような影響を与えているかを、参加学生が理解しやすいように計画した。また、河川横断構造物の影響を見るために、大野ダム湖内とその下流の和知で水環境、水質、プランクトンを調査した。本年度は5月に2度発生した洪水によってダム湖内は流木に覆われ、またボート乗り場も破壊されたため湖上20m余りにかかる橋上からの調査となり、昨年度ほど詳しい調査は行えなかった。しかし、野外調査の困難さを体験する良い機会になった。全体としては標本分析とデータ処理のための時間を増やすことにより、参加学生がじっくりとデータを解析しレポートを作成できるよう配慮した。陸域から河川への物質流入、源流域から河口までの水圏環境の変化と水生動物の群集構造や多様性との関係を分析し、森林管理や人間活動との関係も含めて考察した。例年いくつかの班に分けてデータ分析と考察を行っているが、今年度は1班が懸濁物質の流入の特徴、2班が環境と魚類の食性、3班が環境と水生昆虫および魚類の量的関係に関する報告を行い、それぞれにユニークな着眼点が披露された。実習に参加した学生は13名（本学からは農学部7名、工学部1名。他大学は、群馬大、信州大、慶応大、北里大、奈良大の5大学から各1名）であった。教育関係共同利用拠点としての第1回目となる公開実習であったが、全国の大学から参加者がありまざまざのスタートであった。日程と実習内容は以下の通りである。

- 8月8日（月） 京大農学部発芦生研究林へ移動（出発前にガイダンス）、芦生研究林、由良川源流域調査、講義「実習の目的と内容」、「芦生研究林の概要」
- 8月9日（火） 由良川上中流域調査（芦生～福知山）
- 8月10日（水） 由良川河口調査（神崎）、標本分析及びデータ解析
- 8月11日（木） 水質分析、魚類・水生昆虫同定、魚類胃内容物分析、データ解析、レポート作成
- 8月12日（金） レポート作成と研究報告会、反省会の後京都大学農学部へ移動



市街地を流れる和久川での実習。一見きれいだが下水処理場排水の臭いが立ちこめる



2004年23号台風の浸水水位標を見上げる。バス水没現場の近く

②森里海連環学実習B「紀伊半島の森と里と海」

里地生態保全学分野 准教授 梅本 信也

本実習は、紀伊半島南部の古座川流域と串本湾岸域に指交的に広がる自然域と里域（里海，里地，里川，里池，里谷，里原，里山，里空）を対象に、フィールド調査の理論と実践的手法を体感させ、現地観察や聞き取り、各域から得られるサンプルの分析に基づいて、地域連環の諸相について考究し、観光振興と環境保全との関係を総合的に把握しながら、今後の地域適正化対策を検討させることが主眼である。今回で9回目となった。2011年度は京大フィールド研・紀伊大島実験所を活動拠点とし、9月14日（水）から9月18日（日）に開催された。京都大学学生8名（工学部1名，農学部7名）が参加した。担当職員は准教授3名，講師1名，助教1名であった。後半には環境省職員がオブザーバ参加した。日程と実習概要は以下の通りである。

14日（水）JR紀勢線串本駅に12時10分に集合の予定であったが、上旬に西日本に上陸、縦走した大型台風第12号による大規模風水害によって、紀伊半島の大動脈である紀勢本線が90ヶ所で寸断されて白浜駅以南が不通となり、集合場所を白浜駅11時半に変更、公用車等で拠点の紀伊大島実験所に移動した。13時から全体ガイダンスを行ない、「古座川合同調査報告集・第1～5巻」や「地域フィールドガイド」「里域連環学入門」「里域食文化論入門」「里域震災論入門」など資料を配布、該当地域の諸相連環を考察する上で効果的で相互に関連する参考テーマを提供しながら、課題に取り組むための仮の班分けを行った。今回は実習地域が台風被災地であり、したがって、当初予定のテーマから台風被害を軸にした取り組み内容となった。また、台風第15号および第16号、さらに秋雨前線の活発化に伴う天候不安定性が予測されたので、日程を一日短縮した。

9月15日（木） 里域と自然域各系およびその相互連環性を把握し易いテーマを作成、それぞれの担当教員と共に実習・現地調査に入った。宿泊しながら取り組んだテーマは「2011年台風第12号によるライフライン切断から見た地域連環構造の変容」「2011年台風第12号による河川水質変動と水生昆虫相の変容」「2011年台風第12号と防災意識－パットナム法の適用－」であった。

9月16日（金） テーマ別に調査、分析、検証、作戦会議、議論を続けた。

9月17日（土） 調査結果を分析し、仮報告書を作成、班ごとに調査内容の発表を行った。森里海連環学的視座からの活発な質疑応答が行われた。

9月18日（日） 清掃や報告書・アンケート用紙を提出、記念撮影して解散、前日に奇跡的に串本駅まで復旧した紀勢線で学生達は全員無事に帰京した。

なお、A4で約80ページにもおよぶ各班の正式報告書は、京大1年生向け少人数セミナー「清流古座川に森里海のつながりを見る」で提出された報告書とともに「古座川合同調査報告集第6巻」（2011）に掲載された。



古座川中流域に位置する一枚岩前で（2011.9.14）



古座川中流域七川ダム直下の真砂地区における聞き取り調査（2011.9.16）

③森里海連環学実習C「別寒辺牛川流域における森里海連環学実習」

森林資源管理学分野 教授 吉岡 崇仁

平成 23 年度の森里海連環学実習 C は、京都大学フィールド科学教育研究センターの北海道研究林標茶区と北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの厚岸臨海実験所を拠点として、以下の日程で実施した。

8 月 27 日	実習生集合（標茶）、ガイダンス、安全教育、講義、樹木識別実習
8 月 28 日	天然林毎木調査、土壌調査、講義
8 月 29 日	パイロットフォレスト視察、牧草地土壌調査、水源域調査、講義、水質分析実習
8 月 30 日	別寒辺牛川の水生物・水質調査をしながら厚岸に移動、講義
8 月 31 日	厚岸湾および厚岸湖の水質・底質・水生生物調査、グループ発表準備
9 月 1 日	グループ発表、レポート作成
9 月 2 日	レポートとアンケートの作成・提出、解散

受講した実習生は、京都大学から 9 名、北海道大学から 7 名、計 16 名であった。受講生 4 名ずつで「森」「川」「里」「海」の 4 つの班を構成した。教員及び TA は、京都大学からそれぞれ 5 名と 2 名、北海道大学から 4 名と 1 名である。京都大学の技術職員 6 名、北海道大学の技術職員 2 名の協力を仰いだ。

研究林における毎木調査では、天然生林の尾根と谷部にそれぞれ 2 つのプロット（20×10m）を設置し、各班が 1 プロットを担当して、胸高直径 5cm 以上のすべての木の胸高直径と種類を記録した（写真 1）。また、プロット周辺において土壌断面を作成し、森林における土壌の形成過程、火山灰の堆積に関する実習を行った。尾根と谷部とで出現する樹木の種類、種数に大きな違いがあるとともに、土壌にも違いが見られたことから、受講生の関心を喚起したようである。

水質調査では、釧路川、別寒辺牛川両水系の河川水を用いて、アンモニア態窒素、硝酸態窒素、化学的酸素要求量、鉄イオン、塩化物イオン、硫酸態イオン、リン酸態リンなどの濃度を測定した。天然生林の多い流域でも硝酸態窒素濃度の高い地点があるなど水質形成メカニズムが複雑であることが分かった。

水生生物実習では、特別採捕の許可を得て、研究林内および別寒辺牛川流域で実習を行った（写真 2）。森林内と牧草地内を流れる川の調査地点の間で水生生物の種多様性や魚類の食性（消化管内容物）の比較を行った。森林内を流れる河川で捕獲したアメマスの消化管からは、多数の陸生昆虫が見つかり、森と川のつながりを考察することができた。また、厚岸湾のアイニンカップ岬と厚岸湖の沿岸（チカラコタン）でも、水生生物を採集した。動物相が、海、湖、河川でどのように異なり、また、動物の餌資源が、海、湖、川起源から陸起源に移り変わる様子を消化管内容物の調査から把握した。

「森」「川」「里」「海」の各班それぞれに異なる場の視点から各自が実習で得たデータを解析し、森里海の連環について考察しグループ発表を行った。連日夜遅くまでデータのとりまとめやレポートの作成を熱心に続けていた。発表でも、各班独自の観点から森・川・里・海の連環を説明しようと努力していることがよく分かる内容であった。



写真 1 天然生林での毎木調査



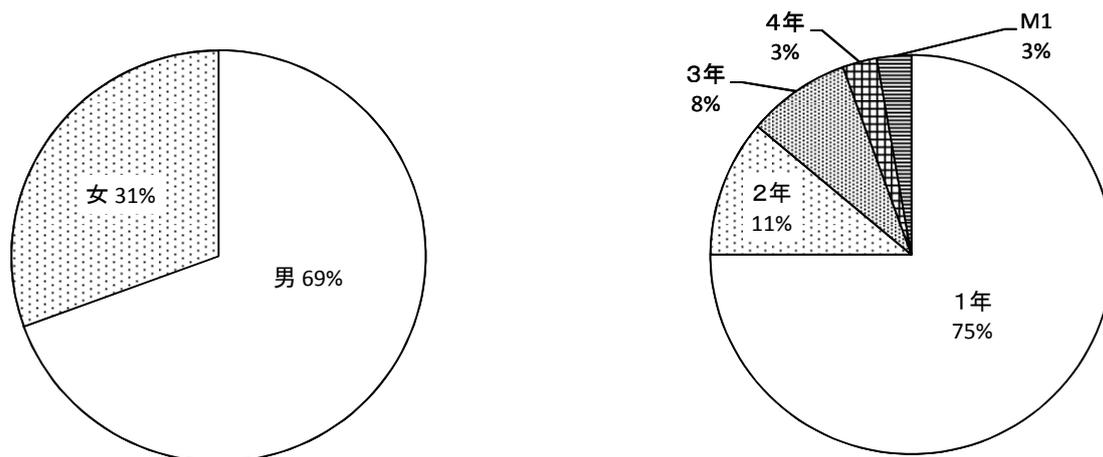
写真 2 別寒辺牛川の支流での採集

④森里海連環学実習（ABC）に関するアンケート

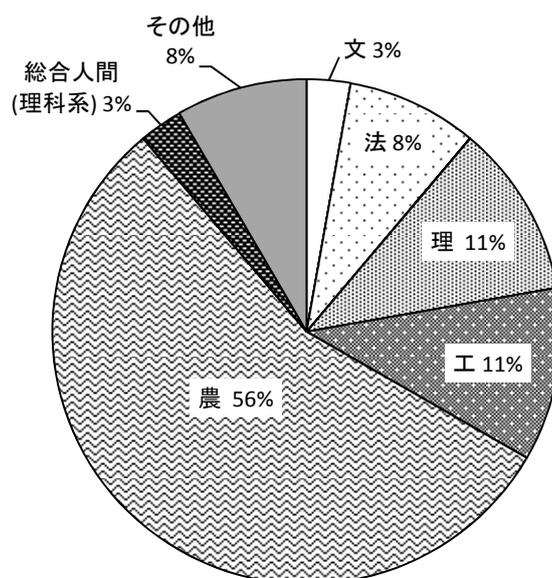
このアンケートは、フィールド科学教育研究センターの森里海連環学実習を今後より充実したものにしていいため、学生の率直な意見を求めたものである。アンケートは10設問からなっており、有効回答者数は36名（うち他大学11名）であった。以下、設問ごとに、集計結果をグラフで表示した。集計には有効回答のみを用いた。

なお、実習Cでは他大学の施設として、北海道大学の厚岸臨海実験所を利用している。

Q1 あなたの性別と学年を答えて下さい。

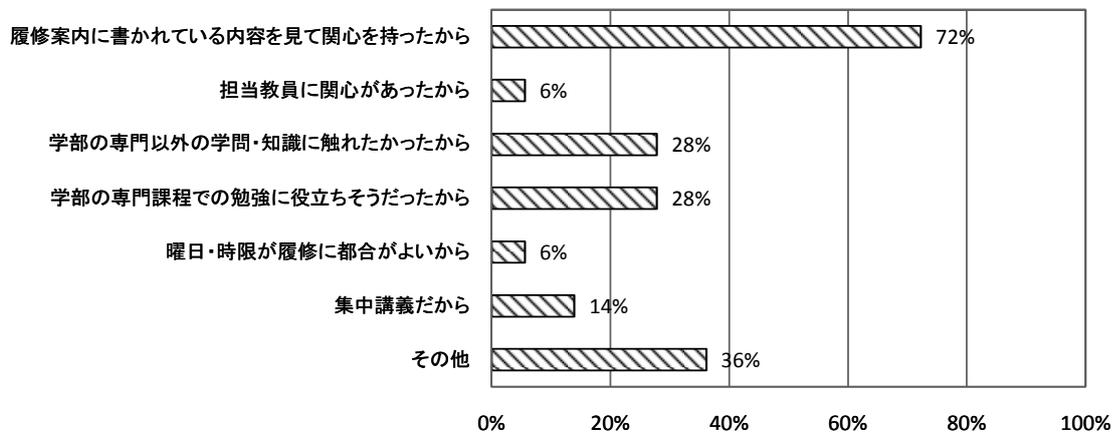


Q2 あなたの所属学部を答えて下さい。



「その他」・・・ 理工学部
水産学部 など

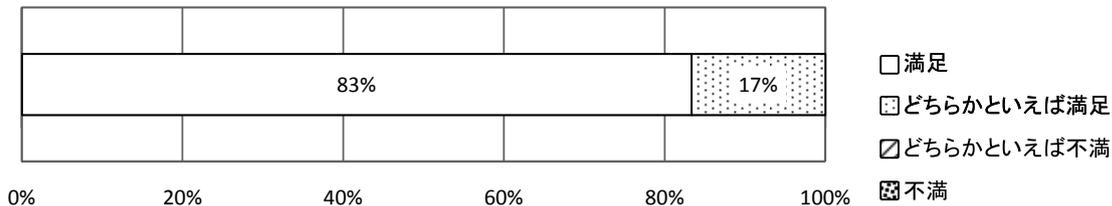
Q3 この実習を受講することにした理由を教えてください。(複数回答可)



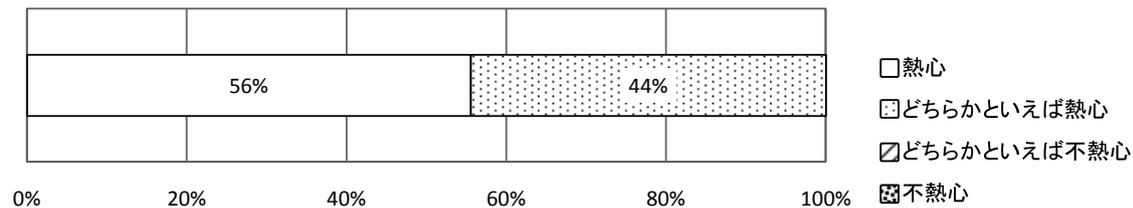
- 「その他」・・・
- ・後期のリレー講義「森里海連環学」が面白かったから(A)
 - ・フィールド系の実習に興味があったから(B)
 - ・顔見知りにならされたため(B)
 - ・説明を聞いて楽しそうだったから(B)
 - ・他大学の受講生・教員から多くの刺激を受けられると思ったから(C)
 - ・他の大学の先生や学生と交流する、いい機会だったから(C)
 - ・北海道の夏の自然に入りたかったから(C)

Q4 この実習を受講しての感想をうかがいます。

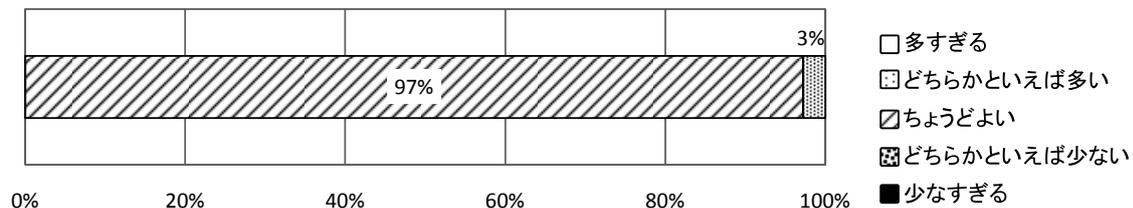
(1) この実習の授業内容に満足していますか。



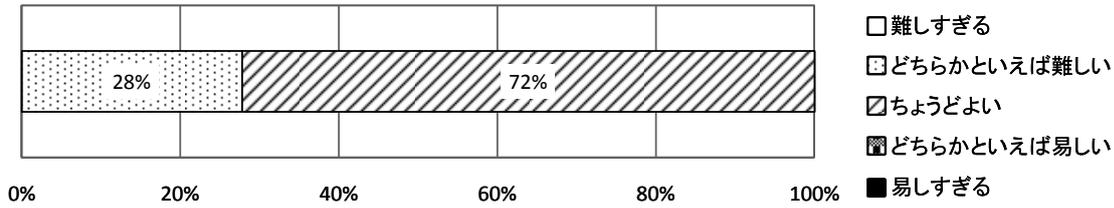
(2) あなた自身の受講姿勢はどうだったと思いますか。



(3) この実習の学生数についてはどう思いますか。

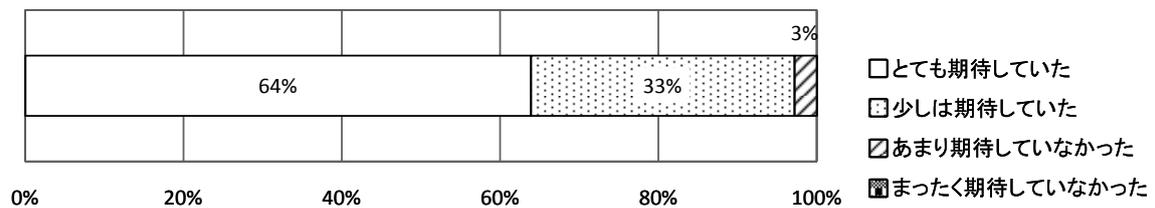


(4) 授業の難易度はどうでしたか。

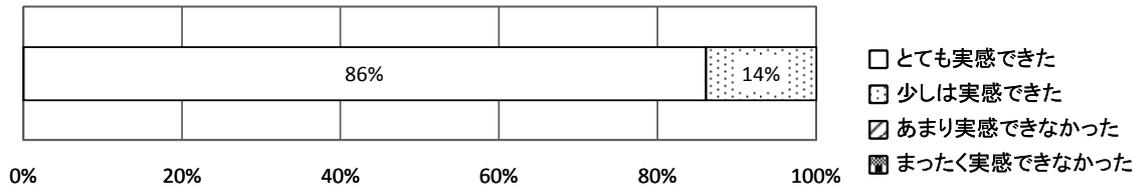


Q5 森里海連環学実習の授業形式についてうかがいます。

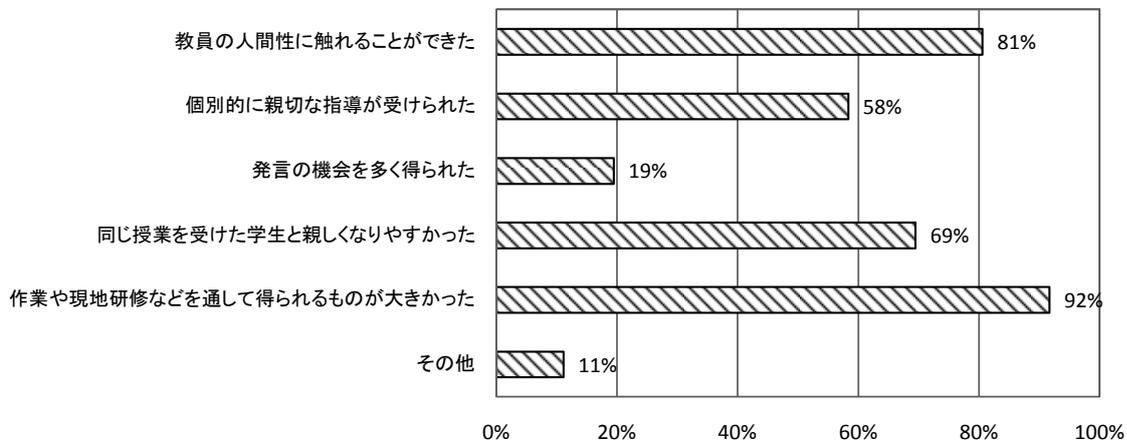
(1) この実習を受講する前、講義などの授業よりも多くのものが得られることを期待していましたか。



(2) では、実際に受講してみて、この実習でしか得られないものがあると実感できましたか。



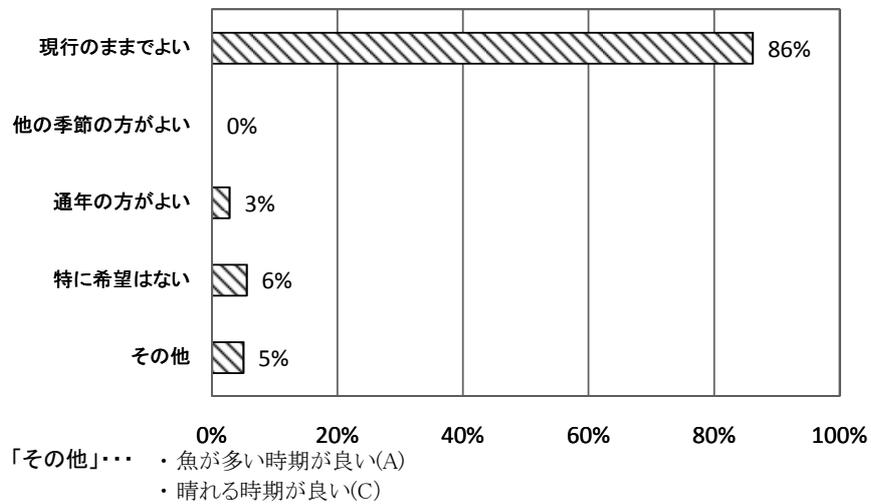
(3) 前問(2)で「とても実感できた」または「少しは実感できた」を選んだ方にうかがいます。この実習でどのような点がよかったですか。(複数回答可)



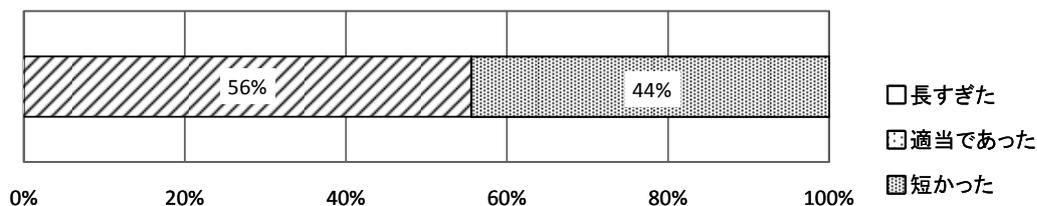
- 「その他」…
- ・ その場で実際に作業を行えることがとても良かった(A)
 - ・ 多くの教員の方や学生から色々な意見を聞くことができた(A)
 - ・ 魚と多く触れあえた(A)
 - ・ 新鮮な魚介を食べられた(C)

Q6 森里海連環学実習の実施方法等についてのご意見をうかがいます。

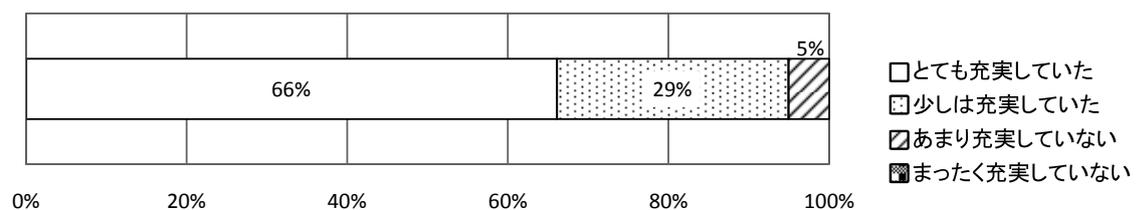
(1) 今回の実習の開講時期についてはどう思いますか。



(2) この実習の実施期間についてどう思われますか。

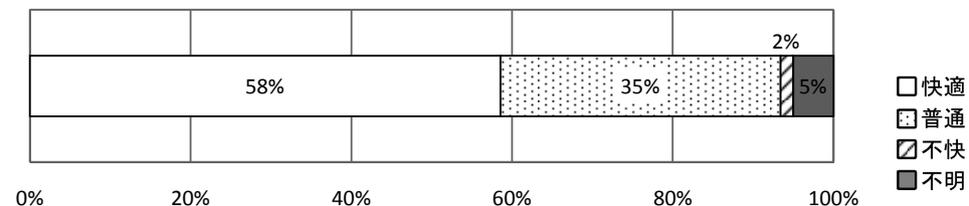


(3) この実習の実施場所の実験設備や実験器具についてどう思われましたか。

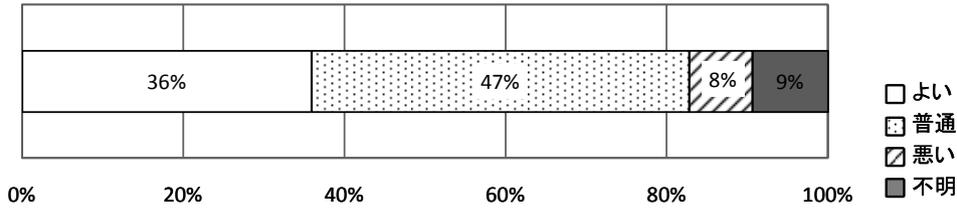


(4) この実習の宿泊についてうかがいます。

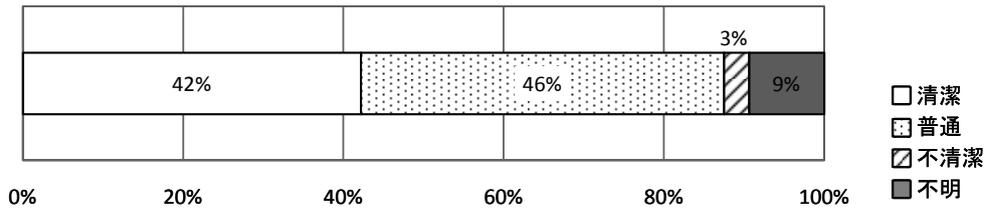
・ 共同の宿泊生活は



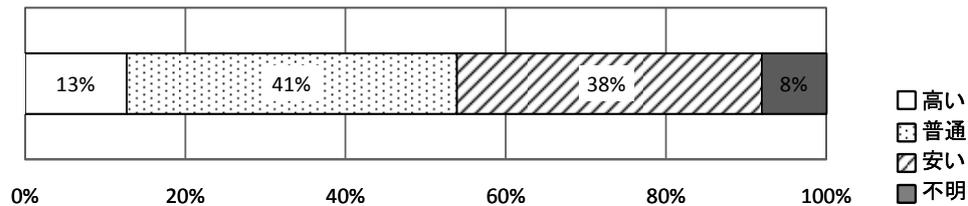
・ 宿泊施設の整備は



・ 宿泊施設の寝具は



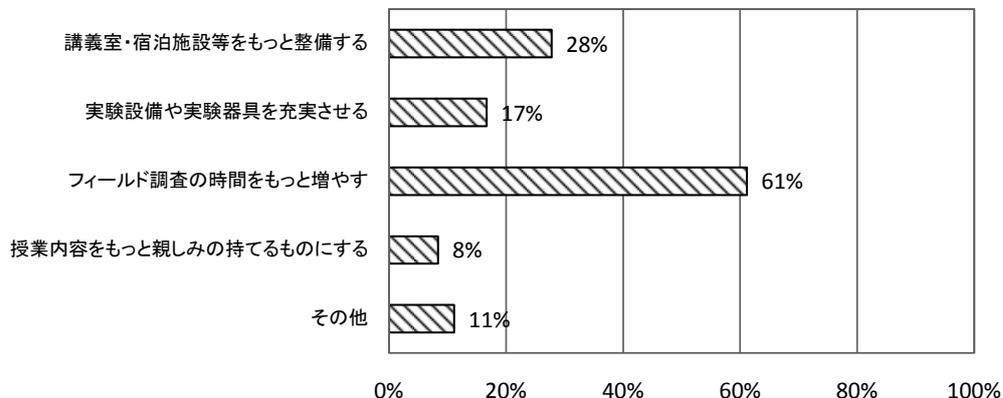
・ 宿泊施設の経費は



(5) 宿泊施設や食事について、何かご意見やご要望があれば自由に記入して下さい。

- 〈A〉 ・ 量が調整できることは助かりました。
- ・ 食事はとてもおいしかったです。ありがとうございました。
- ・ 舞鶴1泊目は暑くて死ぬかと思いました。
- ・ 予想よりも快適でした。
- 〈B〉 ・ 全員で自炊という形式はとても良いと思った。
- ・ 最初は施設の古さに驚きましたが、慣れてしまえば普通に生活でき、周りの人と協力できるようになり良かった。
- ・ softbankの携帯の電波が入らないので困った。浴室大にはお湯が出ないシャワーがあったので改善してほしい。
- ・ 水洗トイレにして欲しかった。
- 〈C〉 ・ 食事がお弁当なのは、できれば避けていただきたいですが、用意していただくことを考えると仕方ないと思います。
- ・ 標茶の二段ベッドで、上の方だと天井から何かがふっけてきていました。二段ベッドの上にもカーテンがほしい。他の人が寝ている横で電気をつけるのが申し訳ないので、机とイスがある部屋がほしい。
- ・ 二段ベッドの上の人にもカーテンがあるとよい。ごはんがおいしかった。
- ・ 厚岸のシャワーの水が出ない時があるのでそこだけ直してほしい。
- ・ 北大厚岸臨海実験所のお風呂の水の出を良くしてほしい。食事はとてもおいしかったです。
- ・ 厚岸の夜ごはんを手作りして下さい。
- ・ 食事の量が多く、減らしても食べるのに苦労した。お昼のお弁当は、女子には量が多いようで、男子と大きさの違うものを用意してもらえればありがたかったです。

Q7 今後、実習をさらに充実させるためには、どのようにすれば良いと思いますか。(複数回答可)



- 「その他」・・・
- ・解析の時間を増やす(A)
 - ・環境問題に対する意識が広がったと思います(A)
 - ・すでに十分充実しているので、もう少し時間にゆとりがあってもいいと思う(C)
 - ・あと1日増やしたらいいと思います(C)
 - ・前もって講義を増やす(C)

Q8 森と海のように全く異なった生態系が本来は不可分につながっていることや、そのことが地球環境問題に深く関わるることについて、何か得るものがありましたか。自由に記入して下さい。

- (A) ・食物連鎖や物質移動など、実際に作業や調査で体験することで、「環境」が(自分と)近くなった気がします。
- ・森や里から流れ出た物質が海の生態系にまで深く影響していることを、採集した生物や水質データ等、複数の観点からみることができ、理解が深まった。
 - ・まとめでも検討しましたが、水生昆虫からみた水質や、それを捕食する魚の分布など河口にかけての変化が面白かったです。
 - ・実際に生息する生物を見ることができて、理解が深まった。
 - ・フィールド調査自体でも直接的に陸・川・海の関連について触れることができた。データを解析すると、直感(きれいに澄んでいる所には生物が多いなど)とは異なるところも有り、より本格的な森里海の関わりについて、多少は知ることができた。
 - ・川と海がつながっているのはもちろん森や水田、さらには市街地の人間活動など、様々なものが関わっていることが感じられました。
 - ・もっと正確なデータを取りたいと思いました。
 - ・川の有機物量は流域の土地利用や支流によっても影響を大きく受けることを知り、里の役割がよく分かりました。
 - ・授業で学んだことがあるので、森里海の連関性については知識はありましたが、実際に自分でフィールドに出てみてデータを解析したことで、知識が自分の血肉となったように感じられます。各パートの専門性から、トータルの視点が求められる流れは、医療と似ていると感じました。
 - ・特定の河川を回ってみると、上流と下流との違いにおどろいた。水質など、こうも違うのかと感じた。フィールドで技術を多く学べたことが私には大きな収穫であった。ありがとうございました。
 - ・水生昆虫から、森からはじまり、川、海へと生物や物質の循環があることを調査を基にして肌で感じました。
- (B) ・森と海のつながりはあまり理解できなかったが、人と自然の関係について詳しく知ることができた。
- ・台風の災害状況のひどさは、自然に対し人間がどのように手を加えるかで大きく変わってくることを感じました。
 - ・森と海の手がかりについてはよく分からなかった。
 - ・被災直後の調査だったので、生態系の連環については、得るものがあまりなかったです。
- (C) ・一つに与える影響が全てに行き渡るので、環境に対して何らかの作用をするときには、慎重にシミュレーションするべきである。
- ・森の植物と海の生物は、森と海を結ぶ川や、川を通過して行き来する回遊魚によって、深く関わっているということに気付くことができました。
 - ・思っていた以上に森と海と川と里がからみあっていたことを、フィールドに出てより深く知れたのでよかった。
 - ・それは知識としてすでに知っていた。でも実際に森→川→海の流れを素肌で感じることで貴重な体験だった。
 - ・非常に大きな機構であり、難しいと思ったが、現在問題となっている地球環境問題の解決には研究していく必要があると感じた。
 - ・森、里、川、海だけでなく、様々なものが複雑にからんでること。
 - ・自分で見て手をうごかして考えることで、楽しみながら知識や考え方を身につけられた。
 - ・生態系は単純とはいかぬ、複雑なものであるという認識が深まった。あらゆる要素が絡まっていることがよくわかる。
 - ・森里海をバラバラにとらえるのではなく、一つのものとしてとらえることが重要で、しかし難しいということを実感しました。

- ・実際に自分の目で植生や生物の分布を見ることができて、今そこで起こっていることがわかるようになった。
- ・研究というと、どうしても森、海、川などに分かれてしまうイメージがあったので、各分野の専門家が寄りあって進む研究がある、というのが斬新で面白かったです。人文系の人間としても、今回の実習をきっかけに生態系をつながりて理解し、環境問題等の政策に応用していけたらいいと思います。
- ・森と海だけでなく、人や平野、川、湖といった色々なものが地域の地形に合って組み合わせあって、大きな生態系ができてることがとても実感でき、その組み合わせがどのように、どの程度深いのかといった指標をつくること自体が難しい、どのような価値観を人間は自然に対してもつべきかといった、自然や人間そのもののあり方まで教えるという、難しいが面白い分野だと思いました。

Q9 今回受講された実習について、何かご意見やご希望があれば自由に記入して下さい。

- 〈A〉 ・楽しかったです。
- ・自由時間、調査時間はもう少し長くしてほしかった。日程の調整が可能であれば5泊6日などもっと長くても良いと思う。
 - ・海で遊びたいと思った。
 - ・フィールド調査で得たデータからさらに発展した調査・研究も行いたい。そうした機会を設けるか、または紹介していただくとありがたい。
 - ・最後のまとめの作業は夜遅くまでかかって大変だったけど、協力してひとつのものを作り上げるのは楽しかったです。
 - ・舞鶴の海の魚ともっと触れあいたかった。
 - ・5日間、多くのご指導を賜り、本当にありがとうございました。冬の芦生の実習にも出来れば参加したいと思います。
 - ・フィールド調査を多くしてほしい。対立することであるが、発表準備にもっと時間がほしい。
 - ・今後も続けていってほしいと思います。まとめの時間は今回と同じくらい取った方がいいと思います。短い間でしたが熱いご指導ありがとうございました。
- 〈B〉 ・フィールドワークを今回体験できたことにより、今後の自分の学習に大きくプラスになったと思う。
- ・聞き取り調査の必要性、おもしろさ、難しさを実感できた。
 - ・森の中を歩いたりもしてみたかった。
 - ・今回、台風後の聞き取り調査という、貴重な機会を得、自分なりに得るものも多かったので、参加できてうれしく思います。
 - ・持ってきた方がよい物をもっと具体的に教えて欲しいです。
- 〈C〉 ・最高です！
- ・面白かったです。
 - ・楽しかったです。
 - ・とても良かったです。
 - ・夜が遅くて、ちょっとしんどかったです。
 - ・レポートが重たい気がするが、それはそれでためになった。
 - ・先生方やTAの方々みなさん親しみやすく、とても楽しかった。実習のレポートをもう少し軽くして、先生方や学生と人生について語り合う時間がもっとあればよかった。あと発表の時は目を開けてきてほしい。
 - ・実習の内容が盛りだくさんで、得られるものも多く楽しかったが、シャワーに入るのが遅くなったり、レポートの課題かつ発表準備などに追われ、寝不足気味になってしまいました。もう少し余裕のあるスケジュール(内容を少し減らしたり、期間をのばしたり)にして頂けたら、実習生ももっと余裕をもつてのびのび実習できたのではないかと思います。

Q10 当センターのホームページにアクセスしたことがありますか。内容についてどう思われますか。

- ・アクセスの方法を当センターのホームページに載せていただけるとありがたいです。京大のホームページから探しました。
- ・もう少し実習の写真を増やすと雰囲気や何をするのか分かって参加しやすいと思った。
- ・あります。舞鶴の水温などのデータの更新が遅いと感じた。
- ・見やすいページだと思います。
- ・アクセスしたことはあるが、よく覚えていません。
- ・ありませんが、帰ってからアクセスしたいと思います。
- ・みたことはありませんが、おもしろそうです。
- ・ないです。またアクセスしてみます。

3) 少人数セミナー

① 原始的な森林の働き

森林環境情報学分野 講師 中島 皇

今年度は5月の初めが幽仙谷集水域天然林研究区(後述)の毎木調査(6年毎)にあたり忙しくなるため、参加者に都合をつけてもらって1コマセミナーを4月からスタートした。2回目は5月の後半としていずれも吉田キャンパス北部構内で行った。6/19(日)には都市近郊林と見本林の見学のために上賀茂試験地で1day セミナーを、7月に芦生研究林で合宿形式セミナー(2泊3日)を行った。参加者は4名(男3, 女1), 学部別は(工2, 農1, 総人1), 出身地は栃木市, 宇治市, 奈良市, 福岡市。フレッシュな新入生諸君がフィールド(森林)に出て, 自ら体験し, 考え, 自然と人間の関わり方に興味を持つ契機とすることがこのセミナーの目的である。

芦生での集中セミナーは, 7/2(土)の広河原バス停集合で始まった。佐々里峠をフィールド研の車で越えて由良川の集水域に入る。この峠は冬期間は除雪が行われず通行止めになる。30分程で芦生に。昼食をとり, 身支度を整えて由良川本流沿い(芦生では標高が低い谷沿い)の自然を観察しながらトロッコ道をのんびり歩く。昔, 集落があった灰野では神社の側に倒れた苔生した大きな木に圧倒されていた。夕食は4人で協力して餃子作り。自分の「始末」は自分ですることこのゼミの重要な要素である。夜は, 芦生研究林の概要と抱える問題点の説明を受け, それについて話し合った。

7/3(日): スッキリしないが, 雨は降っていない。昼食のサンドイッチを作って出発した。幽仙谷の大面积・長期プロットや暖温帯と冷温帯の移行帯についての説明は実感できたか!? 今年度は林道沿いにご馳走が待っていた。ナガバモミジイチゴの大きなオレンジ色の実。この時期に出会えるのは珍しい。トゲに刺されながらも恐る恐るほおばっていた。事務所からは400m程高い丹波高原。杉尾峠からは日本海(若狭湾)もうっすら見える。上谷の由良川最源流を長治谷まで, 途中で昼食を挟んで約2時間半で下っていく。ナラ枯れで枯れたミズナラの幹をじっくり観察したり, トチの大木にある洞に入ったり, ブナの倒木の橋を渡ったりと, 人為的な影響の少ない森林を満喫したようである。ただ上谷でも柗上谷出合あたりからは左岸と右岸の林相が大きく異なり, かつての木地師たちの住み跡があり, 鹿の増加による林床植生の激減など, 人為や人間の影響? も見られる。それらも含めて原始的な森林というものを考えてくれれば, このゼミを開講している意味がある。長治谷作業所に到着後, 上谷・下谷の量水堰の近くで流量観測の実習を行った。その後, 下谷では大桂, 二次林と人工林を観察し, 幽仙谷では天然林からの流出物を回収した。夕食は鍋。皆, 夏の鍋を腹一杯食べて満足の様。食後にはTAの大学院生や研究員である先輩たちの研究紹介を眠気と戦いながらも真剣に聞き, 質問をしていた。

7/4(月): 流量観測データをレポートにまとめ, 回収してきた流出物と水生昆虫の観察とデッサン。最後に宿舎・食堂の片付けとフィールド研からのアンケートを書いて, 芦生から広河原バス停までの送りでセミナーは終了となった。感想文にはそれぞれに, 芦生の森に触れられた心地よい疲れと満足感が表現されていた。



ナガバモミジイチゴを味わう



レポート作成

②海岸生物の生活史

海洋生物系統分類学分野 准教授 久保田 信

ポケゼミ「海岸生物の生活史」は、自然環境に恵まれ風光明媚な白浜町（和歌山県）に産する無脊椎動物を中心に、伝統ある水族館を有する瀬戸臨海実験所の周囲の海岸において、実地授業を行った。今年度は、1名（工1男）の参加であった。主な実習内容は、(1)無脊椎動物の海洋での多様性の解説と図鑑などでの学習；(2)プランクトンの観察とクラゲのGFPの検鏡；(3)漂着物調査（番所崎と実験所“北浜/南浜”）；(4)磯観察（番所崎）と番所山の自然観察；(6)瀬戸漁港の生物観察と白浜朝市の見学；(7)ムラサキイガイの付着生物相とムラサキイガイの解剖；(8)構内に出現する夜行性熱帯動物の観察と地球温暖化；(9)水族館飼育展示中の諸動物分類群の観察；(10)南方熊楠館で粘菌の観察；(11)USAフロリダ・タンパ周辺海域の動物と自然の紹介、であった。

多様な動物群を自然にあふれた現場で実地実習することはきわめて有効であり、整った設備と廉価な宿泊施設使用料ではあるが、滞在費の負担（食費も含めた全てで1万円程度）は決して重くない。日本最古で質のよい温泉で、フィールドワークの疲労も吹き飛ばせるメリットもあった。参加者の実習の感想の一部を紹介する。「子供の頃から見ていた地元の白浜と、大きくなって他地方から短期間だけ戻ってきた時の白浜は全く違うものだった。ここは熱帯だ。こんな白浜が見れてよかった。学問の話から、ここに住んでいたことまで幅広いことを話して、研究職への夢が湧いた」。

本実習はいくら時間があっても足りない。その理由は、生命の母なる海には未知な特徴だらけの生物が無数に、多様に、時空的に変化しながら、お互いに影響しあっている存在しているからである。145万種もの動物は最も細分しても、たった41門。この基礎を得心し、これからの人生で、地球の同朋者として生きている彼らの個々の一生、つまり、配偶子から受精卵・幼生・幼体・成体・老齢体など、「生活史」のことを常に頭におき、個体・種全体・特定地域個体群・地球全生物の現在・過去・未来に思いを十二分に寄せること。人間以外は非情と言える食う食われるの関係で種の存続が成り立っている「食物網」にも留意し、現存できる“おごそかさ”を十分にかみしめること。人間として生まれた幸せを納得すること。以上のポイントを心得ておくことこそ人間の義務である。今後、多様な宝の海洋生物、特に岸辺で出会える様々な生き物に、人生をかけて、あるいは趣味として、めいっぱい親しもう・何かすごいことを究明しようといった思いが芽生えてくれば、本実習に参加した意義がある。3大テーマ：(1)サンゴやサンゴイソギンチャクの如く、光合成の応用として人工光合成による食糧問題の解決；(2)ベニクラゲの若返りのメカニズムの解明とその人類への応用；(3)南海・東海大地震の予測、これらに加えて、海に潜む生物の様々な秘密を発掘・研究・応用する醍醐味を夢にみてほしい。最後に、実習に参加した先輩とのよき交流が続行されることを期待したい。



顕微鏡を使った実習



番所崎の漂着物

③魚類心理学入門

沿岸資源管理学分野 准教授 益田 玲爾

本ポケゼミは4月から6月にかけての京都での6回の講義と、7月に行う舞鶴水産実験所での2泊3日の実習からなる。募集人数10人のところ、これより若干多い応募があった。講義は以下のタイトルで6回行った。

- 第1回 研究の道具としてのスキューバ潜水
- 第2回 群れ行動の発達心理学
- 第3回 魚類心理学を栽培漁業に活かす
- 第4回 魚の行動から海の資源の未来を読む
- 第5回 回遊魚の行動学
- 第6回 研究というゲームの楽しみ方

講師自身の研究成果を中心に1時間ほどの講義を行い、その後フリーディスカッション、さらに簡単なレポートを書いてもらい、このレポートをもとに次回の講義を組み立てるといった構成をとった。最終回には「プレゼンテーションの奥義」というコーナーも設け、講師が一番最近に行った学会発表を例に、口頭発表やポスター発表の技術を伝授した。

実習では、7月1日金曜日に学生らが舞鶴に到着し、まずガイダンスを行った。講義で地産地消や食の安全の話もしていたので、食事はなるべく自炊することにした。土曜日は、朝食のあと、市内の三浜海水浴場へ。漁協の運営する海浜施設「ととのいえ」のシャワーと更衣室を利用し、昼食には同所でサザエご飯とアオリイカの一晩干しを頂いた。調査では、ネットにより稚魚を採集し、シュノーケリングで砂地のカレイや岩場のハゼ類、ウミウシ類などを観察した。帰りにスーパーの鮮魚コーナーを見学し、食材としての魚について理解を深めた。舞鶴産のイサキとブリを刺身にし、食材への理解をさらに深めた。翌日曜日には西舞鶴の京都府漁連のセリを見学した。



実習で曳くケタ網。カレイの稚魚などがとれる



人の環もまた大学で得る財産

④森里海のつながりを清流古座川に見る

里地生態保全学分野 准教授 梅本 信也

2011年8月22日(月)から26日(金)まで、紀伊半島南部の古座川流域と串本湾岸域、合計約400km²に展開する里域生態系構成要素連環の実体感をメインテーマにしたポケゼミが行われた。文学部、理学部、工学部、農学部1回生の合計7名が参加した。前半の聞き取り調査期間は天候に恵まれ、照葉樹林に囲まれた紀伊大島実験所宿泊棟での共同生活は軽快に、そして朝晩は涼しく過ごせた。

初日は京都大学における少人数セミナー設置の意義と経緯を紹介し、資源博物学的調査方法や調査時の諸マナーの説明を行った。「古座川合同調査報告集・第1, 2, 3, 4, 5巻」、「清流古座川物語」、「里域食文化論入門」、「里域震災論入門」、調査用地図などの資料や調査用野帳を配布、古座川流域と串本湾岸域の概観、地形、気象、植生、土壌、生物相、文化相の概要を把握させた。聞き取りと観察によって今年度は古座川ならびに串本湾岸域の各地区における食文化多様性と成立要因を探らせた。具体的には古座川流域および串本湾岸域における伝統食、日常食、ハレ食を地域構成要素とどのように結びつけて住民が捉えているのか、地域食文化相に微視的なパターンがあるのかを調査することがテーマであった。一連のガイダンスの後、紀伊大島実験所構内に広がる照葉樹林で里域植物の文化的資源的価値に関する野外講義を行った。

第2日は各班2~3名からなる合計3班を編成し、古座川河口域の串本町中湊地区、串本湾岸域の同町檜野地区を訪問し、景観観察とアポなし聞き取り調査を行い、情報提供者ごとの基礎カルテを作成した。この種の調査は学生にとってまったくの初体験であり、南紀方言の問題、学生同士の心的距離の問題なども相まって最初は戸惑いがあったが、聞き取り相手の心に自己の心を同調させる術を自ら体得し、聞き取り技術が急速に向上していった。移動中の車内では積極的な仮報告や議論が続いた。例年通り、学生の目が本来の輝きを取り戻し、他人への心配りが日に日に向上した。

第3日は中流域の古座川町高池と串本湾岸域の串本町大島地区で調査を展開した。調査完了後には紀伊半島南端の地質学的サイトを見学、過去6000万年間の歴史について講義した。住民から伝統生活用具やアジの干物を頂戴した。

第4日はデータ整理やレポート作成作業に入った。まず、基礎カルテを集結、全員で取得した情報の共有化を図った。分量はA4のレポート用紙で厚さ2.0cmにもなった。集成した情報を踏まえて、森里海連環、古座川と串本湾岸域、食文化、地域性、歴史変容といったキーワードで構成される共同レポートを作成した。教科書的な世界とは異なり、現実の里域フィールドは複雑に繋がっており、驚異や多様性に満ち、さらに事実には重層性や奥行きがあることを学生は実体感できたように思われた。

第5日目は、宿泊施設の片付け、発表会、レポートならびにポケゼミアンケート提出が行われ、正午前に解散となった。例年通りではあるが、共同での調査作業、共同での宿泊生活を重ねていく過程で、学生の顔や言動にエネルギーが満ちていくのが指導教員として嬉しく思われた。(2011年8月26日)



フィールド調査拠点となる紀伊大島実験所に勢揃いしたポケゼミのメンバー



古座川河口域に位置する中湊地区での聞き取り調査風景

⑤C. W. ニコル “アフアの森” に学ぶ

里山資源保全学分野 教授 柴田 昌三

2011 年度も少人数セミナー「C. W. ニコル “アフアの森” に学ぶ」を開講した。今回参加した学生の所属学部は、教育学部 1 名、法学部 1 名、薬学部 1 名、農学部 4 名（男子 3 名、女子 4 名）であった。顔合わせを兼ねた説明会を 5 月 16 日に、予習会を 7 月 11 日に行ったが、これらを通して、今年のメンバーは活発な人材が多いことが確認できた。

アフアの森訪問は、8 月 5 日～10 日に行った。今回の補助は境慎二郎技術長にお願いした。今回は女性フリージャーナリストの参加も許可した。長野で講義内容はすべて例年通りであり、6 日に長野県下の森林を長野県環境保全研究所、森林植物園、戸隠奥社で見学した。翌日からはアフアの森である。いつものように我々を迎えてくださったのはアフアの森財団代表のニコルさん、森を管理しておられる松木さん、現地で財団をしっかりとお守りしておられる石井さんの実質上トップスリーのお三方である。恒例のニコルさんを森の中のベンチで囲むレクチャーから実習は始まった。学生たちがニコル・ワールドに徐々に飲み込まれていく光景はいつも通りである。残念ながら今回の実習では、ニコル氏が多忙なため、この日の午前中と 3 日目の最後にしか登場願えなかったが、かわって大活躍をいただいたのは松木氏である。7 日の午後から松木教室が始まった。この日はアフアの森で、翌日はいつものように隣県の新潟県妙高山笹ヶ峰での原生林見学、3 日目の森林作業、とお話をいただいた。8 日には笹ヶ峰で原生林を見た後、長野・新潟県境にある苗名滝からその下流にいたる砂防工事を松木氏と石井氏の解説で見学した。10 日は森林作業を経験した。松木氏の指導と堤氏の解説のもと、アフアの森財団が新たに取得した森林で行われた藪刈り作業の後始末が仕事の内容であった。昼前に、昨秋完成した財団のセンターを訪問し、そこでニコル氏の最後の講義を受けた。すっかり打ち解けた学生たちはいつまでも質問を続け、昼前に終わる予定であったものが 13 時ころまで延長することとなった。この日の夜には、例年のようにニコル氏が宿を訪れてくれた。麦焼酎を飲みながらニコル節はヒートアップしていったが、今年 of 学生たちはそのようなニコル氏を取り囲み、積極的に交流をしていた。途中からは宿の隣にお住まいの松木氏も参加してくださり、これより上はないと思われるほど充実した時間を得ることができた。

今回は、東日本大震災の影響を受けて、例年のラボランドくろひめのロッジをお借りすることができなかった。かわって紹介いただいたのは民宿旅館 16 番荘で、松木氏のお宅の隣という立地であった。いつものような合宿タイプとは異なる滞在となったが、大変おいしい朝食を毎朝ご提供いただき、感謝に堪えない。今回も、学生たちはニコルさんからさまざまな薫陶を受けたようである。そのことは帰浴後に集めたアンケートからも知ることができる。

ポケゼミ終了後の 9 月 23 日には、これも恒例になった同窓生が主催するバーベキューパーティーが上賀茂試験地で開催された。同じ経験を共有している学生たちの交流をみることは、指導者としての冥利に尽きるものである。来年度以降、これまでのようなニコル氏に全面的に頼る少人数セミナーの実施は困難な状況にある。しかし、これまでとは異なる形態であれ、このセミナーを続ける方向で考えたいと思っている。



アフアの森にてツリークライミングの説明を聞く



アフアの森にて、松木氏の説明を聞く

⑥フィールド実習“森は海の恋人”

里山資源保全学分野 准教授 長谷川 尚史

2011年度フィールド実習“森は海の恋人”を、8月22日から27日まで（移動日を含む）水山養殖場（宮城県気仙沼市唐桑町）、ひこばえの森交流センター（岩手県一関市室根町）において開催した。本年3月に東日本大震災が発生し、水山養殖場も施設の大半が流出するという大変な被害を受けた。災害当初は例年、受け入れをいただいている畠山重篤氏（京大フィールド研社会連携教授・水山養殖場）に連絡が付かない状況であった。連絡が付いた後でポケゼミの開催中止を検討したが、畠山氏から「こういうときだからこそ、学生に来てもらい、様々なことを学んで欲しい」と言ってもらい、例年とはプログラムを大幅に変更する形で開催した。

参加学生は経済学部、医学部、工学部からそれぞれ1名ずつの3名であった（予定は4名だったが1名が欠席）。このほかTAとして1名の農学研究科院生が参加し、また元センター長の田中克名誉教授にもご協力いただいた。宿泊したひこばえの森交流センターは、畠山氏らが植林活動を行っている森の近くに位置し、NPO活動の拠点となる施設である。本来は宿泊に供される施設ではないが、気仙沼市内の民宿が使用できなかったことなどから、無理をお願いして利用させていただいた。地元の方々によって大変おいしい地元食材を用いた朝夕食を提供していただき、また地元の方々とも交流をさせていただいた。

8月23日朝に仙台駅に集合し、レンタカーで塩釜、松島、石巻、女川などの海岸沿いの町を経由して、夕方に気仙沼市に到着した。報道などで状況は知っていたが、生で見る災害の爪痕は、学生達に大きな衝撃を与えた。特に、水山養殖場のある舞根地区では、養殖施設だけでなくほとんどの家屋が流されており、現地を生で見ながら災害時の状況を畠山氏ご自身から聞いたことは、大変大きな体験となった。

8月24日は畠山氏を引率者として、気仙沼湾にそそぐ大川を遡上し、河川水質と生物相の変化を観察した。最上流の「ひこばえの森」において、コナラ等の植林を行った。8月25日は舞根湾内の魚類等の生物相を、網によるサンプル調査等によって観察した。1ヶ月前にはまだ戻っていなかった稚魚や海草が復活しつつあるとのことであった。午後からは、流された筏を再建造するため、周辺のスギ林において伐採、搬出を行った。この際、ボランティアとして東京から来られていた井口孝男氏の指導を受けた。8月26日は筏づくりとともに、カキの稚貝が付いたホタテ貝の殻を養殖用ロープで繋ぎ、それを養殖筏に吊り下げる作業を行った。また畠山氏から森里海連環に関する講義を受けた。8月27日は陸前高田において1本のみ残った海岸のマツ等を見学し、昼過ぎに仙台駅で解散した。

人類史上、稀に見る災害の状況と、そこから復興しようとする人々の努力を目の当たりにし、当ポケゼミは例年になく様々なテーマの学習機会となった。忙しい中、終始、プログラムにお付き合いいただいた畠山氏をはじめ、そのご子息の畠山信氏（NPO法人森は海の恋人副理事長）ほか、余裕のない復興活動の中で丁寧に対応していただいた現地の皆様に、心から感謝するとともに、一日も早い復興を祈りたい。なお、26日の晩は京都大学からのボランティア学生らが到着し、さらに議論を深めることができたことを附記する。



畠山社会連携教授による津波の影響の解説



津波の傷跡が残る舞根湾と枯死したスギ

⑦木造校舎を造る：木の文化再生へ

里山資源保全学分野 教授 柴田 昌三

少人数セミナー「木造校舎を造る：木の文化再生へ」は2011年度は8名の登録者を迎えて行った。初めて定員割れとなったことは、来年度に向けて考えなければならないことである。登録者はすべて1回生で、所属学部の内訳は、法学部1名、経済学部1名、工学部5名、農学部1名（男子6名、女子2名）であった。実際に講義を受けに来た学生数は7名であった。今年度の少人数セミナーを担当したのは、地球環境学堂の小林正美教授、小林広英准教授と落合千帆助教及び柴田である。小林教授と小林准教授には、京都大学が知的財産権を有し、耐震性に優れた木造構造物である京大フレーム工法に関する講義や日本の木造建築物に関する講義、海外で模索されている木質資源を用いた農村計画の紹介等をしていただいた。柴田は、日本の森林に関する総論的な知識を伝えたほか、木質資源を供給する人工林や里山等の現状を紹介した。学内における講義は、京大北部キャンパスのフィールド研北白川試験地内に所在する、京大フレーム工法によって学内で最初に建てられた実験的構造物である建物と地球環境学堂の講義室を使って行った。これらの講義に加えて、一回の学外での実習も行った。これは京都府立植物園の見学である。残念ながら、例年行っているフィールド研上賀茂試験地における伐木・製材体験は、接近する台風のために中止とせざるを得なかった。植物園における見学は木本を中心とするさまざまな植物種を学び、その高い多様性と豊富さを学ぶことを目的とした。学生たちは植物の豊富さを学ぶとともに、その中から有用な植物を学ぶこととなった。見学は従来の一コマの時間では行い得ないため、午後半日を用いて行わざるを得ない。そのため、過密な受講スケジュールを組んでいる学生たちの中には参加できない者もいた。このことは残念なことであるが、現状のカリキュラムのシステムの中では致し方のないことである。講義終了後の学生たちからのアンケート結果を見ると、木造建築のみを学ぶつもりで受けた講義が予想外に木材生産も含めた講義であったことを感謝する一方、最終回に計画されていた伐木製材体験ができなかったことを心から残念に思っていることが汲み取れ、指導者としても残念な思いを持つこととなった。



植物園見学での受講学生

⑧海産無脊椎動物一分類群と形の多様性

海洋生物進化形態学分野 講師 宮崎 勝己

昨年度に引き続き「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」として行った。受講学生の内訳は、理学部1名、農学部1名、工学部2名（うち1名は女性）の計4名であった。

まずフィールド研会議室にて2回の講義を行った。4月15日に行った第1回目の講義では、オリエンテーションとして、各自の自己紹介・ポケゼミ全体の概要説明・今後の日程調整を行った。また、ある海洋生物学教科書（英語）から海岸動物の採集と保全に関する部分を抜き出し、その和訳を宿題として課した。5月19日に行った2回目の講義では、海の動物の多様性についての概説的な講義を行った後、実習日程の調整と宿題の回収を行った。

実習は9月10日から14日の4泊5日の日程で、瀬戸臨海実験所にて行った。初日のオリエンテーションと所内見学の後、2日目は顕微鏡の使い方講習・実験所周辺の番所崎での磯採集・採集物同定の順で行い、採集物の中から走査電顕用の試料を選び固定した。3日目は水族館見学・実験所裏の北浜での砂及びフジツボ採取・採取物からの小型ベントスの抽出・小型ベントス同定の順で行い、並行して走査電顕試料の作成を行った。4日目は同定結果の整理・水族館裏方見学・電顕観察・レポート作成の順で行い、夜は実験所宿泊棟食堂で、ささやかな反省会を行った。最終日の午前中に宿泊棟及び実習使用スペースの片付け・掃除を行い、レポートの提出をもって現地解散した。今年度は、前半が地球環境学堂の全学共通科目の実習と、後半が大阪大学の臨海実習と日程が重なり、室内作業は生物実習室では無く、講義室で行った。各日の実習終了後には、宿泊棟において、受講生と各実習の学生や先生方との間で有意義な交流が図られた。

今回は時期的に潮汐の条件があまり良くなく、台風等の影響による海況についても懸念されたが、期間中は天候にも恵まれ、受講生の努力もあって、十分な種類の海産無脊椎動物の採集・観察が出来、教員・学生とも満足度が高い実習となったと思う。



実験所北浜における小型フジツボ（手前）と砂（奥）の採取



実験所講義室での、観察・同定作業

⑨森林の再生と動態

森林資源管理学分野 准教授 安藤 信

京都市市街地周辺林，奥山の芦生研究林，その中間に位置する北山・八丁平湿原周辺の天然林・二次林を踏査，調査し，森林帯，地形，遷移過程の違いに伴う種組成や林分構造の変化と動態，そして近年の森林被害の実態について，講義・実習を行った。セミナーは4，5月の土・日・祝日を中心に実施した。

○4月16日（土）午後：ガイダンスおよび樹木識別実習

ガイダンスでは日程，野外実習における注意事項を説明した。樹木の分類と識別法，わが国の代表的樹種の分布について概説し，北白川試験地の樹木園において実習を行った。

○4月17日（日）：京都市周辺の森林の動態と再生

古都京都の過去からの森林の変遷，近年の「マツ枯れ」・「ナラ枯れ」被害の実態，さらに近年東山を対象に行われている景観回復のための森林施業について，解説した。吉田山では「マツ枯れ」後に広葉樹林化した里山の現況を視察し，大文字山では「マツ枯れ」跡地でアカマツ林再生のための取り組みについて解説し，ともに「ナラ枯れ」被害の現況を視察した。

○4月23日（土）：上賀茂における樹木識別実習

試験地で行われた「春の自然観察会」に参加した。「マツ枯れ」後にヒノキ林に変化した森林を観察するとともに，近畿地方で代表的な里山構成種の識別実習および海外から導入された多くの樹木種の観察を行った。

○4月29日（祝）：東山シイ林の林相改善

東山では森林の放置によってシイ林が拡大している。落葉広葉樹が混交し，多様性が高い森林に導くための森林施業が行われている。このような施業地の森林調査を行って，施業の検証を行った。

○4月30日（土）：「マツ枯れ」「ナラ枯れ」被害林調査

市内北部の里山を踏査した。上賀茂試験地において，「ナラ枯れ」被害林の樹種構成や被害状況について，実態調査を行った。

○5月3日（祝）：芦生の天然林，二次林の林分構造と動態

冷温帯域の芦生研究林において，天然林，伐採後30年を経過した二次林の森林調査を行った。天然林の構成樹種や森林の再生過程，さらにフィールド調査の難しさを体験した。

○5月7日（土）：八丁平二次林の林分構造と動態

冷温帯域の北山・八丁平二次林の踏査を行い，地形や攪乱の歴史が異なる森林の遷移過程，近年増加している「シカ害」「ナラ枯れ」の現況を視察した。

本セミナーでは，総合人間学部M1の棚田史彦君，農学部4回生の中野周平君が協力してくれた。



ミズナラ立枯木にシイタケが出ていた（芦生研究林）



アカマツ林再生試験地（大文字山）

⑩森のつくりだすもの

森林生態保全学分野 准教授 徳地 直子

森は有形・無形のさまざまなものを私たちにもたらしてくれるが、森の実際の姿や森の作り出す機能の創出のためにどのようなしくみがあるのか、よく知っているとはいえない。このポケゼミ“森のつくりだすもの”は、森に入って、森にふれ、さまざまな森の性質をとらえることを目的としている。

本実習は、例年和歌山研究林において夏季休業期間に行われる。しかし和歌山研究林は9月の台風12号により壊滅的な被害を受けたため実施が不可能であった。そのため、今回は森による様々な恩恵を考えるため、森と人の関係の濃厚な赤目の里での開催となった。赤目の里では里山からの木質バイオマスを利用した施設の運営や文化遺産などを活用した地域活性化がすすめられている。今年度は特にこれらを通じて、森のつくりだすものとそれを生かした人の暮らしを学ぶことを目的とし、以下のようなスケジュールとなった。

第1日目 三重県名張市錦生地域に集合。錦生地域の文化財をめぐり、地域の歴史を学んだ。鹿高神社は古墳群を内在し荘園時代には東大寺に材木を供給したといわれており、宇陀川へ続く参道からその当時川を用いて用材を運搬したといわれている様子を考察した。次いで、水田開発に伴う水利の確保を目的として作られた黒岩矢川隧道遺跡や地域の有力寺であった黒田無動寺を見学した。その後秋葉山に登り、樹木の観察をするとともに、山頂では削平地にあったとされる福寿峯城跡を訪れ、山頂から錦生地域全体を見下ろしながら、人と森の配置を検討した。夕方宿舎に戻り、里山での物質循環についての講義を行った。夕食後は地域の“大来の皇女をしのぶ会”の方による地域の伝承についての歌劇を観賞した。

第2日目 かつての里山の利用と暮らしを学んだ。早朝に里山を見学し、どのような利用がなされていたかについて話し合った。その後、“赤目の里山を育てる会”の取り組みや木質バイオマスを利用した活動についての説明を伺った。午後からは戦国時代にこの地域で活躍したとされる忍者の頭とされる百地三太夫屋敷を見学した。さらに、黒田氏獅子神楽保存会の皆さんに獅子舞を体験させていただき祭りを通じた地域活性化について検討した。

というスケジュールである。日程は例年より短くなったものの、夜に地域の方との交流などもあり、短期間に集中した学習ができたのではないかと考えている。アンケートからも短い日程ではあったが、これまで考えたことがなかった里山や森林についてその生活という側面からも検討できた様子が伝わってきた。



秋葉山山頂 城跡について説明を受けた



獅子舞体験 地域活性のための活動としての獅子舞を体験した

⑪環境の評価

森林資源管理学分野 教授 吉岡 崇仁

A・B群のゼミナールとして開講し、自然環境を評価することの意味について、自然科学的、社会科学的側面から解説と討論の形式で実施した。受講生は、経済学部1名、法学部1名、工学部2名、農学部4名、総合人間学部2名の合計10名であった。教室で8回の講義形式の授業と芦生研究林での合宿を実施した。

このゼミでは、「環境を評価する」とはいったいどういうことかという点について、環境の持つさまざまな価値を人間が認識し、自らの態度や行動を決定する際には、その環境の価値を判断している、という枠組み設定に基づいて議論を進めた。合宿では、あらかじめ用意したレポートを発表し、議論した。

教室でのゼミでは、人が事物を認識し「評価」することの意味の確認から、環境の評価が環境の価値判断となり、人の環境への態度・行動につながるという因果関係について議論しながら検討した。その中で、環境を評価することの意味について意見を求めたところ、個人によってかなり異なる意見を持っていることが分かり、簡単なことではないという印象を持つ受講生が多かった。環境に価値、「値段」をつけることに関して議論したときには、賛否両論があったが、受講生に経済学部と法学部の学生がおり、それぞれ特徴のある意見を持っており、議論が深まった。1回生ではあるが、所属学部の特徴的な感性、発想をすでに持っていることが分かり頼もしく感じた。これらは、全学共通の少人数ゼミ形式であることの大きなメリットである。また、環境の価値評価を人間中心主義的観点から行っているのか非人間中心主義的観点から行っているのかを議論した際には、自分の観点を始めて認識し、他の学生の意見も聞くうちに自分の考えが変化する学生と変化しない学生がいたが、自問自答していることがよくわかった。

レポートは、環境に関する新聞等の記事を選び、そこに含まれる「環境評価」の文脈の抽出と解説を課し、その内容を芦生研究林での合宿（8月18～19日）で披露し議論することにした。研究林内では、天然生林、人工林の観察（写真左）に加え、林内数カ所で実施されているシカ排除実験地を観察（写真右）したあと、夜にはそれぞれのレポートの内容を発表して意見を交換した。今年は、東日本大震災に関連し、合宿直前に話題となった京都五山の送り火での被災松使用を取り上げた受講生が2名いた。科学的に評価された放射能汚染の数値と放射能を怖れるという社会的評価の関係についても議論でき、大変有意義であった。



伐倒されたスギの重さを実感する
生木が想像以上に重いことに驚く



ウツロ谷シカ排除実験地の観察
背後にある緑色のネットの向こう側がシカ排除区

⑫日本海に遊ぶ～日本海学入門

沿岸資源管理学分野 助教 上野 正博

昨年度は受講選抜にレポートを課したところわずか4名での開講となり、それに懲りて今年は無作為抽選にしたところ、めでたく12名の定員一杯での開講となった。日本海の形成から始めて、環境・漁業・日本人の暮らしとの関わりなど事前授業を京都で1月13日に2コマ続けて行い、2月21日から2泊3日の実習にそなえた。

病欠などで9名が参加した実習は、21日11時に西舞鶴駅前開始。すぐに車に分乗して宮津市外の小さな水族館「魚っ知館」にむかう。水族館自体は小さいが、普段お目にかかれぬバックヤードを見学し、飼育員の方に色々珍しい話を伺う。

13時半からは宮津市の「みやづ歴史の館」で開かれた「丹後の海の恵みを生かす」試験研究成果報告会に参加。ナマコ、アカアマダイ、アカモク、アサリ、サワラ、ズワイガニとさまざまな水産物の増養殖技術や資源管理技術等について、京都府北部にある各研究機関からの報告を聞く。現場での試験研究の最前線なので、成功した研究成果の報告だけでなく、失敗談や直面する課題も聞くことができ、いろんな学部の学生にとっても面白かったようだ。

17時からは舞鶴水産実験所で水産物調理実習。TAの院生達に指導されているような魚貝類を調理する。意地悪な私が仕入れたナマコ、生シラス、ホウボウ、カワハギ、サバフグなど、普段余りお目にかかれないものの調理をワイワイとやり、おきまりの宴会。ほとんどの学生にとって初体験の味が多かったが、予想外のうまさを堪能したらしい。

22日は実験所の緑洋丸に乗船し、海洋調査を体験する予定だったが、少し時化模様だったため午前中で切り上げて帰港。午後は各自が準備してきた日本海をお題にしたプレゼン大会。一人30分の持ち時間でプレゼンと討論を夕方まで行った。気候やエチゼンクラゲから日本史、呼称問題まで幅広いテーマでプレゼンがあったので学生と楽しむ。

最終日は朝から魚市場を見学。京都府各地から運び込まれたいろんな魚貝類の生態や漁法、暮らしとの関わりを解説。学生たちは初めて見るセリが何をやっているのかまったく分からずかなり驚いた様子であった。最後は恒例の成相山に上り、この冬の豪雪に埋もれた境内にびっくり。眼下に天橋立を眺めながら海岸地形のでき方や海面にできた潮目の解説などを講義して2泊3日のポケゼミは今年も無事終了した。



魚市場のセリ見学風景



豪雪の名残が残る実験所で開講

⑬瀬戸内に見る森里海連環

森林環境情報学分野 講師 中島 皇

メンバーの顔合わせ、本ポケゼミの動機付け(森里海連環学や瀬戸内の予備知識、JR 徳山駅までのアクセス方法や瀬戸内地域レポートのヒントなど)のセミナーを5月、6月に1回ずつ北部キャンパスで行い、8月9~12日に徳山試験地で合宿形式ゼミ(3泊4日)を行った。医学部の学生がキャンセルして参加者は6名(文1、経1、理1、薬1(女)、工2)となった。フレッシュな新入生諸君が瀬戸内の恵まれたフィールド(環境:森・里・海)に出て、自ら体験し、自然と人間の関わり方、里の意味を考えることがこのセミナーの目的である。昨年同様、特任教授の向井宏先生にご協力を頂いた。

集中ゼミは、8/9(火)15:30にJR徳山駅集合で始まった。街から試験地の森を眺めながらの説明が行われた。TAは昨年経験のある小出君(森林情報学研究室M2)なので安心である。1名キャンセルが出たものの、女子の参加ということで試験地の収容能力いっぱいであった。事務所の1室を女子部屋として対応した。試験地に到着し、4日間のねぐらを確認して、簡単な説明の後、飯炊き班と買い出し班に分かれ、何名かは街のスーパーへ。刺身や惣菜を手に入れ、炊きたてのご飯で満足できる夕食となった。夕食後は、瀬戸内に関するレポート発表会第1部。途中で写してきた写真を使っ

ての説明もあった。
8/10(水)よく晴れて暑そう。恒例の万葉の森(周南西緑地公園:旧徳山試験地)の見学と大賀ハスを観賞した。末武川を下るコースは、温見ダムを最初に訪れた。ダムは下松市の水道水源池になっており、担当職員の方に説明をお願いしてきた。人が生活するのに最重要の水である。水に関してのいろいろな質問が出ていた。最源流部の烏帽子岳(697m)近くの赤松ヶ平展望台に登り、山上で涼しい風に吹かれながら、朝作ったにぎりめしを食べるのは最高である。魚切り滝のしぶきやスギやヒノキ林の涼しさを感じながら溪流に沿って下って行く。人の暮らした跡が感じられるようになり、緑の鮮やかな水田風景が目飛び込んでくる。八代盆地は冬にナベツルが渡来するのどかな田園地帯である。今年は午前中に見学した温見ダムの下流にある水泳場で時間をとった。川遊びをせず濡れになった者もいた。最後は多目的ダムである末武ダムを見学して川の流れを分断することの意味を考えるきっかけにした。夜はカレーライス。夕食後は瀬戸内に関するレポート発表会第2部。理学部学生の無計画な小豆島・豊島・直島の訪問紀行に皆大笑いであった。それぞれのレポートにはいろいろな問題も含まれており、お互いの発表に質問や意見が出るのがいい刺激になっているようであった。

8/11(木)晴れ。午前中は試験地のヒノキ人工林(ふるさと文化財の森(檜皮))と常緑広葉樹天然林を巡る見学から始まった。末武川下りはお昼に昨日の終点に近い花岡八幡宮からスタートした。河口部では予定通り潮は引き始めており、向井先生の指導・解説で川と海との境界部で水に触れ、多くの生き物がいることを実感した。引き続き大島干潟造成事業地に近い磯で、海に入って生物を観察した。今年は潮のめぐりが悪く、それほど引いていなかったが、海水で遊びたい面々には楽しかったようだ。15時半頃には切り上げて、数名はバーベキューの食材を買い出しに行き、本隊は先に試験地に帰って準備をした。昨年は夕立でひどい目にあったが、今年は何事もなく沢山食べていた。

8/12(金)はレポートと感想文を完成させ、後片付けをして、昼前にJR徳山駅で解散となった。今年女子の参加があったがほぼ問題なくプログラムが実行できた。皆さんの協力に感謝したい。



温見ダムの説明を聞く



周南西緑地(旧徳山試験地)の大賀ハス

⑭京をめぐる森と人のくらし

森林生態保全学分野 助教 寄元 道徳

森林資源管理学分野 助教 坂野上 なお

少人数セミナー「京をめぐる森と人のくらし」は、昨年と同様に、京都市周辺に広がる二次的な森林植生と人の関わりとの理解を目的に、初回と最終回の室内講義の外、京都市周辺の古社寺とその周辺の森林5ヶ所を訪れて実施した。参加者は8名（経済学部2名（途中から1名辞退）、医学部1名、薬学部1名、工学部3名、農学部1名）であった。

フィールドワーク第1回目となった東山（八坂神社、知恩院、將軍塚、清水山、清水寺を巡るコース）では、それぞれの社寺の歴史、古建築材や檜皮生産の状況、さらには現在見られる森林と主要構成種の生態特性などについて解説するとともに伐根の年輪数などの調査を行った。第2回目の比叡山では、延暦寺の根本中堂と文殊楼の古建築や境内林を構成する杉の巨木を見学後、最澄が辿ったとされる本坂を途中まで下り、幅広い標高域に分布しているモミ林、分布下限域に在るブナの巨木、そして延暦寺所有の広大な人工林などを見学し、森林植生と人の利用について学んだ。大文字山のコースでは、五山の送り火で最初に点火される「大」の字の所までを往復し、アカマツと落葉広葉樹から成る森と周辺の歴史についての解説などを行った。下山後は、足利義政が終の棲家とした銀閣寺を、多くの観光客で溢れて落ち着かない中、拝観した。第4回目の上賀茂のコースでは、古代豪族の一つであるカモ氏の氏神である賀茂別雷神社とその周辺の森を見学し、森の生態と周辺の歴史について学んだ。そして、フィールドワーク最後となった京北・山国コースでは、現在から過去に遡るようにして、北山林業地での台杉仕立てによる垂木生産地を手始めに、平安時代以降、禁裏御料地とされていた京北地域を訪れ、古社寺や当該地域の往時の森の姿をうかがうことのできる片波川源流域自然環境保全域で台杉の巨木群などを見学した。そして、往時の森の利用や流通などについて学んだ。

最終回には、まとめの講義と意見交換を行ったが、比較的気ままな学生諸君がいたこともあってか、それぞれの視点で森の様子や歴史的風景などについて意見を述べてくれた。特に、本セミナーでは何らかの価値観などを押しつけるような方法を取らず、自らの目で直接見て感じて考えてもらうという方針で行っていることから少し戸惑った熱心な学生も中にはいたようであるが、意見交換の中で、何らかの価値観にとらわれ過ぎずに自らの目で直接見て考えるという当たり前のことの重要性に改めて気づいてくれるという場面もあった。その他、課したレポートには、東山にある常緑広葉樹林の木々が織りなす芸術的な美しさに触れたものもあり、独自の視点で森をながめていることがうかがえた。



檜皮生産林での解説（東山）



台杉の巨木を前に（片波川保全林、京北）

⑮森を育て活かすー林業体験をとおして考える

里山資源保全学分野 准教授 長谷川 尚史

現在、日本には2500万haの森林があり、国土に占める森林の比率は68.2%と、先進国の中ではフィンランドに次いで2位である。その4割(1000万ha)が人工林化されているが、近年の林業不振により利用が進まず、間伐遅れによる森林荒廃や過疎化など、様々な問題を抱えている。本セミナーでは、植栽、下刈り、間伐、集材など、伝統的に日本で行われてきた林業作業を体験するとともに、最先端の林業の作業現場を見学し、また山村で暮らす人々と交流を行うことによって、森林と人間社会との関係を幅広い観点から議論することを目的に、本年度より開講した。これらの実習は森林科学科でも近年は行われなくなっているが、世界有数の森林国である日本では、様々な社会要素が森林に直接的、間接的に関与しており、来るべき循環型社会の中で森林資源の持続的利用法に関する議論には、農学・理学だけでなく、様々な専門分野の人材育成が必要となっている。本セミナーは、古くから森林とともに文化を育んできた日本において、森と人との共生関係の歴史と現状を学び考える機会を提供することによって、国内だけでなく地球環境および国際社会についても森林国ならではの視点で捉えることができるような人材育成への寄与を期待している。

本年度はその1回目として、8月10～13日の4日間、芦生研究林および周辺地域において開催した。参加学生は法学部1名、工学部6名、農学部2名の1回生9名であった。このほかTAとして森林育成学分野院生2名が指導を補助した。

初日午後には京都大学本部を出発し、食料等を購入した後、芦生研究林においてガイダンスおよび芦生研究林の概要に関する講義を行った。2日目は午前中に芦生研究林枕谷において、地拵えと植栽、シカ柵設置の実習を行った。植栽した苗木には、北白川試験地で育成されたハイヌガヤおよびハウノキを使用した。2日目午後はサワ谷の間伐予定地において毎木調査を行い、夕方には下谷の大カツラを見学した。夕食後、毎木調査データの整理を行い、間伐木の選定と間伐前後の蓄積量算出および樹冠投影図の作成等の内業を行った。3日目は実際に間伐木の伐倒、造材、集材を行った。集材作業には、上賀茂試験地から借用した林内作業車を使用した。3日目夕方は、事務所構内にて、地元との交流会を行った。お盆前であり、地元からの参加者は3名のみであったが、職員を交え、昔の山での暮らしなど、貴重な話を聞くことができた。最終日は宿舎を清掃した後、美山町北村において茅葺き集落および民俗資料館の見学を行った。民俗資料館では、係員の方に丁寧な解説をしていただいた。その後、日吉ダム湖畔で昼食を取った後、日吉町森林組合を訪問し、間伐作業現場において、最新型ハーフクローラ式国産フォワーダおよびホイール式ハーベスタの見学を行った。特に、ハーベスタには、各学生に操作させていただき、世界最先端の林業機械を体験した。

レポートは実習終了後に個別提出とした。森林が自分の専門分野とは無縁と考えていた学生からも、森林の相続や労働環境(法学部学生)、林業機械の開発や路網(工学部学生)などの分野で貢献すべきことが多くあり、今後の学習に活かしたい、という声が聞かれ、幅広い分野の学生の人材育成という初期目標の第一ステップは達成できたと考えている。

当セミナーの開催にあたっては、芦生地区住民、民俗資料館、日吉町森林組合の皆様にご多大なご協力をいただいたほか、芦生研究林・上賀茂試験地・北白川試験地職員にも協力していただいた。この場をお借りしてお礼申し上げます。



茅葺き民俗資料館での解説に聞き入る学生ら

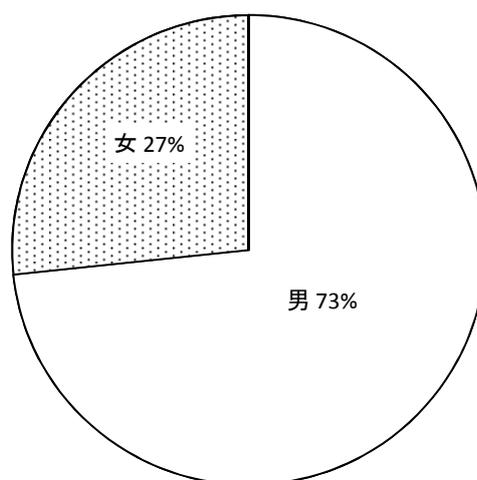


ホイール式ハーベスタの操作体験

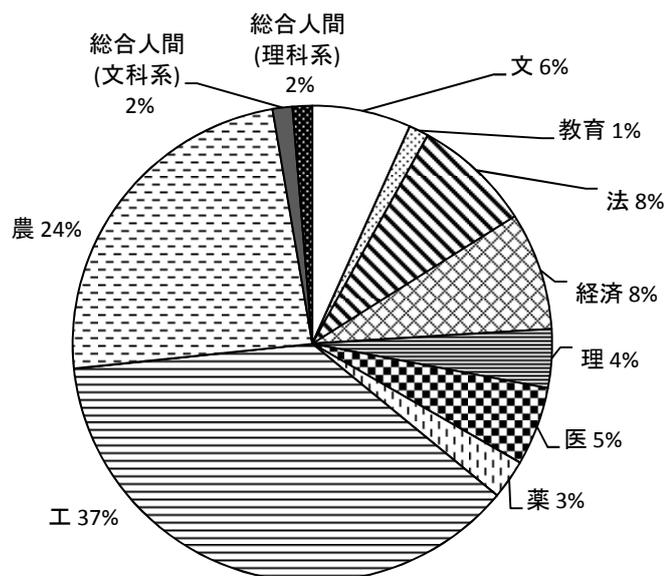
⑩少人数セミナーに関するアンケート結果

このアンケートは、フィールド科学教育研究センターの少人数セミナーを今後より充実したものにしていくため、学生の率直な意見を求めたものである。アンケートは9設問からなっており、有効回答者数は75名(芦生研究林、上賀茂試験地、徳山試験地、紀伊大島実験所、舞鶴水産実験所、瀬戸臨海実験所、その他の施設)である。以下、原則として設問ごとに、集計結果をグラフで表示し、百分率を添えた。なお、集計には有効回答のみを用いた。

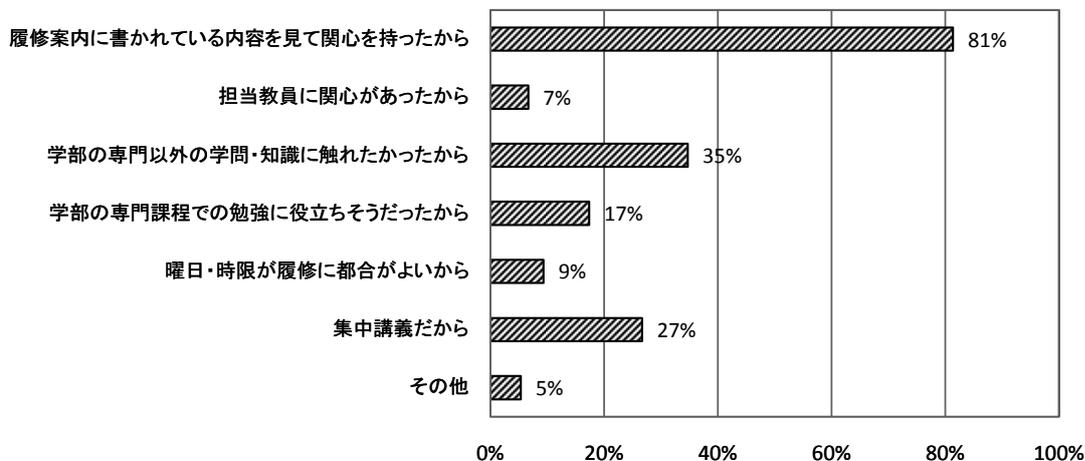
Q1 あなたの性別を答えて下さい。



Q2 あなたの所属学部を答えて下さい。



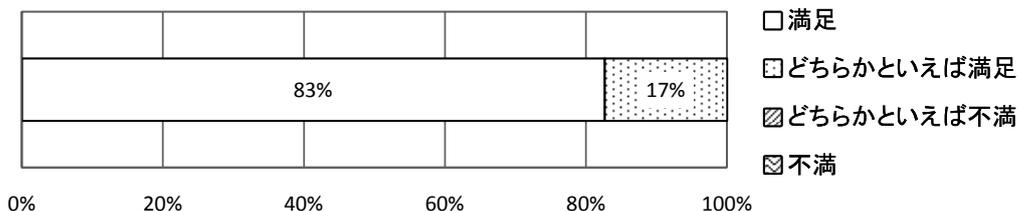
Q3 このセミナーを受講することにした理由を教えてください。(複数回答可)



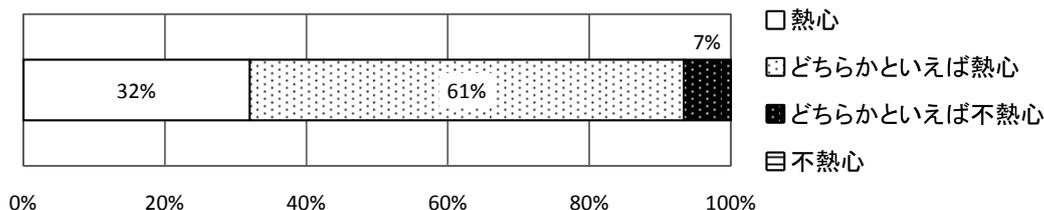
「その他」・・・
 ・魚が好きなので。
 ・前にこのセミナーをとった先輩におすすめされたから。
 ・実習形式だったから。
 ・自然が好きだから、樹木について知りたかった。

Q4 このセミナーを受講しての感想をうかがいます。

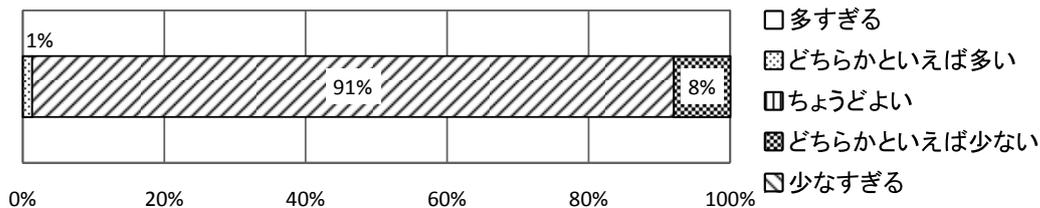
(1) このセミナーの授業内容に満足していますか。



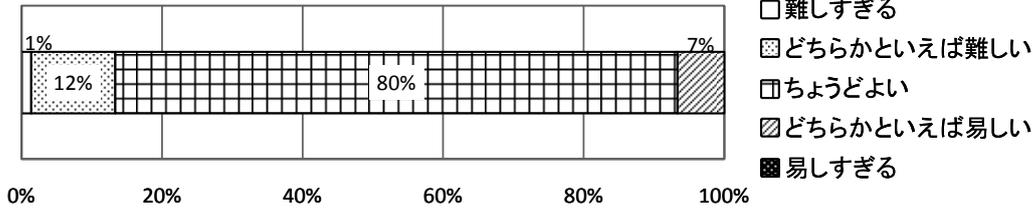
(2) あなた自身の受講姿勢はどうだったと思いますか。



(3) このセミナーの学生数についてはどう思いますか。

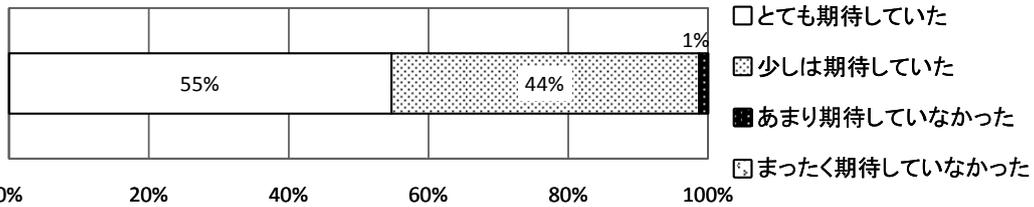


(4) 授業の難易度はどうでしたか。

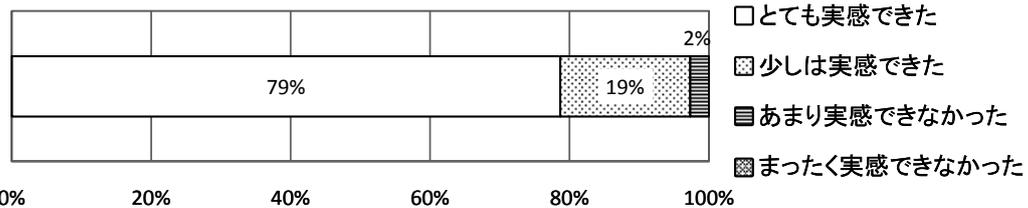


Q5 少人数制の授業形式についてうかがいます。

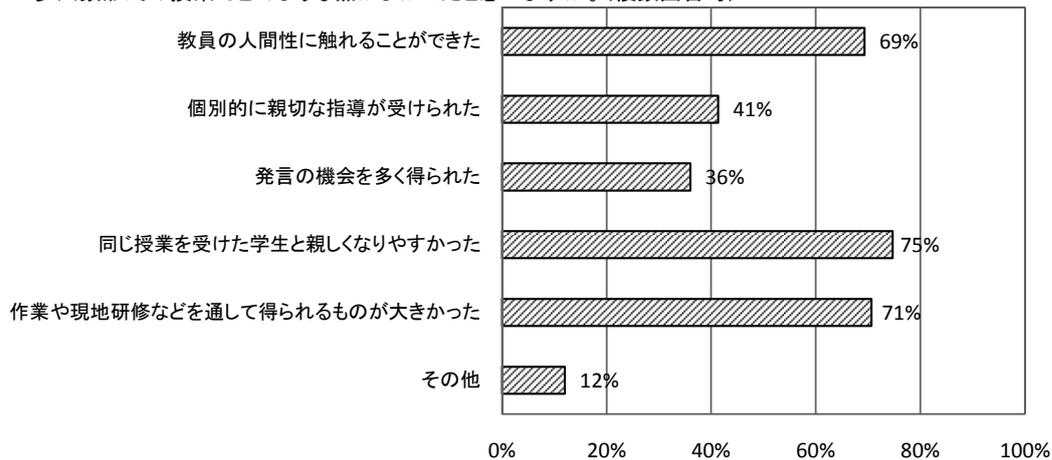
(1) このセミナーを受講する前、講義のような大人数形式の授業よりも多くのものが得られることを期待していましたか。



(2) では、実際にこのセミナーを受講してみて、少人数形式でしか得られないものがあると実感できましたか。



(3) 前問(2)で「とても実感できた」または「少しは実感できた」を選んだ方にうかがいます。少人数形式の授業でどのような点がよかったですか。(複数回答可)

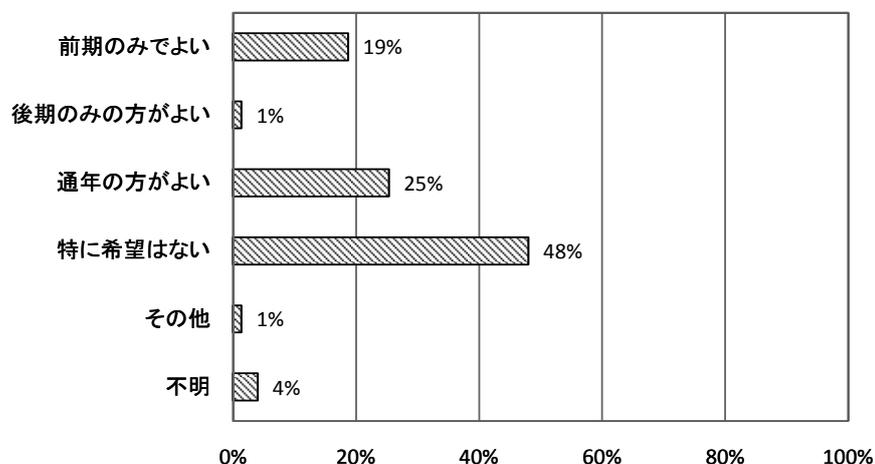


「その他」・・・

- ・やることがきちんと配分されて、しっかりポケゼミに参加できているという実感が得られた。
- ・長い間、森づくりに専念されてきた人の生の声と、たくさんの知識にふれることができた。

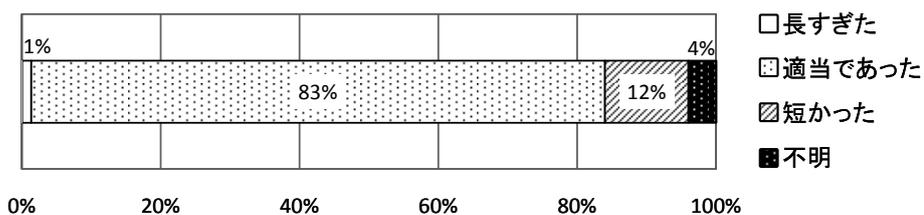
Q6 少人数セミナーの実施方法等についてのご意見をうかがいます。

(1) 少人数セミナーは前期のみの開講となっておりますが、この開講時期についてはどう思いますか。

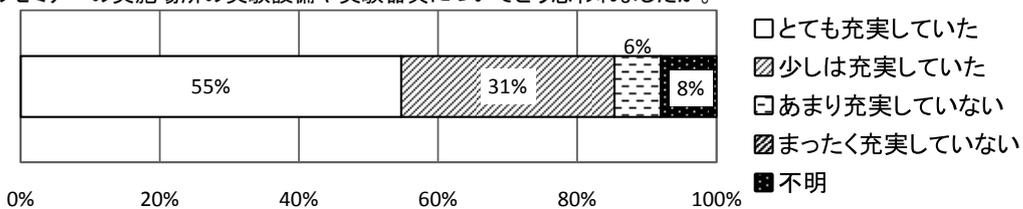


「その他」・・・少人数セミナーをより多くの人が受講できるようにしてほしい。

(2) このセミナーの実施期間についてどう思われますか。

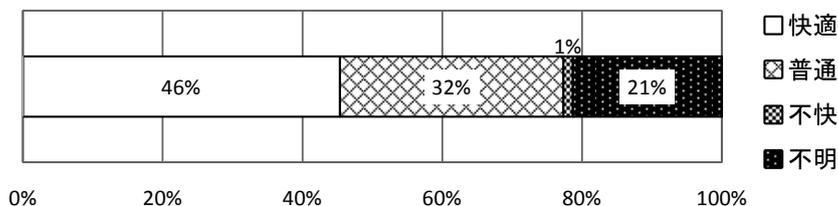


(3) このセミナーの実施場所の実験設備や実験器具についてどう思われましたか。

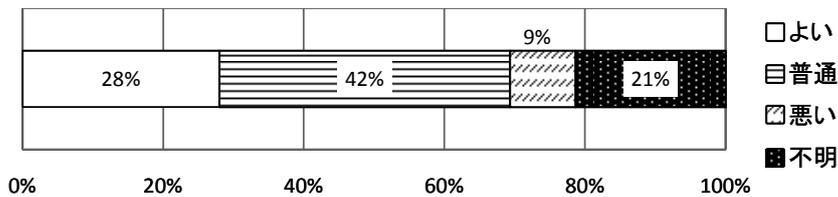


(4) このセミナーの宿泊についてうかがいます。

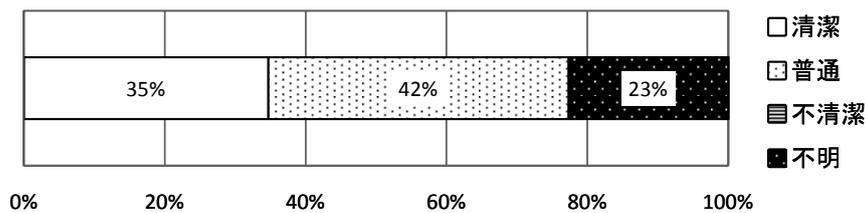
・ 共同の宿泊生活は



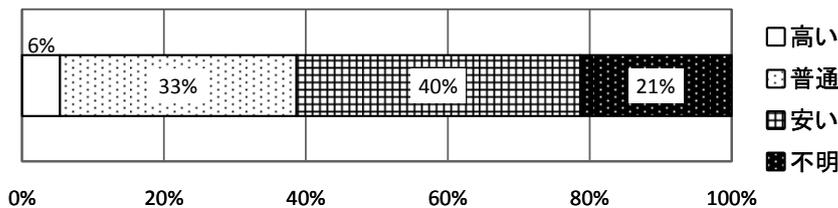
・ 宿泊施設の整備は



・ 宿泊施設の寝具は



・ 宿泊施設の経費は



(5) 宿泊施設や食事について、何かご意見やご要望があれば自由に記入して下さい。

【芦生研究林】

- ・ 予想以上に調理器具が充実していた。
- ・ かなり本格的な食堂施設で、とても良かったと思う。
- ・ カレーがおいしかった。川が近くで良かった。
- ・ 調味料がほしかったです。
- ・ おいしかったです。
- ・ とても良かった。
- ・ シーツの量み方が難解だった。
- ・ 充実していたので、特に不自由することがありませんでした。

【舞鶴水産実験所】

- ・ 空調がちゃんと動く部屋にして欲しかった。
- ・ エアコンが壊れていて、窓を開けて寝ると網戸に穴が空いていて、虫が入ってきて、寝れなかった。
- ・ 快適でした。
- ・ ベットの階段がほしいです。
- ・ 2段ベッドのはしごの角度が垂直すぎてのぼりにくい

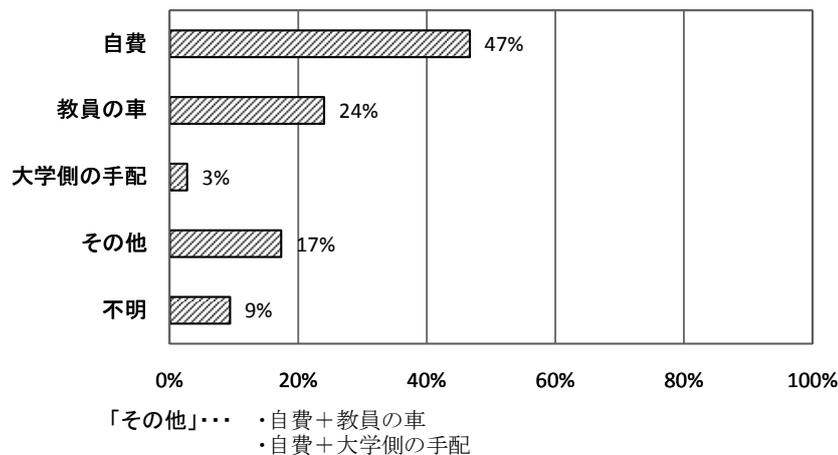
【瀬戸臨海実験所】

- ・ エアコンが欲しい。
- ・ 部屋にムカデが出るのがいやでした。
- ・ 食器の洗浄方法や、洗浄後の食器の置き場所に各大学で大きな差があったので、分かりやすいマニュアルを作るべきであるように思えた。

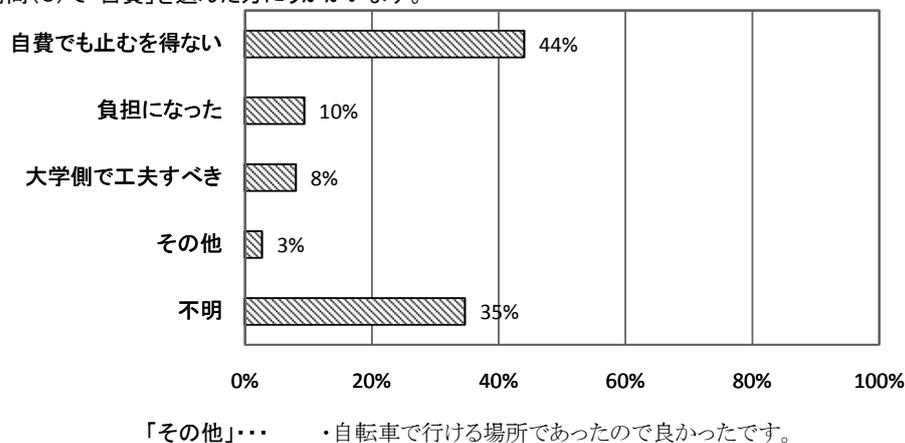
【その他の施設】

- ・ とても朝ごはんもおいしかったし、お風呂もよかったです。
- ・ おいしかったけどちょっと多かった。
- ・ 夜中の宿泊場所の寒さが厳しいので、暖房かもう少し厚めの布団が必要だと思う。

(6)このセミナーの現地集合場所へのアクセスについてうかがいます。

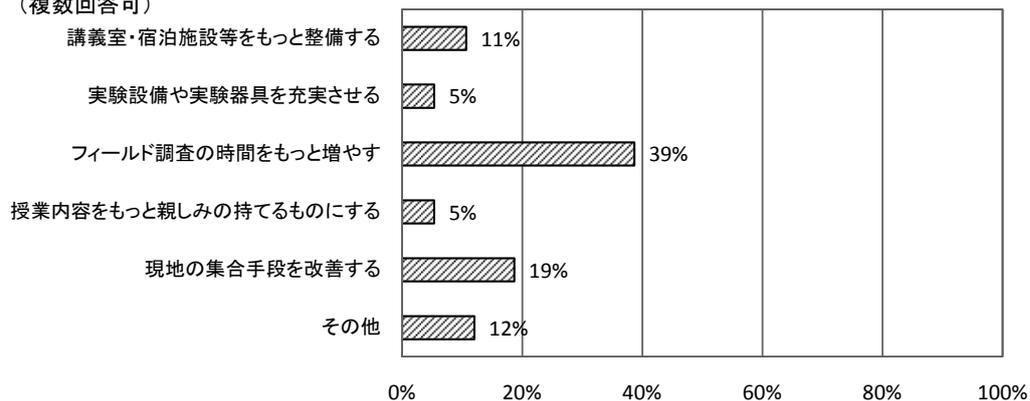


(7)前問(6)で「自費」を選んだ方にうかがいます。



Q7 今後、少人数セミナーをさらに充実させるためには、どのようにすれば良いと思いますか。

(複数回答可)



「その他」・・・
 ・受講生がセミナー内容について予め知識を増やしておく。
 ・解散時刻を調節する。
 ・日程をのばす。
 ・晴れてほしい。
 ・議論を増やす。
 ・今回植えた木の今後の様子を知れるようにしてほしい。

Q8 今回受講された少人数セミナーについて、何かご意見やご希望があれば自由に記入して下さい。

【芦生研究林】

- ・4人という他のポケゼミに比べて、さらに少ない人数だったが、そこがとても良かったと思う。
- ・非常に楽しい実習でした。実際にフィールドへ出て活動するのはとてもいいことだと思います。芦生研究林、八丁平での調査では貴重な自然を観察することができました。また多くの生物、鳥、鹿、魚なども観察でき、毎回大満足の内容でした。木の名前、特徴もたくさん覚えることができました。機会があればまた調査などに参加してみたいと思います。森林の動態については難しい問題が多く、簡単に解決できるものではないですが、少しでもできることを見つけて実行していくことが大事だと思います。とても充実した内容のポケット・ゼミでした。ありがとうございました。
- ・議論が少なかった。もう少し意見を出しておけば良かった。
- ・もっとグループ発表のようなものがあった方が、他の友達と親しみやすかったと思いました。
- ・毎回の授業で普段以上に考える時間が長かったので、非常にためになった。
- ・とても充実していて密度の濃い4日間でした。持ち物に水着と書いてあるので少しうれしかったです。
- ・とても満足できた。
- ・楽しかったです。芦生はすばらしい。女子一人だったので、最初はどうなるかなと思いました。みなさん良い人で、とても楽しく過ごせました。ありがとうございました。
- ・移動の山道が少ししんどかったが、全体的にはとても良い経験ができた。
- ・楽しく林業を体験したり、最先端メカに触れたりすることができました。ただもう少し間伐をしたかったかなと思います。
- ・今回のセミナーは本当に過ごしやすかったです。開講されるのが今年が初めてと聞きましたが、今後もこのような感じでセミナーを行っていくのが良いのではないのでしょうか。今回は貴重な体験をさせていただいて、ありがとうございました。

【上賀茂試験地】

- ・体力的に厳しい山登りがあったので、少し歩くコースが楽なものを選べばよいと思った。
- ・楽しかった。ただ、大学に慣れるまでの時期(5月)の土曜であったので、余裕がなく、十分に発言したり出来なかったのが、個人的には惜しかった。もっと長く参加したかったと思えるゼミだった。
- ・森林を見てまわるのが趣旨でしたが、週1回よい運動ができたという点でもよかったです。

【紀伊大島実験所】

- ・心身共に成長できた充実した5日間でした。本当にありがとうございました。
- ・通常の授業とは違うことが多く学べて、とても有意義でした。複数のポケゼミを履修できたらいいと思います。
- ・普段の講義では得られないものを学びました。充実の5日間でした。

【舞鶴水産実験所】

- ・海に入ってみて、多くの魚を見ることができてとても良かった。漁連に行くことができたのも良かった。
- ・今回魚類心理学のシュノーケリング実習では遠方の方まで行きましたが、体力的なことを考えると少し浅瀬に近いところでやってもいいと思います。
- ・実験所の設備をもっといろいろ見てまわりたい。
- ・セミナーの大まかなスケジュールがあると嬉しかったです。

【瀬戸臨海実験所】

- ・本当に充実したポケゼミでした。本当に感謝しています。
- ・実習の前に、実習内容に関する講義があっても良かったと思いました。
- ・今回のセミナーは本当によい経験になりました。ありがとうございました。

【その他の施設】

- ・実際にいろんな現地へ行って、話をたくさんきけてよかったです。
- ・とても楽しい5日間になりました。ありがとうございました。
- ・少人数だから得られるものとして実感できた。
- ・森の中での作業が楽しかったのもっと長い時間やりたかったです。松木さん、ニコルさんから様々な話を聞くことができて本当にいい体験ができました。ありがとうございました。
- ・非常に良い、今後も続けるべきである。
- ・雰囲気も良かったです。
- ・様々な分野の話を聞くことができて良かったです。ありがとうございました。
- ・普段の授業とは全然違って本当にとても良い経験になりました。もっと開講する数や頻度を増やしてほしいと思います。
- ・急きょ内容と場所が変更になったので予想していた内容とは違ったが学べるものもあった。しかしもう少し集合に便利な場所のほうが良いと感じた。

Q9 当センターのホームページにアクセスしたことがありますか。内容についてどう思われますか。

- ・分かりやすい。とても楽しく勉強になりました。
- ・興味深い内容だった。
- ・アクセスしたことはありません。一度アクセスしてみようと思います。
- ・ある。実習で施設を使う時にある程度参考になる。
- ・あります。分かりやすい内容でした。
- ・アクセスしたことがないので、また時間があるときに見ます。

4) 暖地性積雪地域における冬の自然環境(実習)

森林環境情報学分野 講師 中島 皇

今年度の実習(全学共通科目の後期集中講義)は2012年2月10日～13日に3泊4日で行われた。テーマは「暖地性の積雪(山間)地域における冬の自然環境を体感する。雪氷調査法(入門)を習得し、水が態を変えた雪や氷について理解を深めその影響を考究する。特に人間をはじめとする生物への影響をフィールドで実感する。」(シラバス)である。

芦生研究林事務所では12月下旬に50cm程度の積雪があり、1月末には1mを越え、少雪の心配はなかった。参加申込みは9名と例年に比べ少なめで、最終的な参加者は8名(男6,女2)(学部:理2,工1,農5)であった。実習は1月後半の説明会から始まる。メンバー8人が顔を合わせ、班毎に夜・朝・昼の食事メニューを食材の量も含めて考える。今回は人数が少ないので食事の担当回数は増えるが、準備する量は少なく済む。また、農学部の学生はすべて森林科学科所属のため、フィールドでの活動には慣れていよう問題はないようだ。大学院生のTAとメール等で連絡を取って、出発前日或いは前々日に買い出しに行く。現地では自分たちで調理と後片付けまでこなす必要がある。

JRバス周山駅11:00集合で実習は始まった。周山では周囲にほとんど雪はないが、北に向かうにつれて積雪も顕著になる。深見トンネルの南丹市側にある融雪装置は、車から降りて道路脇の実物を触ってみた。途中の自然環境や人間の暮らしを確認しながら、曇り空の芦生に到着した。芦生へは数台の乗用車に分乗し、途中の説明は無線を通して車内に流れる方式を採用した。昼食後、クラブ(宿泊所)使用法の説明を受け、長靴とカンジキを装着して歩行訓練、宿舎周辺の積雪に着目した自然観察、雪の造形を写真に撮ってくるプログラムがスタートした。夕食後のセミナーでは芦生研究林の概要説明と各自が撮ってきた写真の発表会でにぎやかであった。

朝は握り飯を作って内杉谷林道の自然観察に出発した。昨夜の新雪が10cm以上あって、薄日も差す絶好のコンディションである。林道脇に続くつららのカーテンやシカの死骸に驚きながら進む。今年は冷え込んだり緩んだりの差が大きかったためか霜柱の発達が独特である。雪害のため二つに裂かれたスギの木やカーブミラーを足元に見ながら、内杉のゲートで小休止。先頭はヴァージンスノーを踏みしめて幽仙橋の土場へ。昼食後、雪を溶かしてお湯を沸かし生姜湯を作った。雪とフィールドを十分堪能できた。夕食はチキントマト煮込み。夜のセミナーはTAの研究紹介が続いた。

3日目は小雪が降る中クラブ周辺で積雪調査法の実習と雪の中での便利な移動手段であるスノーモービルの試乗に挑戦した。昼食は食堂でとり、午前と午後で班毎に交替した。技術職員の人達が積雪調査ピットの準備や苗畑にモービルのコースを作ってくれていたの、どちらのプログラムもスムーズに進んだ。夕方から、幽仙谷で回収してきた流出物の中にある水生昆虫について、境優さん(地球環境学舎D3)が解説をしてくれた。皆、動物には興味津々。虫と葉のデッサンを熱心に描いていた。夕食はカレー。翌朝のうどんを院生部屋の冷蔵庫に置き忘れてきたことが唯一の失敗か。

最終日は班毎にレポート作成し、それを発表した。各自の感想文、アンケートそして宿舎の片付けと掃除をして、昼食後芦生研究林の車でJR山陰線の園部駅まで送ってもらい解散になった。TAの池山君が撮ってくれた電車の中の写真には満足そうな顔が沢山写っていた。



雪のフィールド観察



レポート作成(クラブ食堂)

(3) 教育関係共同利用拠点事業

1) 2施設が教育関係共同利用拠点に認定

舞鶴水産実験所長 山下 洋

文部科学省は平成22年度より教育関係共同利用拠点制度を発足させ、平成23年度にフィールド研の瀬戸臨海実験所と舞鶴水産実験所が共同利用拠点として認定された。本制度の目的は、各大学が自らの強みを持つ分野へ取組を集中・強化するとともに、他大学との連携を進めることによって、より多様で高度な教育を展開し、大学教育の充実に資することである。採択された拠点としての課題は、瀬戸臨海実験所「黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点」(類型：臨海・臨湖実験所)、舞鶴水産実験所「日本海における水産学・水圏環境学フィールド教育拠点」(類型：水産実験所)であり、拠点認定期間は平成27年度までの5年間である。

瀬戸臨海実験所では、毎年10件を越える他大学の臨海実習を長年受け入れており、また、全国大学公開臨海実習を年に2回開催するなど、これまで共同利用実績を着実に積み上げてきた。平成23年度は、例年2回実施している公開臨海実習を拠点事業として実施した。平成24年度からは、それに加えて理学部の2つの臨海実習において他大学生の参加を受け入れ、さらに、新たな他大学生対象の臨海実習1科目を開設することによって、拠点事業としての公開臨海実習を年間5科目に拡大する予定である。これらの実習では、白浜の恵まれたフィールドを舞台に、平成21年に建造した最新鋭の教育研究船ヤンチナ(定員26名)や、走査型電子顕微鏡、DNAシーケンサーなどの最先端の機器を活用した系統分類学、発生進化学、生態学など、黒潮海域における海洋生物の自然史科学実習を行う。

舞鶴水産実験所では、農学部科目として実施している「海洋生物科学技術論と実習Ⅰ、Ⅱ」と、全学共通科目として芦生研究林と共に実施している「森里海連環学実習A」の3科目を、今年度から他大学生を受け入れて公開実習とした。平成24年度から、「若狭湾春期の環境と海洋生物実習」、「若狭湾秋期の環境と海洋生物実習」の二つの全国大学生向け公開実習を新たに開講予定である。教育研究船緑洋丸(定員30名)により、1時間で河川の河口域から丹後海沖合の日本海固有冷水域(水深200m)まで移動することができ、日本海固有の特徴的な環境、生物相、海洋生物生産の仕組みをおもにフィールド調査を通して学ぶことができる。

なお、フィールド研においては、研究林・試験地が演習林の類型において申請しているが、この類型では、まだこの大学施設も認定されていない状態である。平成23年度においても、全国大学演習林協議会の加盟各大学と連携しながら、次の公募にむけた申請準備を進めた。

2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業

舞鶴水産実験所長 山下 洋

■他大学生が参加できる実習科目

「森里海連環学実習 A」は、流路 146km の由良川の環境と生態系、および人による流域利用がそれらに与える影響を、実際に源流（フィールド研芦生研究林）から河口・沿岸域まで 1 週間かけて現場で調べる実習であり、複合生態系の調査と多様なデータの分析手法を学ぶ、他大学には例のない大変ユニークな科目である。今年度から京大生とともに他大学生も受け入れる公開実習とし、5 大学から 5 名が参加した。

農学部科目「海洋生物科学技術論と実習 I, II」についても、今年度から他大学生を受け入れる公開実習としたが、8 月後半実施にもかかわらず特別聴講学生の制度により応募締め切りが 2 月 10 日であったために、他大学生からの応募者はなかった。

■他大学による実習の受け入れ

舞鶴水産実験所の施設・設備を活用する他大学によるフィールド実習を、3 大学 4 科目受け入れた。他大学実習の利用実績は 266 人日となり 22 年度の 270 人日とほぼ同数であった。（詳細は第 2 章第 2 節 各施設を利用した学生実習等 p. 75 参照）

■他大学生、大学院生による論文作成のための利用

他大学生、大学院生による論文作成のための利用は 11 件あり、利用実績はのべ 501 人日となった。東日本大震災の被災学生 2 名を受け入れた。

■運営実施体制

運営委員会（学内委員 4 名、学外委員 6 名）を開催して、平成 23 年度の共同利用申請を審査し、共同利用の運営に関わる規程及び実際の取り組みについて、具体的な問題点の抽出と効果的な実施方法を検討した。舞鶴水産実験所では、専任教員 4 名、研究員 3 名、技術職員 3 名（常勤 2 名）、事務・用務職員 5 名（常勤 1 名）の体制で共同利用に係る実習と教育を行った。共同利用においては、企画立案から施設の運行と教育の実施まで常勤教職員が必ず参加し、テーマやフィールド調査における安全性などを考慮して、必要な技術職員、研究員、TA（ティーチングアシスタント）が参加して円滑な実施と指導を行った。さらに、フィールド研の有期雇用教員 1 名と教務補佐員 1 名が、コーディネーターとして共同利用を担当し、共同利用の募集、申し込みの受付等の事務的な業務を行った。

■その他

本年度の舞鶴水産実験所の利用実績は昨年度並みの 6,939 人日であったが、うち、教育目的での他大学の利用実績は、平成 22 年度の 282 人日から大幅に増加して 645 人日となった。（詳細は第 2 章第 2 節 各施設を利用した学生実習等 p. 75 参照・ただし教育関係共同利用拠点事業においては、学部生と修士課程の学生を教育利用として集計している。）

特別聴講学生制度の規定により、「海洋生物科学技術論と実習 I, II」について、8 月後半実施にもかかわらず応募締め切りを 2 月 10 日とせざるを得なかったことから、応募締め切りを実習実施 2 ヶ月前まで延長できるよう制度を見直した。

3) 瀬戸臨海実験所における教育関係共同利用拠点事業

瀬戸臨海実験所長 朝倉 彰

■公開臨海実習

瀬戸臨海実験所では、1989年度から国立大学法人臨海臨湖実験所長会議に所属する施設が開講する公開臨海実習を、文部科学省の財政的支援を受けながら、夏と春の年2回実施している。教育関係共同利用拠点に認定された2011年度からは、これを拠点事業として開講することとなった。今年度は他大学生（京大の理学部以外の学部生も含む）が参加できる公開臨海実習として、「海洋生物学、特に無脊椎動物の分類・発生」と「海洋無脊椎動物の多様性と進化学」の2科目を開講した。前者は8月29日から9月4日までの7日間で理学部臨海実習第1部と日程・内容を重ねて行い、3大学から3名が参加した。実習では潮間帯及び潮下帯のベントス及びプランクトンを様々な手法で採集し、採集物について同定作業を初めとする分類学的な視点からの観察と、数種類のウニを中心に、同じ棘皮動物門に属するナマコ、系統的に遠く離れたゴカイを用いて比較発生的な視点からの初期発生の観察とを行った。後者は2012年3月21日から27日までの7日間で、4大学から9名が参加した。実習では潮間帯及び潮下帯のベントス（メイオベントスを含む）とプランクトンに加え、みなべ町の堺港を拠点に行われている刺し網漁の漁獲物から深場の生物を採集し、それぞれについて比較生物学及び機能生物学的な視点からの形態観察を行った。参加学生の所属機関の長に対して、受講を証明する書類（2単位相当・評価付き）を発行した。

この公開臨海実習については、次年度より概算要求による運営費交付金を活用し、今年度までの2科目から5科目に規模を拡大して行う予定である。

■他大学による実習の受け入れ

今年度瀬戸臨海実験所の施設・設備を活用して行った他大学による臨海実習は、12大学13科目1,137人日に及んだ。うち2大学2科目は、今年度初めて受け入れたものである。（詳細は第2章第2節 各施設を利用した学生実習等 p. 75 参照）

■他大学生、大学院生（修士課程まで）による研究利用

他大学の学部生及び修士課程までの大学院生による、研究目的での実験所利用は37件190人日あった。東日本大震災の被災学生の受け入れを表明したが、該当する利用者はいなかった。瀬戸臨海実験所の場合、長期滞在者は少なく、滞在数日までの短期滞在者が利用者のほとんどを占めているのが特徴的である。

■運営実施体制

10月28日に共同利用運営委員会（学内委員4名、学外委員6名）を開催し、共同利用拠点認定の報告、平成23年度事業計画の検討と承認、平成24年度概算要求事項の報告と協議等を行った。

実験所における実際の共同利用事業（公開臨海実習・共同利用実習・共同利用研究）については、実験所教員5名（教授1、准教授1、講師1、助教2。うち教授1は山下洋教授が兼任）、技術職員7名、事務職員5名が分担して運営した。なお11月1日より技術職員1名が新規採用され、2012年1月1日より朝倉彰教授が専任教授として着任し山下教授と交替して、それぞれ新たに運営に加わった。

■その他

今年度は教育関係共同利用拠点経費として全学経費50万円の配分を受け、実習用各種消耗品の更新及び新規購入と、走査型電子顕微鏡の修理を行い、共同利用拠点事業に関わる環境を整備した。

次年度からは概算要求による運営費交付金を活用し、事業の諸々の実務を担当する研究員（2名）の雇用、公開臨海実習数の増加、船舶利用料の非徴収など、更なる環境整備に努めていく。

(4) 外部資金の獲得状況

(金額の単位はすべて千円)

2011年度 受託研究

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	代表者名 (所属)	研究課題名	分担課題名	2011年度 交付額
舞鶴市	舞鶴湾におけるナマコ資源の増殖等に係る研究	山下 洋	教授				12,810
東京大学	国家基幹研究開発推進事業 海洋資源利用促進技術開発プログラム海洋生物資源確保技術高度化	山下 洋	教授		沿岸海域複合生態系の変動機構に基づく生物資源生産力の再生・保全と持続的利用に関する研究		16,310
特定非営利活動法人 水産業・漁村活性化推進機構	平成23年度有害生物漁業被害防止総合対策事業	久保田 信	准教授		有害生物出現調査及び情報提供事業における有害生物出現調査委託事業		6,227
京都伝統文化の森推進協議会	東山風景林相改善事業 植生モニタリング調査	安藤 信	准教授				525
環境省	環境研究総合推進費	徳地 直子	准教授		生物多様性の機能評価のための安定同位体指標に関する研究	森林生態系管理が河川生態系に及ぼす影響の研究	12,285
広島大学	平成23年度環境変動に伴う海洋生物大発生の予測・抑制技術の開発委託事業	益田 玲爾	准教授	上 真一(広島大学)	環境変動に伴う海洋生物大発生の予測・抑制技術	B302魚類との相互関係に基づく大型クラゲの発生制御	2,300
環境省	平成23年度環境経済政策の研究業務	佐藤 真行	特定准教授		持続可能な発展へ向けた環境政策・経済システム:GS等の動態分析による政策評価		8,000
千葉県	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業	宮崎 勝己	講師	鳥羽光晴(千葉県水産総合研究センター)	カイヤドリウミグモの寄生被害を回避軽減するためのアサリ放流生産手法の開発	ウミグモ初期寄生強度推定手法の開発	1,700
受託研究	計8件						60,157

2011年度 機関経理補助金

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	2011年度 交付額
和歌山県	平成23年度紀の国森づくり基金活用事業補助金 小・中・高・大連携による紀南地域の森林環境学習	山下 洋	教授	1,109
機関経理補助金	計1件			1,109

(金額の単位はすべて千円)

2011年度 共同研究

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	代表者名 (所属)	研究課題名	分担課題名	2011年度 交付額
京大大学生存圏 研究所 生存圏科 学萌芽研究	京都府由良川流域にお ける森林から海までの栄 養動態：森林生態系と 沿岸生態系の連環解明 に向けて	福島 慶太郎	特定 研究員				314
マリンバイオ共 同推進機構 (JAMBIO)	2011年度共同利用・共 同研究	宮崎 勝己	講師	宮崎 勝己	海岸性ウミグモ及びク マムシ相－伊豆半島と 紀伊半島の比較		100
高知県	高知県仁淀川流域にお ける生態系機能の向上	柴田 昌三	教授				—
独立行政法人 水 産総合研究セン ター	ナマコの生態と増養殖 技術開発	山下 洋	教授				—
新日本製鐵株式 会社	磯焼けが発生した水域 等における腐植酸鉄を用 いた磯焼け海域の環境 改善や漁場・漁場造成 を目的とした研究開発	山下 洋	教授				—
東京大学大気海 洋研究所	平成23年度東京大学 海洋研究所学際連携研 究「一般共同研究」	中山 耕至	助教	中山 耕至	絶滅危惧種アカメの 保全生物学的研究		—
共同研究	計6件						414

2011年度 寄附金

寄付者(団体)	プロジェクト名称	担当教員	職種	2011年度 交付額
財団法人 阪本奨学会	演習林の研究及び施業 運営等の助成	柴田 昌三	教授	500
公益財団法人 日本財 団	日本財団「海域陸域統 合管理学」研究部門に 対する研究助成	山下 洋	教授	28,880
財団法人 自然環境研 究センター	森林生態系の長期動態 に関する研究助成金	吉岡 崇仁	教授	1,740
財団法人 斎藤報恩会	カイヤドリヒドドラ類 (刺胞動物)の分布と成 体の形態に及ぼす東日 本大震災の影響	久保田 信	准教授	480
サントリーホールディ ングス株式会社 水科 学研究所	竹林生態系機能の定 量的把握	徳地 直子	准教授	1,000
財団法人 河川環境管 理財団	森林・河川連続生態系 の系としての水質浄化 機能の定量化とその規 定要因のための研究助 成	徳地 直子	准教授	1,100
財団法人 自然環境研 究センター	森林生態系の長期動態 に関する研究助成金	徳地 直子	准教授	1,800
財団法人 阪本奨学会	演習林の研究及び施業 運営等の助成	徳地 直子	准教授	500
財団法人 美山町自然 文化村	芦生研究林の環境保 全を目的とする助成	長谷川 尚史	准教授	200
芦生山の家	芦生研究林の環境保 全を目的とする助成	長谷川 尚史	准教授	120
針畑ルネッサンスセ ンター	芦生研究林の環境保 全を目的とする助成	長谷川 尚史	准教授	40
財団法人 自然環境研 究センター	森林生態系の長期動態 に関する研究助成金	寄元 道德	助教	1,560
財団法人 阪本奨学会	演習林の研究及び施業 運営等の助成	寄元 道德	助教	500
株式会社 毎日放送	魚類学研究助成金	中山 耕至	助教	300
公益財団法人 藤原ナ チュラルヒストリー 振興財団	暖温帯広葉樹林に共 存する常緑樹と落葉樹 多種の展葉タイミング とその種間差に影響す る要因の評価に関する 研究	長田 典之	研究員	550
寄附金	計15件			39,270

(金額の単位はすべて千円)

2011年度 科学研究費補助金

交付機関	研究種目	研究者	職種	代表者名 (所属)	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	分担課題名	交付額 合計 ※予定を 含む	2011年度 交付額
④ 日本学術振興会	基礎研究 (A) 海外学術調査	柴田昌三	教授	-	2008-2011	20255011	インドミゾラム州における竹類の面積一斉開花と地域生態系と焼畑と関係に関する研究	-	45,760	9,230
④ 日本学術振興会	基礎研究 (B)	山下洋	教授	-	2009-2012	21380124	水産重要魚類稚魚の成育場としての河口・沿岸域生産力の定量評価	-	17,030	3,770
④ 日本学術振興会	基礎研究 (B)	吉岡崇二	教授	-	2009-2012	21380096	森林土壌-河川系における溶存有機物の動態に関する研究	-	11,050	1,820
④ 日本学術振興会	基礎研究 (C)	田中克	名誉教授	-	2009-2011	21580225	最も原始的な植物群系ボウズガレイの変態過程と左右非対称性発生の起源を探る	-	4,940	1,170
④ 日本学術振興会	基礎研究 (C)	朝倉彰	教授	-	2010-2011	22570101	暖温帯-熱帯域の浅海生物の遺伝的多様性からみた起源に関する研究-甲殻類を例に	-	4,550	1,040
④ 日本学術振興会	基礎研究 (C)	長谷川尚史	准教授	-	2011-2013	23580206	植冠下におけるGPS信号の劣化を利用した森林モニタリング手法の開発	-	5,330	1,560
④ 日本学術振興会	基礎研究 (C)	中西麻美	助教	-	2011-2013	23580205	スギ、ヒノキ林における間伐が中長期にわたる養分循環と関係に関する研究	-	4,550	1,950
④ 日本学術振興会	基礎研究 (C)	中山耕至	助教	-	2011-2013	23580253	養魚用として移入された外来魚種による日本在来魚への遺伝的攪乱の解明	-	4,680	2,600
④ 日本学術振興会	研究活動スタート支援	佐藤拓哉	助教	-	2011-2012	23810017	寄生者介在型エネルギー流における種多様性の意義と森林管理の影響の解明	-	3,250	1,690
④ 日本学術振興会	挑戦的萌芽研究	徳地直子	准教授	-	2011-2013	23658126	窒素負荷がもたらす森林木本種の窒素利用の変化に伴うコストの定量	-	3,900	2,210
④ 日本学術振興会	若手研究 (B)	館野隆之輔	准教授	-	2011-2013	23780166	土壌中の形態的有機物動態を考慮した森林伐採の流出水質への影響評価法の開発	-	4,420	1,430
④ 日本学術振興会	若手研究 (B)	甲斐嘉晃	助教	-	2011-2013	23770085	北太平洋産クサウオ科魚類の系統地理学-爆発的種分化の要因と種多様性の解明	-	4,030	1,950
④ 日本学術振興会	若手研究 (B)	福島慶太郎	研究員	-	2010-2012	22780145	森林生態系における窒素流出メカニズムの解明と窒素飽和の将来予測	-	4,030	1,170
④ 日本学術振興会	基礎研究 (S)	徳地直子	准教授	石川登 (京都大学東南アジア研究所)	2010-2014	22221010	東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究	混合ランドスケープにおける生物多様性の空間構造と物質循環(生態学的ローカル専門)	-	345
④ 日本学術振興会	基礎研究 (A)	館野隆之輔	准教授	柴田英昭(北海道大学)	2010-2012	22248016	気候変動による積雪変化が森林土壌の物質循環機能と関係に関する研究	植生窒素動態解析	-	780
④ 日本学術振興会	基礎研究 (A)	佐藤真行	特定准教授	植田和弘 (京都大学地球農産学)	2011-2015	23241019	制度を媒介とした持続可能な発展と主観的認識のリンク	GSの測定と分析、主観的認識と成長、経済実験	-	1,000
④ 日本学術振興会	基礎研究 (A)	坂野上なお	助教	山本博一 (東京大学)	2011-2013	23240113	文化的価値のある伝統的木造建築物を継承するための植物生体保護の基礎的要素の解明	社寺有林・山本調査	-	910
④ 日本学術振興会	基礎研究 (A)	中野智之	助教	野尻幸宏 (独立行政法人国立環境研究所)	2011-2013	23241017	沿岸海床底生生物が受ける海洋酸性化影響の精密な評価	ウー等の海洋無脊椎動物の海洋酸性化影響実験 和歌山県白浜における沿岸CO ₂ 分圧観測	-	3,042
④ 日本学術振興会	基礎研究 (B) 海外学術調査	柴田昌三	教授	小林正美 (京都大学地球農産学)	2008-2011	20401008	インドシナ地域での社会的弱者層を取りまく緩慢なるバードの実態と地域回復力の解明	人間活動の生態環境へのインパクト評価	-	1,750
④ 日本学術振興会	基礎研究 (B)	梅本信也	准教授	山口裕文 (東京農業大学)	2011-2013	23310168	東アジア原産観賞植物の栽培化と野生化に関する保全生物学的研究	-	-	650

交付機関	研究種目	研究者	職種	代表者名 (所属)	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	分担課題名	交付額 合計 ※予定を 含む	2011年度 交付額
(独)日本学術振興会	基礎研究(B) 海外学術調査	徳地直子	准教授	杉本敦子 (北海道大学)	2009-2012	21403011	東シベリアタイガ林の生態系機能変動解析	樹木の窒素利用解析		130
(独)日本学術振興会	基礎研究(S)	福島慶太郎	特定 研究員	石川登 (京都大学東南アジア研究所)	2010-2014	22221010	東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究	混合ランドスケープにおける生物多様性の空間構造と物質循環(生態学的ローカル連携)	-	-
(独)日本学術振興会	基礎研究(C)	田川正明	准教授	田中克 (国際高等研究所)	2009-2011	21580225	最も原始的な異体類ボウズガレイの変態留置による非対称性発生の起源を探る	-	-	-
科学研究費補助金 計 23 件										40,197

2011年度 科学研究費補助金(特別研究員奨励費)

交付機関	研究者	職種	指導教員名	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額 合計 ※予定を 含む	2011年度 交付額
(独)日本学術振興会	藤田純太	特別研究員 (DC2)	山下洋	2011-2012	23・36	エビ類の生活史戦略と遺伝的多様性の関係を探る—クロザコエビ属をモデルとして—	1,300	700
(独)日本学術振興会	宮島悠子	特別研究員 (DC1)	益田玲爾	2011-2013	23・2423	カワハギこよるミズクラゲ捕食の個体発生	1,900	700
(独)日本学術振興会	西本篤史	特別研究員 (DC1)	宮崎勝己	2010-2012	22・2580	海苔沈木における生物群集形成プロセスの解明	2,100	700
(独)日本学術振興会	譚方偉太	特別研究員 (PD)	宮崎勝己	2011-2013	23・2760	海洋酸性化がウニ幼生に及ぼす影響に関する研究	2,500	900
科学研究費補助金(特別研究員奨励費) 計 4 件								3,000

2011年度 研究助成金(学生取得分)

助成名	プロジェクト名称	学生氏名	所属・学年	担当指導教員	2011年度 交付額
笹川科学研究助成	河口域砂浜域生態系の鍵種であるニホンハマアミの餌料源の解明	秋山 諭	農学研究科応用生物学専攻博士課程2回生	山下 洋	500
笹川科学研究助成	シラス型仔魚の対捕食者戦略における濁度の重要性	大畑 亮輔	農学研究科応用生物学専攻博士課程2回生	益田 玲爾	590
笹川科学研究助成	生活史が異なるアジ科魚類における学習能力の発達—学習能力の個体発生と系統発生—	高橋 宏司	農学研究科応用生物学専攻博士課程3回生	益田 玲爾	760
研究助成金(学生取得分) 計 3 件					1,850

(3) 2011 年度 フィールド科学教育研究センターにおける主な取り組み（日記）

- (1) 2011 年 4 月 1 日
センター長が交代
- (2) 2011 年 4 月 1 日
和歌山研究林長・瀬戸臨海実験所長が交代
- (3) 2011 年 4 月 1 日
人事異動 館野 隆之輔准教授（鹿児島大学から）、中野 智之助教（国立科学博物館から）、佐藤拓哉特定助教（次世代研究者育成センター（白眉プロジェクト）の特定助教を受け入れ）が着任
- (4) 2011 年 4 月 1 日
京都大学大学院地球環境学舎に、協力講座「水域生物環境論分野」を開設
- (5) 2011 年 4 月 4 日
舞鶴水産実験所と瀬戸臨海実験所が、「教育関係共同利用拠点」として文部科学省から認定
- (6) 2011 年 4 月～
2011 年度新入生向け少人数セミナーを開講
- | | | |
|--------------------------|--------------------------|----------|
| ・「原生的な森林の働き」 | （学内+上賀茂試験地+7月2～4日・芦生研究林） | 中島 皇 |
| ・「魚類心理学入門」 | （学内+7月2～3日・舞鶴水産実験所） | 益田 玲爾 |
| ・「森里海のつながりを清流古座川に見る」 | （8月22～26日・紀伊大島実験所） | 梅本 信也 |
| ・「C. W. ニコル “アフアの森” に学ぶ」 | （学内+8月5～10日・アフアの森） | 柴田 昌三 他 |
| ・「フィールド実習 “森は海の恋人”」 | （8月22～27日・気仙沼） | 長谷川 尚史 他 |
| ・「木造校舎を造る：木の文化再生へ」 | （学内+京都府立植物園） | 柴田 昌三 他 |
| ・「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」 | （学内+9月10～14日・瀬戸臨海実験所） | 宮崎 勝己 |
| ・「森林の再生と動態」 | （4月15日～5月7日・芦生研究林ほか） | 安藤 信 |
| ・「環境の評価」 | （学内+8月18～19日・芦生研究林） | 吉岡 崇仁 |
| ・「瀬戸内海に見る森里海連環」 | （学内+8月9日～12日・徳山試験地） | 中島 皇 |
| ・「京をめぐる森と人のくらし」 | （上賀茂試験地・北白川試験地ほか） | 寄元 道徳 |
| ・「森を育て活かすー林業体験をとおして考える」 | （8月10～13日・芦生研究林） | 長谷川 尚史 |
- (7) 2011 年 4 月～7 月
全学共通科目（リレー講義）「水圏生物学入門」「森里海連環学ー森・川・海と人のつながりー」「沿岸環境保全学」「森林学」開講（日本財団助成講義）
- (8) 2011 年 4 月～
紀伊大島実験所において、古座川プロジェクト関連の古座川合同調査を実施（毎月実施、第65～75回）
- (9) 2011 年 4 月～
瀬戸臨海実験所において和歌山県紀の国森づくり基金活用事業「小・中・高・大連携による紀南地域の森林環境学習」として、田辺市内の会津川流域に位置する三栖小学校・高雄中学校・神島高等学校の3校を対象に、学習会、河川の水質調査、間伐体験の活動等を実施
- (10) 2011 年 3 月 25 日～4 月 7 日
瀬戸臨海実験所附属水族館において「日替わり解説ツアー・バックヤードツアー」を開催 参加者：一般 135 人、バックヤード（小学生以上）117 人（うち4月1日以降は、それぞれ、70 人、55 人）
- (11) 2011 年 4 月 8 日
瀬戸臨海実験所において「鯨セミナー」を開催（主催：海の哺乳類情報センター・共催：瀬戸臨海実験所） 参加者 33 人
- (12) 2011 年 4 月 12 日～
古座川合同調査（随時開催）
- (13) 2011 年 4 月 19 日～
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講（週1回・計15回3年生4人）

- (14) 2011年4月23日
上賀茂試験地において「2011年度上賀茂試験地春の自然観察会」を開催 参加者30人(応募49人)
- (15) 2011年4月28日・5月27日・7月8日・7月28日・10月11日・11月22日
海域陸域統合管理学研究部門が海域陸域統合管理学セミナーを開催(日本財団助成)参加者延べ61人
- (16) 2011年5月15～17日
芦生研究林における「国際森林学生連盟 第2回アジア地域会議」(日本の森林植生や林業の見学と、長期森林動態試験の見学)を後援(38人)
- (17) 2011年5月20日
隔地教員研究室が農学部総合館地下N032から旧演習林事務室棟108,109へ移転
- (18) 2011年5月20～23日,7月18～20日,9月18～21日,11月28日～12月1日,1月25～27日,3月12～15日
舞鶴水産実験所が,気仙沼湾潜水調査を実施
- (19) 2011年5月21日,6月4日,6月18日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において,体験学習「水族館の磯採集体験」「水族館の飼育体験」(和歌山県教育委員会「きのくに県民カレッジ」連携講座)を開催 参加者合計50人
- (20) 2011年5月23日～
舞鶴水産実験所が,東日本大震災被災学生(北里大学・海洋生命科学部,東京海洋大学・大学院海洋科学部)を受け入れ
- (21) 2011年5月28日
芦生研究林において,芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら樹木観察をしよう」を開催 参加者11人(応募者93人)
- (22) 2011年6月1日
北部総合教育研究棟(益川記念館)の利用開始(里海生態学保全学分野及び海域陸域統合管理学研究部門)
- (23) 2011年6月4日
全日空「私の青空・根室中標津空港・シマフクロウの森」において,フィールドセミナー(青空塾)を開催
- (24) 2011年6月12日・9月11日・11月13日
徳山試験地において,徳山県周南市との共催で,周南市連携講座(全3回)を開催 参加者6月25人・9月27人・11月23人
- (25) 2011年6月22日
塩田理事と浅野総務部長が,舞鶴水産実験所を視察
- (26) 2011年6月22日
木文化プロジェクトがバイオマスセミナーを開催
- (27) 2011年6月25日
舞鶴水産実験所が,舞鶴市東コミュニティセンターで開催された第3回高等教育機関等合同PRフェアにおいてパネル展示及び魚の行動実験を開催(入場者約500人)
- (28) 2011年6月30日
紀伊大島実験所が,第14回古座川シンポジウムを開催(紀伊大島実験所,古座川流域協議会共催) 参加者30人
- (29) 2011年7月2日
全日空「私の青空・オホーツク紋別空港・とっかりの森」において,フィールドセミナー(青空塾)を開催
- (30) 2011年7月3日
京都大学時計台記念館において第6回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「混沌の時代に光を探る」を開催
- (31) 2011年7月14日,10月5日
木文化プロジェクトが木文化サロンを開催
- (32) 2011年7月16日
京都会館会議場において東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」を開催 参加者約180人

- (33) 2011年7月21日～8月31日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催（解説ツアー（一般266人）、バックヤードツアー（小学生以上382人））
- (34) 2011年7月22～24日
フィールド科学教育研究センター公開講座2011「今、森から考える－森のめぐみ－」を芦生研究林において開催
参加者 一般枠：35人、高校生枠：3人
- (35) 2011年7月23日
北海道研究林標茶区において、ミニ公開講座「自然観察、草木染め」を実施（参加者10人）
- (36) 2011年7月28日
名古屋大学において、名古屋大学HyARC（地球水循環研究センター）研究集会（合同ワークショップ）「流域社会をとりまく水循環と水問題：水を巡る諸問題に関わる自然科学と社会科学の融合研究の可能性」を開催（フィールド研 木文化プロジェクト共催）
- (37) 2011年7月30日
芦生研究林において、京都市民講座「知ろう、守ろう芦生の森－芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動－」を開催（主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会、京都市南丹広域振興局／共催：フィールド研他）
参加者31人
- (38) 2011年7月30日
北海道研究林白糠区において、ミニ公開講座「自然観察、草木染め」を実施（参加者7人）
- (39) 2011年8月3日
舞鶴水産実験所他において、京都府教育委員会が招待した東日本大震災により非難所等で生活している福島県の中学生に対して、講義と施設案内を実施（21人）
- (40) 2011年8月8日
西坂理事が芦生研究林を視察
- (41) 2011年8月8～12日
全学共通科目（1～4回生対象）森里海連環学実習A（芦生研究林－由良川－丹後海コース）を開講（日本財団助成・公開実習・参加者 京大8人、他大学5人）
- (42) 2011年8月9, 11, 16, 18, 23, 25日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、白浜温泉旅館協同組合主催「海の中まで白浜を知っちゃおう！」として展示スペース解説ツアー・バックヤードツアーを開催 参加者：展示スペース解説（41人）、バックヤード（37人）
- (43) 2011年8月11日
旧演習林事務室棟108号室の隔地教員研究室を、109号室に統合
- (44) 2011年8月18日
舞鶴水産実験所において、“多々見市長と”遊覧船で行く「まいづるサマースクール」（舞鶴市主催）の中で、講義と施設案内を実施（小学生35人）
- (45) 2011年8月21日
高知県土佐市グランディール（旧ウェディングプラザ寿苑）において、仁淀川の再生をめざして「仁淀川の森と水を考える」シンポジウム2011を開催（仁淀川漁業協同組合主催・フィールド研後援）
- (46) 2011年8月26～30日
京都大学が東北復興支援学生ボランティアを派遣（学生21人、教員1人、技術職員2人、事務職員1人）
- (47) 2011年8月27日～9月2日
全学共通科目（1～4回生対象）森里海連環学実習C京大・北大合同実習（夏の北海道実習）を開講（日本財団助成実習・京都大学9人、北海道大学7人）
- (48) 2011年8月29日～9月4日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「海洋生物学、特に無脊椎動物の分類・発生」を実施（教育関係共同利用拠点事業・国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催・3人）

- (49) 2011年9月2～4日
台風12号による豪雨のため、和歌山研究林の林道・土場・機器等に甚大な被害
- (50) 2011年9月4～11日
北海道研究林標茶区・白糠区において、全学共通科目「北海道東部の人と自然」(農学部科目「研究林実習 III 夏の北海道」)の実施(14人)
- (51) 2011年9月5～7日
芦生研究林、上賀茂試験地および北白川試験地において、京都大学公開森林実習—近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴—を実施(宇都宮大学他、参加者5人)
- (52) 2011年9月10日
2007年2月に出版した『森里海連環学』(京都大学学術出版会)の内容を更新し、改訂増補版を発刊
- (53) 2011年9月10日
舞鶴水産実験所が、京都府総合教育センター北部研修所「親子おもしろ科学実験教室」体験ブースにおいて、海の生き物展示を実施(213人)
- (54) 2011年9月10日
全日空「私の青空 能登空港・きりこの森」において、フィールドセミナー(青空塾)を開催
- (55) 2011年9月18日
京都大学ジュニアキャンパス2011において、中学生向けゼミ「ナマコの海洋生物学」を実施 参加者 中学生24人・保護者等7人(京都市教育委員会と共催)
- (56) 2011年9月14～18日
紀伊大島実験所において、全学共通科目(1～4回生対象) 森里海連環学実習B(紀伊半島の森と里と海)を開講(日本財団助成実習・8人)
- (57) 2011年9月24日
福知山市三段池公園 総合体育館において、第3回由良川市民講座「森・里・海の対話 ～身近な視点から生態系のつながりを考える～」を開催(京都府中丹広域振興局との共催・日本財団助成・参加者 約60人)
- (58) 2011年10月1日
北海道研究林長が交代
- (59) 2011年10月1日
森林フィールド管理部門の勤務地が、北海道研究林及び芦生研究林となる。
- (60) 2011年10月1日
全日空「私の青空 小松空港・安宅関の森」において、フィールドセミナー(青空塾)を開催
- (61) 2011年10月～
2011年度新入生向け少人数セミナーを開講
・「海岸生物の生活史」 (11月23～27日・瀬戸臨海実験所) 久保田 信
・「森のつくりだすもの」 (1月14～15日・三重県名張市赤目) 徳地 直子
・「日本海に遊ぶ～日本海学入門」 (学内+2月21～23日・舞鶴水産実験所) 上野 正博
- (62) 2011年10月7日
学生ボランティア派遣について、松本総長・大西理事と面談
- (63) 2011年10月8日
高知県仁淀川町池川中学校体育館において、第3回仁淀川地域連携講座「国際森林年を“森林・林業再生プラン” 実行元年とするために」を開催(日本財団助成) 参加者約280人
- (64) 2011年10月15日
美山文化ホールにおいて、「知ろう、守ろう 芦生の森シンポジウム」を開催(主催:芦生地域有害鳥獣対策協議会、京都府南丹広域振興局/共催:フィールド研他) 参加者約80人
- (65) 2011年10月15日
瀬戸臨海実験所において、施設見学会を実施(京大ウィークス参加イベント、参加者4人)
- (66) 2011年10月15日
上賀茂試験地において、「2011年上賀茂試験地秋の自然観察会」を開催(京大ウィークス参加イベント、参加者27人(応募者41人))

- (67) 2011年10月17～11日, 12月5～20日
 芦生研究林において、「芦生地域有害鳥獣対策協議会」の活動として銃器によるニホンジカの捕獲を行うため、平日の夜明けから午前9時まで、入林制限を実施
- (68) 2011年10月19日
 フィールド研のイベントや刊行物等をご案内する「FSERC ニュースメール」の電子メール配信を開始
- (69) 2011年10月22日
 芦生研究林において、芦生の森自然観察会 入門編「秋の森を歩きながら樹木観察をしよう」を開催（京大ウィークス参加イベント, 参加者16人（応募者67人））
- (70) 2011年10月22日・12月17日・2012年2月18日
 瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」を開催（参加者46人）
- (71) 2011年10月27日
 舞鶴水産実験所共同利用運営委員会を開催
- (72) 2011年10月28日
 瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会を開催
- (73) 2011年10月30日
 周南緑地（西緑地）において、徳山試験地が周南市とともに連携公開講座を実施 参加者29人
- (74) 2011年11月4日
 京都大学東京オフィスにおいて、第18回品川セミナーを開催。柴田センター長が講演「「森里海連環学」をとおして日本の自然を再考する」 参加者47人
- (75) 2011年11月5日～2012年3月25日
 北海道研究林白糠区において、白糠町からの協力要請を受け、北海道エゾシカ被害防止緊急捕獲事業として銃器を使用した捕獲を行うため、土日・祭日（終日）の入林制限を実施
- (76) 2011年11月6日
 芦生研究林において、地域開放事業として、美山町環境保全対策協議会の参加者に対して、芦生自然環境ウォークを実施（24人）
- (77) 2011年11月12日
 厚岸町情報館「本の森」において第4回別寒辺牛川地域連携講座「森から海へ～海域環境の保全と人の暮らし～」を開催（厚岸町・標茶町と共催・日本財団助成）参加者74人
- (78) 2011年11月14日
 舞鶴水産実験所において、舞鶴市立中保育所・中舞鶴幼稚園・中舞鶴小学校（1年生）の子供たちに対して、ナマコに関する見学会を実施（111人）
- (79) 2011年11月21日
 芦生地域有害鳥獣対策協議会の活動の一環として、芦生研究林に設置したシカ防護ネット内の観察およびネットを下ろす作業の体験を実施（主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会, 京都府南丹広域振興局／共催：フィールド研）参加者12人
- (80) 2011年11月22日
 吉田事業所産業医が舞鶴水産実験所を巡視
- (81) 2011年11月26日
 全日空「私の青空 徳島阿波おどり空港・巣立ちの森」において、フィールドセミナー（青空塾）を開催
- (82) 2011年11月26日
 上賀茂試験地において、京都市青少年科学センター「未来のサイエンティスト養成事業体験コース」（講義と自然観察）を実施（上賀茂試験地 共催）参加者26人（応募者40人）
- (83) 2011年12月14日
 吉田事業所産業医が上賀茂試験地を巡視
- (84) 2011年12月17日
 上賀茂試験地において、NPO法人エコロジー・カフェと共催で、第6回エコの寺子屋を開講 参加者13人
- (85) 2011年12月23日～1月9日
 瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎

- 日開催（解説ツアー（一般 122 人）、バックヤードツアー（小学生以上 139 人））
- (86) 2012 年 1 月 1 日
人事異動 朝倉教授 着任
 - (87) 2012 年 1 月 1 日
瀬戸臨海実験所長が交代
 - (88) 2012 年 2 月 6 日
瀬戸臨海実験所において、第 24 回瀬戸海洋生物学セミナーを実施（8 人）
 - (89) 2011 年 2 月 10～13 日
全学共通科目「暖地性積雪地域における冬の自然環境」を芦生研究林にて開講
 - (90) 2011 年 2 月 14 日
京都府漁業協同組合舞鶴支所において、舞鶴水産実験所が「舞鶴市ナマコプロジェクト」報告会を実施（25 人）
 - (91) 2012 年 2 月 19～25 日
北海道研究林標茶区において、全学共通科目「北海道東部の厳冬期の自然環境」（農学部科目「研究林実習 IV 冬の北海道」）の実施（15 人）
 - (92) 2012 年 2 月 27 日
協議委員会を開催
 - (93) 2012 年 3 月 7 日
木文化プロジェクトが 2011 年度研究報告会を開催
 - (94) 2012 年 3 月 9 日
運営委員会を開催
 - (95) 2012 年 3 月 10 日
全日空「私の青空 萩・石見空港・高津川清流の森」において、フィールドセミナー（青空塾）を開催
 - (96) 2012 年 3 月 19～23 日
京都大学が東北復興支援学生ボランティアを派遣（学生 23 人，教員 1 人，技術職員 2 人，事務職員 1 人）
 - (97) 2012 年 3 月 21～27 日
瀬戸臨海実験所において、2011 年度公開臨海実習（春期）「海洋無脊椎動物の多様性と進化学」を実施（教育関係共同利用拠点事業・国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催・9 人）
 - (98) 2012 年 3 月 24～31 日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催（解説ツアー（一般 49 人）、バックヤードツアー（小学生以上 81 人））

(注) 今年度年報から、高校生以下を対象とする事業は、「主な取り組み」に原則として掲載しないこととしました。他部局、他大学による実習は p. 75 「各施設を利用した学生実習等」、高校生の実習などは p. 78 「各施設を利用した社会連携教育および野外学習等」を参照下さい。

●●● 2. 各施設等における活動の記録 ●●●

(1) 各施設等の活動概要

1) 芦生研究林

芦生研究林長 長谷川 尚史

■教育研究

2011 年度における芦生研究林の利用者総数は延べ 10,771 名であり、ほぼ前年並みであった。実習等の教育利用者数は 2,195 名で、うち学内利用が 22 件と 2 件増加し、他大学の利用は 3 件で 1 件減少した。また研究利用者数は 1,975 名であり、学内利用が 33 件、他大学等が 16 件であった（卒業論文研究、修士論文研究を含む）。学内に区分された学生実習のうち 2 件はフィールド研が主催する形ではあるが、全国の大学から学生を募集して行われた。全国大学演習林協議会と連携して開催された公開森林実習では、4 大学から 5 名の学生が参加し、うち一人は特別聴講生として協定に基づく単位互換手続きが執られた。森里海連環学実習 A では、学内 3 学部 8 名のほか、6 大学から 6 名の学生が参加した。

研究林で行われた主な教育研究のひとつとして、シカによる植生変化に関する一連の教育研究事業がある。特に上谷の一流域においては集水域全体を防除柵で保護する試験が行われており、設置後 5 年を経過して植生の回復が顕著になるとともに、水質にも変化が見られはじめている。また長治谷作業所前に設置されているシカ防護柵内ではススキが回復してきたが、同時に灌木類も回復しススキが衰退してきており、ススキの生育環境の維持には適度な食圧が必要なことを示す興味深い現象がみられている。これら林内各所の林分におけるシカ防護柵を用いた調査地では、多くの教育研究が行われるとともに、実習等においても貴重な解説題材となっている。多雪地帯である芦生研究林では、冬期および春期における柵の撤去・再設置作業を行う必要があり、研究林職員も積極的に維持管理作業の補助を行った。

このほか、本年は由良川における魚類の食性および生息場所利用の季節動態の研究が開始され、魚類の生息密度調査のための電気漁具の使用に関連し、美山町漁業協同組合および芦生区関係者との調整を行った。さらに簡易ライトを装着した「ハンガーライトトラップ」によってコガネムシ類を採集する研究も開始された。

一方、フィールド研の研究プロジェクトである林内の実生発生調査および採水・水質調査を継続したほか、概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」において下谷流域に設置された伐採試験地で平成 23 年度当初に伐採試験が計画され、本年度はその準備に関する調整作業のほか、土壌・植生調査および立木位置の測定を行った。

■社会連携

フィールド研主催事業として第 21 回芦生公開講座「今、森から考える」を開催した。また芦生研究林主催事業として「芦生の森自然観察会」を春と秋に企画した。共同開催事業としては、なんたんわくわくキッズ（京都市教育委員会）、自然体験教室（美山町内小学校第 4 学年）、郊外森林体験実習プログラム（京都府立北桑田高校）が行われた。公共団体等が主催する教育講座としては、地域の宿泊施設である芦生山の家、美山町自然文化村、針畑ルネッサンスセンターからのガイドツアーを受け入れたほか、NPO 法人や地方自治体が主催する各種の市民講座へのフィールド提供と研究林内での講義、研修への協力などを行った。さらに、芦生地域有害鳥獣対策協議会による「知ろう、守ろう芦生の森」のボランティア活動が行われ、京都府民らによって、シカ防護ネットが枕谷に設置された。これに関連し、南丹市美山支所で開催されたシンポジウムにも協力した。

一方、単なる原生的森林としてだけでなく、ガイドツアー等の入林管理が行われている貴重な例として芦生研究林が注目されてきており、本年も報道関係や出版関係からの 7 件の取材申請に対し、それぞれ取材に協力した。

■施設の特記事項

季節外れの台風 2 号（5/28-29）の豪雨により、林道の路肩決壊が 4 箇所発生した。また昭和 43 年に建築された 5 号職員宿舎が、耐震性が劣る施設として取り壊された。さらに、平成 12 年に廃止された屋外キューピクルが PCB を含んでいる機器であったため永らく撤去出来なかったが、本学指定業者によって撤去された。

また、過去のナラ枯れ被害木の倒木、枝の落下が多くなっていることから、歩道沿いの枯死木の伐倒を行うとともに、一般入林者の入林規則の見直し作業を行い、次年度より改定を行うために HP および看板等による告知を行った。

2) 北海道研究林

北海道研究林長 舘野 隆之輔

■教育研究

北海道研究林は、釧路湿原、阿寒、知床の3つの国立公園と至近距離にあり、2011年度もその地理的特性を生かした教育研究が行われた。2011年度は教育利用9件、研究利用13件、その他利用2件の合計24件の利用申請を受け付け、その他見学等を含め延べ1,354人の利用を受け入れた。

教育利用は、全学共通および農学部の実習が4回行われ、また修論指導などで延べ602人の利用があった。「森里海連環学実習C」は北海道大学厚岸臨海実験所と共同で、自然度が高い別寒辺牛川の最上流部に近い標茶区から、牧草地として使われている中流、そして下流の厚岸湖にいたる流域の植生、土壌、水質、水生生物調査を通じて、森-里-海の繋がりを学ぶことを目的に行われた。8月27日～9月2日の7日間の日程で、本学の法学部、理学部、工学部、農学部、1～3回生9人と、北海道大学の水産学部ほか1回生7人の計16人が参加した。「調査研究方法実習I・II」は、北海道における世界遺産ならびに国立公園地域の現状と管理システムの実態について学ぶことを目的に行われ、8月6～10日の5日間の日程で農学部2回生6人が参加した。「北海道東部の人と自然・研究林実習III」は、北方の森林・湿原植生、森林の垂直分布や火山性土壌、道東の林業・林産業の現況を学ぶとともに間伐施業などを実践することを目的に行われた。9月4～11日の8日間の日程で農学部の2～3回生14人が参加した。「北海道東部の厳冬期の自然環境・研究林実習IV」は、季節凍土が発達する道東において、冬の森林、積雪・凍土の調査法を修得し、環境資源としての森林の役割や持続的な管理について学ぶことを目的に行われた。2月19～25日の7日間の日程で農学部、2～3回生15人が参加した。

研究利用は、15件の申請を受け付け、延べ496人の利用があった。本学3件延べ372人、他大学6件延べ32人、他機関1件延べ7人、一般3件延べ85人で、研究内容は森林の植生や渓流水の物質循環など多岐にわたった。

■社会連携

社会連携として、5件の催しを実施し、延べ154人の利用があった。研究林主催の夏休みミニ公開講座「自然観察・草木染め」は、自然界にある色の美しさと化学変化の面白さを体験してもらうことを目的として行った。7月23日に標茶区で10人と、7月30日に白糠区で小学生・保護者等7人が参加し、オニグルミやオオヤマザクラの葉、クサフジなどを利用し草木染を行った。沼幌小学校との共催の「草木染め教室」は、自然に対する関心や敬愛心を育てることを目的として行った。6月21日に小学生9人が参加した。標茶町教育委員会との共催の「しべちャアドベンチャースクールジュニアリーダー養成講座」は、森林の役割や樹木の観察・識別法を学ぶことを目的として行った。1月21～22日に小学生9人高校生5人が参加し、スノーシューを着用して冬の樹木の様子や雪上の動物の足跡を観察した。

■施設の特記事項

北海道森林整備加速化・林業再生事業の間伐事業として、標茶区8林班(ろ小班)のカラマツ人工林の一部3.67haについて、標茶町森林組合を事業主体として補助金事業を実施した(制度については、年報No.8 2010参照)。立木659本223.679m³を伐採し素材2,214本148.610m³の収穫を得た。

昨年度に引き続き、北海道林業試験場より研究課題「森林及び林業分野における温暖化緩和技術の開発」を共同研究として行った。試験区は10林班(は小班)の不成績造林地を分割し、炭素固定能の高いグイマツF1品種「クリーンラーチ」の植栽を行い、従来の品種との比較検討を行うためグイマツF1ならびにカラマツの植栽も行った。試験区はエゾジカの被害を防止するために防除柵を設置した。10月には樹高と地際直径の測定を北海道林業試験場と合同で行った。

昨年度に引き続き、野生動物撮影用センサーカメラを設置し、5月から11月にかけて撮影・記録を行った。この取り組みは、森林総合研究所北海道支所の「北海道野生生物観測ネットワーク」に2010年度より参加して実施しているもので、調査手法や機材等のサポートを受けている。ネットワークには東京大学や東京農業大学、北海道森林管理局などが参加しており、全道的な観測網によりエゾジカの生息密度や外来種の分布域の把握といった課題への活用が図られている。2011年度は、標茶区8林班、白糠区1,3,8林班に設置したセンサーカメラにより、ヒグマやアライグマの存在も確認された(研究林ホームページ フィールド日誌、参照)。今後の教育研究の素材として有効に利用したい。

3) 和歌山研究林

和歌山研究林長 徳地 直子

■教育研究

和歌山研究林は、2011年度に15件の研究利用申請を受け付け、延べ140人日の研究利用を受け入れた。学内からの利用はフィールド研教職員や理学研究科、生態学研究センターからの利用が中心であった。学外からの利用も多く、滋賀県立大学環境科学部、東京大学大学院農学生命科学研究科、奈良女子大学共生科学研究センター、森林総合研究所が利用した。大学関係以外からは、地元和歌山県下からのさまざまな研究者の利用がみられた。主な利用者の組織は、和歌山県立環境衛生研究センター、県教育庁生涯学習局文化遺産課、日本野鳥の会和歌山県支部であった。

一方、教育利用としては3件、申請を受け、許可した。延べ178人日の利用があった。学外の利用は有田川町内の小学校および高等学校による体験学習であった。高校の利用は県立有田中央高等学校清水分校による授業である「ウッズサイエンス」と「SIMIZU タイム」(森林ウォーク)と名付けられた授業の利用があった。「ウッズサイエンス」では、年間を通じて合計14回の利用があった。小学校からは同町立八幡小学校から「森は友だち森林の町清水」と名付けられた授業を受け入れ、技術職員を中心とする対応が行われた。

■社会連携

社会連携事業のうち、和歌山研究林が主体的に行っている地元小中高等学校に対する連携事業はすでに述べたとおりである。

■施設の特記事項

2011年度には、町のご理解により2010年度に開始された事務所前までの未舗装道路3.0kmの舗装が完成した。

一方、9月3日に高知に上陸し日本列島に壊滅的な被害を及ぼした台風12号は、和歌山研究林にもこれまでにない被害をもたらした。時間降水量は大きくはなかったが、総降水量は各地でこれまでの記録を大きく変えるほどであり、和歌山研究林においても9月2～4日にかけての総降水量は867mmに達した。和歌山研究林では降水量はこれまで30年間の記録では年間2,650mm程度であるので、この一晚の降水量はほぼ3カ月に相当する。この多量の降水は研究林内を通る有田川の支流上湯川川の水位をあげ、林内で生じた土砂を川に運んだ。橋桁やカーブの部分で土砂が堆積し、水は林道にあふれ、林道を流れた。和歌山研究林は地形が急峻で道路の敷設には非常に苦勞しており、林内の幹線道路はほぼこの上湯川川に沿って設置されているため、今回の台風による降水は川を埋め、道路を流れ、削った。被害があまりに甚大でいまだに復旧は十分に行えていない状況である。現在も、事務所を旧清水町内に移転し、復旧に向けた努力を続けている。

4) 上賀茂試験地

上賀茂試験地長 安藤 信

■教育研究

上賀茂試験地では、2011 年度の利用申請が計 63 件あり、教育、研究に市民の見学等の利用も加えると延べ 2,224 人が訪れた。

教育に関しては 23 件の申請があり、利用者数は延べ 969 人であった。内訳は、フィールド研、農学部森林科学科、理学部、農学研究科地域環境科学専攻、大学院地球環境学舎、生態学研究センター等の学内の利用が 13 件で、学外は京都府立大学、京都教育大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、京都産業大学等によるものであった。また、他大学の学生を対象にした「公開森林実習－近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴－」は 2 回目となり、4 大学から 5 名の参加があった。

研究に関しては 27 件の申請があり、利用者数は延べ 589 人であった。学内からの申請件数が 80% 近くを占め、本部キャンパスから至近の距離に所在する本試験地の立地特性は、フィールドを対象とする研究者にとっても貴重である。

■社会連携

社会連携活動として、2011 年度も春と秋に 2 回の自然観察会を開催した。春の観察会には 30 人、秋には 27 人の参加があり、応募者にはリピーターも多い。これらの活動以外にも、京都市青少年科学センターの「未来のサイエンティスト養成講座」、NPO 法人エコロジー・カフェとの共催「エコの寺子屋」など、学内外の諸団体が主催する観察会等を積極的に受け入れた。

■施設の特記事項

本試験地周辺では、近年の急速な宅地化にともない、境界部の森林管理が問題になってきている。2011 年度も、16, 22, 26 林班の危険木 154 本、26m³を、境界支障木として伐採した。

ナラ枯れは、本試験地では 2006 年度に初めて被害が確認された。2011 年度は激害となった前年度よりやや減少したが、62 本 32 m³の被害量となった。被害木は伐倒、玉切り、集積するとともに、一部は薪ストーブの燃材として活用した。また根元から高さ 3m までの幹部をナイロンでラッピングするという処理法で、防除策を講じてきた。試験地周辺の森林と比べても被害が著しく少ないことから、ラッピングはある程度効果があるものと考えられるが、処理木でも被害を受けるものが少なくない。今後は、外国産ナラ類など、とりわけ貴重な見本樹については樹幹注入剤の使用も併用して保護に努めていきたい。

近年、林内ではシカによる見本樹の被害も発生している。野外動物撮影用のセンサーカメラを設置して、撮影を開始した。これらのデータの集積が、今後の獣害対策の基礎資料になるものと期待される。

5) 徳山試験地

徳山試験地長 中島 皇

■教育研究

<「瀬戸内に見る森里海連環」(少人数セミナー(ポケゼミ):全学共通科目)の実施>

昨年同様に、8/9～12の日程で実施された。今年は1名キャンセルがあり、6名の1回生(文1,経1,理1,薬1,工2),がプレハブに雑魚寝のキャンプ体制で集った。女子1名は部屋を遣り繰りして対応した。徳山試験地と末武川の源流から瀬戸内海(大島干潟)までをフィールドとして森と里と海の繋がりを実体験した。中流部の温見ダムでは下松市水道局職員の方に説明頂くなど地域の実情が伝えられるプログラムになった。

<山口森林管理事務所との共同研究>

平成14年度から平成32年度までの計画で檜皮採取における共同試験が行われている。2012年1月24日に、山口県岩国市の城山国有林檜皮試験地において、檜皮剥皮試験実施後10年間の成長量調査を行った。データは解析中である。

■社会連携

周南市公園花とみどり課との共催で連携公開講座1回と連携講座3回を実施した。連携講座は、昨年度の「「みどりの案内人」養成プロジェクト(周南市の事業)」特別講座に引き続いて実施されているものである。年3回(6月,9月,11月)日曜日の午前中に徳山試験地の作業所で森里海連環学や森林学の講義を受講し、その後お昼までフィールド見学を行う。募集定員は18名であったが、昨年度の受講者も含めて各回20名以上の参加があり、合計では85名になった。

■特記事項

給水施設の水枯れが冬季に起きた。水の凍結が原因だと思われるが、昨年は猛暑と少雨が原因で水枯れが起こっており、今後も水枯れが起こる可能性が予測されるので、早急にボーリングを行い水源を確保できるようにしたい。

6) 北白川試験地

北白川試験地長 柴田 昌三

■教育研究

北白川試験地では、2011年度には合計26件の研究利用、9件の教育利用、合計35件の利用申請を受け付け、年間利用者数は、延べ1,351人日であった。例年のように部局内と農学研究科からの利用が中心であったが、これらに加えて、学内からの利用として理学研究科、地球環境学堂、工学研究科からの利用があった。学外からは、大阪市立大学理学研究科と京都学園大学バイオ環境学部からの利用があった。北白川試験地は、フィールド研の施設の中で唯一本学キャンパス内に所在する施設であることから、研究室に直結した研究が可能であり、その立地を活かした教育・研究利用が盛んに行われた。2011年度の利用内容は、昨年と同様であり、植栽樹木の枝葉の採取、土壌のサンプリング、植物観察等の実習や、苗畑を利用した植栽試験やガラス室内での鉢植えによる樹木類を中心とする植物の育成試験などの研究利用があった。また、他大学を対象とした森林公開実習の一環として、宇都宮大学、筑波大学、信州大学、新潟大学、人間環境大学及び京都学園大学の学部生を対象にした実習も行われた。

■施設の特記事項

2010年度にフラスの発生が確認され、ナラ枯れが心配されたもののその後の経過を追跡していた、試験地東側の学内通路沿いにあるシングルオークと、北側見本園のミズナラについては、2011年春には開葉が確認され、生存を続けていることが確認された。また、マツ枯れの被害や天災による落枝や近隣住宅地に対する被害軽減のための枝打ち作業も行う必要が生じなかったことは幸いであった。

2011年度には新たに元農学研究科技術職員が再雇用職員として配置され、試験地の業務、特に維持管理作業の能率が格段に改善された。

一方、2011年度にはセンター長裁量経費によって、マイクロ油圧ショベル(コマツPC-01-1A)を購入した。本機はコンパクトな車体であるため、試験地内のほとんどの場所での使用が可能であることから、これまで手作業に頼らざるを得なかった苗畑区画の整地、切り株除去、見本樹植栽時の掘削、側溝清掃等における作業効率の向上が期待できるものとなっている。

7) 紀伊大島実験所

紀伊大島実験所長 梅本 信也

■教育研究

紀伊大島実験所は 2004 年度以来継続している古座川プロジェクトの拠点であり、その具体的な展開である古座川合同調査を実施する植物班、きのこ班、聞き書き班、アユ班、文化班、河川班、ダム班、地震班、水害班など、官民学諸班の参加者間の連絡調整、情報交換、議論、資料閲覧、簡易宿泊の場として 2011 年度も積極的に活用された。古座川合同調査は毎月開催され、4 月の第 65 回調査から翌年 3 月の第 76 回調査まで本年度も合計 12 回実施された。古座川合同調査は当センターの 3 大柱のひとつである地域連携を前提に行っており、次項に述べる社会連携と不可分の関係にある。合計 12 回の調査内容の一部は「古座川合同調査報告集 第 6 巻」(本文は 2 段組で 295 ページ)として出版された。こうした活動に関連して、夏季に実施される集中講義やポケゼミ等実習用に「里域食文化論入門」「里域震災論入門」を刊行した。

古座川プロジェクトの展開を円滑にするために、和歌山県が主体運営する古座川流域協議会や地域行政諸機関、古座川内水面漁協、和歌山東漁業協同組合各支所との連絡調整を適宜行った。古座川プロジェクトおよび古座川合同調査で得られた成果を古座川流域ならびに串本湾岸域関係者に還元周知し、さらに高次の認識共有を達成するために、古座川町明神生活改善センターにおいて紀伊大島実験所主催、古座川流域協議会共催、関連 5 漁協後援で 2011 年 6 月に第 14 回古座川シンポジウムを開催した。テーマは清流古座川を取り戻す会による「清流古座川を取り戻す会の活動と課題」であった。

9 月には紀伊半島が台風 12 号風水害に見舞われ、古座川プロジェクトが展開している古座川流域ならびに串本湾岸域が甚大な影響を受けた。そのため、農学部 2 回生向けの集中講義実習が中止となった。

■社会連携

紀伊大島実験所は、従来の教育、プロジェクト研究、教員研究、地域貢献を意識しての諸活動を、フィールド研と統合した後は、教育・研究・社会連携に書き換えて、さらに関係地域や分野を拡大して活動している。2011 年度の延べ利用者数は 650 名前後、一般見学者、講義実習関係の大学院生、教員や研究者、行政機関職員、マスコミ関係者からの利用は毎月 30 名前後となっている。

■特記事項

1999 年に紀伊大島は本州と串本大橋により地続きとなったが、その副産物として島内にイノシシが侵入・増殖し、島民の生活に甚大な被害をもたらしてきている。和歌山県鳥獣保護区である当実験所の希少な植生、たとえばショウガ科アオノクマタケランも被害を受けているため、2009 年初夏から保護区規制を解除して和歌山県、串本町、当実験所等が共同で捕獲作戦を展開しているが、大した成果が得られていない。そこで、2011 年度秋季からは串本町、串本町猟友会と共同で当実験所を特別な捕獲エリアとし、捕獲檻を 4 基設置してイノシシ捕獲作戦を実行し、合計 8 頭の捕獲に成功した。近い将来のイノシシとの共生を視野に入れ、有害駆除期終了後も順次延長して年度越えて捕獲作戦を行っている。なお、2011 年度に得られた一連の成果は「紀伊大島のイノシシ—環境保全論への招待—」として刊行され、被害住民や関係者に配布された。

一方、和歌山県鳥獣保護区指定の構内では本年度も日本鳥学会と共同で夏期と冬期に捕獲による鳥類調査を継続して行った。

8) 舞鶴水産実験所

舞鶴水産実験所長 山下 洋

■教育研究

2011 年度に舞鶴水産実験所里海生態保全学分野に所属する大学院生の数は、修士課程 4 名、博士後期課程 10 名であり、うち 2 名はインド、台湾からの留学生、1 名は社会人（博士後期課程）、2 名は日本学術振興会特別研究員である。これに加えて、フルブライト研究員 1 名（特別研究学生；米国）、プロジェクトによる研究員 4 名（うち 1 名は韓国）が在籍し、大変にぎやかに研究活動を行っている。

本年度中に教員、大学院生が発表した原著論文は、国際誌 16 編、国内誌 4 編、学会における講演数は 58（うち国際学会 12）となった。この他、教員と共著の学会発表において、高橋宏司さん(D3)、鈴木健太郎さん(D3)、秋山諭さん(D2)、松井彰子さん(D1)が、奨励賞、最優秀ポスター賞などを受賞し、研究及び大学院生教育が高いレベルで活発に実施されていることが示された。

外部資金により水産実験所が実施しているプロジェクトは、「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化事業）」、「魚類との相互関係に基づく大型クラゲの発生制御（クラゲプロジェクト）」、「舞鶴湾におけるナマコ資源の増殖等に係る研究（ナマコプロジェクト）」、および今年度から新たに始まった「国家基幹研究開発推進事業：沿岸海域複合生態系の変動機構に基づく生物資源生産力の再生・保全と持続的利用に関する研究（沿岸複合生態系）」、「東北マリンサイエンス拠点形成事業（マリンサイエンス）」である。これに加えて、教員が代表者となる科学研究費補助金が 2 課題進行中である。「クラゲプロジェクト」と「ナマコプロジェクト」は、今年度で終了した。クラゲプロジェクトでは、クラゲの捕食者としての魚類の生態研究が行われ、クラゲの防除方法への展開が期待されている。ナマコプロジェクトでは、人工種苗生産技術および天然種苗の採集技術が確立され、舞鶴湾における新たな資源増殖手法が提案された。

さらに、3 名の大学院生が学会や科学財団の研究助成金を独力で獲得し、研究に対する大学院生の積極的な姿勢が評価される。

また、水産実験所で実施する実習・講義科目として、京都大学の学生・院生を対象とした 7 コース、他大学 5 コース、高等学校 7 コースの合計 19 コースを行った。水産実験所としての質の高いフィールド教育と高い活性が評価され、今年度から 5 年間文部科学省教育関係共同利用拠点に認定された。

■社会連携

地域社会との連携活動として、催しなどへの協力（13 件）、小・中・高等学校の生徒に対する出前講義（13 校）や教員研修（2 件）などを行った。これらの中には、サイエンスパートナーシッププログラム（京都府立南陽高校、同西舞鶴高校）、スーパーサイエンスハイスクール（京都教育大学附属高校、兵庫県立神戸高等学校）、見学学習（京都府海洋高等学校）などが含まれる。主な地域との連携活動として、由良川市民講座、舞鶴サマースクール、舞鶴市高等教育機関等合同 PR フェアなどを積極的に主催し、また、協力、参加した。このほか、当実験所教員が京都府漁業調整委員、京都府農林水産技術センター評議委員、舞鶴市チャレンジファンド委員会委員などを担当し、京都府北部域や舞鶴市の地域産業の活性化などにおいて多くの重要な役割を担った。

■施設の特記事項

舞鶴水産実験所における最も大きな課題は、水産実験所の教育研究活動の核となる緑洋丸の代船建造である。本船は平成 2 年 3 月に竣工し 23 年目に入っており、船体や機関などの不具合の発生件数はますます増加しつつある。安全な教育環境を維持するためにも早期の代船建造が強く求められる。また、平成 14 年 3 月に建てられた研究棟も軽量鉄骨による簡易的な建築物であり、耐久性が低いことから今後長期間使用できるとは考えられない。できるだけ早く鉄筋コンクリート製の建物を建築する必要がある。

9) 瀬戸臨海実験所

瀬戸臨海実験所長 朝倉 彰

■教育研究

瀬戸臨海実験所では、理学研究科の協力講座（海洋生物学分科）として、大学院生を受け入れている。2011年度の構成は、修士1名、博士3名である。その他に農学研究科から委託研究学生として博士1名を受け入れた。また、日本学術振興会の特別研究員（ポスドク）1名と特定研究員1名を受け入れた。

理学部の学部生を対象としては、夏期に2コース、春期に1コースの臨海実習を行った。それぞれ、1週間程度の期間、実験所の周囲の環境を利用し海洋環境から生物自体まで幅広い分野を教えた。また少人数セミナーを2コース開催した。

海洋生物の自然史科学に関わる人材育成を通じた高等教育の充実に対する貢献への期待と、長年にわたる他大学臨海実習受け入れの実績から、今年度から5年間、文部科学省教育関係共同利用拠点（事業名：黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点）に認定された。

■社会連携

瀬戸臨海実験所の最大の社会連携は水族館の通年公開であるが、それ以外には、京大の学生・院生を対象とした実習を8コース（瀬戸臨海実験所主催の臨海実習3コースとポケットゼミ2コースを含む）、他大学の実習を13コース、高等学校・中学校の実習を7コース、放送大学など生涯学習コースを1コース実施した。これらの実習による受け入れは総計で延べ1,934人日である。他大学の実習では、3コースについて非常勤講師や実習担当として、また高等学校・中学校の実習においてもSPPおよびSSH事業の一環となっているものを中心に、7コースについて実際の実習を担当した。

2011年度には1つの研究集会（軟体動物多様性学会大会）が瀬戸臨海実験所で実施された。

その他の社会連携として、各種の団体への委員会において重要な役割を果たし、研究成果などの社会への還元に貢献した。

10) 海域陸域統合管理学研究部門

海域陸域統合管理学研究部門 向井 宏

■教育研究

日本財団の助成により、海域陸域統合管理学研究部門は、研究と教育に取り組んできた。2011年度は、前年に引き続き全学共通教育の一環として「森林学」「森里海連環学」「沿岸環境保全学」「水圏生物学入門」を開講した。それぞれの受講生は、約50名、約150名、23名、380名であった。また、「森里海連環学実習A,B,C」の3コースを実施した。実習のAコースは、2011年度から始まった全国公開実習の学生5名とともに京都大学の学生8名が参加して行われた。Bコースは8名が参加。Cコースは北海道大学との共同実習として北海道大学生9名と京大生10名が参加して行われた。

研究面では、フィリピンにおける森里海連環学とジュゴン個体群保全の研究に、向井宏特任教授が従事、また、気仙沼舞根湾とその流域における森里海連環学研究を開始し、3名が調査に赴いた。佐藤真行特定准教授は、東北地方のストック動学に関する研究を行い、成果は2012年6月にリオデジャネイロで開催されるISEEで発表される予定である。

■社会連携

2011年度、海域陸域統合管理学研究部門は、日本財団の助成を受けて、全国4ヶ所（北海道厚岸町、京都府福知山市、京都市、高知県仁淀川町）で地域連携講座を開催した。2011年11月12日に、厚岸町情報館において、「森から海へ～海域環境の保全と人のくらし～」と題して行った。参加者は74名。厚岸町と標茶町が共催であった。

2011年9月24日に、三段池公園総合体育館で、「由良川・里山文化フェスティバル」の一環として「第3回由良川市民講座」と銘打って行われた。テーマは「森・里・海の対話～身近な視点から生態系のつながりを考える～」。参加者は、約90名であった。

10月8日に、仁淀川町池川中学校体育館で行われた仁淀川地域連携講座『国際森林年を“森林・林業再生プラン”実行元年とするために』は、290名を超える多くの聴衆が参加した。この講座は「仁淀川の“緑と清流”を再生する会」と共催した。

「東北地域連携講座」は、2011年3月11日に起こった東日本大震災と大津波の被害を受けた東北地方と連携して、震災からの復興をどう進めるかを議論するため、急遽計画され開催された。講座のテーマは『森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～』と題して、京都市の京都会館で7月16日に行った。参加者は約180名であった。当日、参加者から寄付された東日本大震災支援基金は、42,036円になった。会場で販売された京都大学出版会の書籍の売り上げの一部（14,949円）と合わせて、日本財団に寄付し、東北の復興に役立てていただいた。

■特記事項

1. 学生ボランティアの派遣

2011年度に2度にわたって行われた東北復興京都大学学生ボランティアの派遣において、海域陸域統合管理学研究部門は実務的な任務を担った。農学部等事務やフィールド研教員・技術職員らの協力を得て、現地視察、ボランティア計画立案、ボランティア募集業務（各回25名の組織）、広報、ガイダンスなどを行い、研究ボランティアについては、助言と指導を行った。

2. ICMセミナー

2011年度のICMセミナーは、6回行われた。3月11日に起こった東日本大震災を受けて、この年度のICMセミナーは、「東北の復興をいかに進めるか」を中心テーマにした勉強会が中心となった。

第17回（4月28日）東北沿岸の復興に向けての勉強会（第1回）参加者：11名

第18回（5月27日）東北沿岸の復興に向けての勉強会（第2回）参加者：7名

第19回（7月8日）横山壽氏（水産総合研究センター増養殖研究所）「有機物負荷に対する沿岸底生生物の応答と応用」参加者：16名

第20回（7月28日）東北沿岸の復興に向けての勉強会（第3回）参加者：12名

第21回（10月11日）安佛かおり（京大フィールド研）「木津川砂州の地下間隙水及び地下小水域における生元素動態」参加者：5名

第22回（11月22日）東北沿岸の復興に向けての勉強会（第4回）参加者：10名

11) 森里海連環学プロジェクト支援室

森里海連環学プロジェクト支援室長 吉岡 崇仁

■特記事項

森里海連環学プロジェクト支援室では、室長、副室長、特定研究員2名、技術職員1名、教務補佐員1名の6人体制で、森林生態、物質循環に関する野外調査、試料分析に加えて、社会調査の支援を行った。主に、木文化プロジェクトにおいて実施された仁淀川および由良川流域の調査と採取試料の処理、溶存物質・懸濁物質の分析を行ったほか、社会調査に関する意見交換と実施案を作成するための「社会調査検討会」を5回開催した。そのうち2回は「木文化サロン」として開催し、木文化プロジェクトの中心的課題である木文化に関して討議した。2011年6月22日には、木質バイオマスを利用している民間企業から外部講師を2名招いて「バイオマスセミナー」が開催され、森林資源の有効活用の課題と可能性について検討した。また、2012年3月7日には木文化プロジェクト報告会が開催された。森里海連環学プロジェクト支援室はこれらの会議、セミナー、報告会の企画・調整と実施の支援を行うとともに、室員全員が討議に参画した。2011年度の調査等の日程及び分析等の業務は以下の通りである。

<木文化プロジェクト>

- ・2011年2月 木文化プロジェクト報告書2010の発行

<木文化仁淀川プロジェクト>

- ・2011年4月19～20日 仁淀川降水採集設備設置
- ・2012年1月6～7日 仁淀川水質調査地点の確認

<木文化由良川プロジェクト>

- 由良川・丹後海調査（大野ダム調査含む）
 - ・2011年4月～2012年2月 計5回（13日）
- 芦生研究林調査
 - ・2011年4月～12月 計26回（37日）
- 芦生研究林量水堰メンテナンス
 - ・2011年6月2日、10日、9月28日、12月16日（積雪深計メンテナンス含む）

<木文化プロジェクト社会調査関係>

- ・2011年7月30日 「知ろう、守ろう芦生の森」にてシカ柵ボランティアへの聞き取り調査
- ・2011年8月24～25日 口芦生地区松上げ行事に関する聞き取り調査
- ・2011年9月14～18日 仁淀川町社会調査
- ・2011年5月～10月 社会調査検討会計5回（第6回から第10回、うち木文化サロン2回）

<木文化プロジェクト関連会議>

- ・2011年5月19～20日 仁淀川プロジェクト打ち合わせ会議・現地視察会
- ・2011年6月22日 「バイオマスセミナー」開催
- ・2011年7月28日 合同ワークショップ開催（名古屋大学地球水循環研究センターとの共催）
- ・2011年10月18日 芦生研究林下谷伐採会議
- ・2011年11月16日 芦生研究林下谷伐採予定地にて現地検討会
- ・2012年3月7日 2011年度木文化プロジェクト全体報告会

<その他>

- ・2011年8月27～29日 気仙沼湾流入河川流域の水質調査
- ・2011年10月8日 仁淀川地域連携講座運営補助（仁淀川町）

<分析・解析等>

- ・仁淀川流域及び由良川流域の地形解析（トポグラフィックインデックス）の支援
- ・水質分析と結果のとりまとめ
- ・住民意識調査の調査票設計、解析手法のとりまとめ

12) 企画情報室

企画情報室長 柴田 昌三

■特記事項

<広報>

企画情報室では、広報委員会の指示の元、定期刊行物として、年報を1冊(第8号)、ニュースレターを4号(23~26号)編集・発行・発送した。インターネット上ではフィールド研のウェブページを、随時更新している。その他、百周年時計台記念館におけるディスプレイ映像の更新、展示用パネルの管理等を行った。なお、5月に年報とニュースレターのISSN(国際標準逐次刊行物番号)登録を行った。また、11月には、「森里海連環学」の概念および各種の研究成果を解説するためのポンチ絵(概念図)をフィールド研の教職員が自由に作成できるよう、山から海までの風景を示した背景画と、その上に自由に配置できる動植物や建物等のパーツ(計61点)を作成した。

<情報システムの企画、開発、運用>

企画情報室では、学内ネットワークにおけるVLANの設定、メーリングリストの管理、大判プリンタなど共用機器類の管理、各施設等の不具合等に対する連絡調整、各施設の教職員が参加するテレビ会議システムの運用などを担当している。2011年度4月から、公開ウェブページを、WordPressというブログ用ソフトウェアをカスタマイズしたCMS(コンテンツマネジメントシステム)を使って運用し始めた。2011年度末までに作成・公開したページは756ページとなった。連動して整備した映像データベースでの写真の公開は2,030枚となった。また、H.323に準拠したテレビ会議システムの舞鶴水産実験所への整備が4月に完了し、学内の「高精細遠隔講義システム」と一体となって運用できるようになったほか、国内外と接続して講義やゼミをおこなうことが可能となった。5月には、旧演習林事務室改修工事に伴う北白川試験地・連携研究推進棟などへのネットワーク設備における雷サージ保護装置の更新を行った。10月から、「FSERCニュースメール」の電子メール配信を送信先アドレス数503件で開始した。利用者の要請があり、12月から大判プリンタ用の用紙として光沢紙を新たに用意した。2月には、情報部の協力によって紀伊大島実験所に機器を設置し、フィールド研全施設のKUINS(京都大学学術情報ネットワークシステム)への収容が完了した。また、情報部による無線LAN基地局設置を支援し、2011年度は、旧演習林事務室棟・北部総合教育研究棟・北海道研究林への設置が行われた。なお、総合技術部第6群研修を10月に瀬戸臨海実験所で開催し、全学の情報系技術職員とともに、隔地施設における情報ネットワーク及び機器の災害対策等について議論した。

<各施設及びセンター教職員の各種情報の収集>

企画情報室は、フィールド研及び教職員の各種活動状況を収集するため、各施設から毎月報告される利用実績報告書の集計、新聞・雑誌等のセンター関連記事の収集、講義や事業の映像記録、研究業績・外部資金・各種活動などの業績調べをおこなっている。また、教職員の利用するコンピュータとソフトウェアライセンスの管理状況について、職員対象は年2回、教員対象調査は年度末に1回、回答を集約し報告した。なお、2011年度に「教育研究活動データベース」として公開された「教員活動データベース」のデータとして、企画情報室で集約していた教員の業績データを整理し、既存データでは登録されていない2,067件のデータを9月に情報部に提供し追加登録していただいた。その後、フィールド研全教員がデータを確認し、1月30日に全データを公開することができた。

<センター常設各種委員会に係る実務>

企画情報室では各種委員会の実務を担当しており、シラバス調べ、アンケート集計、各種調書への対応、全施設におけるコンピュータウィルス対応支援などを行っている。今年度は部局情報セキュリティ委員会の指示により、9月に「情報セキュリティ対策現状調査票」回答の提出、1月に「情報セキュリティポリシー実施手順書」の作成を行った。また、社会連携委員会からの指示で、芦生研究林で開催する公開講座での高校生枠応募の準備を行い、総合博物館や京都府教育委員会との連携や、大阪府教育センターや京都府生物教育会等を通じた広報協力をしていただいた。

<センター行事(イベント)に係る実務>

企画情報室は、7月の公開講座(芦生)及び同じく7月に開催した東北地域連携講座の運営の一部を担当した。

<その他>

企画情報室は、各種申請・提出書類の作成の支援、センター長秘書に係る実務、公用車管理の一部、施設・教職員による業務の支援、教職員交流イベントの開催支援等を弾力的に行った。

(2) 各施設を利用した学生実習等

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.04.23 ~ 11.04.24	2	京都大学	情報学研究科	生物圏情報学講座ゼミ		34	17	
11.04.28	1	京都大学	農学部	食料・環境経済学入門	1回生	34	4	
11.05.03	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森林の再生と動態」	全学1回生	3	1	
11.05.03 ~ 11.05.05	3	京都大学	理学部	京都大学野生生物研究会 自然観察会		27	0	
11.05.16 ~ 11.05.18	3	京都大学	農学研究科森林科学専攻	森林科学特別科目 ならびに 短期交流学生向け研修 (国際森林学生連盟第2回アジア地域会議)		114	12	
11.05.28 ~ 11.05.29	2	京都大学	生態学研究センター	生態科学IIゼミナール第4部/発酵・菌類ゼミナール合同見学会		22	2	
11.06.25 ~ 11.06.26	2	京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科	アジア・アフリカ地域研究演習	M1	38	8	
11.07.07 ~ 11.07.08	2	京都大学	生態学研究センター	京都大学グローバルCOE国際シンポジウム参加者による芦生演習林の観察		48	52	
11.07.02 ~ 11.07.04	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	全学1回生	20	6	
11.08.18 ~ 11.08.19	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「環境の評価」	全学1回生	18	2	
11.08.08 ~ 11.08.09	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A (芦生研究林・由良川・丹後海コース)	全学全回生	33	10	公開実習
11.08.10 ~ 11.08.13	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森を育て活かすー林業体験をとおして考える」	全学1回生	52	13	
11.08.29 ~ 11.09.02	5	京都大学	農学部	研究林実習I	2回生	126	24	
11.09.26 ~ 11.09.29	4	京都大学	農学部	森林利用学実習及び実習法	3回生	90	35	
11.09.13 ~ 11.09.16	4	京都大学	農学部	研究林実習II	3回生	71	20	
11.09.20 ~ 11.09.22	3	京都大学	理学部 生物科学専攻	野外実習第1部		21	6	
11.09.09 ~ 11.09.10	2	京都大学	農学研究科応用生物科学専攻	防鹿柵内外の植生比較 (自主ゼミ)		16	2	
11.10.08 ~ 11.10.10	3	京都大学	生態学研究センター	生態科学IIゼミナール第4部 (理学研究科) / 真菌自然史 (総合人間学部) / 行動発達論 (人間・環境学研究科) / 発達論 (総合人間学部) 合同見学会		30	9	
11.11.03	1	京都大学	理学研究科生物科学専攻	フィールドワーク実習ー菌類層から森を考えるー		35	6	
11.11.05	1	京都大学	農学部	研究林実習I	2回生	2	0	
12.02.10 ~ 12.02.13	4	京都大学	フィールド研	暖地性積雪地域における冬の自然環境	全学全回生	50	13	
11.08.01	1	石川県立大学	生物資源環境学部	日本海側の森林の潜在的植生の観察とシカによる食害が植生に与える影響の把握		11	2	
11.09.05 ~ 11.09.07	3	京都大学	フィールド研	公開森林実習	全大学全回生	15	13	公開実習
11.09.05 ~ 11.09.07	3	人間環境大学	京都学園大学	共同フィールドワークB	全回生	18	19	
11.10.09 ~ 11.10.11	3	京都造形芸術大学	こども芸術学科	科目名「こどもといのち」 こども狩猟採集学入門：自然と地域とこども		105	6	
11.11.04 ~ 11.11.05	2	神戸大学	農学部	応用植物学専門演習		16	4	
11.11.05	1	京都造形芸術大学	日本庭園・歴史遺産研究センター	The Japanese Garden Intensive Seminar		19	4	
計	67		(27件)			1,068	290	

北海道研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.08.06 ~ 11.08.10	5	京都大学	農学部 食料・環境経済学科	調査研究方法実習I・II	2回生	30	11	標茶区
11.08.27 ~ 11.08.30	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習C (北海道大学との共催)	全学共通	76	41	標茶区
11.09.04 ~ 11.09.11	8	京都大学	農学部	研究林実習III 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学共通	131	72	標茶区
11.09.05	1	京都大学	農学部	研究林実習III 夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学共通	15	10	白糠区
12.02.19 ~ 12.02.25	7	京都大学	農学部	研究林実習IV 冬の北海道・北海道東部の厳冬期の自然環境	全学共通	113	61	標茶区
計	25		(5件)			365	195	

和歌山研究林

(台風被害によりすべて中止・該当案件なし)

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.04.09	1	京都大学	農学部 森林科学科	農学部森林科学科ガイダンス		57	25	
11.05.21	1	京都大学	大学院農学研究科	農学研究科森林科学専攻 新入生ガイダンス及び歓迎会		159	31	
11.06.08	1	京都大学	農学部 地域環境工学科	「土壌物理学・水環境工学実験」土壌の三相分布測定及び浸入能試験実習	3回生	26	1	
11.06.08 ~ 11.06.29	3	京都大学	農学部 森林科学科	森林生物学実験及び実験法	3回生	80	3	
11.06.02 ~ 11.06.09	2	京都大学	農学部	森林総合実習及び調査法	3回生	56	2	
11.06.07	1	京都大学	生態学研究センター	生物学実習B 野外調査法(生態)	3回生	14	1	
11.06.19	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	1回生	4	1	
11.06.14	1	京都大学	農学部	少人数セミナー「京都の森を襲った2つの森林流行病」	1回生	5	1	
11.07.06	1	京都大学	農学部 森林科学科	森林生物学実験及び実験法	3回生	27	1	
11.08.22	1	京都大学	大学院地球環境学舎	里山再生論	M1, M2	9	3	
11.10.06	1	京都大学	農学部	森林科学実習	2回生	66	9	
12.01.28	1	京都大学	大学院地球環境学舎	土壌学特論		5	3	
12.02.20	1	京都大学	農学部	少人数セミナー「京都の森を襲った2つの森林流行病」	1回生	2	1	
12.03.15	1	京都大学	農学部	資源生物学実験及び実験法	3回生	2	1	
11.05.11	1	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	庭園実習Ⅰ・Ⅱ	3回生	16	2	
11.07.04	1	京都精華大学	人文学部環境社会学科	自然教育論	2~4回生	14	1	
11.07.04 ~ 11.07.31	2	京都府立大学	生命環境学部	森林植物学実習	2回生	48	5	
11.07.05	1	京都府立大学	生命環境学部	森林植物学実習	3回生	32	3	
11.09.05	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		5	4	公開実習
11.09.05	1	人間環境大学・京都学園大学		共同フィールドワークB	全回生	6	5	
11.09.27	1	京都教育大学	教育学部	「栽培実習Ⅱ」及び「食農教育の実践Ⅱ」	2回生	16	2	
11.11.16	1	京都産業大学	法学部	自然地理学応用	2~4回生	16	1	
11.11.30	1	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	庭園実習Ⅰ・Ⅱ	3回生	10	2	
計	27		(23件)			675	108	

徳山試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.08.09 ~ 11.08.12	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「瀬戸内に見る森里海連環」	1回生	28	8	
計	4		(1件)			28	8	

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.04.08	1	京都大学	農学部	有機化学実験及び実験法	3回生	38	4	
11.04.20	1	京都大学	農学部	「土壌物理学・水環境工学実験」採土方法の習得と土壌の三相分布測定	3回生	26	1	
11.06.15	1	京都大学	農学部	有機化学実験	3回生	4	2	
11.08.26	1	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験及び実験法	3回生	3	1	
11.10.03 ~ 11.10.17	2	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験及び実験法	3回生	27	2	
11.11.16	1	京都大学	農学部	生物有機化学Ⅲ	3回生	34	1	
11.09.07	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		5	1	公開実習
11.09.07	1	人間環境大学・京都学園大学		共同フィールドワークB	1~4回生	6	2	
計	9		(8件)			143	14	

紀伊大島実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.08.08 ~ 11.08.08	4	京都大学	大学院地球環境学舎	里域植生保全論	院生	24	4	
11.08.22 ~ 11.08.26	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森里海のつながりを清流古座川に見る」	全学部1回生	35	5	
11.09.14 ~ 11.09.18	5	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習B	全学全回生	40	25	
計	14		(3件)			99	34	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.07.01 ~ 11.07.03	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「魚類心理学入門」		27	3	
11.08.09 ~ 11.08.12	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A		52	23	公開実習
11.08.19 ~ 11.08.31	13	京都大学	農学部 資源生物科学科	海洋科学技術論と実習Ⅰ・Ⅱ		178	28	公開実習
11.08.01	1	京都大学	大学院地球環境学	環境マネジメント夏期野外実習(船の実習・磯の実習)		33	10	
11.09.12 ~ 11.09.15	4	京都大学	農学部・大学院農学研究科	実習 水文学実験(学部) 水資源利用工学実験(大学院)		144	12	
11.10.15 ~ 11.10.16	2	京都大学	大学院理学研究科	地質科学野外巡検Ⅰ(大島半島巡検)		22	6	
12.02.21 ~ 12.02.23	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「日本海に遊ぶ」		27	3	
11.05.24 ~ 11.05.28	5	近畿大学	農学部	環境生態学実習・実習Ⅰ, 海藻藻場実習		130	10	
11.08.31 ~ 11.09.05	6	岐阜大学	教育学部	臨海実験法および実験		72	24	
11.12.27 ~ 12.03.21	5	広島大学	大学院生物圏科学研究科	沿岸魚類生産学実習Ⅰ,Ⅱ		25	5	
計	46		(10件)			710	124	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
11.04.09 ~ 11.04.10	2	京都大学	理学部	インターラボ		102	4	
11.08.06 ~ 11.08.12	7	京都大学	理学部	臨海実習第2部		21	28	
11.08.29 ~ 11.09.04	7	京都大学	理学部	臨海実習第1部+公開臨海実習「海洋生物学、特に無脊椎動物の分類・発生」		84	35	公開実習 /本学学生:9人、 他学学生:3人
11.09.07 ~ 11.09.11	5	京都大学	地球環境学	探究型化学実験「湖と海の化学調査」		45	15	
11.09.10 ~ 11.09.14	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海産無脊椎動物-分類群と形の多様性」	1回生	20	5	
11.11.23 ~ 11.11.27	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海岸生物の生活史」		5	5	
11.11.23	1	京都大学	大学院人間・環境学研究科	留学生見学旅行	留学生	29	4	
12.02.21 ~ 12.02.24	4	京都大学	人間・環境学研究科	生物学実習	全学共通	52	12	
12.03.09 ~ 12.03.14	6	京都大学	理学部	臨海実習第3部	理学部	24	18	
11.04.02 ~ 11.04.05	4	龍谷大学	法学部(環境サイエンスコース)	環境フィールドワーク 白浜臨海実習		64	12	
11.04.17 ~ 11.04.22	6	和歌山大学	教育学部(生物学教室)	臨海実習		120	18	
11.05.30 ~ 11.06.04	6	奈良女子大学	理学部	臨海実習Ⅱ		102	18	
11.06.15 ~ 11.06.19	5	奈良教育大学	教育学部	臨海実習(野外実習A-II)		75	15	
11.06.30 ~ 11.07.04	5	大阪教育大学	教員養成課程理科教育講座	臨海実習		80	5	
11.07.12 ~ 11.07.18	7	大阪市立大学	大学院理学研究科	臨海実習		77	21	
11.07.29 ~ 11.08.01	4	近畿大学	農学部	環境生態学実習・実習		112	4	
11.08.01 ~ 11.08.05	5	信州大学	理学部化学科	海洋化学実習		45	20	
11.08.16 ~ 11.08.20	5	関西学院大学	理工学部	臨海実験		120	25	
11.08.22 ~ 11.08.25	4	滋賀県立大学	環境科学部環境生態学科	自然環境特別実習および環境学野外実習		72	12	
11.09.12 ~ 11.09.14	3	奈良女子大学	理学部	実習		6	3	
11.09.12 ~ 11.09.17	6	大阪大学	理学研究科生物科学専攻	生物学臨海実習		126	24	
11.09.22 ~ 11.09.25	4	島根大学	教育学部自然環境教育講座	フィールド科学実習		64	8	
11.09.27 ~ 11.10.01	5	大阪大学	科学・生物学複合メジャーコース	白浜臨海実習		80	15	
12.03.21 ~ 12.03.27	7	京都大学	フィールド研	公開臨海実習「海洋無脊椎動物の多様性と進化学」		63	56	公開実習 /本学学生1人・ 他学学生8人
計	118		(24件)			1,588	382	

(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.06.19	1	南丹市教育委員会	なんたんわくわくキッズ開始式・芦生研究林ハイキング	小学5・6年生	34	6	
11.07.28	1	南丹市立平屋小学校他	美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」	小学4年生	34	9	
11.08.07 ~ 11.08.08	2	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	学校設定科目「環境論」 SSH事業	高校生	64	0	
11.10.25	1	京都府立北桑田高等学校	環境科学基礎	高校生	30	4	
11.11.02	1	光の子どもインターナショナルク	本学中高生の自然観察学習	中・高生	30	8	
11.05.08 ~ 11.12.06	17	NPO法人芦生自然学校	野鳥観察、ネイチャートレッキング、植物観察、水中生物観察、シャワークライミング		295	0	
11.05.28	1	京都大学 フィールド研	春の自然観察会		11	11	主催
11.07.22 ~ 11.07.24	3	京都大学 フィールド研	フィールド研 公開講座「今、森から考えるー森のめぐみー」		116	68	主催
11.07.30 ~ 11.08.03	2	南丹広域振興局農林商工部	知ろう、守ろう芦生の森ー芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動ー		49	19	
11.10.14	1	社団法人自然環境共生技術協会	野外研修		20	0	
11.10.22	1	京都大学 フィールド研	秋の自然観察会（京大ウィークス参加事業）		16	10	主催
11.11.03	1	鯖江市特産づくり応援室	森、里、海の連関		14	3	
11.11.03 ~ 11.11.04	2	京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科	日本の森林をタイ・インドの森林研究者の方々に紹介する		16	2	
11.11.06	1	美山町環境保全対策協議会	芦生自然環境ウォーク		24	2	
11.11.07	1	京都園芸倶楽部	芦生原生林見学		22	0	
11.11.10	1	(株)NHK文化センター梅田教室	自然観察「秋の芦生原生林を観る」		20	0	
11.11.21	1	芦生地域有害鳥獣対策協議会・南丹広域振興局	芦生の森に設置したシカ防護ネット内の観察及びネットを下ろす作業の体験		14	5	共催
計	38	(17件)			809	147	

北海道研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.05.27	1	標茶町立標茶小学校	遠足	小学3年生	61	1	
11.06.21	1	標茶町立沼幌小学校	草木染め教室（図工）	小学生	13	6	
12.01.21 ~ 12.01.22	2	標茶町教育委員会	平成23年度しべちャアドベンチャースクール第5ステージ「冬の雪山活動」ー京都大学森林ステーションでの雪上散策	小中高生	35	8	後援
11.07.23	1	京都大学 フィールド研	ミニ公開講座	一般	10	7	主催/標茶区
11.07.30	1	京都大学 フィールド研	ミニ公開講座	一般	7	6	主催/白糠区
計	6	(5件)			126	28	

和歌山研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.04.19 ~ 11.11.29	14	県立有田中央高等学校清水分校	ウッズサイエンス	高校3年生	55	58	
11.05.10	1	県立有田中央高等学校清水分校	総合的な学習の時間「SIMIZUタイム」（森林ウォーク）	高校1年生	22	7	
11.06.10 ~ 11.11.14	2	有田川町立八幡小学校	総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」	小学5年生	25	11	
計	17	(3件)			102	76	

上賀茂試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.11.22	1	総合地球環境学研究所	上賀茂試験地の施設見学及び散策	高校2年生	46	0	
11.04.23	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地春の自然観察会		30	8	主催
11.12.15 ~ 11.12.17	2	NPO法人エコロジーカフェ関西事務所	第6回エコの寺子屋		13	3	
11.10.15	1	京都大学 フィールド研	上賀茂試験地秋の自然観察会（京大ウィークス参加事業）		27	7	主催
11.11.26	1	京都市青少年科学センター	平成23年度京都市青少年科学センター未来のサイエンティスト養成事業体験コース	小学4年生～中学生	29	7	共催
計	6	(5件)			145	25	

徳山試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.06.12	1	徳山試験地・周南市	京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座		30	4	共催
11.09.11	1	徳山試験地・周南市	京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座		29	4	共催
11.11.13	1	徳山試験地・周南市	京都大学フィールド科学教育研究センター・周南市連携講座		26	4	共催
計	3	(3件)			85	12	

北白川試験地

(該当案件なし)

紀伊大島実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.07.09	1	和歌山県立日高高等学校	SSH「紀伊大島照葉樹林の観察」	高校1-2年生	16	1	
計	1	(1件)			16	1	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.05.11	1	京都府立海洋高等学校	日本海の生物多様性に関する講義と標本を用いた実習	高校生	25	1	
11.06.28	1	兵庫県立神戸高等学校	第1回サイエンスツアー	高校生	44	2	
11.07.21 ~ 11.07.22	2	京都府立西舞鶴高等学校	SPP実習での実験・調査	高校生	86	6	
11.07.26	1	兵庫県立西宮今津高等学校	「フィールド科学実習」の底生生物同定作業	高校生	19	1	
11.07.28 ~ 11.07.30	3	京都教育大学附属高等学校	臨海実習のため	高校生	72	5	
11.08.03	1	京都府立南陽高等学校	臨海実習 施設見学と講義	高校生	44	1	
11.08.03	1	京都府教育委員会	「ふくしまっつ子応援京・体験プロジェクト中学生コース」魚類採取体験	福島県被災小・中学生	38	2	
11.08.26	1	富山県立氷見高等学校	施設見学と講義	高校生	21	1	
11.10.04	1	舞鶴市立三笠小学校	遠足(水産生物標本館見学)	小学生	84	1	
11.11.14	1	舞鶴市立中保育所・中舞鶴幼稚園・中舞鶴小学校	ナマコ見学会	保育園児他	111	1	
12.01.05	1	京都市立堀川高等学校	施設見学と講話「里海生態保全学とは」	高校生	27	1	
11.07.14	1	NPO法人 シニア自然大学校	「森と海の自然科」研修		16	1	
11.08.18	1	舞鶴市	まいづるサマースクール	小学生	35	1	
計	16	(13件)			622	24	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
11.05.21 ~ 11.05.22	2	京都大学 理学研究科	最先端科学の体験型学習講座(ELCAS) 修了発表会および合宿	高校生	60	12	
11.05.30	1	白浜町立白浜第二小学校	水族館のバックヤード見学・餌やり体験	小学4年生	33	0	
11.06.13	1	白浜町立白浜第二小学校	水族館のバックヤード見学	小学5年生	25	2	
11.07.22 ~ 11.07.25	4	滋賀県立膳所高等学校	サイエンスキャンプ(第42回生物実習旅行)	高校生	108	0	
11.07.26 ~ 11.07.27	2	奈良女子大学附属中等教育学校	SSH事業 サイエンス夏の学校	高校生	46	0	
11.07.28 ~ 11.07.29	2	奈良県立奈良高等学校	サイエンスツアー	高校生	24	0	
11.07.30	1	瀬戸臨海実験所+和歌山県	紀の国森づくり「最先端大学見学会」(和歌山県紀の国森づくり基金活用事業)	小中高学校	24	1	
11.08.02 ~ 11.08.03	2	白浜町立第一小学校	地域社会体験研修	小学生	2	0	
11.08.10 ~ 11.08.11	2	田辺市立高雄中学校	地域社会体験研修	中学生	2	0	
11.08.26 ~ 11.08.27	2	兵庫県立尼崎小田高等学校	臨海実習 SSH事業	高校生	28	0	
11.10.07	1	奈良県立奈良北高等学校	「海の動物の多様性について」の講義・水族館見学	高校生	43	1	
11.10.08 ~ 11.10.10	3	大阪府立住吉高等学校	水族館見学	高校生	114	0	
11.10.11 ~ 11.10.13	3	兵庫県立西宮南高等学校	臨海実習	高校生	39	0	
11.10.19	1	みなべ町立上南部小学校	水族館のバックヤード見学	小学2年生	47	3	
11.10.28	1	白浜町立北富田小学校	水族館のバックヤード見学	小学2年生	21	2	
11.11.02	1	みなべ町立高城小学校	水族館のバックヤード見学	小学1・2年生	25	2	
11.11.17	1	白浜町立北富田小学校	水族館のバックヤード見学	小学3年生	14	2	
12.01.04 ~ 12.01.06	3	大阪府立豊中高等学校	水族館の案内・解説	高校生	54	3	
11.04.01 ~ 11.04.07	7	瀬戸臨海実験所白浜水族館	「日替わり解説ツアー」「バックヤードツアー」		125	7	主催
11.04.08	1	海の哺乳類情報センター	鯨セミナー		25	8	共催
11.04.15	1	白浜エネルギーランド(株)	研修見学(新人研修)		5	0	
11.05.21 ~ 11.06.18	3	和歌山県教育委員会	体験学習「水族館の磯採集体験」「水族館の飼育体験」		50	24	共催
11.07.15	1	NPO法人シニア自然大学校 環境科	水族館のバックヤード見学		42	2	
11.07.21 ~ 11.08.31	42	瀬戸臨海実験所	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」		648	42	主催
11.08.01	1	白浜町教育研究会 小学校5年生部会会員	「バックヤード体験・餌やり体験・飼育教集計体験」	小学校教員	11	2	
11.08.02	1	兵庫県私立中学高等学校理科教育研究会	水族館のバックヤード見学	高校教員	19	2	
11.08.09 ~ 11.08.25	6	白浜温泉旅館協同組合	「海の中まで白浜を知っちゃおう！」(解説ツアー、バックヤードツアー)		78	6	
11.10.15	1	瀬戸臨海実験所	施設見学会(京大ウィークス参加事業)		4	2	主催
11.10.22 ~ 12.02.18	3	和歌山県教育委員会	体験学習「水族館の磯採集体験」「水族館の飼育体験」		46	13	共催
11.12.11	1	ボーイスカウト田辺第1団	水族館の案内・解説	小学1年生他	11	1	
11.12.23 ~ 12.01.09	18	瀬戸臨海実験所白浜水族館	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」		261	18	主催
12.02.06	1	瀬戸臨海実験所	第24回瀬戸海洋生物学セミナー		4	4	主催
12.03.24 ~ 12.03.31	7	瀬戸臨海実験所白浜水族館	「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」		130	8	主催
計	127	(33件)			2,168	167	

●●● 3. フィールド研教職員の活動の記録 ●●●

(1) 新任教員紹介

朝倉 彰 教授

基礎海洋生物学部門 海洋生物多様性保全学分野／瀬戸臨海実験所長

1月1日付で瀬戸臨海実験所に参りました。

私はこれまで海洋生物とその多様性をキーワードとして、無脊椎動物、特に甲殻類を中心に個体群動態、群集構造の解明、動物行動学、系統分類と進化、生物地理等を基盤とするグローバルかつ歴史的なプロセスも含めた総合的な視点からの研究を行ってきました。前任地は神戸大学の理学研究科の生物多様性講座です。もともと大学の卒論生であった時代から大学院時代を、ずっと臨海実験所で過ごしてきましたので、新しく着任したというよりは、まるで古巣に戻ってきたような感覚です。この瀬戸臨海実験所にも、自分が修士課程のころから、採集やセミナーなどでお世話になってきましたので、なにか不思議な感じがあります。

私の研究は生物学の中でもいわばマクロ系の研究分野の最たるものでありますが、現在はこうした分野は生物学の中でも、日本の全国的にもそして世界的にも研究室の数が次第に減りつつあり、それがひとつの問題ともなっています。と言いますのも、今は地球規模での環境問題と生物多様性の危機などが叫ばれる時代であります。世界のさまざまな海域で最新の機器を用いて新しい採集調査が行われるたびに、おびただしい数の未記載種が見つかっています。私が特に専門としている十脚甲殻類（エビ、カニ、ヤドカリ）は、研究が進んでいると思われていますが、それですら現在の未記載種の発見の速度から外挿すると、地球上に生息している種の2~3割くらいしか発見されていないと思われまます。つまり研究という立場からいえば、まだ多様性の実態が把握しきれていない未成熟な段階にあります。ましてや、生態学的手法を応用しての保全の問題は、まだまだ夢のように遠い先にあり、しかしその一方で人為的な影響による海洋環境の変化は急激なものがあります。

われわれが生物というものの実体をこの世界の中でとらえるとき、それはそこに生息している生態的な状態としてとらえます。そこから研究はスタートし、生命の謎の解明にむかって研究が進んでいき、その奥へ奥へと行ったときにミクロな生物学の分野へと研究は進みます。しかしそこで解明された生命現象のあり方は、結局はこの世界にその生物が存在している意味へと還元されます。そのような意味において、マクロ生物学はあらゆる生物学の出発点であると同時に、最終的に到達すべきところであると思っています。また先に書きましたように、生物多様性の研究は地球環境の問題とともに現代的な、そして重要な応用的側面をもった問題であります。

このような認識の下、この瀬戸臨海実験所においてこの分野の研究を推進してまいりたいと思っております。また京都大学は、全国的にみてもおそらく最もマクロ系の生物学の研究がさかんな分野であると思われまますし、関係するさまざまな研究室の皆様とも交流させていただければと思っております。フィールド研の皆様におかれましては、なにとぞよろしくご指導とご鞭撻を賜れば、幸いに存じ上げまます。



館野 隆之輔 准教授

森林生物圏部門 森林環境情報学分野

4月1日付けで鹿児島大学農学部から准教授として赴任してきました。学部時代は、京都大学の林学科に所属しておりましたので、演習林（現研究林）には実習などでお世話になっていました。実習中は、夜はお酒をたくさん飲み、昼はほどほどに働く「真面目な」学生でした。大学院時代は森林生態学研究の調査地として、主に芦生演習林を使わせてもらって色々と楽しい研究をさせて頂きました。学位取得後は、1年間非常勤職員としてフィールド研にお世話になりましたが、当時はフィールド研がまだ出来たばかりで、「森里海連環学」をどうやって作っていくのかといったことが熱く議論されていたようでしたが、私自身は調査や実験のお手伝いをしていただけて、あまり全体での議論のお手伝いを出来なかったのが残念です。その後、ポスドクとして総合地球環境学研究所で1年半ほどお世話になり、地球環境問題の解決に資するような学問分野を構築するべくプロジェクト研究に携わりました。所属した研究プロジェクトでは、流域環境の自然科学的な情報と人々の環境意識を結びつける方法論を開発するために、自然科学者や社会科学者など色々な分野の研究者の間を繋ぐ役割が与えられ、これまで自然科学（しかも森林生態学の極めて狭い世界）にどっぷり浸かっていた状況とは大きく変わり、試行錯誤の中で色々と勉強させて頂きました。当時のプロジェクトリーダーがフィールド研の吉岡教授です。



教員としてのキャリアのスタートとなった鹿児島大学農学部では、育林学研究室に所属し、育林学（昔の造林学）や樹木実習などの科目を担当しつつ、今では全国的にも珍しくなった昔の林学科のような教育体系がしっかり残る森林科学コースの教育に携わりました。学部時代は、林学科に所属し5年間(?)しっかり勉強したものの、久しく林業から離れた分野にいたため、これまた色々と勉強しながら、何とか役目を果たせるようにと頑張ってきました。卒業生の多くは、森林・林業系の公務員や企業に就職し頑張ってくれているようで、日本の森林・林業の再生に微力ながら貢献できたのではと勝手に思っています。

これまでの学部時代からのざっと20年間(!)を振り返ると、研究対象は森から抜け出して流域環境、地球環境と順々にスケールアップ（少なくとも所属先は）していきましたが、再び森に帰って学部の森林・林業技術者教育をやっていたという感じでしょうか。これまでは学部教育が本務で、授業・実習や卒業論文研究の指導、研究室や教育コースの運営などが主な任務と考えてやってきましたが、フィールド研では最先端の研究を走らせている教職員や大学院生などと連携しつつ自分の研究を少しでも発展させる一方で、研究林や試験地を魅力あるフィールドとして育てていくことに力をいれていきたいと思っています。またフィールド研が掲げる柱でもある「森里海連環学」をさらに強固なものにするべく、プロジェクト研究やフィールド研内の議論に積極的に関わっていければと思っています。皆さまのご指導ご鞭撻、よろしくお願いたします。

中野 智之 助教

基礎海洋生物学部門 海洋生物進化形態学分野

4月1日に瀬戸臨海実験所に助教として赴任しました中野智之です。現在は海産巻貝類であるカサガイを研究の対象とし、DNA データを用いた系統分類を主に行っています。しかし、もともとは恐竜に興味があり、学部時代は高知大学で地球科学を学びました。その後、古生物学と分子系統学を融合させたいと思い、修士から名古屋大学へ移り、カサガイ類の研究を始めました。博士課程のころから世界中のカサガイ類を取り歩き、様々な国を訪れました。また、学位取得後は、ポスドクとして、ニュージーランドのオタゴ大学で現地のカサガイを研究し、帰国後は国立科学博物館に所属していました。カサガイ類は、単純な笠型の貝類ですが、生息環境に合わせて様々な進化し、さらにはその遺伝情報にいろいろな地球科学的なイベントの情報を刻み込んでいます。そんな奥の深いカサガイ類を研究していて、気づけばもう10年近くが経ちました。しかし、まだまだ分からない事だらけで興味は尽きません。

瀬戸臨海実験所に赴任したことで、これまでできなかったフィールドに密接に関連した生態データを取ることができるようになりました。今後、これまでの古生物学、分子系統学的手法に合わせて、詳細な生態データを加えることで、さらなる面白い研究が可能となることを期待しています。



佐藤 拓哉 特定助教

次世代研究者育成センター

平成23年4月より京都大学次世代研究者育成センター（白眉プロジェクト）の特定助教に着任し、フィールド研に受け入れていただくことになりました。

私は卒論からこれまで、サケ科魚類やそれを育む森林-河川生態系の保全に関する様々な生態学研究を行ってきました。時には山の中に1カ月以上も泊まりこみ、産卵行動にいそむイワナたちを毎日観察したりもしました。研究のモットーは、自らが疑問をもった自然現象を科学的に解き明かし、それを保全につなげることです。

ここ最近の研究課題は、森林と河川をまたぐ様々な資源の移動はサケ科魚類をどのように育み、またサケ科魚類は森林-河川生態系の中でどのような役割を果たすのか？という疑問を解くことです。特に、ハリガネムシという寄生虫が、森の昆虫類（カマドウマやキリギリス類）に寄生・行動操作して河川に飛び込ませることで、森の昆虫類を食べるサケ科魚類を育てているという現象に関する研究を進めています。こういった研究を通して、これまで個別に扱われてきた森林と河川管理をうまく融合して、「森林-河川生態系」の保全・管理を進める理論的な枠組みをつくっていければと考えています。

一方でフィールド研は、森林と河川の繋がりに加えて、人里やさらには海との繋がりを明らかにすることを大きな目標の一つに掲げています。森・川・里・海という生態系は、様々な時空間スケールで様々な資源を受け渡しあって機能する動的なシステムです。そのような巨大なシステムを理解して保全・管理につなげることは、容易ではありません。私は、フィールド研に受入れていただいたこの好機を生かして、様々な研究分野の方々と情報交換をさせていただく中で、この大きなテーマを解決に導く自分なりのアイデアを絞り出したいと考えています。



(2) フィールド研関連事業における活動

◆フィールド科学教育研究センター 刊行物

□フィールド研年報

『京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第8号』, 京都大学フィールド科学教育研究センター, 144p, 2011.

□ FSERC News

< No. 23 2011年6月 >

—目次—

センター長就任挨拶

ニュース： 教育拠点として2施設が文科省より認定 [速報] (山下 洋)
気仙沼での緊急シンポジウムに参加 (柴田 昌三)

新人紹介： 舘野 隆之輔
中野 智之
佐藤 拓哉

活動の記録： 2011年2月～5月

予定

被災された森林系および海洋系の研究者・学生の支援について

フィールド散歩： 各施設及びその周辺の写真6枚

<No. 24 2011年9月 >

—目次—

教育ノート： 瀬戸臨海実験所, 舞鶴水産実験所が文部科学省共同利用拠点に認定 (山下 洋)

社会連携ノート： 東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興を
どう進めるか～」 (向井 宏)
21回目を迎えた芦生公開講座を終えて (柴田 昌三)

研究ノート： クニマスの「発見」について (中山 耕至)

活動の記録： 2011年6月～8月

予定

フィールド散歩： 各施設及びその周辺の写真6枚

<No. 25 2011年12月 >

—目次—

社会連携ノート： 東北復興学生ボランティア (佐藤 真行)

徳山試験地における周南市との連携事業 (中島 皇)

3つの地域連携講座 (日本財団助成) (向井 宏)

公開シンポジウム「知ろう, 守ろう芦生の森-芦生の森が
問いかけているもの-」 (吉岡 崇仁)

教育ノート： 教育関係共同利用拠点としての公開実習を開始 (上野 正博・中西 麻美)

2012年度の公開実習実施予定

ニュース： 『改訂増補 森里海連環学』出版
和歌山研究林仮事務所
「FSERC ニュースメール」配信登録募集

活動の記録： 2011年9月～11月

フィールド散歩： 各施設及びその周辺の写真6枚

<No. 26 2012年3月>

—目次—

研究ノート：	カナダ在外研究紹介	(佐藤 拓哉)
新人紹介：	朝倉 彰	
教育ノート：	日本財団助成事業の成果紹介	(向井 宏)
ニュース：	台風12号による和歌山研究林被害状況	(徳地 直子)
活動の記録：	2011年12月～2012年2月	
	2012年度の公開実習実施予定	
	予定	
	フィールド散歩：各施設及びその周辺の写真6枚	

□研究林・試験地情報

『研究林・試験地情報 2010 (平成22)年度』, 京都大学フィールド科学教育研究センター森林・里域フィールド管理部門, 116p, 2012.

—目次—

各施設年次報告

芦生研究林年次報告	(長谷川 尚史)
北海道研究林年次報告	(吉岡 崇仁)
和歌山研究林年次報告	(柴田 昌三)
上賀茂試験地年次報告	(安藤 信)
徳山試験地年次報告	(中島 皇)
北白川試験地年次報告	(柴田 昌三)

業務報告

業務関連報告

北海道研究林の森林整備加速化事業実施について	(佐藤 修一)
野生動物のモニタリング開始	(林 大輔)
野生動物による山引き苗の被害状況について	(柳本 順)
上賀茂試験地における種子交換業務—最近の受注傾向2—	(大橋 健太)
上賀茂試験地自然観察会応募状況について	(伊藤 雅敏)

技術ノート

北白川試験地における見本樹の花期について	(山内 隆之)
北海道研究林標茶区と白糠区のハリガネムシの季節変動	(古田 卓・勝山 智憲)

研修報告

研究資料

業務資料

□森林研究 (2011年度は発行なし)

□瀬戸臨海実験所年報

『瀬戸臨海実験所年報 第24巻』, 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所, 日本印刷出版株式会社印刷, 58p, 2011.

—目次—

記事 1. 概要 2. 臨海実習等 3. 研究会・来訪研究者 4. 水族館記録 5. 水族館観覧者 6. 業績目録
資料 水族館飼育生物 水族館水温

研究・技術報告

瀬戸臨海実験所水族館におけるフナムシの継代飼育展示	(山本 泰司・太田 満)
瀬戸臨海実験所水族館のフナムシ飼育個体群の変動と成長	(山本 泰司)
イソモンガラ未成年魚の飼育と死亡	(久保田 信・太田 満・山本 泰司)
瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ (カタバミ科) の奇形	(久保田 信・梅本 信也)
コブヒトデモドキ (ヒトデ綱; コブヒトデ科) が冬期に京都大学瀬戸臨海実験所飼育水槽で死亡	(久保田 信)

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ台風により一度に打ち上がった複数のクロチョウガイ (久保田 信)
 オカヤドカリ類(甲殻類, 異尾類)の幼体を京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で2011年秋季に再発見 (久保田 信)
 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の研究棟正面入口へ再出現したフナムシ(甲殻類) (久保田 信)
 夏から初冬に瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科) (久保田 信)
 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった大型の死んだイシサンゴ (久保田 信・内田 絢臣)

□瀬戸臨海実験所紀要『Publications of the Seto Marine Biological Laboratory』

Publications of the Seto Marine Biological Laboratory Volume 41, 2011

—目次—

Assessment and characteristics of DMSP lyase activity in seawater and phytoplankton cultures
 Harada, Hyakubun and Ronald Kiene
 Species diversity of marine sponges along Chanthaburi and Trat Provinces, the eastern coast of the Gulf of Thailand
 Putchakarn, Sumaitt
 Nematode diversity at Thachin River mouth, Samut Sakhon, Thailand
 Suchat Sawangarreruks, Yaowasooth Patcharaporn, and Sombat Poovachiranon
 Gut content analysis of selected commercially important species of coral reef fish in the southwest part of Iligan Bay, Northern Mindanao, Philippines Eya, Anna Arlene A., Dorothy G. Lacuna and Aileen S. Espra
 Distribution of intertidal organisms in the shores of Teluk Aling, Pulau Pinang, Malaysia
 Ahmad, Omar, Tay Pei Fang and Khairun Yahya
 Re-assessment of Sargassum beds at Hon Chong area, Nha Trang Bay, Vietnam
 Nguyen, Xuan Vy and Dai Nguyen Huu
 Distribution and biomass of *Halophila ovalis* (R. Brown) Hook. f. at Pulau Gazumbo, Penang, Straits of Malacca
 Mohd Razalli, Norhanis, Teh Chiew Peng, Mohd. Shukri Mohd. Yusof, Jliana Mohamed, Tan Shau Hwai, Zulfigar Yasin and Anisah Lee Abdullah

□木文化プロジェクト報告書

『概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2010年度報告書』京都大学フィールド科学教育研究センター, 291p, 2012.

—目次—

由良川プロジェクト
 仁淀川プロジェクト
 由良川・仁淀川流域の社会調査報告
 森・里・海とつながる生態系
 平成22年度木文化プロジェクトにおける主な取り組み

◆フィールド研主催事業

1) 公開講座2011「今、森から考える—森のめぐみ—」(芦生研究林)

日時:2011年7月22日(金)13時~7月24日(日)12時(2泊3日)

会場:芦生研究林(京都府南丹市美山町芦生)

主催:京都大学フィールド科学教育研究センター

協賛:全日本空輸株式会社, NPO 法人 エコロジー・カフェ

実行委員会委員長:柴田 昌三

企画責任者:長谷川 尚史

(プログラム)

7月22日 講義	芦生研究林の紹介	長谷川 尚史
	山のめぐみ—迫り来るシカの脅威	福島 慶太郎(京都大学フィールド研 特定研究員)
	川のめぐみ—森と川のつながりをめぐるシカと水生生物の関係	境 優(地球環境学堂 大学院博士後期課程)
	健康のめぐみ—森ですこやかに	今西 二郎(明治国際医療大学附属統合医療センター長)
	草木のめぐみ—草木をエネルギーに変える	坂 志朗(エネルギー科学研究科 教授)
	芦生の樹木識別入門	荒井 亮・小嶋 宏和(京都大学フィールド研 技術職員)

- 7月23日 野外実習 午前：森林の観察(天然林内での講義並びに実習)
午後：班別コース(健脚コース・水を量るコース・木を測るコース・ぶらつきコース)
柴田, 吉岡, 安藤, 徳地, 長谷川, 館野, 中島, 寄元, 坂野上, 中西, 他職員
- 7月24日 講義 里のめぐみ-茅葺き民家の現代的意義を考える 深町 加津枝(地球環境学堂 准教授)
かやぶきの里見学 中野 文平(前南丹市文化財保護審議会委員)

2) 東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」

日時：2011年7月16日(土) 13:00～18:00
会場：京都会館会議場
主催：京都大学フィールド科学教育研究センター
助成：公益財団法人 日本財団
企画責任者：向井 宏

(プログラム)

講演「2011年東北地方太平洋沖大地震」 尾池 和夫(国際高等研究所長・前京都大学総長)
講演「漁業復興へ向けての取り組み」 高柳 和史(水産総合研究センター本部研究推進部長)
講演「復興に向けた災害がれきとの闘い(現地からの報告)」 浅利 美鈴(環境科学センター助教)
講演「森里海連環と『森は海の恋人』運動の復興(現地からの報告)」 畠山 重篤(フィールド研社会連携教授・NPO法人「森は海の恋人」理事長)

討論 [司会：向井 宏(京都大学フィールド研特任教授)]

田中 克(国際高等研究所教授)・吉岡崇仁(京都大学フィールド研教授)・尾池和夫・高柳和史・畠山重篤・浅利美鈴

3) 第3回由良川地域連携講座「森・里・海の対話 ～身近な視点から生態系のつながりを考える～」(由良川市民講座)

日時：2011年9月24日(土) 10:00～15:00
会場：福知山市三段池公園 総合体育館サブアリーナ
主催：京都大学フィールド科学教育研究センター・京都府中丹広域振興局
助成：公益財団法人 日本財団
後援：福知山市・舞鶴市・綾部市・南丹市・京丹波町・国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所
協力：NPO法人エコロジー・カフェ・公益社団法人 京都モデルフォレスト協会
企画責任者：向井 宏

(プログラム)

講演「センス・オブ・ワンダーを「里」で育む」～21世紀の生き方、暮らし方を求めて～ 塩見 直紀(半農半X研究所代表)
報告「由良川は海産魚のゆりかご」～京大木文化プロジェクト由良川調査(1)～ 山下 洋(京都大学フィールド研)
講演「健康な川 元気な川を 川虫の目で探る」 谷田 一三(大阪府立大学教授)

4) 第3回仁淀川地域連携講座「国際森林年を“森林・林業再生プラン” 実行元年とするために」

日時：2011年10月8日(土)14:00～17:00
会場：高知県仁淀川町池川中学校体育館
主催：仁淀川の“緑と清流”を再生する会・京都大学フィールド科学教育研究センター
助成：公益財団法人 日本財団
後援：林野庁
協力：高知県・仁淀川町
企画責任者：向井 宏

(プログラム)

来賓提案「“森林・林業再生プラン” を実行下さい」 皆川 芳嗣(林野庁長官)
来賓挨拶「森林率“日本一”を生かしたい」 尾崎 正直(高知県知事)
来賓卓話「“杉クロスラミナ”の開発」 中島 浩一郎(銘建工業 代表)
基調講演Ⅰ「仁淀川に“森里海連環学”を導入してきて」 竹内 典之(京都大学名誉教授)
基調講演Ⅱ「急傾斜地でも“壊れない道づくり”」 岡橋 清元(道のがっこう学長)
パネルディスカッション「山から材を出す“仕事”をしっかりとつくりよう」

進行 天野 礼子(仁淀川の“緑と清流”を再生する会 顧問)

パネリスト 柴田 昌三(京都大学フィールド研 センター長)

小原 忠(高知県森づくり推進課課長補佐)

大原 栄博(池川林産企業組合 代表)

岡村 憲慈(仁淀川の“緑と清流”を再生する会 運営委員)

閉会挨拶

奥田 英雄(仁淀川の“緑と清流”を再生する会 会長)

5) 第4回別寒辺牛川地域連携講座「森から海へ～海域環境の保全と人の暮らし～」

日時：2011年11月12日(土)13:30～16:30

会場：厚岸町情報館2階

主催：京都大学フィールド科学教育研究センター，厚岸町，標茶町

助成：公益財団法人 日本財団

企画責任者：向井 宏

(プログラム)

講演1「海洋保護区の現状と課題」

尼子 直輝 (環境省自然環境局自然環境計画課)

講演2「アザラシ・シカとの付き合い方」

大泰司 紀之 (北海道大学 名誉教授)

講演3「厚岸・釧路沖における，エコツアーとしてのホエールウォッチングの可能性」

笹森 琴絵 (「さかまた組」代表)

パネルディスカッション「海域環境の保全と森里海の連環」

司会：向井 宏 (京都大学フィールド研 特任教授)

パネリスト：仲間 雅裕 (北海道大学厚岸臨海実験所 教授)，小林 万里 (東京農業大学 准教授)，
中嶋 均 (厚岸町漁業者)，尼子 直樹，大泰司 紀之，笹森 琴絵

6) 公開森林実習

日時：2011年9月5日～7日

会場：上賀茂試験地・芦生研究林・北白川試験地

参加者5人 (宇都宮大学・筑波大学・信州大学・新潟大学)

◆フィールド研共催・後援事業

1) 全日空「私の青空・森づくり活動」において，森林・環境教室「京都大学フィールドセミナー(青空塾)」を開講

2011年6月4日 根室中標津空港・シマフクロウの森 中島 皇

2011年7月2日 オホーツク紋別空港・とっかりの森 柴田 昌三

2011年9月10日 能登空港・きりこの森 柴田 昌三

2011年10月1日 小松空港・安宅関の森 中島 皇

2011年11月26日 徳島阿波おどり空港・巣立ちの森 吉岡 崇仁

2012年3月10日 萩・石見空港・高津川清流の森 坂野上 なお

2) 第6回エコの寺子屋 (講義/フィールド学習)

主催：NPO法人エコロジー・カフェ，京都大学フィールド科学教育研究センター

後援：京都府/京都市

特別協力：株式会社ジェイ・エス・ビー

協力：株式会社ベネフィット・ワン

日時：2011年12月17日

会場：上賀茂試験地

講師：柴田 昌三

3) 京都大学ジュニアキャンパス2011

中学生向けゼミ「ナマコの海洋生物学」

講師：山下 洋

日時：2011年9月18日

会場：フィールド研第一会議室

4) 京都大学附置研究所・センターシンポジウム(第6回)

日時：2011年7月3日(日)10:00～18:00

会場：京都大学百周年時計台記念館

主催：京都大学附置研究所・センター

後援：読売新聞社，財団法人京都大学教育研究振興財団

共催：R U 1 1 (学術研究懇談会)

5) 第18回京都大学附置研究所・センター品川セミナー

日時：2011年11月4日

会場：京都大学東京オフィス

主催：京都大学附置研究所・センター

講演「「森里海連環学」をとらえて日本の自然を再考する」

講師：柴田 昌三

6) 京都大学附置研究所・センターシンポジウム(第7回)

日時：2012年3月17日(土)10:00～17:00

会場：神戸国際会議場メインホール

- 主催：京都大学附置研究所・センター
 後援：読売新聞社，公益財団法人京都大学教育研究振興財団，神戸大学
- 7) 後援：仁淀川の森と水を考えるシンポジウム
 日時：2011年8月21日(日) 13:30～17:00
 会場：「グランディール」(旧ウェディングプラザ寿苑)
 主催：仁淀川漁業協同組合
 共催：仁淀川流域交流会議
 後援：高知県，京都大学フィールド科学教育研究センター 他
- 8) 共催：知ろう，守ろう 芦生の森 ― 芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動―
 日時：2011年7月30日(土)，11月21日(月)
 場所：フィールド研 芦生研究林
 主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会，京都府南丹広域振興局
 共催：フィールド研 他
 内容：芦生の森探索，シカ防護ネットの設置，京大教職員によるミニ講義等
- 9) 共催：知ろう，守ろう 芦生の森シンポジウム
 日時：2011年10月15日(土) 10:00～14:30
 会場：南丹市美山文化ホール(京都府南丹市美山町島島台51)
 主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会，京都府南丹広域振興局
 共催：京都大学フィールド科学教育研究センター，NPO法人芦生自然学校
 後援：南丹市，公益社団法人京都モデルフォレスト協会
 内容：地域からの報告「芦生の森からの問いかけ」
 高柳 敦(京都大学大学院農学研究科 講師)
 松田 茅里(美山漁協 専務理事・美山町環境保全対策協議会 会長)
 鹿取 悦子(NPO法人 芦生自然学校 理事)
 藤原 誉(南丹市猟友会 知井班長)
 久保木 瑞穂(芦生の森シカ防護ネット設置ボランティア活動 参加者)
 パネルディスカッション 「芦生の森のこれから―私たちにできること―」
 コーディネーター 吉岡 崇仁(芦生地域有害鳥獣対策協議会会長・京都大学フィールド研 教授)
 パネラー 高柳 敦，井栗 秀直(NPO法人芦生自然学校)，
 上林 実(美山漁協組合長)，大野 安彦(南丹市猟友会美山支部長)

◆各施設等主催共催事業

- 1) 芦生研究林
- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 国際森林学生連盟 第2回アジア地域会議(後援) | 5月15～17日 |
| 芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら樹木観察をしよう」 | 5月28日 |
| なんたんわくわくキッズ開始式及びハイキング | 6月19日 |
| 美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」 | 7月28日 |
| 芦生の森自然観察会 入門編「秋の森を歩きながら樹木観察をしよう」 | |
| ※京大ウィークス参加イベント | 10月22日 |
| 京都府立北桑田高等学校森林リサーチ科1年生「環境科学基礎」校外学習 | 10月29日 |
| 光の子どもインターナショナルクリスマススクール 自然観察学習 | 11月2日 |
| 美山町環境保全対策協議会 芦生自然環境ウォーク | 11月6日 |
- 2) 北海道研究林
- | | |
|--|----------|
| 草木染め教室(標茶町立沼幌小学校との共催) | 6月21日 |
| ミニ公開講座「自然観察，草木染め」(標茶区) | 7月23日 |
| ミニ公開講座「自然観察，草木染め」(白糖区) | 7月30日 |
| ジュニアリーダー養成講座「しべちゃアドベンチャースクール」第5講座
(標茶町教育委員会社会教育課との共催) | 1月21～22日 |
- 3) 和歌山研究林
- | | |
|---|--------------|
| ウッズサイエンス(和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催)計15回 | 4月19日～11月29日 |
| 「SIMIZU タイム」(ふるさと体験)(和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催) | 5月10日 |
| 総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」(有田川町立八幡小学校との共催) | 6月10日，11月14日 |
- 4) 上賀茂試験地
- | | |
|------------------------------|--------|
| 上賀茂試験地春の自然観察会 | 4月23日 |
| 上賀茂試験地秋の自然観察会 ※京大ウィークス参加イベント | 10月15日 |

平成 23 年度京都市青少年科学センター 未来のサイエンティスト養成事業体験コース
講義と自然観察

11月26日

5) 徳山試験地

周南市連携講座（全3回・周南市との連携事業）

6月12日, 9月11日, 11月13日

周南市連携公開講座（周南市との共催事業）

10月30日

檜皮採取に関する共同試験（中国森林管理局山口森林管理事務所との共同事業）

2012年1月24日

6) 北白川試験地

なし

7) 紀伊大島実験所

古座川合同調査（第65回～第76回, 毎月開催）

第14回古座川シンポジウム（古座川流域協議会と共催・和歌山県古座川町）

6月30日

SSH事業 和歌山県立日高高等学校

7月9日

8) 舞鶴水産実験所

京都府立海洋高等学校海洋科学科 講義と施設案内

5月11日

新舞鶴婦人会 講演

5月31日

SSH事業実習 兵庫県立神戸高等学校

5月28日

舞鶴市立余内小学校 講演

6月16日

SPP事業実習 京都府立西舞鶴高等学校

6月22日, 7月21～22日, 9月10日

第3回舞鶴高等教育機関等合同PR事業(展示解説及び魚の行動実験・舞鶴市東コミュニティセンター)

6月25日

NPO法人シニア自然大学校調査研究部 講演

7月14日

兵庫県立西宮今津高等学校 フィールド科学実習

7月26日

SSH事業実習 京都教育大学附属高等学校

7月28～30日

京都府立南陽高等学校サイエンスリサーチ科 サイエンスキャンプ・臨海実習

8月3日

東日本大震災により非難所等で生活している福島県の中学生 講演

8月3日

“多々見市長と”遊覧船で行く「まいづるサマースクール」(舞鶴市主催) 講義と施設案内

8月18日

富山県立氷見高等学校海洋科学科 講義と施設案内

8月26日

京都府総合教育センター北部研修所「親子おもしろ科学実験教室」体験ブース 海の生き物展示

9月10日

「いきいきセミナー」(舞鶴市大浦会館主催) 講演

9月18日

宮津市立上宮津小学校 講演

10月14日

綾部自然の会 講座 講演

10月20日

京都府立宮津高等学校 講演

11月7日

舞鶴市立中保育所・中舞鶴幼稚園・中舞鶴小学校 ナマコに関する見学会

11月14日

京都府立学校事務職員協会研修 講演

11月27日

SSH事業実習 京都市立堀川高等学校 特別講義「里海生態保全学とは」

1月5日

京都府漁業協同組合舞鶴支所「舞鶴市ナマコプロジェクト」報告会

2月14日

9) 瀬戸臨海実験所

「日替わり解説ツアー」・「バックヤードツアー」(毎日開催)

2011年3月25日～4月7日

「鯨セミナー」(主催:海の哺乳類情報センター・共催:瀬戸臨海実験所)

4月8日

きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・水族館の飼育体験」

5月21日, 6月4日, 6月18日

第77回近畿ブロック水族館飼育研修会

6月28～29日

NPO法人大阪シニア自然大学校環境科 水族館バックヤード見学

7月15日

SSH事業実習 奈良県立奈良高校

7月28～29日

「日替わり解説ツアー」・「バックヤードツアー」(毎日開催)

7月21日～8月31日

SSH事業実習 滋賀県立膳所高校

7月22～25日

SSH事業実習 奈良女子大学附属中等教育学校

7月26～27日

小・中・高・大連携による紀南地域の森林環境学習(和歌山県紀の国森づくり基金活用事業)

(三栖小学校・高雄中学校・神島高等学校)

7月30日

白浜温泉旅館協同組合主催「海の中まで白浜を知っちゃおう!」解説ツアー・バックヤードツアー

8月9日, 8月11日, 8月16日, 8月18日, 8月23日, 8月25日

SSH事業実習 兵庫県立尼崎小田高等学校 臨海実習

8月26～27日

公開臨海実習(夏期)(国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催)

8月29日～9月4日

奈良県立奈良北高等学校 校外研修「海の動物の多様性について」

10月7日

大阪府立住吉高等学校 理科・生物科 水族生態理解のための臨海実習

10月8～10日

兵庫県立西宮南高等学校	10月11～13日
瀬戸臨海実験所 施設見学会 ※京大ウィークス参加イベント	10月15日
きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験・水族館の飼育体験」	10月22日, 12月17日, 2月18日
「日替わり解説ツアー」・「バックヤードツアー」 (毎日開催)	12月23日～1月9日
大阪府立豊中高等学校	1月4～6日
第24回瀬戸海洋生物学セミナー	2月6日
公開臨海実習(春期)(国立大学法人臨海臨湖実験所長会議 主催)	3月21～27日
「日替わり解説ツアー」・「バックヤードツアー」 (毎日開催)	3月24～31日
10) 海域陸域統合管理学研究部門	
海域陸域統合管理学セミナー	
第17回 東北沿岸の復興に向けての勉強会 (第1回)	4月28日
第18回 東北沿岸の復興に向けての勉強会 (第2回)	5月27日
第19回 横山壽「有機物負荷に対する沿岸底生生物の応答と応用」	7月8日
第20回 東北沿岸の復興に向けての勉強会 (第3回)	7月28日
第21回 安佛かおり「木津川砂州の地下間隙水及び地下小水域における生元素動態」	10月11日
第22回 東北沿岸の復興に向けての勉強会 (第4回)	11月22日

◆フィールド研関連刊行物編集委員会等

- 1) 「森林研究」編集委員(フィールド研教員のみ)
吉岡 崇仁(委員長)・柴田 昌三・安藤 信・徳地 直子・長谷川 尚史・館野 隆之輔・中島 皇・寄元 道德・坂野上 なお・中西 麻美
- 2) 「Publications of the Seto Marine Biological Laboratory」編集委員(フィールド研教職員のみ)
久保田 信(委員長)・宮崎 勝己・大和 茂之・中野 智之・原田 百聞

(3) 研究活動

◆著書

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

吉岡 崇仁. “安定同位体に聞く生態系の物語”. 川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門. 地人書館, 2011, p. 93-95.

吉岡 崇仁. “安定同位体が明らかにした富栄養化の歴史—琵琶湖”. 川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門. 地人書館, 2011, p. 96-97.

吉岡 崇仁. 川と湖を見る・知る・探る 陸水学入門. 地人書館, 2011, p. 96-97. (監修)

里域生態系部門

■山下 洋

小路 淳, 堀 正和, 山下 洋 (共編). 浅海域の生態系サービス—海の恵みと持続的利用— (水産学シリーズ 169). 恒星社厚生閣, 150 p., 2011.

浜口 昌巳, 藤浪 祐一郎, 山下 洋. “河口・干潟域における漁業資源生産”. 浅海域の生態系サービス—海の恵みと持続的利用— (水産学シリーズ 169). 小路 淳, 堀 正和, 山下 洋編. 恒星社厚生閣, 2011, p. 78-92.

■柴田 昌三

柴田昌三. “西日本クラスター—人の影響の深さと洗練された文化”. 里山・里海～自然の恵みと人々の暮らし～. 朝倉書店, 2012. p. 174-184. (国際連合大学高等研究所／日本の里山・里海評価委員会編・分担執筆)

■田川 正朋

甲斐 義晃, 鄭 忠勲, 田川 正朋, 土井内 龍. 知られざる動物の世界 3 エイ・ギンザメ・ウナギのなかま. 朝倉書店, 2011.

■梅本 信也

梅本 信也. “紀伊大島のイノシシ—里域保全論への招待—”. ユニバース印刷, 2012,

梅本 信也. “里域食文化論入門”. ユニバース印刷, 2011,

梅本 信也. “里域震災論入門”. ユニバース印刷, 2011,

■中山 耕至

甲斐 嘉晃, 亀甲 武志, 中山 耕至. 知られざる動物の世界 2 原始的な魚のなかま. 朝倉書店, 2011.

■甲斐 嘉晃

甲斐 嘉晃 (分担執筆). “NEO ポケット図鑑, 海辺の生物”. 白山義久編. 小学館, 2011.

甲斐 嘉晃, 亀甲 武志, 中山 耕至. 知られざる動物の世界 2 原始的な魚のなかま. 朝倉書店, 2011.

甲斐 義晃, 鄭 忠勲, 田川 正朋, 土井内 龍. 知られざる動物の世界 3 エイ・ギンザメ・ウナギのなかま. 朝倉書店, 2011.

海域陸域統合管理学研究部門

■佐藤 真行

佐藤 真行, 村上 佳世, 植田 和弘, 新山 陽子. “有機物循環農産物の社会的便益と消費者行動”. 有機物循環論. 楠部 孝誠, 新山陽子, 植田和弘, 高月紘(編)編. 昭和堂, 2012, p. 231-268.

Sato, Masayuki. “Measuring sustainability and economic valuation of the environment”. Achieving Global Sustainability: Policy Recommendations, Sawa, Takamitsu, Iai, Susumu and Ikkatai, Seiji ed., United Nations University Press, 2011. p. 87-101.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

福島 慶太郎. “第 21 章 窒素の循環”. 森のバランス—植物と土壌の相互作用. 森林立地学会編. 東海大学出版会, 2012, p. 227-235.

◆原著論文・総説 (査読あり)

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

Lee, J.; Yoshioka, T.; Ra, K.; Owen, J.; Kim, B. Stable carbon and nitrogen isotope composition of co-existing herbivorous zooplankton species in an oligo-dystrophic lake (Shirakoma-ike, Japan). New Zealand Journal of Marine and Freshwater Research. 2011, 45(1), p. 29.

■安藤 信

呉 初平, 安藤 信. マツ枯れ被害林におけるアカマツ実生, 稚樹, 幼樹の分布と立地環境. 日本緑化工学会誌. 2010, 36(2), p. 304-310.

■徳地 直子

徳地 直子, 大手 信人, 臼井 伸章, 福島 慶太郎. 窒素負荷に伴う森林生態系の窒素循環過程の検討. 日本生態学会誌. 2011-11-30, 61(3), p. 275-290.

徳地 直子, 金子 有子, 福島 慶太郎. 森林施業に伴う河川水質への影響の緩和に関する検討. 水利科学. 2011, 55(4), p. 23-36.

Fukushima, Keitaro; Tateno, Ryunosuke; Tokuchi, Naoko. Soil nitrogen dynamics during stand development after clear-cutting of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) plantations. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 394-404.

Mizumachi, Eri; Mori, Akira; Akiyama, Reiko; Tokuchi, Naoko; Osawa, Naoya. Variation in herbivory-induced responses within successively flushing *Quercus serrata* seedlings under different nutrient conditions. Journal of Forest Research. 2012, 17(2), p. 175-183.

Osada, Noriyuki; Tokuchi, Naoko; Takeda, Hiroshi. Continuous and Fluctuating Leaf Phenology of Adults and Seedlings of a Shade-tolerant Emergent Tree, *Dipterocarpus sublamellatus*, in Malaysia. Biotropica. 2012. (オンライン公開 doi: 10.1111/j.1744-7429.2011.00843.x)

Ueda, Miki U.; Mizumachi, Eri; Tokuchi, Naoko. Foliage nitrogen turnover: differences among nitrogen absorbed at different times by *Quercus serrata* saplings. Annals of Botany. 2011, 108(1), p. 169-175.

■館野 隆之輔

Fukushima, Keitaro; Tateno, Ryunosuke; Tokuchi, Naoko. Soil nitrogen dynamics during stand development after clear-cutting of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) plantations. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 394-404.

Kuroiwa, Megumi; Koba, Keisuke; Isobe, Kazuo; Tateno, Ryunosuke; Nakanishi, Asami; Inagaki, Yoshiyuki; Toda, Hiroto; Otsuka, Shigeto; Senoo, Keishi; Suwa, Yuichi; Yoh, Muneoki; Urakawa, Rieko; Shibata, Hideaki. Gross nitrification rates in four Japanese forest soils: heterotrophic versus autotrophic and the regulation factors for the nitrification. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 363-373.

Shibata, Hideaki; Urakawa, Rieko; Toda, Hiroto; Inagaki, Yoshiyuki; Tateno, Ryunosuke; Koba, Keisuke; Nakanishi, Asami; Fukuzawa, Karibu; Yamasaki, Ayaka. Changes in nitrogen transformation in forest soil representing the climate gradient of the Japanese archipelago. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 374-385.

Yamasaki, Ayaka; Tateno, Ryunosuke; Shibata, Hideaki. Effects of carbon and nitrogen amendment on soil carbon and nitrogen mineralization in volcanic immature soil in southern Kyushu, Japan. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 414-423.

■寄元 道徳

Ishihara, Masae; Suzuki, Satoshi; Nakamura, Masahiro; Enoki, Tsutomu; Fujiwara, Akio; Hiura, Tsutomu; Homma, Kosuke; Hoshino, Daisuke; Hoshizaki, Kazuhiko; Ida, Hideyuki; Ishida, Ken; Itoh, Akira; Kaneko, Takayuki; Kubota, Kaname; Kuraji, Koichiro; Kuramoto, Shigeo; Makita, Akifumi; Masaki, Takashi; Namikawa, Kanji; Niiyama, Kaoru; Noguchi, Mahoko; Nomiya, Haruto; Ohkubo, Tatsuhiro; Saito, Satoshi; Sakai, Takeshi; Sakimoto, Michinori; Sakio, Hitoshi; Shibano, Hirofumi; Sugita, Hisashi; Suzuki, Mitsuo; Takashima, Atsushi; Tanaka, Nobuyuki; Tashiro, Naoaki; Tokuchi, Naoko; , Yakushima Forest Environment Conservation Center; Yoshida, Toshiya; Yoshida, Yumiko. Forest stand structure, composition, and dynamics in 34 sites over Japan. Ecological Research. 2011, 26(6), p. 1007-1008.

■長田 典之

Osada, Noriyuki. Crown exposure to light and tree allometry of 11 tree species in a snowy cool-temperate forest in Japan. Plant Ecology. 2012, 213(5), p. 783-794.

Osada, Noriyuki; Tokuchi, Naoko; Takeda, Hiroshi. Continuous and Fluctuating Leaf Phenology of Adults and Seedlings of a Shade-tolerant Emergent Tree, *Dipterocarpus sublamellatus*, in Malaysia. Biotropica. 2012. (オンライン公開 doi: 10.1111/j.1744-7429.2011.00843.x)

里域生態系部門

■山下 洋

多賀 真, 山下 洋. トラフグ仔稚魚の成長における低塩分の有効性とその要因. 水産増殖. 2011, 59(2), p.225-233.

松井 彰子, 上野 正博, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. 絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境. 魚類学雑誌. 2011, 58(2), p.209-211.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Diet Shift In the Sand Shrimp *Crangon uritai* Along the Estuary-Marine Gradient. Journal of Crustacean Biology. (4), p.635.

Fuji, T.; Kasai, A.; Suzuki, K. W.; Ueno, M.; Yamashita, Y. Migration ecology of juvenile temperate seabass *Lateolabrax japonicus*: a carbon stable-isotope approach. Journal of Fish Biology. 2011, 78(7), p.2010-2025.

Fujita, J.; Yamasaki, A.; Drumm, D.; Nakayama, K.; Kai, Y.; Yamashita, Y. Genetic divergence of *Argis lar* and *A. hozawai*, distinct sibling species of deep-sea crangonid shrimp from the Sea of Japan. Plankton and Benthos Research. 2012, 7(1), p.29-32.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). Zoological Science. 2011, 28(10), p.712-718.

Islam, Md; Yamashita, Yoh; Tanaka, Masaru. A review on the early life history and ecology of Japanese sea bass and implication for recruitment. Environmental Biology of Fishes. 2011, 91(4), p.389-405.

Kato, Yoshiki; Ohshima, Masakane; Yamashita, Yoh; Kitagawa, Takashi; Kimura, Shingo. Effects of larval ontogeny, turbulence, and prey density on survival in red sea bream *Pagrus major* larvae. Coastal Marine Science. 2012, 35(1), p.262-268.

Matsui, Shoko; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Yamashita, Yoh. Genetic divergence among three morphs of *Acentrogobius pflaumi* (Gobiidae) around Japan and their identification using multiplex haplotype-specific PCR of mitochondrial DNA. Ichthyological Research. 2012, 59(3), p.216-222. (2012-02-29 オンライン出版 doi:10.1007/s10228-012-0276-0)

Ohata, R.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Ontogeny of antipredator performance in hatchery-reared Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae exposed to visual or tactile predators in relation to turbidity. Journal of Fish Biology. 2011, 79(7), p.2007-2018.

Takahashi Kohji, Masuda Reiji, Yamashita Yoh. "School for learning: sharing and transmission of feeding information in jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles". Fisheries Science. 2012, 78(2), p.269-276.

■柴田 昌三

Abe, Yuhei; Shibata, Shozo. Spatial and temporal flowering patterns of the monocarpic dwarf bamboo *Sasa veitchii* var. *hirsuta*. Ecological Research. 2012, 27(3), p.625-632.

青木 達司・柴田 昌三・森本 幸裕. 「桂垣」と「桂垣」裏ハチク林に関する研究. ランドスケープ研究. 2011, 74(5), p.447-450.

阿部 佑平・柴田 昌三・奥 敬一・深町 加津枝. 京都市におけるササの葉の生産および流通. 日本森林学会誌. 2011, 93(6), p.270-276.

■田川 正朋

Aritaki, Masato; Tagawa, Masatomo. Pseudoalbinism and ambicoloration in hatchery-reared pleuronectids as malformations of asymmetrical formation. Fisheries Science. 2012, 78(2), p.327-335.

Kobayashi Yuki, Mizusawa Kanta, Chiba Hiroaki, Tagawa Masatomo, Takahashi Akiyoshi. Further evidence on acetylation-induced inhibition of the pigment-dispersing activity of α -melanocyte-stimulating hormone. General and comparative endocrinology. 2012, 176(1), p.9-17.

Yamada, Toshiyuki; Donai, Hayato; Okauchi, Masanori; Tagawa, Masatomo; Araki, Kazuo. Induction of ambicoloration by exogenous cortisol during metamorphosis of spotted halibut *Verasper variegatus*. Comparative Biochemistry and Physiology Part B: Biochemistry and Molecular Biology. 2011, 160(4), p.174-180.

■益田 玲爾

Masuda, R. Ontogeny of swimming speed, schooling behaviour and jellyfish avoidance by Japanese anchovy *Engraulis japonicus*. Journal of Fish Biology. 2011, 78(5), p.1323-1335.

Ohata, R.; Masuda, R.; Yamashita, Y. Ontogeny of antipredator performance in hatchery-reared Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae exposed to visual or tactile predators in relation to turbidity. Journal of Fish Biology. 2011, 79(7), p.2007-2018.

Takahashi Kohji, Masuda Reiji, Yamashita Yoh. "School for learning: sharing and transmission of feeding information in jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles". Fisheries Science. 2012, 78(2), p.269-276.

Yokota, Takashi; Machida, Masaharu; Takeuchi, Hiroyuki; Masuma, Shukei; Masuda, Reiji; Arai, Nobuaki. Anti-predatory performance in hatchery-reared red tilefish (*Branchiostegus japonicus*) and behavioral characteristics of two predators: Acoustic telemetry, video observation and predation trials. Aquaculture. 2011, 319(1-2), p. 290-297.

■梅本 信也

梅本 信也. 和歌山県串本町田原湿地の里域植物誌. 熊野誌. 2011, 58, p.112-123.

藤井 伸二, 梅本 信也. 粉白川河口 (和歌山県那智勝浦町) の維管束相. 人間と環境. 2011, 2, p.61-72.

■長谷川 尚史

杉本 和也, 伊東 康人, 長谷川 尚史. 兵庫県内の森林組合における職務満足度調査. 森林利用学会誌. 2011, 26(2), p. 111-115.

■中西 麻美

Inagaki, Yoshiyuki; Nakanishi, Asami; Fukata, Hidehisa. Soil properties and nitrogen utilization of hinoki cypress as affected by strong thinning under different climatic conditions in the Shikoku and Kinki districts in Japan. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 405-413.

Kuroiwa, Megumi; Koba, Keisuke; Isobe, Kazuo; Tateno, Ryunosuke; Nakanishi, Asami; Inagaki, Yoshiyuki; Toda, Hiroto; Otsuka, Shigeto; Senoo, Keishi; Suwa, Yuichi; Yoh, Muneoki; Urakawa, Rieko; Shibata, Hideaki. Gross nitrification rates in four Japanese forest soils: heterotrophic versus autotrophic and the regulation factors for the nitrification. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 363-373.

Shibata, Hideaki; Urakawa, Rieko; Toda, Hiroto; Inagaki, Yoshiyuki; Tateno, Ryunosuke; Koba, Keisuke; Nakanishi, Asami; Fukuzawa, Karibu; Yamasaki, Ayaka. Changes in nitrogen transformation in forest soil representing the climate gradient of the Japanese archipelago. Journal of Forest Research. 2011, 16(5), p. 374-385.

■上野 正博

松井 彰子, 上野 正博, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. 絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境. 魚類学雑誌. 2011, 58(2), p. 209-211.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihito; Ueno, Masahiro; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Diet Shift In the Sand Shrimp *Crangon uritai* Along the Estuary-Marine Gradient. Journal of Crustacean Biology. (4), p. 635.

Fuji, T.; Kasai, A.; Suzuki, K. W.; Ueno, M.; Yamashita, Y. Migration ecology of juvenile temperate seabass *Lateolabrax japonicus*: a carbon stable-isotope approach. Journal of Fish Biology. 2011, 78(7), p. 2010-2025.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). Zoological Science. 2011, 28(10), p. 712-718.

■中山 耕至

日比野 学, 河根 三雄, 植村 宗彦, 三宅 佳亮, 中山 耕至. マイクロサテライト DNA 分析を用いた放流用アユ人工種苗の遺伝的評価. 水産増殖. 2010, 58(2), p. 195-202.

Fujita, J.; Yamasaki, A.; Drumm, D.; Nakayama, K.; Kai, Y.; Yamashita, Y. Genetic divergence of *Argis lar* and *A. hozawai*, distinct sibling species of deep-sea crangonid shrimp from the Sea of Japan. Plankton and Benthos Research. 2012, 7(1), p. 29-32.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). Zoological Science. 2011, 28(10), p. 712-718.

Gwak, W.; Nakayama, K. Genetic variation of hatchery and wild stocks of the pearl oyster *Pinctada fucata martensii* (Dunker, 1872), assessed by mitochondrial DNA analysis. Aquaculture International. 2011, 19(3), p. 585-591.

Gwak, Woo; Nakayama, Kouji. Genetic variation and population structure of the Pacific cod *Gadus macrocephalus* in Korean waters revealed by mtDNA and msDNA markers. Fisheries Science. 2011, 77(6), p. 945-952.

Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Nakabo, Tetsuji. Genetic and morphological divergence within the *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Ichthyological Research. 2011, 58(4), p. 333-343.

Kikko, Takeshi; Kataoka, Yoshitaka; Nishimori, Katsuhiro; Fujioka, Yasuhiro; Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Kitakado, Toshihide. Size at maturity of fluvial white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, around the Lake Biwa water system varies with habitat size. Ichthyological Research. 2011, 58(4), p. 370-376.

Matsui, Shoko; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Yamashita, Yoh. Genetic divergence among three morphs of *Acentrogobius pflaumi* (Gobiidae) around Japan and their identification using multiplex haplotype-specific PCR of mitochondrial DNA. Ichthyological Research. 2012, 59(3), p. 216-222. (2012-02-29 オンライン出版 doi:10.1007/s10228-012-0276-0)

■甲斐 嘉晃

川瀬 裕司, 甲斐 嘉晃. 若狭湾から採集された魚類. 千葉県立中央博物館自然誌研究報告. 2011, 12(1), p. 37-42.
坂井 恵一, 甲斐 嘉晃, 中坊 徹次. ミトコンドリア DNA 調節領域の塩基配列に基づく石川県のサケ個体群の遺伝的特徴. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p. 155-163.

松井 彰子, 上野 正博, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. 絶滅危惧種タビラクチの京都府舞鶴湾からの記録と生息環境. 魚類学雑誌. 2011, 58(2), p. 209-211.

Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Nakabo, Tetsuji. Genetic and morphological divergence within the *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Ichthyological Research. 2011, 58(4), p. 333-343.

Kai, Yoshiaki; Orr, James; Sakai, Keiichi; Nakabo, Tetsuji. Genetic and morphological evidence for cryptic diversity in the *Careproctus rastrinus* species complex (Liparidae) of the North Pacific. Ichthyological Research. 2011, 58(2), p. 143-154.

Kai, Yoshiaki; Sakai, Keiichi; Orr, James; Nakabo, Tetsuji. Secondary contact in the Sea of Japan: the case of the *Careproctus rastrinus* species complex (Liparidae). Ichthyological Research. 2011, 58(4), p. 366-369.

Kai, Yoshiaki; Ikeguchi, Shinichiro; Nakabo, Tetsuji. A new species of the genus *Careproctus* (Liparidae) from the Sea of Japan. Ichthyological Research. 2011, 58(4), p. 350-354.

Fujita, J.; Yamasaki, A.; Drumm, D.; Nakayama, K.; Kai, Y.; Yamashita, Y. Genetic divergence of *Argis lar* and *A. hozawai*, distinct sibling species of deep-sea crangonid shrimp from the Sea of Japan. Plankton and Benthos Research. 2012, 7(1), p. 29-32.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Geographical Distributions of Mitochondrial DNA Lineages Reflect Ancient Directions of River Flow: A Case Study of the Japanese Freshwater Shrimp *Neocaridina denticulata denticulata* (Decapoda: Atyidae). Zoological Science. 2011, 28(10), p. 712-718.

Kikko, Takeshi; Kataoka, Yoshitaka; Nishimori, Katsuhiko; Fujioka, Yasuhiro; Kai, Yoshiaki; Nakayama, Kouji; Kitakado, Toshihide. Size at maturity of fluvial white-spotted charr, *Salvelinus leucomaenis*, around the Lake Biwa water system varies with habitat size. Ichthyological Research. 2011, 58(4), p. 370-376.

Matsui, Shoko; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Yamashita, Yoh. Genetic divergence among three morphs of *Acentrogobius pflaumi* (Gobiidae) around Japan and their identification using multiplex haplotype-specific PCR of mitochondrial DNA. Ichthyological Research. 2012, 59(3), p. 216-222. (2012-02-29 オンライン出版 doi:10.1007/s10228-012-0276-0)

Muto, N.; Kai, Y.; Nakabo, T. Genetic and morphological differences between *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Teleostei: Scorpaeniformes: Scorpaenidae). Fishery Bulletin. 2011, 109(4), p. 429-439.

■大嶋 真謙

Kato, Yoshiki; Ohshima, Masakane; Yamashita, Yoh; Kitagawa, Takashi; Kimura, Shingo. Effects of larval ontogeny, turbulence, and prey density on survival in red sea bream *Pagrus major* larvae. Coastal Marine Science. 2012, 35(1), p. 262-268.

■南 憲史

南 憲史, 安間 洋樹, 東条 斉興, 伊藤 祐介, 福井 信一, 野別 貴博, 宮下 和士. 音響手法を用いたコンブ場の厚さ計測. 数理水産科学誌. 2011, 9, p. 62-74.

南 憲史, 濱野 明, 東条 斉興, 中村 武史, 安間 洋樹, 宮下 和士. 音響手法を用いた来留見ノ瀬周辺におけるガラモ場の分布推定. 日本水産学会誌. 2012, 78, p. 171-179.

Tojo, Naoki; Minami, Kenji; Matsukura, Ryuichi; Kawachi, Yohei; Funamoto, Tetsuichiro; Chimura, Masayuki; Nishimura, Akira; Miyashita, Kazushi. Spatial Estimation of Euphausiid Biomass along the Pacific Coast of Eastern Hokkaido, Japan in Early Summer of 2008. Journal of Marine Science and Technology. 2011, 19(3), p. 294-301.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. 和歌山県沿岸に漂着したサガリバナ *Barringtonia racemosa* (サガリバナ科) の果実. 南紀生物. 2011, 53(1), p. 78.

- 久保田 信. 和歌山県白浜町海岸へ漂着した熱帯系の海藻. 南紀生物. 2011, 53(2), p.137.
- 久保田 信. 2個の口柄を有するハナガサクラゲ(刺胞動物門、ヒドロ虫綱)のたいへん稀な記録. 南紀生物. 2011, 53(2), p.180.
- 久保田 信. 和歌山県田辺湾とその近隣海域におけるムラサキイガイの激減とミドリイガイの激減. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p.75-78.
- 久保田 信. 和歌山県白浜町の瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p.215-216.
- 久保田 信. 和歌山県初記録のベニクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目) のポリプ. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p.233-234.
- 久保田 信. ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の海岸での本州初の幼生の放出の確認. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p.253-256.
- 久保田 信, 中坊 徹次. 稀少種ハナツノハギ *Pseudalutarius nasicornis* (カワハギ科) 成魚の和歌山県白浜町の海岸への漂着. 南紀生物. 2011, 53(1), p.68.
- 久保田 信, 北田 博一, 山田 豊隆, 奥泉 和也. イカリヨツボシクラゲ (刺胞動物, ヒドロ虫類) の模式産地での 83 年ぶりの再出現と北日本からの新産地および GFP 分布パターン. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p.57-60.
- 久保田 信, 北田 博一, 菅野 和彦, 斎藤 伸輔. 福島県の特大だが少数の触手を有するベニクラゲ (ヒドロ虫綱, 花クラゲ目). 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p.249-252.
- 久保田 信, 武藤 望生, 東海林 明, 中坊 徹次. アラハダカ *Myctophum asperum* (ハダカイワシ科) の和歌山県白浜町 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”への漂着. 南紀生物. 2011, 53(2), p.123.
- 久保田 信, 田名瀬 英朋, 武藤 望生, 東海林 明, 木村 一晶, 中坊 徹次. 和歌山県田辺湾における 2011 年冬季の異例の数の凍死魚の漂着. 漂着物学会誌. 2011, 9, p.13-16.
- Kubota, S. Repeating rejuvenation in *Turritopsis*, an immortal hydrozoan (Cnidaria, Hydrozoa). Biogeography. 2011, 13, p.101-103.
- Kubota, S.; Gravili, C. Rare distribution of green fluorescent protein (GFP) in hydroids from Porto Cesareo, Lecce, Italy, with reference to biological meaning of this rarity. Biogeography. 2011, 13, p.9-11.
- Kubota, S.; Imahara, Y. Northernmost geographical distribution of *Verella verella* (Hydrozoa: Porpitidae) in the middle of the North Pacific. Biogeography. 2011, 13, p.87-88.
- 秋山 仁, 山崎 悠介, 辻田 明子, 堀之内 詩織, 久保田 信. わが国で初めて確認された *Octophialucium* sp. (ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目) の生活環. 日本生物地理学会会報. 2011, 66, p.135-139.
- 伊勢田 真嗣, 久保田 信. 和歌山県田辺湾の養殖ヒオウギガイ (イタヤガイ科) の稀な色彩変異個体. 日本生物地理学会会報. 2011, 66p.211-213.
- 小谷野 有加, 足立 文, 島津 恒雄, 笠川 宏子, 崎山 直夫, 久保田 信. 相模湾江の島沖で得られたヒメオコゼ *Minous monodactylus* の体表上に生息するコツブクラゲ属の一種 *Podocoryna* sp. の飼育下での生活史. 南紀生物. 2011, 53(1), p.409-414.
- 原 竜也, 鳥越 兼治, 久保田 信. 多数のムラサキイガイが生きたケフサイソガニの体の諸所に付着. 南紀生物. 2011, 53(1), p.85-86.
- 平澤 康太, 久保田 信. 和歌山県田辺湾におけるタガヤサンミナシ (イモガイ科) の異例の数の漂着. 漂着物学会誌. 2011, 9, p.17-21.
- Horita, T.; Akiyama, H.; Kubota, S. *Bathocyroe longigula* spec. nov., an undescribed ctenophore (Lobata: Bathocyroidea) from the epipelagic fauna of Japanese coastal waters. Zoologische Mededelingen. 2011, 85(1), p.877-886.
- 宮崎 勝己
- Miyazaki, Katsumi. On the species validity of *Nymphonella lecalvezi* (Pycnogonida, Ascorhynchidae): A re-evaluation of some morphological characteristics. Proceedings of Arthropodan Embryological Society of Japan. 2011, 46, p.35-37.
- Fujimoto, Shinta; Miyazaki, Katsumi. Preliminary notes on the freshwater tardigrades from the Kamo River, Kyoto. Proceedings of Arthropodan Embryological Society of Japan. 2011, 46, p.39-40.
- 大和 茂之
- Yusa, Yoichi; Takemura, Mayuko; Miyazaki, Katsumi; Watanabe, Tetsuya; Yamato, Shigeyuki. Dwarf males of *Octolasmis warwickii* (Cirripedia: Thoracica): The first example of coexistence of males and hermaphrodites in the suborder Lepadomorpha. Biological Bulletin. 2010, 218(3), p.259-265.

■中野 智之

中野 智之. 熊本県天草市牛深町におけるホシダカラ(腹足綱:タカラガイ科)の生貝の発見. *Molluscan Diversity*. (3), p. 1-4.

GONZÁLEZ-WEVAR, C. A.; Nakano, Tomoyuki; CAÑETE, J. I.; POULIN, E. Concerted genetic, morphological and ecological diversification in *Nacella limpets* in the Magellanic Province. *Molecular Ecology*. 2011, 20(9), p.1936-1951.

Williams, Suzanne; Apte, Deepak; Ozawa, Tomowo; Kaligis, Fontje; Nakano, Tomoyuki. Speciation and dispersal along continental coastlines and island arcs in the Indo-West Pacific turbinid gastropod genus *Lunella*. *Evolution*. 2011, 65(6), p.1752-1771.

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. 干潟・藻場の再生事業—その問題点 (海洋環境研究の新たな展開—生態系管理の視点). *地球環境*. 2011, 16(1), p. 53-60.

■佐藤 真行

佐藤 真行. 持続可能な発展の経済分析 (特集 政策大競争時代の環境経済研究). *環境研究*. 2011, 161, p.111-115.

Nakamoto, Yasuhiro; Sato, Masayuki. Loss aversion, social comparison and competitive behavior at young age. *MPRA Paper*. (31221).

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

Fukushima, Keitaro; Tateno, Ryunosuke; Tokuchi, Naoko. Soil nitrogen dynamics during stand development after clear-cutting of Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) plantations. *Journal of Forest Research*. 2011, 16(5), p. 394-404.

徳地 直子, 大手 信人, 臼井 伸章, 福島 慶太郎. 窒素負荷に伴う森林生態系の窒素循環過程の検討. *日本生態学会誌*. 2011-11-30, 61(3), p. 275-290.

徳地 直子, 金子 有子, 福島 慶太郎. 森林施業に伴う河川水質への影響の緩和に関する検討. *水利科学*. 2011, 55(4), p. 23-36.

■石原 正恵

Ishihara, Masae; Suzuki, Satoshi; Nakamura, Masahiro; Enoki, Tsutomu; Fujiwara, Akio; Hiura, Tsutomu; Homma, Kosuke; Hoshino, Daisuke; Hoshizaki, Kazuhiko; Ida, Hideyuki; Ishida, Ken; Itoh, Akira; Kaneko, Takayuki; Kubota, Kaname; Kuraji, Koichiro; Kuramoto, Shigeo; Makita, Akifumi; Masaki, Takashi; Namikawa, Kanji; Niiyama, Kaoru; Noguchi, Mahoko; Nomiya, Haruto; Ohkubo, Tatsuhiro; Saito, Satoshi; Sakai, Takeshi; Sakimoto, Michinori; Sakio, Hitoshi; Shibano, Hirofumi; Sugita, Hisashi; Suzuki, Mitsuo; Takashima, Atsushi; Tanaka, Nobuyuki; Tashiro, Naoaki; Tokuchi, Naoko; , Yakushima Forest Environment Conservation Center; Yoshida, Toshiya; Yoshida, Yumiko. Forest stand structure, composition, and dynamics in 34 sites over Japan. *Ecological Research*. 2011, 26(6), p.1007-1008.

■松山 周平

Harata Tsuyoshi, Nanami Satoshi, Yamakura Takuo, Matsuyama Shuhei, Chong Lucy, Diway Bibian M., Tan Sylvester, Itoh Akira. Fine-scale Spatial Genetic Structure of Ten Dipterocarp Tree Species in a Bornean Rain Forest. *Biotropica*. 2011. (2011 オンライン出版 doi:10.1111/j.1744-7429.2011.00836.x)

次世代研究者育成センター

■佐藤 拓哉

Sato, Takuya; Watanabe, Katsutoshi; Tokuchi, Naoko; Kamauchi, Hiromitsu; Harada, Yasushi; Lafferty, Kevin D. A nematomorph parasite explains variation in terrestrial subsidies to trout streams in Japan. *Oikos*. 2011, 120(10), p. 1595-1599.

◆原著論文・総説 (査読なし)

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

福崎 康司, 内藤 佳奈子, 吉岡 崇仁, 澤山 茂樹, 今井 一郎. 腐植物質が有害ラフィド藻 *Chattonella antiqua* の増殖に与える影響. 2011, 61(1), p. 23-28.

■ 館野 隆之輔

Shibata, Hideaki; Toda, Hiroto; Inagaki, Yoshiyuki; Tateno, Ryunosuke; Koba, Keisuke; Tange, Takeshi. Soil nitrogen dynamics of forest ecosystems under environmental changes. *Journal of Forest Research*. 2011, 16(5), p. 331-332.

里域生態系部門

■ 甲斐 嘉晃

坂井 恵一, 甲斐 嘉晃. 石川県のサケの遺伝的特徴を調べる. 能登の海中林. 2012, 36, p. 40942.

基礎海洋生物学部門

■ 久保田 信

久保田 信. 和歌山県田辺湾に繫留された小型船舶に付着したミドリイガイ. くろしお. 2011, 30, p. 9.

久保田 信. 和歌山県白浜町産の特大のマガキガイ (軟体動物). くろしお. 2011, 30, p. 12.

久保田 信. 再び双子にトマト果実. くろしお. 2011, 30, p. 23.

久保田 信. 和歌山県白浜町番所山のニホンテン. くろしお. 2011, 30, p. 9.

久保田 信. ボラが5回連続ジャンプ. くろしお. 2011, 30, p. 26.

久保田 信. 和歌山県田辺湾に打ち上げられた寸詰まりのマガキガイの貝殻 (腹足類). くろしお. 2011, 30, p. 31.

久保田 信. 京都御所と京都府立植物園にいた矮小と小型のモンシロチョウ (シロチョウ科). くろしお. 2011, 30, p. 33.

久保田 信. 和歌山県白浜町瀬戸漁港へ出現したシマガツオ. くろしお. 2011, 30, p. 34.

久保田 信. 和歌山県白浜町の白良浜に出現したサツマゴキブリ. KINOKUNI. 2011, (7), p. 14.

久保田 信. モンキアゲハ (チョウ目・アゲハチョウ科) の塩分補給. KINOKUNI. 2011, (7), p. 15.

久保田 信. 和歌山県西牟婁郡白浜町の瀬戸漁港において流れ藻で一時休息したアメンボとイトトンボの一種. KINOKUNI. 2011, (7), p. 16.

久保田 信. セセリチョウの一種の塩分補給. KINOKUNI. 2011, (8), p. 15.

久保田 信. 和歌山県白浜町で2011年に初鳴きのクマゼミとニイニイゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 29.

久保田 信. 和歌山県田辺市で蝉しぐれの中で15回連続して鳴いたクマゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 30.

久保田 信. 和歌山県白浜町の臨海地区で初めて鳴いたミンミンゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 31.

久保田 信. 日の入り直前に鳴いた複数のクマゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 32.

久保田 信. セミしぐれの中で多数回連続して鳴いたクマゼミ. KINOKUNI. 2011, (8), p. 33.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミの2011年の遅鳴き. KINOKUNI. 2011, (8), p. 34-35.

Kubota, S. New distribution patterns of green fluorescence in small hydromedusae. *Kuroshio Biosphere*. 2011, 6, p. 11-14.

Kubota, S. Green fluorescence in young individual(s) of cubomedusa, scyphomedusa and ctenophora. *Kuroshio Biosphere*. 2011, 6, p. 11-14.

川野 進, 久保田 信. 和歌山県新宮市で釣られた越年アユ. くろしお. 2011, 30, p. 32.

中務 裕子, 土井 敏男, 久保田 信. ウリクラゲ *Beroë cucumis* FABRICIUS (有櫛動物門、無触手綱、ウリクラゲ目) の幼若個体の形態と行動. *Kuroshio Biosphere*. 2011, 6, p. 31-35.

海域陸域統合管理学研究部門

■ 向井 宏

向井 宏. 自然生態系と災害 ～干潟・海岸林は被害を軽減したか～. 学術の動向. 2011, 16(1), p. 76-78.

■ 佐藤 真行

Yamada, Katsunori; Sato, Masayuki. Another Avenue for Anatomy of Income Comparisons: Evidence from Hypothetical Choice Experiments. ISER Discussion Paper. (0795), Osaka University. 2011.

◆ その他 (一般誌・報告書等)

森林生物圏部門

■ 吉岡 崇仁

吉岡 崇仁. 2.1 木文化由良川プロジェクト2010年度の進捗状況. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 71-76.

吉岡 崇仁. 第14回京都大学大学院農学研究科・フィールド科学教育研究センター技術職員研究集会の開催にあたって. 第14回京都大学大学院農学研究科・フィールド科学教育研究センター技術職員研究集会報告書. 2012, p. i.

吉岡 崇仁. 流域環境における人間・自然相互作用系の研究-フィールド科学教育研究センターが目指す森里海連環学-. 第14回京都大学大学院農学研究科・フィールド科学教育研究センター技術職員研究集会報告書. 2012, p. 3-13.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 126-136.

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 2.3 芦生研究林におけるシカ排除柵によるススキ群落の回復過程. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 83-103.

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. 3. 由良川・仁淀川流域の社会調査報告. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 239-277.

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 104-112.

徳地 直子, 福島 慶太郎, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律, 富田 健介. 1.7 仁淀川全域の水質について. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 58-68.

富田 健介, 山中 律, 福島 慶太郎, 徳地 直子. 1.6 河川水質及び生態系に及ぼす森林管理の影響～仁淀川上流域における付着藻類及び河川水クロロフィルと水生生物に及ぼす間伐の影響 (平成 22 年)～. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 41-57.

■中島 皇

福島 慶太郎, 井上 みずき, 阪口 翔太, 藤木 大介, 山崎 理正, 境 優, 齊藤 星耕, 中島 皇, 高柳 敦. ニホンジカによる過採食が芦生の冷温帯天然林の生物多様性と生態系機能に及ぼす影響の解明. プロ・ナトゥーラ・ファンダ第20期助成成果報告書. 2011, p. 183-201.

■坂野上 なお

三木 敏裕, 坂野上 なお. 2.2 由良川流域における木材生産および流通の現状について～京都府中丹・南丹地域を対象とする調査結果より～. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 77-82.

里域生態系部門

■山下 洋

山下 洋. 4. 森・里・海とつながる生態系. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 278-286.

秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. 2.11 由良川河口域におけるニホンハマアミ現存量と生産量の季節変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 159-162.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. 2.12 由良川河口域におけるスズキ稚魚の回遊と成長. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 163-238.

舟橋 達宏, 上野 正博, 山下 洋, 笠井 亮秀. 2.9 数値実験による由良川河口域における塩水進入の変動解析. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 147-154.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 126-136.

渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. 2.10 由良川河口域における植物プランクトン群集の季節変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p. 155-158.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. *New Frontiers in Crustacean Biology*. 2011, p. 183-196.

■柴田 昌三

柴田 昌三. 森里海連環学的視点からみた震災と津波、そして復興とボランティア支援. 環境保全. 2012, No. 26, p. 12-22.

柴田昌三. 竹とつきあう, てんとう虫. UC Card Magazine (2011年4月号) 43(4), 2011, p. 18-21,

柴田昌三. 「ウサギ追いかの山」の風土・景観は懐かしむだけになってしまったのか?. 広報 日造協 ((社)日本造園建設業協会, 2011年10月10日号) 2011, 451, p. 4.

柴田昌三. 竹～庭園利用の現在～. RHSJ (英国王立園芸協会日本支部, 2011年11月号) 2011, 259, p.2-7.

柴田昌三. 緑のエッセー「里山イニシアティブを世界の基盤的な思想へ」. Rinya (林野庁情報誌「林野」2011年10月号), 2011, 55, p.3.

■益田 玲爾

益田 玲爾. イワシの打ち上げ. 磯・投げ情報. 2011, 2011年5月号, p.137.

益田 玲爾. 魚の機嫌を知る行動観察の勘所. アクアネット. 2011, 2011年5月号, p.24-28.

益田 玲爾. 生きものクイズ「魚の群れと縞模様」. ちいさなかがくのとも. 2011, 2011年8月号

益田 玲爾. 生きものクイズ「冬の魚とナマコ」. ちいさなかがくのとも. 2012, 2012年2月号

Masuda, R. Fish locomotion: an eco-ethological perspective. Edited by P. Domenici and B. G. Kpoor. 549 pp. Science Publishing. Journal of Fish Biology. 2011, 79(3), p.819-820. (書評)

■梅本 信也

梅本 信也. 古座川合同調査報告集 第6巻. 2011, 295p.

久保田 信, 梅本 信也. 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ (カタバミ科) の奇形. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p.45.

■田川 正朋

田川 正朋. カレイ類の形態異常出現機構の解明と防除—最適な変態「前」成長速度の検討—. 2011.

■長谷川 尚史

長谷川 尚史. 1.1 木文化仁淀川プロジェクトの全体構想と2010年度の進捗状況. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.3-12.

長谷川 尚史. 第17回森林生産システム研究会現地検討会報告. 森林利用学会誌. 2011, 26(4).

長谷川 尚史. 第17回森林生産システム研究会シンポジウム報告. 森林利用学会誌. 2011, 26(4).

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.104-112.

■中西 麻美

中西 麻美, 深田 英久. 1.4 2010年における池川・川成川地域の人工林の土壌、ヒノキ生葉の調査結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.28-32.

深田 英久, 中西 麻美. 1.2 平成22年度 仁淀川森グループ調査報告 —平成22年度 スギ・ヒノキ調査プロットにおける毎木調査の結果—. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.13-18.

■上野 正博

秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. 2.11 由良川河口域におけるニホンハマアミ現存量と生産量の季節変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.159-162.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. 2.12 由良川河口域におけるスズキ稚魚の回遊と成長. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.163-238.

舟橋 達宏, 上野 正博, 山下 洋, 笠井 亮秀. 2.9 数値実験による由良川河口域における塩水進入の変動解析. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.147-154.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.126-136.

渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. 2.10 由良川河口域における植物プランクトン群集の季節変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010年度報告書. 2012, p.155-158.

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. New Frontiers in Crustacean Biology. 2011, p.183-196.

■中山 耕至

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. New Frontiers in Crustacean Biology. 2011, p.183-196.

■甲斐 嘉晃

Fujita, Junta; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Comparison of genetic population structures between the landlocked shrimp, *Neocaridina denticulata denticulata*, and the amphidromous shrimp, *Caridina leucosticta* (Decapoda: Atyidae) as inferred from mitochondrial DNA sequences. *New Frontiers in Crustacean Biology*. 2011, p. 183-196.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. コブヒトデモドキ (ヒトデ綱; コブヒトデ科) が冬期に京都大学瀬戸臨海実験所飼育水槽で死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 46-47.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ台風により一度に打ち上がった複数のクロチョウガイ. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 48.

久保田 信. オカヤドカリ類 (甲殻類, 異尾類) の幼体を京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で 2011 年秋季に再発見. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 49-50.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の研究棟正面入口へ再出現したフナムシ (甲殻類). 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 51-52.

久保田 信. 夏から初冬に瀬戸臨海実験所構内に大量出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 53-56.

久保田 信. 読者のコーナー. (6). 環境と健康. 2011, 24(1), p. 131.

久保田 信, 内田 紘臣. 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に打ち上がった大型の死んだイシサンゴ. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 57-58.

久保田 信, 太田 満, 山本 泰司. イソモンガラ未成魚の飼育と死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 43-44.

久保田 信, 梅本 信也. 瀬戸臨海実験所構内におけるカタバミ (カタバミ科) の奇形. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 45.

森阪 匡通, 酒井 麻衣, 小木 万布, 久保田 信, 亀崎 直樹. 伊豆諸島御蔵島周辺海域で観察されたアオウミガメによるクラゲ捕食. うみがめニュースレター. 2011, 89, p. 15.

海域陸域統合管理学研究部門

■佐藤 真行

佐藤 真行. 環境経済の政策研究報告書「持続可能な発展へ向けた環境政策・経済システム研究: GS等の動態分析による政策評価」. 2012,

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. 3. 由良川・仁淀川流域の社会調査報告. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 239-277.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

福島 慶太郎, 井上 みずき, 阪口 翔太, 藤木 大介, 山崎 理正, 境 優, 齊藤 星耕, 中島 皇, 高柳 敦. ニホンジカによる過採食が芦生の冷温帯天然林の生物多様性と生態系機能に及ぼす影響の解明. プロ・ナトゥーラ・ファンド第 20 期助成成果報告書. 2011, p. 183-201.

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

福島 慶太郎, 福澤 加里部, 徳地 直子, 長谷川 尚史, 向 昌宏, 竹本 雅浩. 1.5 仁淀川流域における人工林施業が山地溪流水質に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 33-40.

福島 慶太郎, 福崎 康司, 吉岡 崇仁, 上野 正博, 大槻 あずさ. 2.8 由良川中流域に位置する大野ダム湖内での水質変化. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 137-146.

境 優, 福島 慶太郎. 2.5 スギ人工林の間伐および林道設置などの森林施業が溪流の底生動物群集に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 113-117.

富田 健介, 山中 律, 福島 慶太郎, 徳地 直子. 1.6 河川水質及び生態系に及ぼす森林管理の影響～仁淀川上流域における付着藻類及び河川水クロロフィルと水生生物に及ぼす間伐の影響 (平成 22 年) ～. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 41-57.

徳地 直子, 福島 慶太郎, 白澤 紘明, 大森 真貴子, 山中 律, 富田 健介. 1.7 仁淀川全域の水質について. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 58-68.

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 126-136.

■石原 正恵

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 2.3 芦生研究林におけるシカ排除柵によるススキ群落の回復過程. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 83-103.

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■大川 智船

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. 3. 由良川・仁淀川流域の社会調査報告. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 239-277.

技術管理部

■浅野 善和

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■伊藤 雅敏

伊藤 雅敏. 上賀茂試験地自然観察会応募状況について. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 44-48.

■太田 満

山本 泰司, 太田 満. 瀬戸臨海実験所水族館におけるフナムシの継代飼育展示. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 35-36.

久保田 信, 加藤 哲哉, 太田 満, 山本 泰司. イソモンガラ未成魚の飼育と死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 2011, 24, p. 43-44.

■大橋 健太

大橋 健太. 上賀茂試験地における種子交換業務—最近の受注傾向 2—. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 35-43.

■勝山 智憲

古田 卓, 勝山 智憲. 北海道研究林標茶区と白糠区のハリガネムシの季節変動. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 52-58.

■小嶋 宏和

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■佐藤 修一

佐藤 修一. 北海道研究林の森林整備加速化事業実施について. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 27-28.

■西岡 裕平

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■長谷川 敦史

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和. 2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■林 大輔

林 大輔. 野生動物のモニタリング開始. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 29-32.

■藤井 弘明

福島 慶太郎, 石原 正恵, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 藤井 弘明, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 小嶋 宏和, 浅野 善和.
2.4 芦生研究林下谷流域におけるスギ人工林の商業伐採が植生 - 土壌 - 溪流間の養分動態に与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 104-112.

■古田 卓

古田 卓, 勝山 智恵. 北海道研究林標茶区と白糠区のハリガネムシの季節変動. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 52-58.

■向 昌宏

吉岡 崇仁, 向 昌宏, 山下 洋, 上野 正博, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 渡辺 謙太. 2.7 由良川流域における鉄と有機物の分布と挙動. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 126-136.

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 2.3 芦生研究林におけるシカ排除柵によるススキ群落の回復過程. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2010 年度報告書. 2012, p. 83-103.

■山内 隆之

山内 隆之. 北白川試験地における見本樹の花期について. 研究林・試験地情報 2010(平成 22)年度. 2012, p. 49-51.

■山本 泰司

山本 泰司. 瀬戸臨海実験所水族館のフナムシ飼育個体群の変動と成長. 瀬戸臨海実験所年報. 24, 2011, p. 37-42.

山本 泰司, 太田 満. 瀬戸臨海実験所水族館におけるフナムシの継代飼育展示. 瀬戸臨海実験所年報. 24, 2011, p. 35-36.

久保田 信, 加藤 哲哉, 太田 満, 山本 泰司. イソモンガラ未成魚の飼育と死亡. 瀬戸臨海実験所年報. 24, 2011, p. 43-44.

◆学会発表 (発表要旨集合む)

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. "国産材の利用に関する住民意識調査". 環境科学会 2011 年会. 関西学院大学 (西宮), p. 20, 2011.

福島 慶太郎, 井上 泰男, 大塚 泉, 福崎 康司, 徳地 直子, 吉岡 崇仁. "皆伐・再造林されたスギ人工林の成立に伴う溶存態有機物の変化". 日本地球惑星科学連合 2011 年大会. 2011-05-22, 幕張メッセ (ポスター MIS023-P09).

福島 慶太郎, 鈴木 伸弥, 福崎 康司, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 杉山 淳司. "京都府由良川流域における森林から海までの栄養塩動態: 森林生態系と沿岸生態系の連環解明に向けて". 第 197 回生存圏シンポジウム. 宇治, 2012.

福崎 康司, 渡辺 健太, 福島 慶太郎, 山下 洋, 吉岡 崇仁. "由良川河口域における溶存有機物の光学的特性および溶存鉄の濃度分布". 日本地球惑星科学連合 2011 年大会. 2011-05-22, 幕張メッセ (ポスター MIS023-P10).

福崎 康司, 吉岡 崇仁, 今井 一郎. "海洋植物プランクトンの産生する溶存有機物の光学的特性". 日本腐植物質学会 第 27 回講演会. 2011-11-17, 石川県金沢市, 2011.

福崎 康司, 渡辺 謙太, 福島 慶太郎, 大槻 あずさ, 白澤 紘明, 鈴木 伸弥, 上野 正博, 山下 洋, 吉岡 崇仁. "由良川河口沿岸域における溶存有機物の光学的特性の分布と季節変化". 生物地球化学研究会 10 周年記念セッション. 2011-10-22, 北海道札幌市, 2011, p. 16.

鈴木 伸弥, 吉岡 崇仁, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 白澤 紘明, 大槻 あずさ. "硝酸の酸素と窒素同位体比を用いた由良川流域における窒素供給源の評価". 日本生態学会第 59 回全国大会. 2012-03-20, 滋賀県大津市, 2012.

Fukushima, K.; Sakai, M.; Sakaguchi, S.; Iwai, Y.; Hasegawa, A.; Nishioka, Y.; Fujii, H.; Tokuchi, N.; Yoshioka, T.; Takayanagi, A. "Deer over-browsing of forest understory vegetation alters the pattern of nitrate loss to streamwater in forested watersheds in Ashiu, Japan". 第 44 回 AGU Fall Meeting 2011. 2011-12-05, サンフランシスコ, 2011.

Fukushima, Keitaro; Sakai, Masaru; Sakaguchi, Shota; Iwai, Yuka; Hasegawa, Atsushi; Nishioka, Yuhei; Fujii, Hiroaki; Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito; Takayanagi, Atsushi. "Nitrogen Export from Headwater Catchments: Integrating Biogeochemical Processing with Hydrologic Transport". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011.

- Fukuzaki, Koji; Watanabe, Kenta; Fukushima, Keitaro; Akiyama, Satoshi; Fuji, Taiki; Funahashi, Tatsuhiro; Shirasawa, Hiroaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh; Yoshioka, Takahito. "Assessing spatial and seasonal variations of dissolved organic matter by spectroscopic analysis in a stratified estuary: Yura River Estuary, Japan". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011.
- Ishii, K.; Fukushima, K.; Ishihara, M.; Yoshioka, T. "Soil carbon and nitrogen dynamics changes associated with vegetation recovery in a deer enclosure at a heavy grazed *Miscanthus sinensis* grassland". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 滋賀県大津市, 2012.
- Katsuyama, Masanori; Yoshioka, Takahito; Konohira, Eiichi; Tayasu, Ichiro; Tani, Makoto. "Spatial distribution of oxygen-18 and deuterium in stream- and groundwaters across the Japanese archipelago". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011.
- Watanabe, Kenta; Fukuzaki, Koji; Akiyama, Satoshi; Ichimi, Kazuhiko; Kasai, Akihito; Fukushima, Keitaro; Ueno, Masahiro; Yoshioka, Takahito; Yamashita, Yoh. "The influence of estuarine conditions on the dynamics of a coastal phytoplankton community in a micro-tidal estuary: Yura River Estuary, Japan". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. San Francisco, 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011, p.B13E-0611.
- 徳地 直子
- 稲垣 善之, 稲垣 昌宏, 小林 政広, 伊藤 優子, 三浦 覚, 戸田 浩人, 福島 慶太郎, 館野 隆之輔, 徳地 直子. "スギ人工林における窒素負荷と窒素流亡の関係". 森林学会関東支部大会. 2011.
- 勝山 正則, 福島 慶太郎, 徳地 直子. "堆積岩山地における渓流水の平均滞留時間の決定と水質変動との関連性". 第123回日本森林学会大会. 2012-03-27, 宇都宮, 2012.
- 鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. "北海道東部における初冬のホッチャレ消費者". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.
- 小久保 友貴, 前田 佑輔, 福島 慶太郎, 徳地 直子, 村野 宏達, 磯井 俊行. "スギ(*Cryptomeria japonica* D. Don)の林齢と菌根菌感染および根圏土壌のホスファターゼ活性との関係". 日本土壌肥料学会 2011 年度大会. つくば, 2011.
- 富樫 博幸, 徳地 直子, 陀安 一郎. "山地渓流域の食物連鎖長: 決定機構に果たす生産性の役割". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.
- 日高 渉, 徳地 直子, 藤井 一至, 小山 里奈, 長田 典之, 藤巻 玲路. "木本植物の硝酸還元に伴う根呼吸の定量、¹⁴C₂パルスラベリングを用いて". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.
- 福島 慶太郎, 井上 泰男, 大塚 泉, 福崎 康司, 徳地 直子, 吉岡 崇仁. "皆伐・再造林されたスギ人工林の成立に伴う溶存態有機物の変化". 日本地球惑星科学連合 2011 年大会. 2011-05-22, 幕張メッセ (ポスター MIS023-P09).
- 福島 慶太郎, 境 優, 徳地 直子, 長谷川 敦史, 西岡 裕平, 藤井 弘明, 高柳 敦. "シカは森林の渓流水質を変えるか?- 芦生ブナ天然林に設置したシカ柵集水域における 5 年間の水質結果から". 日本陸水学会第 76 回大会. 2011-09-23, 松江, 2011.
- 福島 慶太郎, 鈴木 伸弥, 福崎 康司, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 杉山 淳司. "京都府由良川流域における森林から海までの栄養塩動態: 森林生態系と沿岸生態系の連環解明に向けて". 第197回生存圏シンポジウム. 宇治, 2012.
- 穂刈 梓, 木庭 啓介, 竹林 佑, 中西 麻美, 稲垣 善之, 望月 嘉人, 黒岩 恵, 徳地 直子, 楊 宗興. "土壌微生物バイオマス窒素同位体比の窒素可給性指標としての可能性について". Japan Geoscience Union Meeting 2011 (日本地球惑星連合 2011 年大会). 幕張メッセ/千葉市, 2011.
- 牧野 奏佳香, 長田 典之, 徳地 直子. "暖温帯二次林におけるアラカシとコナラの個体レベルの窒素動態". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.
- Fukushima, K.; Nakashima, T.; Fujiki, Y.; Nakamura, S.; Koide, K.; Yamanaka, N.; Tokuchi, N.; Oohata, S. "Gradual changes in stream nitrate discharge along with nitrogen deposition, forest biomass and productivity in a headwater catchment of a natural cool-temperate forest". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津. 2012,
- Fukushima, K.; Sakai, M.; Sakaguchi, S.; Iwai, Y.; Hasegawa, A.; Nishioka, Y.; Fujii, H.; Tokuchi, N.; Yoshioka, T.; Takayanagi, A. "Deer over-browsing of forest understory vegetation alters the pattern of nitrate loss to streamwater in forested watersheds in Ashiu, Japan". 第44回AGU Fall Meeting 2011. 2011-12-05, サンフランシスコ, 2011.
- Fukushima, Keitaro; Sakai, Masaru; Sakaguchi, Shota; Iwai, Yuka; Hasegawa, Atsushi; Nishioka, Yuhei; Fujii, Hiroaki; Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito; Takayanagi, Atsushi. "Nitrogen Export from Headwater Catchments:

Integrating Biogeochemical Processing with Hydrologic Transport". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011.

Osada, N.; Tokuchi, N. "Height-dependent changes in shoot structure of 12 tree species in relation to functional types". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012,

■ 舘野 隆之輔

舘野 隆之輔. "Nitrogen uptake and nitrogen use efficiency above and below ground along a topographic gradient of soil nitrogen availability (地形が生み出す土壌窒素環境の傾度に沿った地上部・地下部の窒素吸収量および窒素利用効率の変化)". 第123回日本森林学会大会. 宇都宮大学(宇都宮), 2012-03-27, 2012.

舘野 隆之輔, 張 健, 谷口 武士, 山中 典和, 杜 盛. "半乾燥地における斜面位置の違いが樹木の水と窒素の利用効率に与える影響". 第123回日本森林学会大会. 宇都宮大学(宇都宮), 2012-03-27, 2012.

稲垣 善之, 稲垣 昌宏, 小林 政広, 伊藤 優子, 三浦 寛, 戸田 浩人, 福島 慶太郎, 舘野 隆之輔, 徳地 直子. "スギ人工林における窒素負荷と窒素流亡の関係". 森林学会関東支部大会. 2011.

福澤 加里部, 浦川 梨恵子, 菱 拓雄, 柴田 英昭, 宮本 敏澄, 井上 貴央, 舘野 隆之輔. "北海道の冷温帯林における細根の有無が土壌の窒素無機化に及ぼす影響". 第124回日本森林学会大会. 宇都宮大学(宇都宮), 2012-03-28, 2013.

■ 中島 皇

中島 皇, 向井 宏, 秋田 豊, 伊藤 雅敏, 小出 和彰. "瀬戸内海に見る森里海連環ーポケゼミin徳山試験地ー". 瀬戸内海研究フォーラムin大分. 2011-08-18/19, 2011.

小出 和彰, 中島 皇, 福島 慶太郎, 中村 真介, 藤木 泰斗, 山中 典和, 大畠 誠一. "芦生幽仙谷集水域天然林の動態(III)". 第123回日本森林学会大会. 宇都宮, 2012.

Fukushima, K.; Nakashima, T.; Fujiki, Y.; Nakamura, S.; Koide, K.; Yamanaka, N.; Tokuchi, N.; Oohata, S. "Gradual changes in stream nitrate discharge along with nitrogen deposition, forest biomass and productivity in a headwater catchment of a natural cool-temperate forest". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012,

■ 寄元 道徳

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. "紀伊半島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残". 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

■ 坂野上 なお

坂野上 なお. "木材生産・流通に影響を与える需要側の変化を追ってー林業経済研究は木材需要の行方をどのように捉えるかー". 林業経済学会 2011年春季大会シンポジウム. 2011-05-21, 2011.

坂野上 なお, 山本 博一. "原木市場における檜皮剥皮木の評価ー京都府の原木市場への剥皮木の出材事例ー". 第123回日本森林学会大会. 2012-03-28, 2012.

■ 長田 典之,

Osada, N.; Tokuchi, N. "Height-dependent changes in shoot structure of 12 tree species in relation to functional types". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津. 2012,

日高 渉, 徳地 直子, 藤井 一至, 小山 里奈, 長田 典之, 藤巻 玲路. "木本植物の硝酸還元に伴う根呼吸の定量、¹⁴C₂パルスラベリングを用いて". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

牧野 奏佳香, 長田 典之, 徳地 直子. "暖温帯二次林におけるアラカシとコナラの個体レベルの窒素動態". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

野村 拓真, 長田 典之, 北山 兼弘. "多雪地における幹先端部の力学的特性の樹種間比較". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

■ 富樫 博幸

富樫 博幸, 徳地 直子, 陀安 一郎. "山地渓流域の食物連鎖長: 決定機構に果たす生産性の役割". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

里域生態系部門

■ 山下 洋

Emily S., Antonio, 笠井 亮秀, 石樋 由香, 横山 壽, 上野 正博, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造ー5 物理環境とマクロベントス摂餌生態の時空間変化". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 50.

- 秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造-4 成長実験によるニホンハマアミの生産量推定". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 50.
- 秋山 諭, 渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. "由良川河口域における河川流量と近低層生物環境の関係". 2011年日本ベントス学会・日本プランクトン学会共同大会. 高知大学, 2011, p. 112.
- 青木 貴志, 笠井 亮秀, 富士 泰期, 上野 正博, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造-7 由良川河口域におけるハゼ科魚類群集構造と食性". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 51.
- 大嶋 真謙, 南 憲史, 横山 壽, 山下 洋. "稚ナマコの飼育に適した水槽設置場所の検討". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 183.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "アユ仔魚の群れ形成に及ぼす濁度の影響". 日本水産学会春季大会. 東京, 2012, p. 61.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "カタクチイワシ仔魚の群れ形成に及ぼす濁度の影響". Animal 2011. 東京, 2011, p. 33.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 真壁 竜介, 上野 正博, 栗原 拓也, 南 憲史, 上 真一, 山下 洋. "カタクチイワシ仔魚の捕食者密度と濁度との関係". 水産海洋学会研究発表大会. 函館, 2011, p. 48.
- 鈴木 健太郎, 杉本 亮, Md. Younus, Mia, 上野 正博, 山下 洋. "由良川河口域における懸濁態有機物の動態 - 塩水遡上に伴う炭素安定同位体比の変化 -". 2012年度日本海洋学会春季大会. 筑波大学, 2012, p. 283.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. "海産魚の社会学習についての研究". 第23回魚類生態研究会. 広島大学, 2012.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. "手網追尾刺激がマダイ稚魚の行動特性に与える影響". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 183.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. "魚類における観察学習の鍵となる要因 - シマアジは何を真似するか -". Animal 2011 (4学会合同大会). 慶應義塾大学三田キャンパス, p. 60, 2011.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. "水中給餌および追尾刺激によるヒラメ人工種苗の摂餌行動の改善". 平成23年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 61.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. "海産魚マアジにおける生活史戦略としての学習能力の個体発生". 日本生態学会近畿地区会2011年度第2回例会. 神戸大学, 2011.
- 福崎 康司, 渡辺 健太, 福島 慶太郎, 山下 洋, 吉岡 崇仁. "由良川河口域における溶存有機物の光学的特性および溶存鉄の濃度分布". 日本地球惑星科学連合2011年大会. 2011-05-22, 幕張メッセ (ポスター MIS023-P10).
- 福崎 康司, 渡辺 謙太, 福島 慶太郎, 大槻 あずさ, 白澤 紘明, 鈴木 伸弥, 上野 正博, 山下 洋, 吉岡 崇仁. "由良川河口沿岸域における溶存有機物の光学的特性の分布と季節変化". 生物地球化学研究会10周年記念セッション. 2011-10-22, 北海道札幌市, 2011, p. 16.
- 富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造-6. スズキ稚魚における回遊と成長との関係". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 51.
- 富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "京都府丹後海におけるスズキ稚魚加入量の変動要因". 平成23年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 73.
- 藤田 純太, 上田 祐司, 山下 夕帆, 伊藤 正木, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. "深海性クロザコエビ属の遺伝的多様度と日本海古海洋環境変動との対応". 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 57.
- 藤田 純太, 大和 茂之, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. "両側回遊性ヒメヌマエビ属3種の分子生態学: 黒潮障壁仮説の検証". 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 56.
- 舟橋 達宏, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造-2 数値モデルによる由良川河口域の低次生産構造の解明". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 50.
- 松井 彰子, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. "スジハゼ3タイプの遺伝的差異とそれにもとづく簡易判別法の開発". 2011年度日本魚類学会. 弘前, 2011, p. 71.
- 松村 靖治, 村瀬 慎司, 山本 健也, 宮内 正幸, 的場 達人, 大塚 徹, 森下 貴文, 山口 忠則, 大隈 斉, 平田 伸治, 片山 太輔, 山下 洋. "九州及び瀬戸内海の産卵場で放流したトラフグ人工種苗の放流効果と回帰性について". 平成23年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 72.
- 南 憲史, 益田 玲爾, 上野 正博, 大嶋 真謙, 谷本 愛奈, 山下 洋. "舞鶴湾におけるマナマコ天然採苗の好適環境". 平成23年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 127.
- 南 憲史, 益田 玲爾, 横山 壽, 上野 正博, 大嶋 真謙, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造-1 底質組成からみた舞鶴湾の環境と水域区分". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 49.
- 宮島 悠子, 益田 玲爾, 山下 洋, 栗原 紋子, 竹内 俊郎. "カワハギの餌料としてのエチゼンクラゲの有用性". 平成23年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 32.

- 宮島 悠子, 益田 玲爾, 水野 かおり, 山下 洋. "カワハギのミズクラゲ回避とミズクラゲ摂餌の個体発生". 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p.75.
- 村瀬 慎司, 戸澤 隆, 山下 洋. "有明海に放流したホンシガレイ人工種苗の初期の移動と成長". 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p.72.
- 渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造—3 河川流入と沿岸域の植物プランクトン生産". 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p.50.
- 渡辺 謙太, 福崎 康司, 秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. "由良川河口域の植物プランクトン群集に対する河川の影響". 2011 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会共同大会. 高知大学, 2011, p.125.
- Yamashita, Y.; Oshima, M.; Ueno, M.; Uehara, S.; Kurita, Y.; Tanaka, Y.; Tanaka, M. "Determining the mechanism of latitudinal differences in year-class strength for Japanese flounder". The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, The Netherlands, 2011, p.49.
- Akiyama, S.; Watanabe, K.; Murazumi, K.; Sugawara, T.; Ueno, M.; Yamashita, Y. "Food habits of sympatric coastal mysids as determined by multiple methods". 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012, p.513.
- Akiyama, S.; Ueno, M.; Yamashita, Y. "Effects of seasonal temperature change on the population dynamics of the mysid *Orientomysis japonica* in the Yura estuary of the Tango Sea, Japan". 22nd Biennial Conference of the Coastal and Estuarine Research Federation. Florida, 2011, p.2.
- Antonio, E. S.; Mukai, H.; Yamashita, Y. "Linking forests and seas through research and education in Kyoto University, Japan". Annual Conference of the South African Society of Aquatic Scientists. Ithala, KwaZulu Natal, South Africa, 2011, p.74.
- Antonio, E. S.; Mukai, H.; Yamashita, Y. "Linking forests and seas through research and education in Kyoto University, Japan". Sustainable utilization of southern African aquatic resources, Ithala Game Reserve, Republic of South Africa. 2011,
- Antonio, E. S.; Ueno, M.; Kasai, A.; Ishihi, Y.; Yokoyama, H.; Yamashita, Y. "Temporal diet shift among benthic communities in a river-estuary-marine gradient". Annual Conference of the South African Society of Aquatic Scientists. Ithala, KwaZulu Natal, South Africa, 2011, p.15.
- Bhandare, C.; Yamashita, Y. "Intra-specific differences in hatch dates, growth rates, condition and meristics between two populations of Japanese flounder, *Paralichthys olivaceus*, in Tango Sea, Japan". The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, The Netherlands, 2011, p.53.
- Chin, B.; Nakagawa, M.; Noda, T.; Yamashita, Y. "Determining optimal release habitat for black rockfish: examining growth rate, feeding condition and recapture rate". The Fourth International Symposium on Stock Enhancement and Sea Ranching. Shanghai Ocean University, Shanghai, China, 2011, p.59-60.
- Fuji, T.; Kasai, A.; Ueno, M.; Yamashita, Y. "Use of salt-wedge intrusion by temperate seabass juveniles to ascend to upper estuary areas in the Yura River, Japan". 21st Biennial Conference of the Coastal and Estuarine Research Federation. Florida, 2011, p.73.
- Fujita, Junta; Ueda, Yuji; Yamashita, Yuho; Ito, Masaki; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. "Molecular phylogeography of a deep-sea crangonid shrimp *Argis lar* from the northern Japan: corresponding pattern to the pathway of the ocean currents". Annual Conference of Society for Molecular Biology and Evolution. 京都大学, 2011, p.30.
- Fukuzaki, Koji; Watanabe, Kenta; Fukushima, Keitaro; Akiyama, Satoshi; Fuji, Taiki; Funahashi, Tatsuhiko; Shirasawa, Hiroaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh; Yoshioka, Takahito. "Assessing spatial and seasonal variations of dissolved organic matter by spectroscopic analysis in a stratified estuary: Yura River Estuary, Japan". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011.
- Matsui, S.; Inui, R.; Yamashita, Y. "Distribution and habitat use of three closely related gobiid fishes along coastal waters of Japan". 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012, p.366.
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Takahashi, Kohji; Yamashita, Yoh. "Turbidity dependent schoolformation in three marine fish species larvae". 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012,
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Moderate turbidity improves schooling behavior in Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae". Behavior 2011. Indiana, USA, 2011, p.189.
- Takahashi, K.; Masuda, R.; Yamashita, Y. "Ontogenetic changes in learning capability of jack mackerel during

habitat shifts". Behavior 2011. Indiana University USA, 2011, p.232.

Wada, T.; Mitsunaga, N.; Suzuki, K.W.; Tomiyama, T.; Yamashita, Y.; Tanaka, M. "Inter-specific comparisons of recruitment characteristics explain the rarity of the pleuronectid flatfish *Verasper variegatus*". The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, The Netherlands, 2011, p.89-90.

Walsh, Michelle "Mick"; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Behavior of Reared Japanese Flounder as Both Predator and Prey: Implications for Stock Enhancement". Behavior 2011. Indiana University Bloomington, Indiana, USA, 2011, p. 269.

Walsh, Michelle L.; Fujimoto, Hiroshi; Yamamoto, Takeo; Yamada, Tatsuya; Takahashi, Youichi; Yamashita, Yoh. "Obama's floundering: post-release abilities, characteristics, and assessment of cage conditioned Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*". The 4th International Symposium on Stock Enhancement and Sea Ranching (ISSESR). Shanghai Ocean University Shanghai, China, 2011, p.55-56.

Walsh, Michelle L.; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Behavior of Reared Japanese Flounder as Both Predator and Prey: Implications for Stock Enhancement". Aquaculture America 2012. Las Vegas, Nevada, USA, 2012, p.19.

Walsh, Michelle L.; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Acclimation Cage Conditioning for Flatfish Stock Enhancement: Examining Feeding-Related Behaviors of Two Flounder Species Reared on Different Hatchery Feeds". American Fisheries Society 141st Annual Meeting. Washington State Convention Center Seattle, Washington, USA, 2011, p. 103.

Walsh, Michelle L.; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Behavior of Reared Japanese Flounder as Both Predator and Prey: Implications for Stock Enhancement". The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, Netherlands, 2011,

Walsh, M.L.; Masuda, R.; Yamashita, Y. "Having friends for dinner: examining the behavior of hatchery-reared Japanese flounder as both predator and prey and its implications for stock enhancement efforts". The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, The Netherlands, 2011, p.64.

Watanabe, Kenta; Fukuzaki, Koji; Akiyama, Satoshi; Ichimi, Kazuhiko; Kasai, Akihide; Fukushima, Keitaro; Ueno, Masahiro; Yoshioka, Takahito; Yamashita, Yoh. "The influence of estuarine conditions on the dynamics of a coastal phytoplankton community in a micro-tidal estuary: Yura River Estuary, Japan". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. San Francisco, 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011, p.B13E-0611.

■柴田 昌三

中西 麻美, 稲垣 善之, 木庭 啓介, 新井 宏受, 柴田 昌三, 大澤 直哉. "異なる斜面位置における小面積皆伐後のヒノキの窒素利用の変化". 第123回日本森林学会大会. 宇都宮大学/宇都宮市, p.Pa014, 2012.

■田川 正朋

磯島 俊実, 辻 寛人, 高草木 将人, 牧野 直, 田川 正朋. "ヒラメの無眼側着色型黒化における黒化部の分類と組織レベルでの黒化過程の検討". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京, 2012.

越後 はるな, 藤浪 祐一郎, 田川 正朋. "ヒラメの無眼側体表は傷修復によって有眼側の特徴を獲得する". 平成23年度日本水産学会秋季大会. 長崎, 2011.

吉川 尚樹, 松田 泰平, 村上 直人, 市川 卓, 田川 正朋. "マツカワ無眼側の黒化部は有眼側の特徴を示す一変態期と変態完了後に発現する黒化の比較". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京, 2012.

吉川 尚樹, 松田 泰平, 田川 正朋. "黒い仔魚の体色が変態期に薄れるマツカワの色素胞発現-白い仔魚が着色するヒラメとの比較-". 平成23年度日本水産学会秋季大会. 長崎, 2011.

■益田 玲爾

益田 玲爾. "魚類の行動と増養殖". 平成24年度日本水産学会春季大会要旨集. 東京, 2012, p.257.

益田 玲爾. "異なる水温環境におけるカワハギの活動性と摂餌行動の潜水観察". 平成23年度日本水産学会秋季大会要旨集. 長崎, 2011, p.78.

益田 玲爾, 宮島 悠子. "クラゲ食魚類の捕食活動によるエチゼンクラゲの発生制御". 平成24年度日本水産海洋学会シンポジウム. 東京, 2012.

益田 玲爾, 畠山 信. "気仙沼・舞根湾における生物環境調査-4 津波被害を受けた魚類相の回復過程の潜水観察". 平成24年度日本水産学会春季大会要旨集. 東京, 2012, p.54.

大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "アユ仔魚の群れ形成に及ぼす濁度の影響". 日本水産学会春季大会. 東京, p.61, 2012.

大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "カタクチイワシ仔魚の群れ形成に及ぼす濁度の影響". Animal 2011. 東京, 2011, p.33.

大畑 亮輔, 益田 玲爾, 真壁 竜介, 上野 正博, 栗原 拓也, 南 憲吏, 上 真一, 山下 洋. "カタクチイワシ仔魚の捕

- 食者密度と濁度との関係”. 水産海洋学会研究発表大会. 函館, 2011, p. 48.
- 小島 大輔, 益田 玲爾, 岩田 宗彦. “メラトニンの脳内投与はマアジの群れを拡散させる”. 平成 23 年度日本水産学会秋季大会要旨集. 長崎, 2011, p. 152.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. “海産魚の社会学習についての研究”. 第 23 回魚類生態研究会. 広島大学, 2012.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. “手網追尾刺激がマダイ稚魚の行動特性に与える影響”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 183.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. “魚類における観察学習の鍵となる要因 —シマアジは何を真似するか—”. Animal 2011 (4 学会合同大会). 慶應義塾大学三田キャンパス, 2011, p. 60.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. “水中給餌および追尾刺激によるヒラメ人工種苗の摂餌行動の改善”. 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 61.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. “海産魚マアジにおける生活史戦略としての学習能力の個体発生”. 日本生態学会近畿地区会 2011 年度第 2 回例会. 神戸大学, 2011.
- 田中 克, 横山 勝英, 藤浪 祐一郎, 山田 雄一郎, 畠山 信, 西谷 豪, 山本 光夫, 益田 玲爾, 吉永 郁生, 中山 耕至, 張野 宏也, 劉 丹. “気仙沼・舞根湾における生物環境調査-1 調査の背景と目的”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京, 2012.
- 宮島 悠子, 益田 玲爾, 山下 洋, 栗原 紋子, 竹内 俊郎. “カワハギの餌料としてのエチゼンクラゲの有用性”. 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 32.
- 宮島 悠子, 益田 玲爾, 水野 かおり, 山下 洋. “カワハギのミズクラゲ回避とミズクラゲ摂餌の個体発生”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 75.
- 横田 高士, 益田 玲爾, 竹内 宏行, 町田 雅春, 升間 主計, 荒井 修亮. “アカアマダイのトンネル状巣穴と形成行動に見られる特徴”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会要旨集. 東京, 2012, p. 74.
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Takahashi, Kohji; Yamashita, Yoh. “Turbidity dependent school formation in three marine fish species larvae”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回 EAFES (東アジア生態学会連合) 大会. 大津, 2012.
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. “Moderate turbidity improves schooling behavior in Japanese anchovy *Engraulis japonicus* larvae”. Behavior 2011. Indiana, USA, 2011, p. 189.
- Takahashi, K.; Masuda, R.; Yamashita, Y. “Ontogenetic changes in learning capability of jack mackerel during habitat shifts”. Behavior 2011. Indiana University USA, 2011, p. 232.
- Walsh, Michelle “Mick”; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. “Behavior of Reared Japanese Flounder as Both Predator and Prey: Implications for Stock Enhancement”. Behavior 2011. Indiana University Bloomington, Indiana, USA, 2011, p. 269.
- Walsh, Michelle L.; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. “Behavior of Reared Japanese Flounder as Both Predator and Prey: Implications for Stock Enhancement”. Aquaculture America 2012. Las Vegas, Nevada, USA, 2012, p. 19.
- Walsh, Michelle L.; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. “Acclimation Cage Conditioning for Flatfish Stock Enhancement: Examining Feeding-Related Behaviors of Two Flounder Species Reared on Different Hatchery Feeds”. American Fisheries Society 141st Annual Meeting. Washington State Convention Center Seattle, Washington, USA, 2011, p. 103.
- Walsh, Michelle L.; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. “Behavior of Reared Japanese Flounder as Both Predator and Prey: Implications for Stock Enhancement”. The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, Netherlands, 2011.
- Walsh, ML; Masuda, R.; Yamashita, Y. “Having friends for dinner: examining the behavior of hatchery-reared Japanese flounder as both predator and prey and its implications for stock enhancement efforts”. The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, The Netherlands, 2011, p. 64.
- 長谷川 尚史
- 白澤 紘明, 杉本 和也, 長谷川 尚史. “架線・路網配置の同時最適化”. 森林利用学会第 18 回学術研究発表会. 2011-11-18, 2011.
- 白澤 紘明, 長谷川 尚史. “循環路を含めた林内路網の自動設計”. 日本森林学会学術講演集. 2012, p. D14.
- 中西 麻美
- 中西 麻美, 稲垣 善之, 木庭 啓介, 新井 宏受, 柴田 昌三, 大澤 直哉. “異なる斜面位置における小面積皆伐後のヒノキの窒素利用の変化”. 第 123 回日本森林学会大会. 宇都宮大学/宇都宮市, 2012, p. Pa014.
- 山田 高大, 藤井 一至, 舟川 晋也, 中西 麻美. “森林土壌のアンモニア化成能に対する C/N 比の影響”. 日本土壌肥料学会 2011 年度つくば大会. つくば国際会議場/つくば市, 2011.
- 穂刈 梓, 木庭 啓介, 竹林 佑, 中西 麻美, 稲垣 善之, 望月 嘉人, 黒岩 恵, 徳地 直子, 楊 宗興. “土壌微生物バイ

オマス窒素同位体比の窒素可給性指標としての可能性について”. Japan Geoscience Union Meeting 2011 (日本地球惑星連合 2011 年大会). 幕張メッセ/千葉市, 2011.

■上野 正博

秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. “由良川・丹後海における生物生産構造-4 成長実験によるニホンハマアミの生産量推定”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 50.

秋山 諭, 渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. “由良川河口域における河川流量と近低層生物環境の関係”. 2011 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会共同大会. 高知大学, 2011, p. 112.

青木 貴志, 笠井 亮秀, 富士 泰期, 上野 正博, 山下 洋. “由良川・丹後海における生物生産構造-7 由良川河口域におけるハゼ科魚類群集構造と食性”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 51.

大畑 亮輔, 益田 玲爾, 真壁 竜介, 上野 正博, 栗原 拓也, 南 憲吏, 上 真一, 山下 洋. “カタクチイワシ仔魚の捕食者密度と濁度との関係”. 水産海洋学会研究発表大会. 函館, 2011, p. 48.

鈴木 健太郎, 杉本 亮, Md. Younus, Mia, 上野 正博, 山下 洋. “由良川河口域における懸濁態有機物の動態 - 塩水遡上に伴う炭素安定同位体比の変化 -”. 2012 年度日本海洋学会春季大会. 筑波大学, 2012, p. 283.

福崎 康司, 渡辺 謙太, 福島 慶太郎, 大槻 あずさ, 白澤 紘明, 鈴木 伸弥, 上野 正博, 山下 洋, 吉岡 崇仁. “由良川河口沿岸域における溶存有機物の光学的特性の分布と季節変化”. 生物地球化学研究会 10 周年記念セッション. 2011-10-22, 北海道札幌市, 2011, p. 16.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. “由良川・丹後海における生物生産構造-6. スズキ稚魚における回遊と成長との関係”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 51.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. “京都府丹後海におけるスズキ稚魚加入量の変動要因”. 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 73.

藤田 純太, 上田 祐司, 山下 夕帆, 伊藤 正木, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. “深海性クロザコエビ属の遺伝的多様度と日本海古海洋環境変動との対応”. 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 57.

藤田 純太, 大和 茂之, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. “両側回遊性ヒメヌマエビ属 3 種の分子生態学: 黒潮障壁仮説の検証”. 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 56.

舟橋 達宏, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. “由良川・丹後海における生物生産構造-2 数値モデルによる由良川河口域の低次生産構造の解明”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 50.

南 憲吏, 益田 玲爾, 上野 正博, 大嶋 真謙, 谷本 愛奈, 山下 洋. “舞鶴湾におけるマナマコ天然採苗の好適環境”. 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 127.

南 憲吏, 益田 玲爾, 横山 壽, 上野 正博, 大嶋 真謙, 山下 洋. “由良川・丹後海における生物生産構造-1 底質組成からみた舞鶴湾の環境と水域区分”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, p. 49, 2012.

渡辺 謙太, 上野 正博, 山下 洋. “由良川・丹後海における生物生産構造-3 河川流入と沿岸域の植物プランクトン生産”. 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 50.

渡辺 謙太, 福崎 康司, 秋山 諭, 上野 正博, 山下 洋. “由良川河口域の植物プランクトン群集に対する河川の影響”. 2011 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会共同大会. 高知大学, 2011, p. 125.

Akiyama, S.; Watanabe, K.; Murazumi, K.; Sugawara, T.; Ueno, M.; Yamashita, Y. “Food habits of sympatric coastal mysids as determined by multiple methods”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012, p. 513.

Akiyama, S.; Ueno, M.; Yamashita, Y. “Effects of seasonal temperature change on the population dynamics of the mysid *Orientomysis japonica* in the Yura estuary of the Tango Sea, Japan”. 22nd Biennial Conference of the Coastal and Estuarine Research Federation. Florida, 2011, p. 2.

Antonio, E. S.; Ueno, M.; Kasai, A.; Ishihi, Y.; Yokoyama, H.; Yamashita, Y. “Temporal diet shift among benthic communities in a river-estuary-marine gradient”. Annual Conference of the South African Society of Aquatic Scientists. Ithala, KwaZulu Natal, South Africa, 2011, p. 15.

Fuji, T.; Kasai, A.; Ueno, M.; Yamashita, Y. “Use of salt-wedge intrusion by temperate seabass juveniles to ascend to upper estuary areas in the Yura River, Japan”. 21st Biennial Conference of the Coastal and Estuarine Research Federation. Florida, 2011, p. 73.

Fujita, Junta; Ueda, Yuji; Yamashita, Yuho; Ito, Masaki; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. “Molecular phylogeography of a deep-sea crangonid shrimp *Argis lar* from the northern Japan: corresponding pattern to the pathway of the ocean currents”. Annual Conference of Society for Molecular Biology and Evolution. 京都大学, 2011, p. 30.

Fukuzaki, Koji; Watanabe, Kenta; Fukushima, Keitaro; Akiyama, Satoshi; Fuji, Taiki; Funahashi, Tatsuhiro;

Shirasawa, Hiroaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh; Yoshioka, Takahito. "Assessing spatial and seasonal variations of dissolved organic matter by spectroscopic analysis in a stratified estuary: Yura River Estuary, Japan". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. 2011-12-05/09, San Francisco, California, USA. 2011, Watanabe, Kenta; Fukuzaki, Koji; Akiyama, Satoshi; Ichimi, Kazuhiko; Kasai, Akihito; Fukushima, Keitaro; Ueno, Masahiro; Yoshioka, Takahito; Yamashita, Yoh. "The influence of estuarine conditions on the dynamics of a coastal phytoplankton community in a micro-tidal estuary: Yura River Estuary, Japan". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. San Francisco, 2011-12-05/09, San Francisco, California, USA. 2011, p. B13E-0611. Yamashita, Y.; Oshima, M.; Ueno, M.; Uehara, S.; Kurita, Y.; Tanaka, Y.; Tanaka, M. "Determining the mechanism of latitudinal differences in year-class strength for Japanese flounder". The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, The Netherlands, 2011, p. 49.

■中山 耕至

田中 克, 横山 勝英, 藤浪 祐一郎, 山田 雄一郎, 畠山 信, 西谷 豪, 山本 光夫, 益田 玲爾, 吉永 郁生, 中山 耕至, 張野 宏也, 劉 丹. "気仙沼・舞根湾における生物環境調査-1 調査の背景と目的". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京, 2012.

藤田 純太, 上田 祐司, 山下 夕帆, 伊藤 正木, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. "深海性クロザコエビ属の遺伝的多様度と日本海古海洋環境変動との対応". 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 57.

藤田 純太, 大和 茂之, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. "両側回遊性ヒメスマエビ属3種の分子生態学: 黒潮障壁仮説の検証". 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 56.

松井 彰子, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. "スジハゼ3タイプの遺伝的差異とそれにもとづく簡易判別法の開発". 2011年度日本魚類学会. 弘前, 2011, p. 71.

Fujita, Junta; Ueda, Yuji; Yamashita, Yuhō; Ito, Masaki; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. "Molecular phylogeography of a deep-sea crangonid shrimp *Argis lar* from the northern Japan: corresponding pattern to the pathway of the ocean currents". Annual Conference of Society for Molecular Biology and Evolution. 京都大学, 2011, p. 30.

■甲斐 嘉晃

甲斐 嘉晃, 上田 祐司, 藤原 邦浩, 伊藤 正木, 中坊 徹次. "日本海-太平洋における底生性魚類の遺伝的分化". 日本魚類学会年会. 弘前大学, 青森, 2011-09-30/10-01, 2011.

片瀨 弘志, 甲斐 嘉晃, 中坊 徹次. "ミトコンドリアDNAから推定されたウミタナゴ属魚類の遺伝的差異". 日本魚類学会年会. 弘前大学, 青森, 2011-09-30/10-01, 2011.

亀甲 武志, 藤岡 康弘, 甲斐 嘉晃. "ホンモロコの卵サイズと孵化仔魚サイズの関係". 第59回日本生態学会大津大会. 龍谷大学瀬田キャンパス, 大津市, 2012.

亀甲 武志, 根本 守仁, 藤岡 康弘, 甲斐 嘉晃. "水田を利用したゲンゴロウブナの初期育成". 日本魚類学会年会. 弘前大学, 青森, 2011.

東海林 明, 甲斐 嘉晃, 上田 祐司, 中坊 徹次. "アバチャン(クサウオ科: スイショウウオ属)に見られる形態の変異". 日本魚類学会年会. 弘前大学, 青森, 2011-09-30/10-01, 2011.

藤田 純太, 上田 祐司, 山下 夕帆, 伊藤 正木, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. "深海性クロザコエビ属の遺伝的多様度と日本海古海洋環境変動との対応". 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 57.

藤田 純太, 大和 茂之, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. "両側回遊性ヒメスマエビ属3種の分子生態学: 黒潮障壁仮説の検証". 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 56.

松井 彰子, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. "スジハゼ3タイプの遺伝的差異とそれにもとづく簡易判別法の開発". 2011年度日本魚類学会. 弘前, 2011, p. 71.

Fujita, Junta; Ueda, Yuji; Yamashita, Yuhō; Ito, Masaki; Nakayama, Kouji; Kai, Yoshiaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. "Molecular phylogeography of a deep-sea crangonid shrimp *Argis lar* from the northern Japan: corresponding pattern to the pathway of the ocean currents". Annual Conference of Society for Molecular Biology and Evolution. 京都大学, 2011, p. 30.

Muto N; Kai Y; Noda T; Nakabo T. "Geographic trends in introgressive hybridization between two rockfishes, *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Teleostei: Scorpaeniformes: Scorpaenidae)". Society of Molecular Biology and Evolution. Kyoto, 2011-07-26/29, 2011, 2011,

Orr; J. W.; Y. Kai; S. Wildes; N. Raring; O. Katugin; T. Nakabo. "Systematics of the genus *Ammodytes* of the North Pacific Ocean: Part II, morphological evidence". Annual Meeting of Gilbert Ichthyological Society. Seabeck, Washington, 2011,

Wildes; S.; J. W. Orr; Y. Kai; N. Raring; O. Katugin; T. Nakabo. "Systematics of the genus *Ammodytes* of the North Pacific Ocean: Part I, molecular evidence.". Annual Meeting of Gilbert Ichthyological Society. Seabeck, Washington, 2011,

■大嶋 真謙

大嶋 真謙, 南 憲史, 横山 壽, 山下 洋. "稚ナマコの飼育に適した水槽設置場所の検討". 平成 24 年度日本水産学会 春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 183.

南 憲史, 大嶋 真謙. "ナマコの生態と増養殖技術の開発". 日本海研究集会. 福井県小浜市, 2012.

南 憲史, 大嶋 真謙. "舞鶴湾のナマコプロジェクトー資源の回復に向けてー". 丹後の海の恵みを生かす試験研究成果 報告会. 京都府宮津市, 2012.

南 憲史, 益田 玲爾, 上野 正博, 大嶋 真謙, 谷本 愛奈, 山下 洋. "舞鶴湾におけるマナコ天然採苗の好適環境". 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p. 127.

南 憲史, 益田 玲爾, 横山 壽, 上野 正博, 大嶋 真謙, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造ー1 底質組成からみた舞鶴湾の環境と水域区分". 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p. 49.

Yamashita, Y.; Oshima, M.; Ueno, M.; Uehara, S.; Kurita, Y.; Tanaka, Y.; Tanaka, M. "Determining the mechanism of latitudinal differences in year-class strength for Japanese flounder". The 8th International Flatfish Symposium. IJmuiden, The Netherlands, 2011, p. 49.

■南 憲史

南 憲史, 大嶋 真謙. "ナマコの生態と増養殖技術の開発". 日本海研究集会. 福井県小浜市, 2012.

南 憲史, 大嶋 真謙. "舞鶴湾のナマコプロジェクトー資源の回復に向けてー". 丹後の海の恵みを生かす試験研究成果 報告会. 京都府宮津市, 2012.

南 憲史, 益田 玲爾, 上野 正博, 大嶋 真謙, 谷本 愛奈, 山下 洋. "舞鶴湾におけるマナコ天然採苗の好適環境". 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, p. 127, 2011.

南 憲史, 益田 玲爾, 横山 壽, 上野 正博, 大嶋 真謙, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造ー1 底質組成からみた舞鶴湾の環境と水域区分". 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, p. 49, 2012.

大嶋 真謙, 南 憲史, 横山 壽, 山下 洋. "稚ナマコの飼育に適した水槽設置場所の検討". 平成 24 年度日本水産学会 春季大会. 東京海洋大学, p. 183, 2012.

大畑 亮輔, 益田 玲爾, 真壁 竜介, 上野 正博, 栗原 拓也, 南 憲史, 上 真一, 山下 洋. "カタクチイワシ仔魚の捕食者密度と濁度との関係". 水産海洋学会研究発表大会. 函館, p. 48, 2011.

Ito, Y.; Shao, H.; Minami, K.; Miyashita, K. "Spatial estimation of the kelp forest (*Laminaria* spp.) distributions in coastal waters of Osatube Hokkaido, Japan, using acoustic method and GIS". 5th International Symposium on GIS/Spatial Analyses in Fishery and Aquatic Science. ニュージーランド, 2011,

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信. "カイヤドリヒドラ類の Spawning time の進化的意義". 日本腔腸動物等談話会 第 7 回大会. 水産大学校 田名実験場, 2011.

久保田 信. "二枚貝共生性カイヤドリヒドラ類の生物学". 軟体動物多様性学会 2011 年度大会. 瀬戸臨海実験所, 2011.

Kawamura, Mariko; Ueno, Shunshiro; Okuizumi, Kazuya; Iguchi, Naoki; Hasegawa, Toru; Nishiuchi, Koh; Kubota, Shin. "Age estimation of *Nemopilema nomurai* (Scyphozoa: Rhizostomeae) using statocyst weight". 8th China-Japan-Korea International Workshop of Giant Jellyfish Bloom, December 2011 in Sanya, China, 2011,

■宮崎 勝己

宮崎 勝己. "二枚貝寄生性のカイヤドリウミグモ *Nymphonella tapetis* に関する分類学的諸問題". 日本動物学会第 82 回大会予稿集. 北海道・旭川市, 2011-09-21, 2011, p. 90.

藤本 心太, 宮崎 勝己. "ウミクマムシ科の比較筋系学的研究". 日本動物学会第 82 回大会予稿集. 北海道・旭川市, 2011-09-21, 2011, p. 90.

山田 勝雅, 宮崎 勝己, 張 成年, 山本 敏博, 丹羽 健太郎, 良永 知義, 山北 剛久, 熊谷 直喜, 深山 義文, 小林 豊, 鳥羽 光晴. "カイヤドリウミグモの宿主利用パターン: 寄生されやすい宿主の特徴とは?". 2011 年日本ベントス・プランクトン学会合同大会講演要旨集. 高知市, 2011-09-17, 2011, p. 146.

■大和 茂之

藤田 純太, 大和 茂之, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 上野 正博, 山下 洋. "両側回遊性ヒメヌマエビ属 3 種の分子生態学: 黒潮障壁仮説の検証". 日本甲殻類学会. 東京海洋大学, 2011, p. 56.

■中野 智之

中野 智之, 佐々木 猛智, 加瀬 友喜. "ベッコウガサの分類学的再検討と生物地理". 日本貝類学会平成 23 年度福岡大会. 2011.

佐々木 猛智, 松尾 侑磨, 西田 梢, 中野 智之. "アツカサガイ科の再評価:解剖、貝殻微細構造、および分子系統". 日本貝類学会平成 23 年度福岡大会. 2011.

■河村 真理子

Kawamura, Mariko; Ueno, Shunshiro; Okuizumi, Kazuya; Iguchi, Naoki; Hasegawa, Toru; Nishiuchi, Koh; Kubota, Shin. "Age estimation of *Nemopilema nomurai* (Scyphozoa: Rhizostomeae) using statocyst weight". 8th China-Japan-Korea International Workshop of Giant Jellyfish Bloom, December 2011 in Sanya, China, 2011,

海域陸域統合管理学研究部門

■向井 宏

向井 宏. "生物多様性のための沿岸域管理とは?". 2011 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会自由集会「生物多様性のための沿岸域管理」. 2011.

向井 宏. "森とつながる沿岸生態系の再生～気仙沼舞根湾での取り組み～". 2011 年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会自由集会「生物多様性のための沿岸域管理」. 2011.

中島 皇, 向井 宏, 秋田 豊, 伊藤 雅敏, 小出 和彰. "瀬戸内海に見る森里海連環ーポケゼミin徳山試験地ー". 瀬戸内海研究フォーラムin大分. 2011-08-18/19, 2011.

福島 朋彦, 向井 宏, 末永 芳美. "新しい海洋秩序に伴う学際的海洋教育". 第 22 回海洋工学シンポジウム (日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会). 2011-03-17, 2011.

Antonio, E. S.; Mukai, H.; Yamashita, Y. "Linking forests and seas through research and education in Kyoto University, Japan". Annual Conference of the South African Society of Aquatic Scientists. Ithala, KwaZulu Natal, South Africa, 2011, p. 74.

Antonio, E. S.; Mukai, H.; Yamashita, Y. "Linking forests and seas through research and education in Kyoto University, Japan". Sustainable utilization of southern African aquatic resources, Ithala Game Reserve, Republic of South Africa. 2011,

■佐藤 真行

佐藤 真行, サムレット, ソワソルン, 佐々木 健吾. "持続可能な発展と経路の安定性:ARCH-Mによる制度の影響分析". 環境経済・政策学会, 於 長崎大学. 2011.

Sato, Masayuki; Samreth, Sovannroen; Sasaki, Kengo. "Stability of Sustainable Development Path and the Institution". European Association of Environmental and Resource Economists, University of Rome, Italy. 2011,

Sato, Masayuki; Tanaka, Kenta; Managi, Shunsuke. "How total factor productivity contributes to sustainable development?". The 2nd Congress of the East Asian Association of Environmental and Resource Economics, Padjadjaran University, Indonesia, 2012,

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. "国産材の利用に関する住民意識調査". 環境科学会 2011 年会. 関西学院大学 (西宮), p. 20, 2011.

中川 真太郎, 佐藤 真行, 山口 臨太郎. "技術進歩と地球環境:グローバル公共財としての環境を伴う 2 国世代重複モデルによる分析". 環境経済・政策学会. 長崎大学, 2011.

Nakagawa, Shintaro; Sato, Masayuki; Yamaguchi, Rintaro. "Environment, Growth, and Technology Gap in a Two-Country Overlapping Generations Model". European Association of Environmental and Resource Economists. University of Rome, Italy, 2011,

Tokimatsu, Koji; Yamaguchi, Rintaro; Sato, Masayuki; Nishio, Masahiro; Ueta, Kazuhiro. "Measuring Genuine Saving for the Future by Changes of Wealth with CO2 Emissions Constraints". European Association of Environmental and Resource Economists. University of Rome, Italy, 2011,

Yamaguchi, Rintaro; Sato, Masayuki. "Genuine Savings of Open Economies with Renewable Resources". The 2nd Congress of the East Asian Association of Environmental and Resource Economics, Padjadjaran University, Indonesia, 2012,

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

福島 慶太郎. "鹿の食害が物質循環へ及ぼす影響". 平成 22 年度中・四国、近畿地区大学附属演習林等技術職員研修. 京都, 2010/10/28, 2010.

福島 慶太郎. "芦生冷温帯天然林における大規模シカ防除柵設置 5 年後の生態系機能の回復過程とそのメカニズムに関

- する研究”. 第 17 回プロ・ナトゥーラ・ファンズ助成成果発表会. 2011-12-10, 東京, 2011.
- 福島 慶太郎. “森林生態系における物質循環の時間変化から見える森林立地学の現状と課題”. 第 123 回日本森林学会, 森林立地学会シンポジウム. 2012-03-29, 宇都宮, 2012.
- 福島 慶太郎, 井上 泰男, 大塚 泉, 福崎 康司, 徳地 直子, 吉岡 崇仁. “皆伐・再造林されたスギ人工林の成立に伴う溶存態有機物の変化”. 日本地球惑星科学連合 2011 年大会. 2011-05-22, 幕張メッセ (ポスター MIS023-P09) .
- 福島 慶太郎, 境 優, 徳地 直子, 長谷川 敦史, 西岡 裕平, 藤井 弘明, 高柳 敦. “シカは森林の渓流水質を変えるか?—芦生ブナ天然林に設置したシカ柵集水域における 5 年間の水質結果から”. 日本陸水学会第 76 回大会. 2011-09-23, 松江, 2011.
- 福島 慶太郎, 鈴木 伸弥, 福崎 康司, 吉岡 崇仁, 徳地 直子, 杉山 淳司. “京都府由良川流域における森林から海までの栄養塩動態: 森林生態系と沿岸生態系の連環解明に向けて”. 第 197 回生存圏シンポジウム. 宇治, 2012.
- Fukushima, K.; Nakashima, T.; Fujiki, Y.; Nakamura, S.; Koide, K.; Yamanaka, N.; Tokuchi, N.; Oohata, S. “Gradual changes in stream nitrate discharge along with nitrogen deposition, forest biomass and productivity in a headwater catchment of a natural cool-temperate forest”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES (東アジア生態学会連合) 大会. 2012-03-19, 大津, 2012,
- Fukushima, K.; Sakai, M.; Sakaguchi, S.; Iwai, Y.; Hasegawa, A.; Nishioka, Y.; Fujii, H.; Tokuchi, N.; Yoshioka, T.; Takayanagi, A. “Deer over-browsing of forest understory vegetation alters the pattern of nitrate loss to streamwater in forested watersheds in Ashiu, Japan”. 第 44 回AGU Fall Meeting 2011. 2011-12-05, サンフランシスコ. 2011,
- 稲垣 善之, 稲垣 昌宏, 小林 政広, 伊藤 優子, 三浦 覚, 戸田 浩人, 福島 慶太郎, 館野 隆之輔, 徳地 直子. “スギ人工林における窒素負荷と窒素流亡の関係”. 森林学会関東支部大会. 2011.
- 勝山 正則, 福島 慶太郎, 徳地 直子. “堆積岩山地における渓流水の平均滞留時間の決定と水質変動との関連性”. 第 123 回日本森林学会大会. 2012-03-27, 宇都宮, 2012.
- 鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. “北海道東部における初冬のホッチャレ消費者”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES (東アジア生態学会連合) 大会. 2012-03-19, 大津, 2012.
- 小出 和彰, 中島 皇, 福島 慶太郎, 中村 真介, 藤木 泰斗, 山中 典和, 大島 誠一. “芦生幽仙谷集水域天然林の動態 (III)”. 第 123 回日本森林学会大会. 宇都宮, 2012.
- 小久保 友貴, 前田 佑輔, 福島 慶太郎, 徳地 直子, 村野 宏達, 磯井 俊行. “スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don) の林齢と菌根菌感染および根圏土壌のホスファターゼ活性との関係”. 日本土壌肥料学会 2011 年度大会. つくば, 2011.
- 境 優, 福島 慶太郎, 夏原 由博, 加藤 真. “集水域ディフュージョンが森林小流域の降雨流出過程に及ぼす影響”. 第 123 回日本森林学会大会. 2012-03-28, 宇都宮, 2012.
- 阪口 翔太, 藤木 大介, 井上 みずき, 福島 慶太郎, 山崎 理正, 高柳 敦. “集水域ディフュージョンが植物多様性に及ぼす影響”. 第 123 回日本森林学会大会. 2012-03-28, 宇都宮, 2012.
- 鈴木 伸弥, 吉岡 崇仁, 福島 慶太郎, 福崎 康司, 白澤 紘明, 大槻 あずさ. “硝酸の酸素と窒素同位体比を用いた由良川流域における窒素供給源の評価”. 日本生態学会第 59 回全国大会. 2012-03-20, 滋賀県大津市, 2012.
- 橋本 智之, 福島 慶太郎, 境 優. “シカによる森林下層植生の衰退が降雨イベント時における懸濁態物質の濃度と組成に与える影響”. 第 123 回日本森林学会大会. 宇都宮, 2012.
- 福崎 康司, 渡辺 健太, 福島 慶太郎, 山下 洋, 吉岡 崇仁. “由良川河口域における溶存有機物の光学的特性および溶存鉄の濃度分布”. 日本地球惑星科学連合 2011 年大会. 2011-05-22, 幕張メッセ (ポスター MIS023-P10) .
- 福崎 康司, 渡辺 謙太, 福島 慶太郎, 大槻 あずさ, 白澤 紘明, 鈴木 伸弥, 上野 正博, 山下 洋, 吉岡 崇仁. “由良川河口沿岸域における溶存有機物の光学的特性の分布と季節変化”. 生物地球化学研究会 10 周年記念セッション. 2011-10-22, 北海道札幌市, 2011, p. 16.
- Fukuzaki, Koji; Watanabe, Kenta; Fukushima, Keitaro; Akiyama, Satoshi; Fuji, Taiki; Funahashi, Tatsuhiro; Shirasawa, Hiroaki; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh; Yoshioka, Takahito. “Assessing spatial and seasonal variations of dissolved organic matter by spectroscopic analysis in a stratified estuary: Yura River Estuary, Japan”. American Geophysical Union Fall Meeting 2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA, 2011.
- Hashimoto, T.; Fukushima, K.; Sakai, M. “The effects of deer overbrowsing, on the dynamics of stream water chemistry during rainfall events”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES (東アジア生態学会連合) 大会. 2012-03-19, 大津, 2012.
- Ishii, K.; Fukushima, K.; Ishihara, M.; Yoshioka, T. “Soil carbon and nitrogen dynamics changes associated with vegetation recovery in a deer enclosure at a heavy grazed *Miscanthus sinensis* grassland”. 第 59 回日本生態

学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 滋賀県大津市, 2012.

Sakai, M.; Natuhara, Y.; Fukushima, K.; Miyashita, H.; Kato, M. "Differences in the indirect effects of denudation by excessive deer browsing on macroinvertebrate communities between the first- and second-order streams". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

Watanabe, Kenta; Fukuzaki, Koji; Akiyama, Satoshi; Ichimi, Kazuhiko; Kasai, Akihito; Fukushima, Keitaro; Ueno, Masahiro; Yoshioka, Takahito; Yamashita, Yoh. "The influence of estuarine conditions on the dynamics of a coastal phytoplankton community in a micro-tidal estuary: Yura River Estuary, Japan". American Geophysical Union Fall Meeting 2011. San Francisco, 2011-12-05/09, San Francisco, California, USA, 2011, p.B13E-0611.

■松山 周平

Matsuyama, Shuhei; Sugai, Shota; Morimoto, Miki; Nanami, Satoshi; Itoh, Akira. "Population genetic structure of native and exotic dandelions (*Taraxacum japonicum* and *T. officinale*) and their hybrid in Osaka". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012, p.P1-275A.

Harata, Tsuyoshi; Nanami, Satoshi; Yamakura, Takuo; Itoh, Akira; Matsuyama, Shuhei; Chong, Lucy; Diway, Bibian M.; Tan, Sylvester; Hardy, Oliver J. "Estimation of seed dispersal from fine-scale spatial genetic structure in the dipterocarp tree population". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012, p.P2-067A.

Itoh, Akira; Miyazaki, Shoko; Matsuyama, Shuhei; Nanami, Satoshi; Tan, Sylvester; Chong, Lucy. "A field experiment on effects of habitat and conspecific density on tropical tree seedlings". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012, p.P3-158A.

Itoh, Akira; Miyazaki, Shoko; Matsuyama, Shuhei; Nanami, Satoshi; Yamakura, Takuo; Tan, Sylvester; Chong, Lucy. "Effects of habitat and conspecific density on tropical tree seedlings: results of a transplantation experiment". Association for Tropical Biology and Conservation, Asia-Pacific chapter, Annual Meeting. Meng La, China, 2012.

■大川 智船

大川 智船, 佐藤 真行, 吉岡 崇仁. "国産材の利用に関する住民意識調査". 環境科学会 2011 年会. 関西学院大学 (西宮), 2011, p. 20.

次世代研究者育成センター

■佐藤 拓哉

佐藤 拓哉, 渡辺 勝敏, 村上 伊佐弥. "異地性資源補償が改変する栄養カスケード: 消費者の社会関係を介した調節機構". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 大津, 2012.

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. "北海道東部における初冬のホッチャレ消費者". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

技術管理部

■秋田 豊

中島 皇, 向井 宏, 秋田 豊, 伊藤 雅敏, 小出 和彰. "瀬戸内海に見る森里海連環 -ポケゼミin徳山試験地-". 瀬戸内海研究フォーラムin大分. 2011-08-18/19, 2011.

■伊藤 雅敏

中島 皇, 向井 宏, 秋田 豊, 伊藤 雅敏, 小出 和彰. "瀬戸内海に見る森里海連環 -ポケゼミin徳山試験地-". 瀬戸内海研究フォーラムin大分. 2011-08-18/19, 2011.

■上西 久哉

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. "紀伊半島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残". 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

■太田 健一

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. "紀伊半島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残". 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

■岡部 芳彦

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. "北海道東部における初冬のホッチャレ消費者". 第59回日本生態学会大津大会・第5回EAFES(東アジア生態学会連合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

■勝山 智憲

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕.
“北海道東部における初冬のホッチャレ消費者”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES (東アジア生態学会連
合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

■佐藤 修一

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕.
“北海道東部における初冬のホッチャレ消費者”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES (東アジア生態学会連
合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

■西岡 裕平

Fukushima, Keitaro; Sakai, Masaru; Sakaguchi, Shota; Iwai, Yuka; Hasegawa, Atsushi; Nishioka, Yuhei; Fujii, Hiroaki;
Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito; Takayanagi, Atsushi. “Nitrogen Export from Headwater Catchments:
Integrating Biogeochemical Processing with Hydrologic Transport”. American Geophysical Union Fall Meeting
2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA. 2011.

■長谷川 敦史

福島 慶太郎, 境 優, 徳地 直子, 長谷川 敦史, 西岡 裕平, 藤井 弘明, 高柳 敦. “シカは森林の渓流水質を変える
か?-芦生ブナ天然林に設置したシカ柵集水域における 5 年間の水質結果から”. 日本陸水学会第 76 回大会.
2011-09-23, 松江, 2011.

Fukushima, Keitaro; Sakai, Masaru; Sakaguchi, Shota; Iwai, Yuka; Hasegawa, Atsushi; Nishioka, Yuhei; Fujii, Hiroaki;
Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito; Takayanagi, Atsushi. “Nitrogen Export from Headwater Catchments:
Integrating Biogeochemical Processing with Hydrologic Transport”. American Geophysical Union Fall Meeting
2011. 2011/12/5-9, San Francisco, California, USA. 2011.

■長谷川 孝

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. “紀伊半
島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残”. 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

■林 大輔

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕.
“北海道東部における初冬のホッチャレ消費者”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES (東アジア生態学会連
合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

■平井 岳志

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. “紀伊半
島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残”. 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

■細見 純嗣

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. “紀伊半
島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残”. 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

■中川 智之

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. “紀伊半
島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残”. 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

■西岡 裕平

福島 慶太郎, 境 優, 徳地 直子, 長谷川 敦史, 西岡 裕平, 藤井 弘明, 高柳 敦. “シカは森林の渓流水質を変える
か?-芦生ブナ天然林に設置したシカ柵集水域における 5 年間の水質結果から”. 日本陸水学会第 76 回大会.
2011-09-23, 松江, 2011.

■藤井 弘明

寄元 道徳, 藤井 弘明, 長谷川 孝, 上西 久哉, 平井 岳志, 細見 純嗣, 中川 智之, 太田 健一, 松場 輝信. “紀伊半
島の天然林におけるモミの種子散布と実生の発生・生残”. 植生学会大会 16. 2011-09-25, 2011.

福島 慶太郎, 境 優, 徳地 直子, 長谷川 敦史, 西岡 裕平, 藤井 弘明, 高柳 敦. “シカは森林の渓流水質を変える
か?-芦生ブナ天然林に設置したシカ柵集水域における 5 年間の水質結果から”. 日本陸水学会第 76 回大会.
2011-09-23, 松江, 2011.

Fukushima, Keitaro; Sakai, Masaru; Sakaguchi, Shota; Iwai, Yuka; Hasegawa, Atsushi; Nishioka, Yuhei; Fujii, Hiroaki;
Tokuchi, Naoko; Yoshioka, Takahito; Takayanagi, Atsushi. “Nitrogen Export from Headwater Catchments:
Integrating Biogeochemical Processing with Hydrologic Transport”. American Geophysical Union Fall Meeting
2011. 2011-12-05/09, San Francisco, California, USA. 2011.

■吉岡 歩

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕.
“北海道東部における初冬のホッチャレ消費者”. 第 59 回日本生態学会大津大会・第 5 回EAFES (東アジア生態学会連
合)大会. 2012-03-19, 大津, 2012.

(4) 教育活動

◆全学共通科目

フィールド研は、学内共同教育研究施設として京都大学の全学共通科目へ多くの講義を行っている。集中講義として開講する実習が4科目、リレー講義を4科目、新入生向け少人数セミナー（ポケゼミ）を今年度は15科目開講した。さらに、農学部の協力講座として実施している講義を3科目、全学共通科目としても履修できるようにしている。また、他部局が提供する全学共通科目2科目に教員を非常勤講師として派遣している。（B群：自然科学系科目・A群：人文・社会科学系科目）

（講義・実習：B群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
森里海連環学実習 A	山下，長谷川，上野，中西，甲斐ほか	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習 B	梅本，田川，宮崎，佐藤，大和	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習 C	吉岡，向井，館野，中山，坂野上	実習	全回生	前期集中	2
水圏生物学入門	山下，久保田，益田，田川，宮崎，大和，上野ほか	講義	全回生	前期	2
森里海連環学－森里海のつながり－	山下，柴田，吉岡，徳地，長谷川，佐藤，中島，中山，畠山ほか	講義	全回生	後期	2
沿岸環境保全学	柴田，佐藤ほか	講義	全回生	後期	2
森林学	柴田，吉岡，徳地，安藤，長谷川，館野，中島，寄元，坂野上，中西ほか	講義	全回生	後期	2
暖地性積雪地域における冬の自然環境	中島	実習	全回生	後期集中	1
北海道東部の人と自然	吉岡，館野，坂野上ほか（農学部講義と合同）	実習	全回生	前期集中	2
北海道東部の厳冬の自然環境	吉岡，館野，坂野上ほか（農学部講義と合同）	実習	全回生	後期集中	2
昆虫・魚・哺乳動物の生理学	田川ほか（農学部講義と合同）	講義	主として 1・2回生	前期	2

（少人数セミナー：B群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
原生的な森林の働き	中島	ゼミ	1回生	前期集中	2
海岸生物の生活史	久保田	ゼミ	1回生	前期集中	2
魚類心理学入門	益田	ゼミ	1回生	前期集中	2
森里海のつながりを清流古座川に見る	梅本	ゼミ	1回生	前期集中	2
C.W.ニコル“アフアの森”に学ぶ	柴田	ゼミ	1回生	前期集中	2
フィールド実習“森は海の恋人”	長谷川	ゼミ	1回生	前期集中	2
木造校舎を造る：木の文化再生へ	柴田ほか	ゼミ	1回生	前期	2
海産無脊椎動物-分類群と形の多様性	宮崎	ゼミ	1回生	前期集中	2
森林の再生と動態	安藤	ゼミ	1回生	前期集中	2

（少人数セミナー：A・B群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
森のつくりだすもの	徳地	ゼミ	1回生	前期集中	2
環境の評価	吉岡	ゼミ	1回生	前期	2
日本海に遊ぶ～日本海学入門	上野	ゼミ	1回生	後期	2
瀬戸内に見る森里海連環	中島	ゼミ	1回生	前期	2
京をめぐる森と人の暮らし	寄元，坂野上	ゼミ	1回生	後期	2

森を育て活かすー林業体験をとおして考える	長谷川	ゼミ	1回生	前期	2
----------------------	-----	----	-----	----	---

(他部局提供科目への協力：B群)

講義名	担当教員(敬称略)	科目	対象	開講期	単位
探求型化学実験ー湖と海の化学調査ー	大和ほか (総合人間学部提供科目)	実験	全回生	前期集中	2
生物圏の科学ー生命・食糧・環境ー	吉岡, 安藤, 徳地ほか (農学部提供科目)	講義	全回生	後期	2

なお、フィールド研の非常勤講師として、全学共通科目の講義の教員を担当していただいている方は、次の通りである。

全学共通科目における非常勤講師 (学外は6人)

森里海連環学ー森・川・海と人のつながりー	畠山 重篤 (社会連携教授)
	谷内 茂雄 (京大大学生態学研究センター・准教授)
	竹門 康弘 (京都大学防災研究所・准教授)
	中野 孝教 (総合地球環境学研究所・教授)
	白山 義久 ((独) 海洋研究開発機構・理事)
森林学	川村 誠 (京都大学大学院農学研究科・准教授)
沿岸環境保全学	磯崎 博司 (上智大学地球環境学研究所・教授)
	松田 治 (広島大学・名誉教授/三重県産業支援センター・エージェント)
	萱場 祐一 ((独) 土木研究所自然共生研究センター長・統括主任研究員)
水圏生物学入門	奥田 昇 (京大大学生態学研究センター・准教授)
	鱒坂 哲朗 (京都大学大学院農学研究科・教授)
	加藤 真 (京都大学地球環境学堂・教授)
木造校舎を造る：木の文化再生へ	小林 正美 (京都大学地球環境学堂・教授)
	小林 広英 (京都大学地球環境学堂・准教授)

◆大学院教育・学部教育

フィールド研は、協力講座として、京都大学大学院農学研究科へ3分野、理学研究科へ1分野が参画して、大学院教育および学部教育を行っている。また、大学院地球環境学堂へも科目を提供している。なお、フィールド研河口域生態学分野は、フィールド研に農学研究科から現在参画している流動分野であり、農学研究科では応用生物科学専攻海洋生物増殖学分野として位置づけられている。

協力講座としての教員配置と学生数（2012年1月現在）

	専攻	分野	教員	ポストドク など	博士後期 課程	修士課程	学部生 (4回生)
農学研究科	森林科学専攻 森林資源学講座	森林育成学分野	柴田 昌三(教授) 安藤 信(准教授) 徳地 直子(准教授) 長谷川 尚史(准教授) 寄元 道德(助教)	1	2	4(1)	4
		森林情報学分野	吉岡 崇仁(教授) 館野 隆之輔(准教授) 中島 皇(講師) 中西 麻美(助教) 坂野上 なお(助教)	0	2	3	3
	応用生物科学専攻	海洋生物増殖学分野 (流動分野)	田川 正朋(准教授) 中山 耕至(助教) 中坊 徹次 (総合博物館教授)	0	1	5	4
		里海生態保全学分野 <舞鶴水産実験所>	山下 洋(教授) 益田 玲爾(准教授) 上野 正博(助教) 甲斐 嘉晃(助教)	0	10	3(1)	0 (+2)
	(講義担当教員として協力)		梅本 信也(准教授)	-	-	-	-
理学研究科	生物科学専攻	海洋生物学分科 <瀬戸臨海実験所>	朝倉 彰(教授) 久保田 信(准教授) 宮崎 勝己(講師) 大和 茂之(助教) 中野 智之(助教)	1	2 (+2)	1	0

() 内は、休学中の学生数・+は、他分野所属だが当該分野で指導している学生数

大学院での提供科目

大学院農学研究科 農学専攻

講義名	担当教員(敬称略)	科目	対象	開講期	単位
雑草学専攻実験	梅本ほか	I 55	修士1・2回生	通年	10

大学院農学研究科 森林科学専攻

講義名	担当教員(敬称略)	科目	対象	開講期	単位
森林情報学特論 II	館野	II 115	修士1・2回生	後期集中	2
森林育成学特論 II	安藤, 徳地	II 116	修士1・2回生	後期	2
森林情報学専攻演習	吉岡, 館野, 中島, 坂野上, 中西	II 207	修士1・2回生	通年	8
森林育成学専攻演習	柴田, 安藤, 徳地, 長谷川, 寄元	II 208	修士1・2回生	通年	8
森林情報学専攻実験	吉岡, 館野, 中島, 坂野上, 中西	II 307	修士1・2回生	通年	10
森林育成学専攻実験	柴田, 安藤, 徳地, 長谷川, 寄元	II 308	修士1・2回生	通年	10

大学院農学研究科 応用生物科学専攻

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
海洋資源生物学演習	田川, 中山ほか	IV 307	修士1・2回生	通年	6
里海生態保全学演習	山下, 益田, 上野, 甲斐	IV 317	修士1・2回生	通年	6
海洋資源生物学専攻実験	田川, 中山ほか	IV 407	修士1・2回生	通年	12
里海生態保全学専攻実験	山下, 益田, 上野, 甲斐	IV 418	修士1・2回生	通年	12

大学院理学研究科 生物科学専攻動物学系

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
動物系統解析特論 A	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8004	修士1・2回生	前期	2
動物系統解析特論 B	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8005	修士1・2回生	後期	2
形態機能系統特論 A	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8006	修士1・2回生	前期	2
形態機能系統特論 B	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8007	修士1・2回生	後期	2
海洋生物学特論	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8040	修士1・2回生	前期集中	2
海洋生物学ゼミナール A	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8091	修士1・2回生	前期	2
海洋生物学ゼミナール B	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8092	修士1・2回生	後期	2
海洋生物学ゼミナール C	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8093	修士1・2回生	前期	2
海洋生物学ゼミナール D	久保田, 宮崎, 大和, 中野	8094	修士1・2回生	後期	2
海洋生物学ゼミナール	久保田, 宮崎, 大和, 中野	—	博士後期	—	—

大学院地球環境学舎 環境マネジメント専攻

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
里海学	山下	3273	修士1・2回生	後期前半	1
里山再生論	柴田ほか	3507	修士1・2回生	前期集中	1
里域植生保全論	梅本	3563	修士1・2回生	前期集中	2
海洋生物特性論	久保田, 宮崎, 大和, 中野	3629	修士1・2回生	前期集中	2
森林育成学	柴田	3557	修士1・2回生	後期	2

学部での提供科目

農学部 森林科学科

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
森林基礎科学 I	吉岡ほか	E103	1回生	前期	2
森林基礎科学 IV	柴田ほか	E106	1回生	後期	2
森林育成学	柴田, 徳地, 長谷川, 安藤, 寄元	E128	3回生	後期	2
森林植物学	安藤	E129	3回生	前期	2
森林資源管理学	館野, 坂野上	E130	3回生	後期	2
森林環境学	吉岡, 中島	E131	3回生	後期	2
森林科学実習 IV	徳地, 安藤, 坂野上, 寄元ほか	E214	2回生	後期集中	1
森林総合実習及び実習法	安藤, 長谷川, 寄元, 中島, 坂野上ほか	E221	3回生	前期集中	2
研究林実習 I	フィールド研教員ほか	E237	2回生	後期集中	1
研究林実習 II	徳地ほか	E238	3回生	後期集中	1
研究林実習 III	吉岡, 館野, 坂野上ほか	E239	3回生	前期集中	2
研究林実習 IV	吉岡, 館野, 坂野上ほか	E240	3回生	後期集中	2

農学部 資源生物科学科

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
資源生物科学概論 III	山下, 田川, 中山ほか	A107	2 回生	後期	2
動物生理学	田川ほか	A113	2 回生	前期	2
資源生物科学基礎実験	田川, 益田, 中山ほか	A118	2 回生	後期	1
海洋生物科学技術論と実習 I	田川, 益田, 上野, 中山, 甲斐ほか	A205	2 回生	前期集中	2
海洋生物科学技術論と実習 II	山下, 上野, 甲斐ほか	A206	2 回生	前期集中	2
植物調査法と実習	梅本ほか	A208	2 回生	前期集中	2
海洋生物生態学	山下, 田川, 益田, 上野, 中山, 甲斐	A224	3 回生	前期	2
資源生物科学専門外書講義 II	田川, 中山ほか	A237	3 回生	前・後期	各 2
資源生物科学実験および実験法 I	資源生物科学科教員 (田川, 中山ほか)	A238	3 回生	前・後期	各 6
資源生物科学実験および実験法 II	資源生物科学科教員 (田川, 中山ほか)	A239	3 回生	前・後期	各 6
海洋生物生理学	田川	A248	3 回生	後期	2
魚類学	中山, 甲斐ほか	A250	3 回生	後期	2
海洋生物資源学演習	田川, 中山ほか	A512	4 回生	通年	2

理学部 生物科学科

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
無脊椎動物学	久保田, 宮崎	2708	2 回生以上	後期	2
臨海実習第 1 部	久保田, 宮崎, 大和, 中野	2733	2 回生以上	前期集中	2
臨海実習第 2 部	久保田, 宮崎, 大和, 中野	3767	3 回生以上	前期集中	2
臨海実習第 4 部	久保田, 宮崎, 大和, 中野	3769	3 回生以上	前期集中	2
生物学セミナーB	久保田, 宮崎, 大和, 中野ほか	3761	3 回生以上	後期	2

◆学位授与

(森林情報学分野)

- 修士 上田 菜由 乾燥方法の違いによるスギ心持ち正角の視覚的再評価—国産材の品質管理に向けて—
 小出 和彰 幽仙谷天然林における粗粒状有機物の流出
- 学士 石井 勝之 Overabundant deer impact on soil nitrogen dynamics in grassland
 鈴木 伸弥 窒素と酸素同位体組成を用いた由良川流域における硝酸塩の供給源の評価
 山田 優志 (講義科目単位で卒業)

(森林育成学分野)

- 修士 米田 聡美 ヒノキ林土壌における無機態窒素の形態変化—総速度の季節変動とその制御要因—
 岩井 有加 シカによる過採食が集水域における下層植生の現存量および窒素吸収に与える影響
 橋本 智之 シカによる下層植生の過採食が降雨出水時の溪流水質に与える影響
- 学士 日高 渉 アラカシの硝酸還元に伴う根呼吸の定量 ～14C02 パルスラベリングを用いて～
 牧野 奏佳香 暖温帯二次林におけるコナラの個体レベルの窒素動態
 森田 玲 東日本大震災・被災地における森林資源の実態と資源利用の可能性 ～宮城県気仙沼市唐桑町舞根をモデルとして～

(海洋生物増殖学分野)

- 修士 田路 拓人 アカシタビラメ—デンベエシタビラメ間の遺伝的・形態的分化の検証
- 修士 大塚 春樹 クロデメキンとワキンにおける形態形成過程の相違—クロデメキン特有形態の解釈—
- 学士 古田 真珠 人口種苗マナモコの成長に伴う日周性の変化
- 学士 磯島 俊実 ヒラメ無眼側への着色型黒化の進行過程
- 学士 木村 一晶 Morphological variation in a gobiid fish, *Luciogobius guttatus* Gill, 1859 from Japan (Teleostei: Gobiidae)
- 学士 山田 諒 外来海産魚タイリクスズキによる外来スズキへの遺伝的攪乱の検討

(里海生態保全学分野)

- 修士 鎌田 遼 飼育下におけるカタクチイワシ仔魚の成長特性と対捕食者能力：水温と餌密度の効果
- 修士 渡辺 謙太 沿岸域の植物プランクトン生産に河川流入が与える影響

博士 高橋 宏司 海産魚類の学習能力の個体発生とそのメカニズムに関する研究
 (海洋生物学分科)
 (該当なし)

◆瀬戸臨海実験所・公開臨海実習

科目名	担当教員 (敬称略)	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
海洋生物学, 特に無脊椎動物の分類・発生	久保田, 宮崎, 大和, 中野	2011-08-29/09-04	7	3	立教大学・東洋大学・北里大学
海洋無脊椎動物の多様性と進化学	久保田, 宮崎, 大和, 中野	2012-03-21/27	7	9	筑波大学・立教大学・北里大学・京都大学

◆舞鶴水産実験所・公開実習

科目名	担当教員 (敬称略)	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
海洋科学技術論と実習 I	田川, 益田, 上野, 中山, 甲斐ほか	2011-08-19/25	7	0	(他大学の受講者なし)
海洋科学技術論と実習 II	山下, 上野, 甲斐ほか	2011-08-25/31	7	0	(他大学の受講者なし)
森里海連環学実習 A	山下, 長谷川, 上野, 中西, 甲斐ほか	2011-08-08/12	5	5	群馬大学, 信州大学, 慶応大学, 北里大学, 奈良大学

◆公開森林実習

「京都大学公開森林実習－近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴－」は、全国大学演習林協議会の取り組みの一環として、標準履修年次：2・3年、1単位の实習として2011年度から開設している科目である。京都大学農学部の特別聴講学生となる制度による受講が1名(宇都宮大学)、それ以外の一般聴講生が4名(筑波大学2回生2名, 信州大学3回生1名, 新潟大学4回生1名)であった。あわせて今年度は、人間環境大学の独自科目(4名)および京都学園大学の独自科目(2名)を合同で行う形式で9月5～7日に開催した。初日に上賀茂試験地において里山(京都市近郊の二次林)の植生について学び、翌日は芦生研究林において奥山(天然林や人工林)の観察、獣害被害地・調査区等の見学を行った。そして、3日目は、美山町北山かやぶきの里、北山杉の里総合センター、北白川試験地を観察して林業や森と人とのかかわりについて学んだ。アンケートとレポートを課し、実習中の受講態度と合わせて成績を評価した。京都大学特別聴講生には、大学事務を通して正式に単位を発行した。他の学生には、京大フィールド研センター長名の受講証明書(成績評価付)を発行した。

公開森林実習(芦生研究林・上賀茂試験地・北白川試験地)

科目名	担当教員 (敬称略)	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴	柴田, 安藤, 長谷川, 寄元	2011-08-05/07	3	11	宇都宮大学, 筑波大学, 信州大学, 新潟大学, 人間環境大学, 京都学園大学

◆他大学・各種学校の講義・実習

(高校生以下を対象とする講義などは、(6)社会貢献活動 参照)

森林生物圏部門

吉岡 崇仁 奈良教育大学「生態科学特論」
 吉岡 崇仁 人間環境大学「基礎生物学A・B」「環境意識調査法」
 館野 隆之輔 鹿児島大学農学部「育林学」「森林環境学」
 中島 皇 京都教育大学「栽培と飼育の実践Ⅱ－いのちを育み、慈しむ－」

里域生態系部門

山下 洋 国際エメックスセンター(JICA)・沿岸域・内湾およびその集水域における統合的水環境管理
 山下 洋 神戸大学海事科学センター・海洋生物に対する放射性物質を含む有害物の蓄積

益田 玲爾 岐阜大学教育学部・臨海実習
益田 玲爾 龍谷大学エコロジーセミナー・講師・「若狭湾の魚たちの行動・生態と心理」
益田 玲爾 高知大学総合研究センター・講師・「海域における水産資源の管理及び培養コース」(JICA 集団研修)

基礎海洋生物学部門

朝倉 彰 神戸大学全学共通科目「生物の多様性と進化」
久保田 信 大阪市立大学・臨海実習
久保田 信 大阪大学大学院理学研究科・生物学臨海実習
久保田 信 島根大学教育学部自然環境教育講座・フィールド科学実習
久保田 信 大阪大学学部英語コース・臨海実習
久保田 信 京都工芸繊維大学「生物学の潮流」
久保田 信 社会保険紀南看護専門学校「生物学」
宮崎 勝己 社会保険紀南看護専門学校「生物学」
宮崎 勝己 奈良教育大学教育学部・野外実習 A-II, 2011-06-15/19
宮崎 勝己 奈良教育大学教育学部・動物系統学, 2011-08-16/19
宮崎 勝己 大阪教育大学教育学部・臨海実習, 2011-06-30/07-04
大和 茂之 関西学院大学・臨海実習
大和 茂之 社会保険紀南看護専門学校「生物学」
中野 智之 社会保険紀南看護専門学校「生物学」

海域陸域統合管理学研究部門

佐藤 真行 日本福祉大学「専門演習」「卒業研究」

企画研究推進部門

松山 周平 大阪工業大学「生物科学 b」
松山 周平 学校法人修成学園「造園植物 II」

(5) 学会等における活動

◆学会役員・シンポジウム企画等

森林生物圏部門

吉岡 崇仁 日本生態学会 近畿地区委員
徳地 直子 日本森林学会 評議員
日本生態学会 関西支部会評議員
館野 隆之輔 日本森林学会・英文誌編集委員

里域生態系部門

山下 洋 日本水産学会 幹事・国際交流委員・学会賞選考委員・水産増殖懇話会委員
水産海洋学会 国際誌委員長・幹事
Fisheries Oceanography 副編集委員長
日本プランクトン学会常任幹事
柴田 昌三 日本緑化工学会 副会長・理事・環境林研究部会長・学会賞選考委員会委員長
日本造園学会 理事・編集委員会副委員長・関西支部幹事・学会賞選考委員
竹類勉強会 代表
日本生態学会 近畿地区会委員
竹文化振興協会 参与・研究雑誌編集委員
京都竹文化振興財団 評議員
森林再生支援センター 専門委員
World Bamboo Organization: Member of Board of Directors
International Consortium of Landscape and Ecological Engineering: Secretary general
セニード(Center for Nepal Environmental and Educational Development)後援会 会長
田川 正朋 社団法人日本水産学会 水産学教育推進委員会 委員・出版委員会委員
益田 玲爾 Journal of Plankton Research 編集委員
梅本 信也 日本雑草学会 用語委員
照葉樹林文化研究会 幹事
長谷川 尚史 森林利用学会 常務理事・編集委員(副委員長)
IUFRO RG3.03 国際ワークショップ実行委員
森林生産システム研究会 主事

森林空間利用研究会 主事
森林学会 評議員

中山 耕至 日本魚類学会 電子情報委員会委員長

甲斐 嘉晃 日本魚類学会 評議員・Ichthyological Research, 魚類学雑誌, 編集委員・電子情報委員(副委員長)

基礎海洋生物学部門

朝倉 彰 国際甲殻類学会 The Crustacean Society: Immediate-Past President
日本甲殻類学会 会長

久保田 信 漂着物学会誌 編集委員
日本動物学会 近畿支部委員

宮崎 勝己 日本節足動物発生学会 編集委員

大和 茂之 南紀生物同好会 編集委員

海域陸域統合管理学研究部門

向井 宏 日本生態学会 自然保護専門委員会上関問題アフターケア委員会委員
日本ベントス学会環境保全委員会委員

管理技術部

加藤 哲哉 日本動物分類学会・選挙管理委員

◆受賞歴

森林生物圏部門

館野 隆之輔 年月日：2012年3月27日

授賞内容：2012年度日本森林学会奨励賞および財団法人林学会賞 "Nitrogen uptake and nitrogen use efficiency above and below ground along a topographic gradient of soil nitrogen availability."

里域生態系部門

山下 洋 年月日：2012年3月18日

受賞者名：Matsui, S., Inui, R., Yamashita, Y.

授賞内容：第59回日本生態学会・第5回東アジア生態学会(EAFES5)連合大会ポスター講演 優秀賞 "Distribution and habitat use of three closely related gobiid fishes along coastal waters of Japan."

山下 洋・益田 玲爾

年月日：2011年12月10日

受賞者名：高橋宏司・益田玲爾・山下 洋

授賞内容：日本生態学会近畿地区2011年度第2回例会 口頭発表 奨励賞 「海産魚マアジにおける生活史戦略としての学習能力の個体発生」

山下 洋・上野 正博

年月日：2012年3月19日

受賞者名：Akiyama, S., Watanabe, K., Murazumi, K., Sugawara, T., Ueno, M., Yamashita, Y.

授賞内容：第59回日本生態学会・第5回東アジア生態学会(EAFES5)連合大会ポスター講演 優秀賞 "Food habits of sympatric coastal mysids as determined by multiple methods."

年月日：2012年3月27日

受賞者名：鈴木健太郎・杉本亮・Md. Younus Mia・上野正博・山下洋

授賞内容：日本海洋学会平成12年度春季大会 最優秀ポスター賞 「由良川河口域における懸濁態有機物の動態－塩水遡上に伴う炭素安定同位体比の変化」

企画研究推進部門

福島 慶太郎 年月日：2012年3月19日

受賞者：Ishii Katsuyuki, K. Fukushima, M. Ishihara and T. Yoshioka.

授賞内容：第59回日本生態学会・第5回東アジア生態学会(EAFES5)連合大会ポスター講演 優秀賞 "Soil carbon and nitrogen dynamics changes associated with vegetation recovery in a deer enclosure at intensively grazed Miscanthus sinensis grassland."

(6) 社会貢献活動

◆学外委員会委員等

森林生物圏部門

- 吉岡 崇仁 特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合・モニタリングサイト 1000 陸水域調査事業会議参画
安藤 信 京都市伝統文化の森推進協議会（京都市産業観光局農新振興室）・京都市伝統文化の森推進協議会委員・
専門委員
財団法人阪本奨学会・理事
徳地 直子 財団法人 防災研究協会・非常勤研究員
京都市・京都市土地利用審査会委員
京都市・京都市環境審議会委員
館野 隆之輔 標茶町・標茶町林業推進協議会委員
坂野上 なお 京都市バイオマス活用推進会議委員
大阪府 森林審議会委員
滋賀県 森林審議会委員

里域生態系部門

- 山下 洋 文部科学省海洋環境放射能調査検討会委員
環境省依託事業有明海生態系回復方策検討委員会委員
環境省地球環境推進費アドバイザー
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
京都府漁業調整委員
京都府農林水産技術センター評議委員
舞鶴市・舞鶴市リーディング産業チャレンジファンドに係るファンド委員会委員
神戸大学国際海事研究センター客員教授
財団法人シップ・アンド・オーシャン財団（海洋政策研究財団）・森川海の一体的な管理に関する調査研
究委員会委員
柴田 昌三 総合地球環境学研究所・共同研究員
科学研究費委員会専門委員（資源保全学）（2011～2012年度）
京都府山城広域振興局・木津川右岸運動公園（仮称）管理運営会議委員
京都府バイオマス活用検討委員会（京都府）座長
清流高津川を育む木の家づくり協議会・「木の家づくり」を進めるための社会システム構築をめざす委員
会」設置に係る外部委員
日本に健全な森をつくり直す委員会委員
竹工芸公募展 in 京都 2012 審査員
田川 正朋 滋賀県水産試験場・新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業の外部有識者
益田 玲爾 農林水産実用技術開発事業「沿岸育成場を利用したキジハタ、オニオコゼの資源増殖技術の開発」外部評
価委員
京都水族館（仮称）の展示活動等に関する専門家委員会
舞鶴市・舞鶴市リーディング産業チャレンジファンドに係るファンド委員会委員
独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所・外部アドバイザー
梅本 信也 和歌山県環境影響評価審査会委員
和歌山県森林審議会委員
古座川流域協議会専門委員
長谷川 尚史 株式会社 工業市場研究所（林野庁委託）・搬出間伐推進調査検討委員会委員
独立行政法人 森林総合研究所 四国支所・事前推進評価会議外部評価委員
株式会社 自然産業研究所（林野庁委託）・先進林業機械の導入・改良事業検討委員
清流高津川を育む木の家づくり協議会・「木の家づくり」を進めるための社会システム構築をめざす委員
会」設置に係る外部委員
有限会社 向井林業（林野庁委託）・先進林業機械の導入・改良事業運営委員
日吉町森林組合（林野庁委託）・先進林業機械の導入・改良事業運営委員
兵庫県林業普及全県プロジェクト委員
兵庫県森林審議会委員・松くい虫防除対策部会長
芦生地域有害鳥獣対策協議会委員
南丹市美山エコツーリズム推進協議会委員
滋賀県水源涵養機能評価に向けた検討会外部委員

京都府森林組合連合会・原木供給体制検討委員会委員
全国森林組合連合会・森林施業プランナー育成対策事業ステップアップ研修講師
株式会社自然産業研究所（林野庁補助事業）・先進林業機械改良・新作業システム開発事業検討委員
十津川村・十津川村森林基本計画策定委員会委員
京都府農林水産部・森林・林業経営高度化プラン検討委員

上野 正博 株式会社カンネツ・事業推進委員
中西 麻美 特定非営利活動法人森林再生支援センター・理事
甲斐 嘉晃 舞鶴市高等教育機関等合同 PR 事業・実行委員

基礎海洋生物学部門

久保田 信 和歌山県立自然博物館協議会委員
和歌山県立日高高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会委員
白浜国際交流協会副会長
日本刺胞・有櫛動物研究談話会代表(会長)
大和 茂之 公益財団法人 天神崎の自然を大切にする会・評議員

海域陸域統合管理学研究部門

向井 宏 日本学術会議連携会員
茨城県鹿島灘生態調査委員会委員長・同専門部会委員長
特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合・モニタリングサイト 1000 アマモ場調査事業会議参画
厚岸町史編集委員会協力員
環境省環境研究企画委員会第 4 研究分科会委員
厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金審査会委員
"Marine Ecology" editorial board
水源地生態研究会環境経済研究グループ委員
日本自然保護協会沿岸保全管理検討会座長
佐藤 真行 財団法人ダム水源地環境整備センター・水源地生態研究会 環境経済研究グループ委員

◆高校生までを対象としたプログラム

森林生物圏部門

館野 隆之輔 「しべちゃアドベンチャースクール」第 5 ステージ（標茶町教育委員会主催，北海道研究林後援） 北海道研究林，2012-01-21/22
坂野上 なお 有田中央高校清水分校「ウッズサイエンス」講師 和歌山研究林，2011-04-19
有田川町立八幡小学校 5 年森林体験学習・講師 和歌山研究林，2011-06-09

里域生態系部門

山下 洋 京都府立西舞鶴高等学校・講師，2011-09-10
京都大学 ジュニアキャンパス 2011 において，中学生向けゼミ「ナマコの海洋生物学」を実施，2011-09-18
田川 正朋 京都府教育委員会・講師
益田 玲爾 京都教育大学附属高校 臨海実習講師，2011-07-28/30
京都府立南陽高校 臨海実習講師（福井県海浜自然センター）2011-07-24
京都府教育委員会・講師，2012-03-31
舞鶴市立余内小学校にて講演「舞鶴の海と川と山のゆたかさ」 舞鶴市立余内小学校 2011-05-31
「多々見市長と遊覧船で行く舞鶴サマースクール」にて講演「舞鶴の海のゆたかさのひみつ」 舞鶴水産実験所 2011-08-18
舞鶴市立中保育所にて講演「ナマコのはなし」 2011-12-16
中西 麻美 京都府立西舞鶴高等学校・講師（西舞鶴高校，舞鶴水産実験所），2011-06-22，2011-07-21/22，2011-09-10
上野 正博 京都府立西舞鶴高等学校・講師（西舞鶴高校，舞鶴水産実験所），2011-06-22，2011-07-21/22，2011-09-10
甲斐 嘉晃 京都府海洋高校講義・施設見学，2011-05-11
神戸高校 SSH 実習，2011-05-28
京都府南陽高校 SPP 講師（事前授業），2011-07-16
京都府西舞鶴高校 SPP 講師，2011-07-21
京都府主催・福島県の中高生体験学習，2011-08-03
富山県氷見高校講義・施設見学，2011-08-26
京都府教育委員会・夢のおもしろ科学体験，2011-09-10
京都市立堀川高校 SSH 講師，2011-01-05

基礎海洋生物学部門

久保田 信 社会保険紀南看護専門学校 非常勤講師（紀南看護専門学校）2011-04-11，2011-09-30

- 大阪府立住吉高校 科学講演会 (住吉高等学校) 2011-07-04
 滋賀県立膳所高等学校 生物実習旅行・講師, 2011-07-22/25
 奈良県立奈良高等学校 SSH サイエンスツアー, 2011-07-28/29
 和歌山県高等学校生徒科学研究発表会 (御坊市民文化会館) 2011-12-15
 大阪府立豊中高等学校 臨海実習, 2012-01-05
 宮崎 勝己 奈良女子大学附属中等教育学校 SSH サイエンス夏の学校, 2011-07-26/27
 奈良学園登美ヶ丘中学校白浜宿泊研修, 2011-09-06/07
 奈良県立奈良北高等学校校外研修, 2011-10-07
 大阪府立豊中高等学校 SSH 生物特別臨海実習・講師, 2012-01-04/07
 滋賀県立膳所高等学校 SSH 生物実習旅行・講師, 2011-07-22/25
 兵庫県立尼崎小田高等学校 SSH 臨海実習・講師, 2011-08-26/27
 兵庫県立西宮南高等学校 SPP 臨海実習・講師, 2011-10-11/13
 大和 茂之 和歌山県立日高高校 SSH 講師
 中野 智之 滋賀県立膳所高等学校 生物実習旅行・講師, 2011-07-22/25
 奈良県立奈良高等学校 SSH 関連講座の講演・講師, 2011-07-29
 奈良学園登美ヶ丘中学校白浜宿泊研修, 2011-09-06/07

◆社会人等を対象としたプログラム

森林生物圏部門

- 吉岡 崇仁 ANA 青空塾 私の青空 徳島阿波おどり空港：巣立ちの森(徳島県板野郡松茂町), 2011-11-26
 東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」において、パネラーとして参加 (京都会館会議場), 2011-07-16
 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師 (野外実習) (芦生研究林), 2011-07-23
 名古屋大学 HyARC (地球水循環研究センター) 研究集会 (合同ワークショップ) 「流域社会をとりまく水循環と水問題：水を巡る諸問題に関わる自然科学と社会科学の融合研究の可能性」(フィールド研 木文化プロジェクト共催) において、講演(名古屋大学), 2011-07-28
 「知ろう、守ろう 芦生の森 - 芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動-」を開催 (主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会, 京都府南丹広域振興局／共催：フィールド研他・芦生研究林), 2011-07-30
 「知ろう、守ろう 芦生の森- 芦生の森が問いかけているもの-シンポジウム」において、パネルディスカッション コーディネーターとして参加 (南丹市美山文化ホール), 2011-10-15
 安藤 信 上賀茂試験地「春の自然観察会」講師, 2011-04-23
 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師 (野外実習) (芦生研究林), 2011-07-23
 上賀茂試験地「秋の自然観察会」講師, 2011-10-15
 上賀茂試験地共催「未来のサイエンティスト養成講座」講師, 2011-11-26
 徳地 直子 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師 (野外実習) (芦生研究林), 2011-07-23
 館野 隆之輔 H23 年度京都大学森林科学公開講座「森と樹木から世界を観る！」において、講義「物質循環から観た森林伐採の影響」(生存圏研究所), 2010-10-17
 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師 (野外実習) (芦生研究林), 2011-07-23
 名古屋大学 HyARC (地球水循環研究センター) 研究集会 (合同ワークショップ) 「流域社会をとりまく水循環と水問題：水を巡る諸問題に関わる自然科学と社会科学の融合研究の可能性」(フィールド研 木文化プロジェクト共催) において、総合討論の司会として参加 (名古屋大学), 2011-07-28
 中島 皇 ANA 青空塾 私の青空 根室中標津空港：シマフクロウの森(北海道中標津町), 2011-06-04
 ANA 青空塾 私の青空 小松空港：安宅関の森 (石川県小松市), 2011-10-01
 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師 (野外実習) (芦生研究林), 2011-07-23
 第1回周南市連携講座 (徳山試験地主催・山口県周南市共催), 企画・挨拶・野外実習講師 (徳山試験地), 2011-06-13
 第2回周南市連携講座 (徳山試験地主催・山口県周南市共催), 企画・挨拶 (徳山試験地), 2011-09-11
 第3回周南市連携講座 (徳山試験地主催・山口県周南市共催), 企画・挨拶・野外実習講師 (徳山試験地), 2011-11-13
 周南市連携公開講座 (山口県周南市・徳山試験地 共催) を開催, 講演「森里海連環学とは」周南緑地 (西緑地), 2011-10-30
 テレビ番組出演 BS 日テレ ドキュメンタリー番組「森人 MORIGIN #7 京都の秘境 芦生の旅」に出演, 2011-10-09
 寄元 道德 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師 (野外実習) (芦生研究林), 2011-07-23
 第3回周南市連携講座 (山口県周南市・徳山試験地 共催) にて, 講演 「スギ, 来た道と生態」, 2011-11-13
 上賀茂試験地「春の自然観察会」, 2011-04-23

上賀茂試験地「秋の自然観察会」, 2011-10-15

坂野上 なお ANA 青空塾 私の青空 萩・石見空港:高津川清流の森 島根県益田市, 2012-03-10

京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師(野外実習)(芦生研究林), 2011-07-23

里域生態系部門

山下 洋 第3回由良川地域連携講座(由良川市民講座)『森・里・海の対話 ~身近な視点から生態系のつながり
を考える ~』において, 講演「由良川は海産魚のゆりかご」~京大木文化プロジェクト由良川調査(1)
(福知山市三段池公園), 2011-09-24

第3回水車サミット「名水の里杉山フェスタ」講演

テレビ番組出演 NHK 京都テレビニュースにおいて, 舞鶴水産実験所が岩手県大船渡市の被災した学生を
受け入れることを紹介, 2011年4月18日

柴田 昌三 第97回 京大植物園観察会(主催:京大植物園を考える会)においてガイドを担当, 2011-04-25

テレビ番組出演 NHK「マダケ開花関連」, 2011-05

テレビ番組出演 朝日放送「珍現象 120年に一度「竹の花」開花」News ゆう+, 2011-05-23

雑誌取材協力 家庭画報「竹の言葉」(家庭画報 2011年7月(54(7))号;p35-41), 2011-06-01

第1回周南市連携講座(山口県周南市・徳山試験地 共催)にて, 講演「森里海連環学からみた里山」,
2011-06-12

地球環境シンポジウム「東日本大震災からの復興と森・里・海連環」のパネルディスカッション「地震と
津波と東北地方太平洋岸の緑について考えられること」において, パネラーとして参加(大阪市立環境学
習センター 生き生き地球館), 2011-06-18

ANA 青空塾 私の青空 オホーツク紋別空港:とっかりの森 北海道紋別市, 2011-07-02

アイセック京都大学委員会環境開発プロジェクト勉強会「自然(森林)資源利用と環境問題」(京都大学総
合人間棟), 2011-07-10

京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座実行委員長 芦生研究林, 2011-07-22/24

「仁淀川の”森と清流”を再生する会」年次総会で講演「京都大学の実験・調査で明らかになってきてい
ること」(仁淀川町池川支庁会議室), 2011-07-30

滋賀経済同友会「自然に学ぶ経済」研究会にて講演「里山の生態と里山資源の再利用」(大津市びわこホ
テル), 2011-08-12

雑誌取材協力「私の青空 オホーツク紋別空港・とっかりの森」誕生, (ANA 機内誌・翼の王国(2011年
9月号) No. 507号;p153), 2011-09-01

ANA 青空塾 私の青空 能登空港:きりこの森 石川県輪島市, 2011-09-10

里山研究会にて講演「石川の里山から環境を考える」(金沢大学), 2011-09-22

たかつき竹和の会勉強会にて講義「竹の基礎知識」(京都大学上賀茂試験地), 2011-09-29

連続講座「自然に学ぶ“森里海連環学”カルチャー教室において講義「流域の森を活かしてできること~
里山資源の視点から」(島根県益田市), 2011-09-30

第3回仁淀川地域連携講座『国際森林年を“森林・林業再生プラン” 実行元年とするために』のパネ
ルディスカッション「山から材を出す”仕事”をしっかりとつこう」において, パネラーとして参加 高
知県仁淀川町池川中学校体育館, 2011-10-08

四国山の日記念イベント「四国の森づくり in かがわ」において基調講演「私たちの身のまわりにある森
からの恵みを考える」(香川県高松市高松テルサ), 2011-10-29

四国山の日記念イベント「四国の森づくり in かがわ」の座談会「元気な森ってどんな森!」においてパネ
リスト(香川県高松市東部林業事務所), 2011-10-30

第18回京都大学附置研究所・センター品川セミナーにおいて, 講演「森里海連環学」をとおして日本の
自然を再考する 京都大学東京オフィス, 2011-11-04

NPO 法人ビオトープネットワーク京都第5回里山づくり講座において講義「竹林拡大と竹の性質」,
2011-11-06

京都環境コミュニティー活動(KESC)プロジェクト 里山再生プロジェクトにおいて講義「里山について」,
2011-11-19

テレビ番組出演 フジテレビ「めざましテレビ」上海高層ビル火災と竹足場(声のみ), 2011-11-24

全日本竹産業連合会・第12回 JBA ヤンガーフォーラム(名古屋市)においてアドバイザー, 2011-11-24
平成 23 年度全日本竹産業連合会パネルディスカッションにおいてコーディネータ(名古屋市),
2011-11-24

第6回エコの寺子屋において講義「上賀茂試験地の樹木コレクションと世界のマツ、日本のタケ」 上賀
茂試験地, 2011-12-17

シニア自然大学校講座部マイスターにおいて講義「森・里・海連環学—荒廃する日本の自然再生のために—
(エルおおさか), 2012-02-08

森本幸裕教授退官記念シンポジウム「ランドスケープの明日を語る」においてコーディネータ(京都大学

- 理学部 6 号館), 2012-03-10
- 益田 玲爾 テレビ・ラジオ番組出演 NHK 総合テレビのニュース および AM ラジオ NHK 総合ニュースにおいて, 気仙沼での潜水調査について紹介 舞鶴水産実験所, 2011-07-22
 テレビ番組出演 TBS テレビ「飛び出せ!科学くん」に出演 舞鶴水産実験所, 2011-05-21
 新舞鶴婦人会にて講演「舞鶴の海のゆたかさ」 舞鶴東公民館, 2011-05-31
 地球環境シンポジウム 「東日本大震災からの復興と森・里・海連環」(大阪市立環境学習センター 生き生き地球館)において, パネラーとして参加 生き生き地球館, 2011-06-18
 与謝地方へき地教育研究会にて講演「若狭湾に棲む生物とその環境保護について」 伊根町老人福祉センター, 2011-08-01
 舞鶴市ネイチャーガイド養成講座にて講演「舞鶴湾の魚たち」 舞鶴市商工観光センター, 2011-09-13
 シニア自然大学 食と健康と環境の講座にて講演「潜って楽しく食べておいしい日本の海」 生き生き地球館, 2011-11-22
 舞鶴市校園長交流会にて講演「海の中から見た舞鶴の魅力」 舞鶴グランドホテル, 2011-11-26
 京都府事務職員交流会にて講演「海の中の多様性とつながり」 舞鶴水産実験所, 2011-11-27
 シニア自然大学 水の講座にて講演「気仙沼舞根湾の環境 2 海底の状況と魚介類」 生き生き地球館, 2011-11-26
 森は海の恋人シンポジウム「海と共に生きる」にて講演「魚類と藻場」 仙台文化会館, 2011-12-21
 トークセッション「魚の心理学 若狭湾潜水日記」において, 講演 東京モンベル渋谷店, 2012-01-24
 大阪市鶴見区女性の会にて講演「海から食卓までの環境問題 若狭湾と気仙沼の海を潜る」 鶴見区民センター, 2012-02-15
 森は海の恋人シンポジウム「海と共に生きる」にて講演「生物環境調査報告:魚類」 日経ホール(東京), 2012-03-13
- 梅本 信也 テレビ番組出演 ABC 朝日放送「キャスト」において, 「アオノクマタケランによるイノシシの撃退」に関する研究を紹介, 2012-01-10
 テレビ番組出演 NHK 総合テレビ(関西エリア)「おはよう関西」において, 「アオノクマタケランによるイノシシの撃退」に関する研究を紹介, 2012-01-10
 第 14 回古座川シンポジウム(紀伊大島実験所・古座川流域協議会 共催)を開催 古座川町明神生活改善センター, 2011-06-30
 2011 年照葉樹林研究会で「紀伊大島のイノシシとアオノクマタケランの排他性」を話題提供 大阪府立大学学術交流センター, 2011-12-01
- 長谷川 尚史 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座の企画担当および講義「芦生研究林の紹介」(芦生研究林), 2011-07-22
 芦生研究林「芦生の森自然観察会 入門編『春の森を歩きながら樹木観察をしよう』」, 2011-05-28
 「知ろう, 守ろう芦生の森 - 芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動-」を開催(主催: 芦生地域有害鳥獣対策協議会, 京都府南丹広域振興局/共催: フィールド研他) 芦生研究林, 2011-07-30
 芦生の森自然観察会 入門編『春の森を歩きながら樹木観察をしよう』 芦生研究林, 2011-05-28
 芦生の森自然観察会 入門編『秋の森を歩きながら樹木観察をしよう』 芦生研究林, 2011-10-22
 林野庁「日本型フォレスター育成研究事業」中部ブロック准フォレスター研修講師, 2011-07-05
 林野庁「日本型フォレスター育成研究事業」近畿ブロック准フォレスター研修講師, 2011-07-26
 水科学フォーラム「“水を育む森づくり” 天然水の森を科学する」講師, 2011-04-06
 京都府林業振興会シンポジウム「森林組合の役割とは」コーディネータ, 2011-09-05
 京都府立林業大学校開校記念森林・林業セミナー講師・講評, 2012-02-24
 鳥取県林業技術を考える会講師, 2012-03-09
 兵庫県林業普及全県プロジェクトチーム成果報告会講師, 2012-03-22
 平成 23 年度林野庁補助事業 先進林業機械改良・新作業システム開発事業 林業機械化推進シンポジウム 講師・モデレータ, 2012-03-02
- 中西 麻美 芦生の森自然観察会 入門編『春の森を歩きながら樹木観察をしよう』 芦生研究林, 2011-05-28
 芦生の森自然観察会 入門編『秋の森を歩きながら樹木観察をしよう』 芦生研究林, 2011-10-22
 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師(野外実習)(芦生研究林), 2011-07-23
- 甲斐 嘉晃 舞鶴市主催「高等教育機関等合同 P R フェア」において講演 舞鶴市中総合会館, 2011-06-25

基礎海洋生物学部門

- 久保田 信 「鯨セミナー」講師(主催: 海の哺乳類情報センター・共催: 瀬戸臨海実験所), 2011-04-08
 番所崎で海の生物観察, 2011-08-28
 白浜水族館こだわり解説ツアー・バックヤードツアー, 2011-04-01, 02, 2011-08-17, 18, 19, 24, 25, 26, 2011-12-29, 30
 白浜水族館「海の中まで白浜を知っちゃおう!」解説ツアー, 2011-08-09, 11, 16, 18, 23, 25

テレビ番組出演 テレビ東京「やりすぎコージー」において、不老不死・ベニクラゲの研究について紹介、2011-09-26

テレビ番組出演 TBS テレビ「カラダノキモチ」において、不老不死・ベニクラゲの研究について紹介、2012-02-26

テレビ番組出演 NHK 総合テレビ「あさいち」において、不老不死・ベニクラゲの研究および京都大学白浜水族館について紹介、2012-03-15

ラジオ番組出演 白浜コミュニティ FM ラジオビーチステーション 「クラブミセスマチネ(パーソナリティ 水上くみこ)」 に出演、2011-07-23, 09-24, 10-01, 2012-03-24

ラジオ番組出演 RKB ラジオ「スタミナラジオ：ベニクラゲ (パーソナリティ 中西一清)」 に出演、2011-06-22

宮崎 勝己 瀬戸臨海実験所「施設見学会」講師、2011-10-15

H23 年度紀の国森づくり基金活用事業「岩礁生物学習会と京大水族館見学会」、2011-07-30

海域陸域統合管理学研究部門

向井 宏 第2回周南市連携講座(山口県周南市・徳山試験地 共催)にて、講演 「森を守る海」,2011-09-11
東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」において、パネルディスカッション コーディネーターとして参加 京都会館会議場, 2011-07-16

第4回別寒辺牛川地域連携講座「森から海へ～海域環境の保全と人の暮らし～」において、パネルディスカッション 司会として参加 厚岸町情報館「本の森」, 2011-11-12

佐藤 真行 第3回仁淀川地域連携講座『国際森林年を“森林・林業再生プラン” 実行元年とするために』において、総合司会として参加 高知県仁淀川町池川中学校体育館, 2011-10-08

東北地域連携講座「森里海連環学と沿岸管理～東北沿岸の復興をどう進めるか～」において、総合司会として参加 京都会館会議場, 2011-07-16

安佛 かおり 第21回 ICM セミナー・講師「木津川砂州の地下間隙水及び地下小水域における生元素動態」, 2011-10-11

企画研究推進部門

福島 慶太郎 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座(芦生)において講義「山のめぐみ-迫り来るシカの脅威」 芦生研究林, 2011-07-22

大川 智船 名古屋大学 HyARC (地球水循環研究センター) 研究集会(合同ワークショップ)「流域社会をとりまく水循環と水問題:水を巡る諸問題に関わる自然科学と社会科学の融合研究の可能性」(フィールド研 木文化プロジェクト共催)において講演 名古屋大学, 2011-07-28

管理技術部

荒井 亮 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師(樹木識別入門)(芦生研究林), 2011-07-22

小嶋 宏和 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座において講師(樹木識別入門)(芦生研究林), 2011-07-22

(7) 国際活動

◆国際研究プロジェクト

(該当案件なし)

◆国際学会

里域生態系部門

山下 洋 INTERNATIONAL FLATFISH SYMPOSIUM 2011 (オランダ Ijmuiden, 2011-11-05/11)

山下 洋 EML 国際シンポジウム(中国 深圳, 2011-12-10/12)

柴田 昌三 International workshop on bamboo cultivation and utilization, “Cultivation and utilization of bamboos in temperate zone, Japan -Traditional methods and innovative trial for new use- “(カセサート大学, Bangkok, Thailand), 2012-01-14/18

基礎海洋生物学部門

河村 真理子 「第8回日中韓大型クラゲ国際ワークショップ」に出席(中国 三亜海域中央度假酒店, 2011-12-16/18)

海域陸域統合管理学研究部門

佐藤 真行 European Association of Environmental and Resource Economists において、学会発表(イタリア University of Rome, 2011-6-28/07-03)

佐藤 真行 EAAERE2012 において、学会発表(インドネシア Padjadjaran University, 2012-02-02/04)

企画研究推進部門

福島 慶太郎 AUG2011 において、学会発表(米国サンフランシスコ Moscone Center, 2011-12-04/07)

次世代研究者育成センター

佐藤 拓哉 American Fisheries Society 141st Annual Meeting において、学会発表(米国 Washington State Convention, 2011-09-05/08)

◆海外調査

森林生物圏部門

安藤 信 西オーストラリアのユーカリ林調査 (オーストラリア 国立公園, 2011-09-17/27)

中島 皇 国立公園における森林保全に関する資料収集 (オーストラリア, ケアンズ近郊の国立公園, 2011-09-16/23)

徳地 直子 プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する情報収集および現地調査, 河川水の採水 (マレーシア, ビントウル開発局, 2011-08-13 /23)

徳地 直子 プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する情報収集および現地調査, 河川水の採水 (マレーシア, ビントウル開発局, 2012-03-07/15)

里域生態系部門

柴田 昌三 インド・シッキム州における竹類の一斉開花枯死の調査 (インド シッキム大学, ケディエコツアーズム促進協会, ロイド植物園, 2011-05-25/06-02)

柴田 昌三 竹の開花に関する資料・情報の収集 (ネパール カトマンズ トリブヴァン大学自然史博物館スワヤンブ環境公園, 2011-08-26/29)

ミゾラム州における竹類の一斉開花枯死の調査 (インド ミゾラム大学, 2011-11-26/12-01)

長谷川 尚史 ミゾラム州における竹類の一斉開花枯死の調査 (インド ミゾラム大学, 2011-11-28/12-02)

基礎海洋生物学部門

久保田 信 カイヤドリヒドラ類の生物学的研究 (USA フロリダ タンパ周辺海域, 2011-11-18/20)

海域陸域統合管理学研究部門

向井 宏 ジュゴン個体群の生態と森里海連環学研究, プハダ湾およびマヨ湾におけるジュゴンの摂餌生態の研究 (フィリピン ニューアルガオ, マティ市内, 2011-12-08/15)

企画研究推進部門

福島 慶太郎 プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する情報収集および現地調査, 河川水の採水 (マレーシア, ビントウル開発局, 2011-08-13/23)

◆在外研究

基礎海洋生物学部門

宮崎 勝己 京大ウィーン大学間学術交流協定に基づく派遣研究 (オーストリア ウィーン大学, 2012-01-12/25)

次世代研究者育成センター

佐藤 拓哉 溪流生態系に関する野外実験研究 (カナダ コロンビア大学, 2011-06-01 から長期滞在)

◆その他出張研修

森林生物圏部門

徳地 直子 研究会参加 (ニューヨーク州立大学 Yanai 教授による招聘) (米国シラキュース ニューヨーク州立大学, 2011-09-14/19)

里域生態系部門

益田 玲爾 SEAFDEC トレーニングコースに参加, 講演 フィリピン Igang Marine Station, 2011-07-13/17

◆招聘外国人学者

里域生態系部門

MIA Md. Younus (ミア エムディー ユーヌス) / 丹後海の生物生産構造における鍵生物群としてのアミ類の摂餌生態 (バングラデシュ モラナーバシヤナ科学技術大学 准教授, 2011-05-01/2012-02-29, 受入教員: 山下 洋)

Gwak Woo-Seok (カク ウ ソク) (京大農学部博士課程卒業) / 「DNA 分析による海産魚類の遺伝子的多様性と集団分析に関する検討」(韓国 国立慶尚大学校 海洋科学大学 海洋生命科学科 助教授, 2011-07-19/29, 受入教員: 中山 耕至)

Gwak Woo-Seok (カク ウ ソク) (京大農学部博士課程卒業) / 「DNA 分析による海産魚類の遺伝子的多様性と集団分析

に関する検討」(韓国 国立慶尚大学校 海洋科学大学 海洋生命科学科 助教授,
2012-02-13/19, 受入教員: 中山 耕至)

◆外国人共同研究員

森林生物圏部門

Adams, Jonathan Miles (アダムス ジョナサン マイルズ) /メタゲノム解析を用いた東アジアの緯度系列に沿った土
壌微生物群集の多様性比較(ソウル国立大学 助教, 2012-01-29/02-28, 受入教員: 舘野 隆之輔)

◆留学生

森林育成学分野

Alex Souza Bastos 国費留学生(ブラジル, 柴田 昌三/長谷川 尚史)

里海生態保全学分野

Chaitanya Kumar Bhandare 私費留学生(インド, 山下 洋)

Yi-Ting Lien (連怡婷) 私費留学生(台湾, 山下 洋)

Michelle L. Walsh フルブライト研究員(米国, 山下 洋)

(8) 研修参加・資格取得等

◆職員研修(学外)

平成23年度中国・四国, 近畿地区大学附属演習林等 技術職員研修

主催 島根大学演習林(全国演習林協議会)

開催日時・場所 12月6~8日・島根大学 生物資源学部 三瓶演習林

参加者 境 慎二郎・古田 卓・奥田 賢 (3人)

平成23年度北海道東北地区大学演習林等 技術職員研修

主催 東京大学農学生命科学研究科附属演習林(全国演習林協議会)

開催日時・場所 6月14~17日・東京大学 北海道演習林

参加者 林 大輔 (1人)

第14回関東甲信越地区大学演習林等 技術職員研修

主催 東京大学農学生命科学研究科附属演習林(全国演習林協議会)

開催日時・場所 6月22~25日・東京農工大学フィールドサイエンスセンター フィールドミュージアム大谷山

参加者 岡部 芳彦 (1人)

平成23年度東海地区農学部附属演習林等 技術職員研修

主催 東京大学 生態水文学研究所(全国演習林協議会)

開催日時・場所 10月18~20日・東京大学 生態水文学研究所

参加者 長谷川 敦 (1人)

平成23年度実験・実習技術研究会 in 神戸

主催 平成23年度実験・実習技術研究会 in 神戸実行委員会(全国総合技術研究会)

開催日時・場所 3月14~15日・神戸大学六甲キャンパス

参加者 中村 はる奈 (1人)

◆職員研修(学内)

e-Learning 研修「研究費等の適正な使用について」(オンライン研修)

教員・職員・特定研究員等

農学研究科・フィールド科学教育研究センター第14回技術職員研究集会: フィールド科学教育研究センター

2月28日

佐藤 修一・境 慎二郎・藤井 弘明・榎田 盤・紺野 絡・中村 はる奈・

林 大輔 (7人)

京都大学技術職員研修(第36回): 理学研究科セミナーハウス・兵庫耐震工学研究センター・人と防災未来センター

9月15~16日

紺野 絡・安藤 公 (2人) (世話役) 境 慎二郎

京都大学技術職員研修（第4 専門技術群：生物・生態系）：医学研究科 附属動物実験施設

1月25日 佐藤 修一・西岡 裕平（2人）

京都大学技術職員研修（第6 専門技術群：情報系）：瀬戸臨海実験所・防災研究所

10月13～14日 槇田 盤（1人）

ヒューマンスキル研修会 リスニング・交渉術：学術情報メディアセンター

11月18日・12月16日 中村 はる奈（1人）

パソコン研修

Word2007 応用 長谷川 敦史・吉岡 歩（2人）

Excel2007 基礎 小嶋 宏和・西岡 裕平（2人）

Excel2007 応用 長谷川 敦史（1人）

Access2007 基礎 長谷川 敦史（1人）

Access2007 応用 長谷川 敦史（1人）

◆免許・資格等の取得

伐木等の業務特別教育 なし

刈払機作業安全衛生教育 なし

振動工具取り扱い作業教育講習 浅野 善和・安藤 公・岡部 芳彦・奥田 賢・勝山 智恵・佐藤 修一・

林 大輔・古田 卓・柳本 順（9人）

研磨砥石の取り替え（自由） 安藤 公・奥田 賢（2人）

小型車両系建設機械（整地等 3t 未満） なし

玉掛け技能講習 なし

車両系建設機械（整地等） なし

車両系建設機械（解体用） なし

フォークリフト運転技能講習 なし

小型移動式クレーン なし

高所作業車運転技能講習 なし

危険物取扱車免状（乙種4類） なし

大型特殊免許 なし

潜水士免許 なし

エックス線作業主任者免許 なし

第3級陸上特殊無線技士 荒井 亮・西岡 裕平（2人）

わな猟 狩猟免状 古田 卓（1人）

アーク溶接（特別教育） 古田 卓（1人）

中型車限定解除免許 境 慎二郎・西岡 裕平（2人）

◆安全衛生に関する講習会等

安全運転管理者講習 上西 久哉・境 慎二郎・佐藤 修一（3人）

危険物取扱者保安講習 岡部 芳彦・小嶋 宏和・西岡 裕平・細見 純嗣・山内 隆之（5人）

安全衛生推進者養成講座 柴田 泰征・中川 智之・柳本 順（3人）

● ● ● 4. 資料 ● ● ●

(1) 職員配置表

平成24年 1月 1日現在

区分	教授	准教授	講師	助教	事務職員	技術職員	非常勤職員等
流動分野研究室		田川 正 朋		中山 耕 至			黒河七 菜子
研究室 (北部構内)	■ 柴田 昌三 吉岡 崇仁 □ 山下 洋	徳地 直 子	中島 皇	坂野上 なお 佐藤 拓哉			村上 彩子 石角 静子 長田 典美 富井 博 富植 田晶 小竹 林宜 李 野正 上野 星 野 亜 紀
企画情報室	(室長[兼]) 柴田 昌 三					● 濱田 盤 中村 はる奈	
森里海連環学 プロジェクト支援室	(室長[兼]) 吉岡 崇 仁	(副室長[兼]) 徳地 直 子		(研究員) ◆ 福島慶太郎 ◆ 松山 周平		向 昌 宏	大川 智 船
海城陸域統合管理学 研究部門	(特任) ◇ 向井 宏	◆ 佐藤 真 行					安佛 かおり 麻生 佳徳 里 き
事務部					(専門員) 清水 尚 蒲 彰子		山本 みゆき
図書室							
森林フィールド管理部門						◎ 山内 隆之 ◎ 境 慎二朗	
里域フィールド管理部門						▽◎ 佐藤 修一 ▽◎ 藤井 弘明 ▽ 黒田 真人 ◎ 山本 泰司	
水域フィールド管理部門 声生研究林		(研究林長) 長谷川 尚 史		▼ 中西 麻 美	(掛長) 石田 将人 (再) 長野 敏	(兼) ● 境 慎二朗 ○ 平井 岳志 ○ 細見 純嗣 ○ 太田 健一 ○ 荒井 亮 ○ 小嶋 宏和 ○ 西岡 裕平 (再) 大牧 治夫	山口 サト子 中野 はるみ
北海道研究林	▲ 吉岡 崇 仁	(研究林長) 館野 隆之輔			(掛長) 川合 忍	[標茶区] (兼) ● 山内 隆之 ○ 浅野 善和 ○ 岡部 芳彦 ○ 勝山 智憲 ○ 山林 大輔 ○ 古田 卓	川村 由 紀枝
和歌山研究林		▲ (研究林長) 徳地 直 子		▲ 坂野上 なお		● 上西 久哉 ○ 柳本 順 ○ 中川 智之 ○ 奥田 賢公 ○ 安藤 公	松 場 香 枝
上賀茂試験地		(試験地長) 安藤 信		寄元 道 徳		● 柴田 泰征 ○ 大橋 健太 ○ 伊藤 雅敏 ○ 長谷川 敦史 ○ 吉岡 歩	
徳山試験地			▲ (試験地長) 中島 皇			● 長谷川 孝 (再) 秋田 豊 (再) 紺野 絡 (再) 藤木 孝一	近 森 道子 石丸 美由希 北村 伊都子
北白川試験地	(試験地長[兼]) 柴田 昌 三						
紀伊大島実験所		(実験所長) 梅本 信也					
舞鶴水産実験所	▲ (実験所長) 山下 洋	益田 玲 爾		上野 正 博 甲斐 嘉 晃	(再) 松尾 壽 雄	○ 志賀 生実 (再) 佐藤 一夫	松 尾 春 美 荻野 文 枝 山正 真 謙 大下 憲 吏 南 憲 炳 陳 善 谷 本 愛 興 田 奈 笠 松 子 今 岡 衣 亨
瀬戸臨海実験所	(実験所長) 朝倉 彰	久保田 信	宮崎 勝 己	大和 茂 之 中野 智 之 (研究員) ◆ 河村 真 理子	(掛長) 砂田 明 展 (主任) 福岡 由美 川中 健	(兼) ● 山本 泰司 ○ 津越 健一 ○ 加藤 哲哉 ○ 原田 桂太 ○ 興田 喜久 (再) 太田 久男 (再) 山本 満善	興 笠 今

■ センター長 ▲ 勤務地: 京都 ▼ 勤務地: 上賀茂試験地 △ 勤務地: 北海道研究林 ▽ 勤務地: 北白川試験地 ◎ 技術長 (兼) 兼務 ● 技術班長 (再) 再雇用 ○ 技 術 主 任

□ 副センター長 ◆ 特定有期雇用教職員 ◇ 有期雇用教職員

(2) 常設委員会名称及び委員一覧

平成 23 年 4 月 13 日現在

<教授が担う委員会>

将来構想企画委員会	柴田・山下・吉岡・向井
教育研究評価委員会	柴田・山下・吉岡・向井
施設・設備整備委員会	柴田・山下・吉岡・向井

<教授が当面委員長を務める委員会>

教育プログラム委員会	○山下・徳地・田川・長谷川・中島・宮崎・佐藤
研究プログラム委員会	○吉岡・安藤・梅本・益田
広報委員会	○吉岡・久保田・梅本・寄元・坂野上・甲斐・佐藤・横田
人権問題対策検討委員会	○柴田・山下・吉岡・徳地・益田・和田
情報セキュリティ委員会	○柴田・上野(幹事)・中山・横田

<准教授・講師・助教が委員長を務める委員会>

施設・設備整備委員会ワーキンググループ	
遠隔講義システム等整備WG	○安藤・館野・宮崎・坂野上・上野
連携棟新営WG	○梅本・久保田・田川・中西
社会連携委員会	○田川・長谷川・中島・益田・大和・中山・寄元・中西
国際委員会	○佐藤・益田・中西・中野
労働安全衛生委員会	○徳地・坂野上・甲斐・大和・吉岡・向

(○ は, 委員長)

技術職員の在り方検討委員会(役職指定)

センター長・副センター長・総務課長・技術長・森林系教授

危機管理委員会

全教授・各施設長・技術職員(若干名)

(3) 全学委員会等

平成 23 年 4 月 1 日現在

<部局長が対応する委員会>

教育研究評議会	大学評価委員会	全学共通教育委員会
研究所長・センター長会議	全学情報セキュリティ委員会	地球環境学堂・学舎協議会
生態学研究センター・協議員会	総合技術部委員会	

<他の教員が対応する委員会>

国際交流委員会	柴田
図書館協議会協議員	柴田
国際交流推進機構運営委員会	柴田
学生の安全対策検討WG	吉岡
組換え DNA 実験安全委員会	中山
高等教育研究開発推進機構 全学共通教育システム委員会 少人数教育部会	益田
高等教育研究開発推進機構 全学共通教育システム委員会 生物学部会	田川
広報委員会	安藤
情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会	中西
ジュニアキャンパス実施検討委員会	吉岡
生態学研究センター運営委員会	徳地
生態学研究センター共同利用運営委員会	徳地

総合博物館運営委員会	久保田
大学評価委員会 点検・評価実行委員会	山下
施設整備委員会吉田キャンパス整備専門委員会	柴田
〈その他学内委員会等〉	
北部構内交通委員	寄元
農学研究科コンピュータ援用物理系実習室運営委員会	長谷川
農学研究科コンピュータ援用物理系実習室管理実務委員会	坂野上

(4) 運営委員会

平成 24 年 1 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名
議長	柴田 昌三	フィールド研 センター長
1 号	山下 洋	フィールド研 教授
	吉岡 崇仁	フィールド研 教授
	朝倉 彰	フィールド研 教授
2 号	渡辺 勝敏	理学研究科 准教授
	北山 兼弘	農学研究科 教授
	森本 幸裕	地球環境学堂 教授
	高林 純示	生態学研究センター 教授
	本川 雅治	総合博物館 准教授
	安藤 和雄	東南アジア研究所 准教授

(5) 協議員会

平成 24 年 1 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名	備考
1 号	柴田 昌三	フィールド研 センター長	
2 号	山下 洋	フィールド研 教授	
	吉岡 崇仁	フィールド研 教授	
	朝倉 彰	フィールド研 教授	
3 号	淡路 敏之	理学研究科 教授	高等教育研究開発推進機構長 (京都大学理事)
	山極 壽一	理学研究科 教授	理学研究科長
	堀 道雄	理学研究科 教授	
	遠藤 隆	農学研究科教授	農学研究科長
	米森 敬三	農学研究科 准教授	農学研究科附属農場長
	小林 慎太郎	地球環境学堂 教授	地球環境学堂長
	中村 裕一	学術情報メディアセンター 教授	
	椿 宜高	生態学研究センター 教授	
	大野 照文	総合博物館 教授	総合博物館長

(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会

舞鶴水産実験所共同利用運営委員会

平成 24 年 1 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名
1 号	柴田 昌三	フィールド研 センター長
2 号	山下 洋	フィールド研 教授（舞鶴水産実験所長）
3 号	益田 玲爾	フィールド研 准教授（舞鶴水産実験所）
4 号	笠井 亮秀	京都大学 農学研究科 准教授
3 号	渡邊 良朗	東京大学 大気海洋研究所 教授
	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部 教授
	白山 義久	独立行政法人 海洋研究開発機構 理事
	富永 修	福井県立大学 海洋生物資源学部 教授
	小路 淳	広島大学 生物圏科学研究科 准教授
	古屋 康則	岐阜大学 教育学部 准教授

瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会

平成 24 年 1 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名
1 号	柴田 昌三	フィールド研 センター長
2 号	朝倉 彰	フィールド研 教授（瀬戸臨海実験所長）
3 号	宮崎 勝己	フィールド研 講師（瀬戸臨海実験所）
4 号	疋田 努	京都大学 理学研究科教授
3 号	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	和田 恵次	奈良女子大学 共生科学研究センター 教授
	西田 宏記	大阪大学 理学研究科 教授
	川井 浩史	神戸大学 内海域環境教育研究センター 教授
	深見 裕伸	宮崎大学 農学部 准教授
	白山 義久	独立行政法人 海洋研究開発機構 理事

(7) 新聞記事

センターに関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	内容・キーワード等
2011年4月1日	9面	紀伊民報	白浜水族館 裏側に興味津々 バックヤードツアー	白浜水族館
2011年4月15日号	No.192	広報 周南	京都大学・市連携講座	徳山試験地
2011年4月27日	1面	紀伊民報	白浜水族館 珍しいウミウシ展示	白浜水族館
2011年4月28日	11面	紀伊民報	白浜「番所山」で地域振興 県、地元が協議会発足	瀬戸臨海実験所
2011年4月30日	夕刊7面	京都新聞	豊穡の森 芦生 四季 環境異変 あえぐ命の宝庫	芦生研究林
2011年5月号	No.693	国立公園	めざせ国定公園「芦生の森」	芦生研究林
2011年5月17日	朝刊25面	京都新聞	森学ぶ アジアの学生集う 地域会議、京大でスタート	芦生研究林
2011年5月31日	No.73	KUINSニュース	各施設における無線LANアクセスポイントの設置	フィールド研
2011年6月号	No.218	なちゆるる(大阪市立環境学習センター情報紙)	地球環境シンポジウム2011「東日本大震災からの復興と森・里・海連環」	フィールド研
2011年6月9日	朝刊29面	毎日新聞	京都大学フィールド科学教育研究センター東北地域連携講座	フィールド研
2011年6月9日	11面	紀伊民報	採集や飼育体験	白浜水族館
2011年6月14日	朝刊27面	京都新聞	京大が森のめぐみ考える公開講座	フィールド研
2011年7月1日	朝刊31面	朝日新聞	京都大学フィールド科学教育研究センター東北地域連携講座	フィールド研
2011年7月6日	朝刊22面	京都新聞	「大震災後を考える」シンポをシリーズ化	フィールド研
2011年7月6日	朝刊35面	読売新聞	京大が「震災後」シンポ	フィールド研
2011年7月6日	夕刊10面	朝日新聞	京大では連続シンポ	フィールド研
2011年7月12日	朝刊21面	毎日新聞	研究者ら「大震災後 考える」京大・連続シンポ	フィールド研
2011年7月16日	1502号	リビング和歌山	京都大学白浜水族館夏休みイベント	白浜水族館
2011年7月20日	11面	紀伊民報	夏休み特別イベント 21日から白浜水族館	白浜水族館
2011年7月22日	4面	長周新聞	海の生態系は着実に回復	フィールド研
2011年8月号	No.220	なちゆるる(大阪市立環境学習センター情報紙)	(特集)地球環境シンポジウム2011	フィールド研
2011年8月4日	朝刊22面	京都新聞	芦生の自然学が京大公開講座	フィールド研
2011年8月19日	朝刊22面	京都新聞	気仙沼市に京大が義援金	フィールド研
2011年8月19日	朝刊23面	読売新聞	京大、気仙沼市に義援金	フィールド研
2011年8月24日	-	河北新報	京大「森は海の恋人」ゆかり 気仙沼市に441万円贈る	フィールド研
2011年8月25日	-	三陸新報	さらなる支援の意向も 京大が義援金441万円	フィールド研
2011年8月29日	夕刊7面	京都新聞	灯「光の調律師」	芦生研究林
2011年9月号	No.507	翼の王国(ANA機内誌)	「私の青空 オホーツク紋別空港・とっかりの森」誕生	フィールド研
2011年9月6日	2面	日刊木材新聞	24日に市民講座「森・里・海の対話」	フィールド研
2011年9月14日	朝刊27面	京都新聞	全国の京大施設 集中公開	上賀茂試験地、芦生研究林、瀬戸臨海実験所
2011年9月21日	朝刊21面	朝日新聞	森・里・海の対話/身近な視点から生態系のつながりを考える	フィールド研
2011年9月21日	4面	紀伊民報	京大生が被害調査 古座川流域で実習	紀伊大島実験所
2011年9月28日	朝刊27面	京都新聞	京大上賀茂試験地 歩いて自然観察 来月15日	上賀茂試験地
2011年9月28日	11面	文教速報	東北復興支援で学生ボランティアを派遣＝京大	フィールド研
2011年9月30日	9面	紀伊民報	水族館の飼育体験 参加者を募集	白浜水族館
2011年10月1日号	No.203	広報 周南	西緑地樹木観察会	徳山試験地
2011年10月号	No.671	京大広報	東北復興支援に学生ボランティアを派遣	フィールド研
2011年10月号	No.671	京大広報	中学生向けゼミ体験講座「ジュニアキャンパス2011」を開催	フィールド研
2011年10月4日	11面	紀伊民報	大人対象の施設見学会 15日、京大瀬戸臨海実験所	瀬戸臨海実験所
2011年10月9日		高知新聞	木材エネルギー活用を 仁淀川町でシンポ	フィールド研
2011年10月14日	朝刊25面	京都新聞	シカ食害減へ 猟銃で捕獲	芦生研究林
2011年10月16日	朝刊27面	京都新聞	芦生の森いつまでも 保全へ住民や研究者が議論	芦生研究林
2011年11月26日	朝刊27面	京都新聞	森はよみがえる「間伐効率化、高まる期待」	芦生研究林
2011年11月28日	朝刊22面	京都新聞	森はよみがえる「獣害防止 共生の道探れ」	芦生研究林
2012年2月15日	朝刊20面	京都新聞	舞鶴ナマコ増産目指す カキ殻で種苗採集	舞鶴水産実験所
2012年2月15日	朝刊20面	京都新聞	海藻養殖技術やカニ保護 丹後の海洋研究発表	舞鶴水産実験所
2012年2月15日	朝刊23面	毎日新聞	舞鶴市ナマコプロジェクト 天然採苗方法の研究結果発表	舞鶴水産実験所
2012年2月15日	朝刊35面	朝日新聞	ナマコ増産へ一歩 研究成果を報告	舞鶴水産実験所
2012年2月21日	2面	舞鶴市民新聞	ナマコ増産の研究発表 最適な生育環境明らかに	舞鶴水産実験所

教職員に関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	教職員
2011年11月20日	朝刊25面	京都新聞	水を通して山と海学ぶ 舞鶴で水車サミット	山下 洋
2011年8月4日	朝刊4面	朝日新聞	官邸 風通し悪い? 孟宗竹、一部枯れる	柴田 昌三
2011年11月18日	朝刊25面	京都新聞	里山再生プロジェクト 里山新炭林のヒミツ	
2011年11月28日	朝刊17面	読売新聞	京都大学 品川セミナー 森林管理で豊かな生態系	
2011年5月27日	夕刊16面	日本経済新聞	よみがえれ海の教室 南三陸の体験学習施設再開へ全力	向井 宏
2011年4月7日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ニチリンクラゲ」	久保田 信
2011年4月13日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「オベリアクラゲ」	
2011年4月28日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「カラカサクラゲ」	
2011年5月13日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「エダアシクラゲ」	
2011年5月19日	16面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「スギウラクチクラゲ」	
2011年5月26日	1面	紀伊民報	2年続けて漂着 深海魚ハダカイワシ	
2011年6月3日	16面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ミズクラゲ」	
2011年6月8日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「カブトクラゲ」	
2011年6月10日	14面	紀伊民報	国の天然記念物 オカヤドカリを調査 白浜 番所山で京大准教授	

2011年6月15日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「コモチカタアシクラゲ」	久保田 信
2011年6月22日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ハナガサクラゲ」	
2011年6月29日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ハイクラゲ」	
2011年7月6日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「カツオノエボシ」	
2011年7月13日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「カツオノカンムリ」	
2011年7月20日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ギンカクラゲ」	
2011年7月21日	1面	紀伊民報	南方系クロチョウガイ 白浜町沿岸で増加	
2011年7月26日		長崎新聞	日本初確認のクラゲを展示 九十九島で採集〜繁殖に成功	
2011年7月28日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「コツブクラゲ」	
2011年7月29日	3面	紀伊民報	釣っとコラム	
2011年8月3日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ハネウミヒドラ」	
2011年8月6日	8面	紀伊民報	会員の調査報告など「南紀生物53巻」発行	
2011年8月11日	12面	日経産業新聞	先端人 ベニクラゲ若返り成功	
2011年8月12日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ツリアイクラゲ」	
2011年8月13日		西日本新聞	国内初確認のクラゲ公開	
2011年8月14日		毎日新聞	世界初の新種？クラゲ展示	
2011年8月18日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「オオタマウミヒドラ」	
2011年8月18日	11面	紀伊民報	熱帯系のサツマゴキブリ 県南部で生息域拡大	
2011年8月26日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「アンドンクラゲ」	
2011年9月1日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「タコクラゲ」	
2011年9月14日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「イカリヨツボシクラゲ」	
2011年9月21日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「コモチクラゲ」	
2011年9月28日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「エフィラクラゲ」	
2011年10月5日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ヒクラゲ」	
2011年10月8日	8面	紀伊民報	ベニクラゲCD作る 歌で分かりやすく説明	
2011年10月12日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「イロヌケクラゲ(新称)」	
2011年10月19日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ジェリーボールクラゲ」	
2011年10月20日	9面	紀伊民報	オカヤドカリ 放幼行動を確認 白浜の海岸で本州初	
2011年10月23日	1面	紀伊民報	紀南の100人 生命の謎に迫るクラゲ研究	
2011年10月25日	1面	紀伊民報	表裏の色異なるヒオウギガイ 新庄漁協で見つかる	
2011年10月26日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「イラモ」	
2011年11月1日	1面	紀伊民報	ギンカクラゲ大量漂着 白浜「素手で触らないで」	
2011年11月3日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「バテイクラゲ」	
2011年11月11日	16面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「エダワカレサルシニアクラゲ(新称)」	
2011年11月17日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「イシメガサクラゲ」	
2011年11月23日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ギンカクラゲ2」	
2011年11月30日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ソトエリクラゲ」	
2011年12月7日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「フタツクラゲモドキ」	
2011年12月14日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ヨウラククラゲ」	
2011年12月28日	25面	読売新聞	クラゲ30種「世界一」ギネス申請へ記録会	
2011年12月28日	26面	山形新聞	「クラゲ」ギネス挑戦	
2011年12月28日	7面	庄内日報	“クラゲ世界一”ギネス認定へ	
2011年12月29日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「オキクラゲ」	
2012年1月11日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ツノクラゲ」	
2012年1月13日	32面	中日新聞	新種のクラゲ発見	
2012年1月13日		静岡新聞	クシクラゲの新種発見	
2012年1月17日		読売新聞	新種クラゲ 平戸で発見	
2012年1月17日		毎日新聞	新種と判明 九十九島周辺で「海きらら」採取	
2012年1月19日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「キヨヒメクラゲ」	
2012年1月27日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「オワンクラゲ」	
2012年1月31日	34面	読売新聞	迷子 寄り添うイルカ	
2012年2月2日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ヨウラククラゲ2」	
2012年2月8日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ベニクラゲムシ」	
2012年2月11日		長崎新聞	命名 ホシヤスジクラゲ 海きらら、一昨年に国内初採集	
2012年2月15日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ウニヤドリクラゲムシ」	
2012年2月24日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ヒメアンドンクラゲ」	
2012年3月1日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「チョウクラゲ」	
2012年3月8日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「アカホシカブトクラゲ」	
2012年3月14日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ウリクラゲ」	
2012年3月28日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ツツミクラゲ」	
2011年12月1日号	No. 1053	広報 長岡京	教えて！ 森林博士「森と水」	徳地 直子
2011年4月30日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(109)「ナガニシ」あぶると甘い香り	益田 玲爾
2011年5月27日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(110)「ソウクラゲ」ゾウに近い生き物	
2011年6月24日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(111)「クロメ」藻場づくりに一役	
2011年7月28日	朝刊26面	京都新聞	宮城沿岸部の海域 生態系「回復傾向」	
2011年7月29日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(112)「ドチザメ」生態系のバランス保つ	
2011年8月19日	朝刊25面	読売新聞	舞鶴湾の生物 親子学習 航海も	
2011年8月19日	朝刊25面	毎日新聞	海の生物に目撃かす 舞鶴サマースクールに35人	
2011年8月26日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(113)「キジハタ」夜は食事の時間	
2011年9月19日	朝刊21面	産経新聞	気仙沼の海「復興」の兆し	
2011年9月30日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(114)「イシガキダイ」サンゴにとけ込む模様	
2011年10月28日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(115)「ホシエイ」泳ぐ背にきらめく星々	
2011年11月25日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(116)「キンチャクダイ」あでやかな青い線	
2011年12月3日	夕刊14面	読売新聞	気仙沼の海 回復	
2011年12月23日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(117)「オニカサゴ」毒トゲまとい鎮座	
2012年1月27日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(118)「アカニシ」見事な紅色 装飾品に	
2012年2月24日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(119)「コノハドリガイ」目立たず危険なやつ	
2012年3月23日	夕刊7面	京都新聞	灯「海の力」	
2012年3月30日		舞鶴市民新聞	若狭湾水中散歩(120)「マガキガイ」原発停止で激変の海	

2011年4月19日	不明	紀伊民報	現況知るため県が川を測量 古座川流域協議会	梅本 信也	
2011年5月24日	28面	読売新聞	雑草学事典のCD版を作成		
2011年10月25日	朝刊32面	読売新聞	植物でイノシシ撃退 京大、実験スタート		
2011年12月16日	1面	紀伊民報	アオノクマタケラン イノシシよけに効果	長谷川 尚史	
2011年12月16日	4面	紀伊民報	大島にイノシシ急増 串本 京大実験所などで捕獲		
2011年9月26日	朝刊24面	京都新聞	口丹随想 「森と人と」		
2012年3月26日	11面	農経しんぼう	道のコストから判断 施行体系、林型など考慮	大和 茂之	
2011年5月13日	9面	紀伊民報	遠足で環境学習 天神崎で生き物観察など		
2011年12月10日	10面	紀伊民報	天神崎の自然 将来へ残そう		
2011年4月20日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (1)「海ってなんだ」	上野 正博	
2011年5月2日	6面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (2)「海はひとつ」		
2011年5月25日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (3)「由良の渡(と)を…」		
2011年6月8日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (4)「海の青さ」		
2011年6月22日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (5)「うたかた」		
2011年7月6日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (6)「夜光虫」		
2011年7月20日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (7)「ミクラゲ」		
2011年8月3日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (8)「タツノオトシゴ」		
2011年8月17日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (9)「熱中症」		
2011年8月31日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (10)「夏枯れ水」		
2011年9月21日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (11)「海月(くらげ)」		
2011年10月5日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (12)「海の米」		
2011年10月19日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (13)「微小貝」		
2011年11月2日	6面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (14)「ホッチャレ」		
2011年11月16日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (15)「左ビラメの…」		
2011年11月30日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (16)「秋イカと藻イカ」		
2011年12月14日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (17)「アンコウはアホ？」		
2011年12月28日	8面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (18)「星に祈れば」		
2012年1月11日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (19)「雪の源」		
2012年1月25日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (20)「針金虫」		
2012年2月8日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (21)「エビの背わた」		
2012年2月22日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (22)「黄砂」		
2012年3月7日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (23)「マイクロバブル」		
2012年3月21日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (24)「流速計」		
2011年5月11日	朝刊1面	毎日新聞	被災地望む復興は？ 仙台で震災フォーラム	畠山 重篤(社会連携教授)	
2011年5月12日	朝刊21面	読売新聞	それでも海しかない 気仙沼でカキ養殖再び		
2011年5月20日	朝刊16-17面	毎日新聞	第1回毎日新聞・震災フォーラム 仙台・復興支援総局で		
2011年5月21日	朝刊14面	京都新聞	結びの海 “漁村力”を復興に		
2011年6月1日	夕刊5面	朝日新聞	震災復興に間伐材を「森は海の恋人」新たな展開		
2011年6月5日	朝刊17面	毎日新聞	森は海の恋人活動 沿岸漁業の再生へ3本柱		
2011年6月6日	朝刊34面	日本経済新聞	豊かな海に戻って 上流の山麓で植樹祭		
2011年7月3日	朝刊7面	毎日新聞	毎日新聞・震災フォーラム		
2011年8月3日	朝刊13面	毎日新聞	海を豊かにする とっておきの3冊		
2012年2月9日	32面	読売新聞	カキ養殖家に「森の英雄賞」		
2012年2月22日	朝刊13面	朝日新聞	東日本大震災1年 インタビュー「海はよみがえる」		
2012年3月22日	夕刊9面	日本経済新聞	カキ養殖家、国連機関から「森の英雄」賞 津波乗り越え植樹続ける		
2011年4月15日	朝刊25面	京都新聞	寄生虫がつなぐ生態系 陸生昆虫操りイワナの餌に		佐藤 拓哉
2011年5月16日	朝刊19面	読売新聞	ハリガネムシ 生態系の黒幕		
2011年6月7日	朝刊20面	毎日新聞	三陸漁業の再生考える講演会	田中 克	
2011年6月9日	朝刊21面	京都新聞	三陸海岸の漁業復興考える講演		
2011年6月25日	朝刊22面	毎日新聞	「森里海連環学」で三陸再生		

(8) 各施設利用者数 (2011 年度)

(単位：人)

(所属) (目的) (利用者)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	393	772	457	889	3	35	174	30	332	0
北海道研究林標茶区	204	318	292	0	0	3	74	22	2	0
北海道研究林白糠区	16	15	80	0	0	0	0	8	0	0
和歌山研究林	76	0	65	30	0	0	0	18	6	0
徳山試験地	20	28	2	0	4	0	0	0	0	0
上賀茂試験地	118	512	335	146	20	15	162	7	5	14
北白川試験地	13	132	481	592	3	1	10	41	6	4
紀伊大島実験所	34	99	2	8	0	0	0	14	3	0
舞鶴水産実験所	90	502	513	3,914	48	51	287	37	502	6
瀬戸臨海実験所	196	414	132	1,293	0	222	1,244	151	353	0
計	1,160	2,792	2,359	6,872	78	327	1,951	328	1,209	24

(所属) (目的) (利用者)	教育研究機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	234	51	98	587	216	6,500	10,771
北海道研究林標茶区	7	7	0	112	79	60	1,180
北海道研究林白糠区	0	0	0	7	6	42	174
和歌山研究林	102	10	0	0	11	17	335
徳山試験地	10	0	0	75	0	162	301
上賀茂試験地	7	13	74	138	83	575	2,224
北白川試験地	0	10	0	0	10	48	1,351
紀伊大島実験所	16	34	0	0	413	22	645
舞鶴水産実験所	601	70	31	16	11	260	6,939
瀬戸臨海実験所	951	78	0	11	116	64,158	69,319
計	1,928	273	203	946	945	71,844	93,239

(9) 人事異動 (2011 年度)

氏名	新職名	旧職名	異動年月日
柴田 昌三	センター長・管理技術部長・教授	教授	2011. 4. 1
山下 洋	副センター長・瀬戸臨海実験所長 (兼) 教授	教授	〃
舘野 隆之輔	准教授	鹿児島大学農学研究科・准教授	〃
中野 智之	瀬戸臨海実験所・助教	日本学術振興会特別研究員 (国立科学博物館・地学研究部)	〃
佐藤 拓哉	次世代研究者育成センター (受け入れ部局: フィールド研) ・特定助教	日本学術振興会特別研究員 (京都大学・フィールド研)	〃
河村 真理子	瀬戸臨海実験所・特定研究員 (採用)		〃
安佛 かおり	海域陸域統合管理学研究部門・教務補佐員 (採用)		〃
徳地 直子	和歌山研究林長・准教授	北海道研究林・准教授	〃
清水 尚	事務室・フィールド担当専門員	奈良文化財研究所・研究支援推進部総務課課長補佐	〃
蒲 彰子	図書室	人文科学研究所・図書掛	〃
川中 健	瀬戸臨海実験所・事務職員	文学研究科・会計掛・事務職員	〃
秋田 豊	徳山試験地・技術職員 (再雇用)	徳山試験地・技術班長 (技術専門職員)	〃
藤木 孝一	北白川試験地・技術職員 (再雇用)	農学研究科等経理課・主任 (施設維持管理G (環境・安全・衛生担当))	〃
長谷川 孝	徳山試験地・技術班長 (技術専門職員)	和歌山研究林・技術主任 (技術専門職員)	〃
上西 久哉	和歌山研究林・技術班長 (技術専門職員)	和歌山研究林・技術主任 (技術専門職員)	〃
浅野 善和	和歌山研究林・技術主任 (技術専門職員)	芦生研究林・技術主任 (技術専門職員)	〃
平井 岳志	芦生研究林・技術主任 (技術専門職員)	和歌山研究林・技術主任 (技術専門職員)	〃
細見 純嗣	芦生研究林・技術主任 (技術専門職員)	和歌山研究林・技術主任 (技術専門職員)	〃
柳本 順	和歌山研究林・技術主任 (技術専門職員)	北海道研究林・技術主任 (技術専門職員)	〃
中川 智之	和歌山研究林・技術主任 (技術職員)	和歌山研究林・技術職員	〃
古田 卓	北海道研究林 (標茶) ・技術職員	北海道研究林 (白糠) ・技術職員	〃
伊藤 雅敏	上賀茂試験地・技術職員	徳山試験地・技術職員	〃
長谷川 敦史	上賀茂試験地・技術職員	芦生研究林・技術職員	〃
吉岡 歩	上賀茂試験地・技術職員	北海道研究林・技術職員	〃
奥田 賢	和歌山研究林・技術職員	上賀茂試験地・技術職員	〃
安藤 公	和歌山研究林・技術職員	上賀茂試験地・技術職員	〃
榎田 盤	企画情報室・技術班長 (技術専門職員)	企画情報室・技術主任 (技術職員)	〃
長田 典之	研究員 (学術研究奨励)	研究員 (研究機関)	〃
陳 炳 善	舞鶴水産実験所・研究員 (科学研究)	舞鶴水産実験所・研究員 (研究機関)	〃
針木 知枝	農学研究科等総務課 学術情報掛・技術職員	事務室・技術職員	〃
富樫 博幸	研究員 (研究機関) (採用)		2011. 4. 21

境 慎 二 朗	芦生研究林・技術班長（兼）・里域フィールド管理部門・技術長（技術専門職員）（芦生研究林勤務）	里域フィールド管理部門・技術長（技術専門職員）（北白川試験地勤務）	2011. 5. 1
藤 井 弘 明	里域フィールド管理部門・技術班長（技術専門職員）	芦生研究林・技術班長（技術専門職員）	〃
黒 田 眞 人	里域フィールド管理部門・技術職員	上賀茂試験地・技術職員	〃
植 田 晶 子	上賀茂試験地・研究支援推進員	森林系研究室・事務補佐員	〃
今 岡 亨	瀬戸臨海実験所・研究支援推進員（採用）		2011. 5. 9
富 樫 博 幸	研究員（学術研究奨励）	研究員（研究機関）	2011. 7. 1
浅 野 善 和	北海道研究林・技術主任（技術専門職員）	和歌山研究林・技術主任（技術専門職員）	〃
石 原 正 恵	辞職（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・博士研究員へ）	森里海連環学プロジェクト支援室・特定研究員	2011. 7. 31
柳 直 文	辞職	企画情報室・技術主任	〃
松 山 周 平	森里海連環学プロジェクト支援室・特定研究員（採用）		2011. 9. 1
陳 炳 善	舞鶴水産実験所・研究員（産官学連携）	舞鶴水産実験所・研究員（科学研究）	〃
館 野 隆 之 輔	北海道研究林長・准教授	准教授	2011.10. 1
吉 岡 崇 仁	北海道研究林長 免		〃
佐 藤 修 一	里域フィールド管理部門・技術長（技術専門職員）（北白川試験地勤務）	北海道研究林・技術班長（技術専門職員）	〃
境 慎 二 朗	芦生研究林・技術班長（兼）・森林フィールド管理部門・技術長（技術専門職員）	芦生研究林・技術班長（兼）・里域フィールド管理部門・技術長（技術専門職員）	〃
山 内 隆 之	北海道研究林・技術班長（兼）・森林フィールド管理部門・技術長（技術専門職員）	森林フィールド管理部門・技術長（技術専門職員）	〃
山 内 洋 紀	瀬戸臨海実験所・技術職員（採用）		2011.11. 1
朝 倉 彰	瀬戸臨海実験所長・教授	神戸大学理学研究科・教授	2012. 1. 1
山 下 洋	瀬戸臨海実験所長 免		〃
山 本 泰 司	定年退職	瀬戸臨海実験所・技術長（技術専門職員）	2012. 3. 31
大 牧 治 夫	任期満了退職	芦生研究林・技術職員（再雇用）	〃
太 田 満	任期満了退職	瀬戸臨海実験所・技術職員（再雇用）	〃
今 岡 亨	任期満了退職	瀬戸臨海実験所・研究支援推進員	〃

(10) 規程の改正等

- ・「京都大学フィールド科学教育研究センターにおける称号授与に関する内規」の裁定（平成23年4月13日教授会決定・4月1日施行）
- ・「京都大学フィールド科学教育研究センターにおける称号授与に関する内規」の一部改正（平成24年3月14日教授会決定・4月1日施行）
- ・「京都大学フィールド科学教育研究センター森林ステーション芦生研究林利用要項」の一部改正（平成24年3月14日教授会決定・同日施行・4月1日適用）

京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第9号
平成24年10月31日発行

発行 京都大学フィールド科学教育研究センター
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町38-2